

墨田区
子ども・子育て支援ニーズ調査
調査結果報告書
(案)

平成 29 年 2 月

墨 田 区

I 調査の概要

1 調査の目的

「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」の中間の見直しを行うに当たり、教育・保育施設及び地域子ども・子育て支援事業の需要量の見込み及び確保量を設定する上での基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

対 象 者	抽出方法	実施方法
就学前の子どもの保護者	平成 28 年 6 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出	郵送により配布及び回収
小学生の保護者	平成 28 年 6 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出	郵送により配布及び回収
成人前	(以下のとおり)	郵送により配布及び回収
高校生等	平成 28 年 6 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出	郵送により配布及び回収
中学 2 年生	区内各中学校から 2 年生の 1 学級抽出	学校を通じて配布及び回収

3 調査期間

平成 28 年 6 月 15 日から平成 28 年 7 月 15 日

4 回収状況

対 象 者	配 布 数	有効回答数	有効回答率
就学前の子どもの保護者	2,000	1,099	55.0%
小学生の保護者	1,500	729	48.6%
成人前	633	435	68.7%
高校生等	300	102	34.0%
中学 2 年生	333	333	100.0%
総 計	4,133	2,263	54.8%

5 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

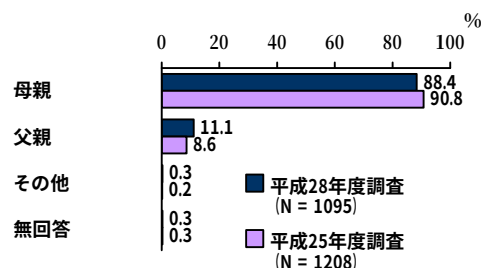
II 調査結果

1 就学前の子どもの保護者

問1 回答される方は、対象のお子さんからみてどなたですか（1つに○）。

「母親」の割合が 88.4%、「父親」の割合が 11.1%となっています。

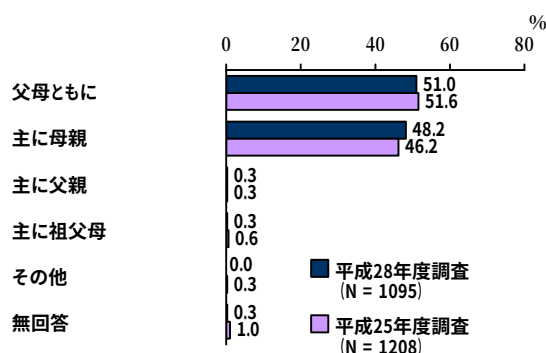
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問2 対象のお子さんの子育て（教育を含む）を主にしているのは、お子さんからみてどなたですか（1つに○）。

「父母ともに」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「主に母親」の割合が 48.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

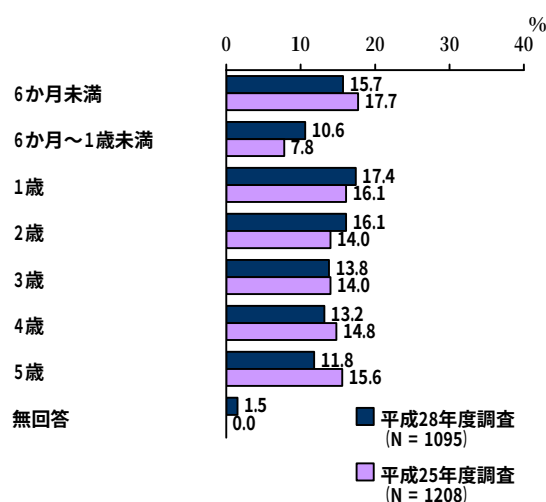


問3 対象のお子さんの①生年月、②きょうだい、③末子の満年齢のことについてご記入ください。

（1）子どもの年齢

「1歳」の割合が 17.4%と最も高く、次いで「2歳」の割合が 16.1%、「6か月未満」の割合が 15.7%となっています。

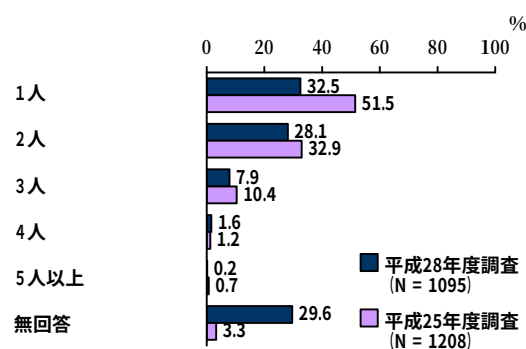
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



（２）きょうだい数

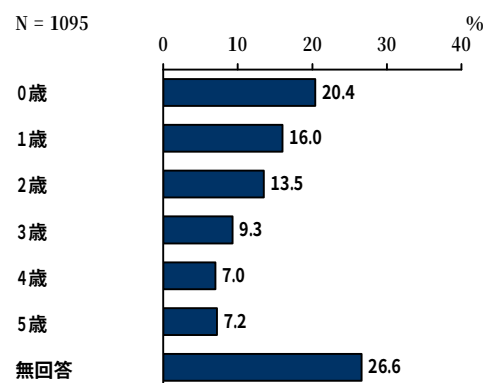
「１人」の割合が32.5%と最も高く、次いで「２人」の割合が28.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「１人」の割合が大きく減少しています。



（３）末子の満年齢

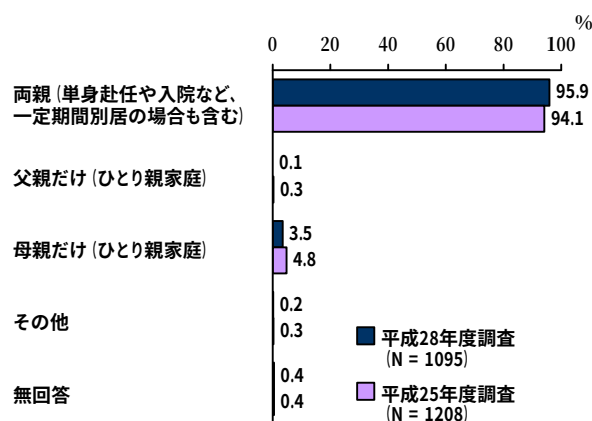
「０歳」の割合が20.4%と最も高く、次いで「１歳」の割合が16.0%、「２歳」の割合が13.5%となっています。



問４ 対象のお子さんの保護者はどなたですか（１つに○）。

「両親（単身赴任や入院など、一定期間別居の場合も含む）」の割合が95.9%と最も高くなっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

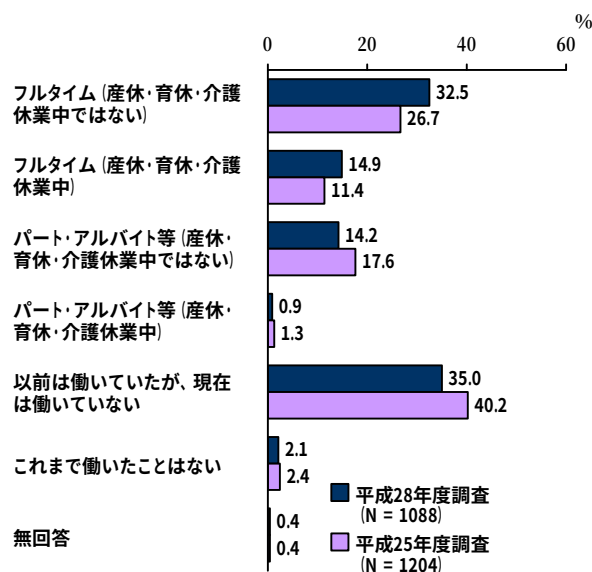


問5 保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお答えください。

（１）母親

「以前は働いていたが、現在は働いていない」の割合が35.0%と最も高く、次いで「フルタイム（産休・育休・介護休業中ではない）」の割合が32.5%、「フルタイム（産休・育休・介護休業中ではない）」の割合が32.5%、「フルタイム（産休・育休・介護休業中ではない）」の割合が14.9%となっています。

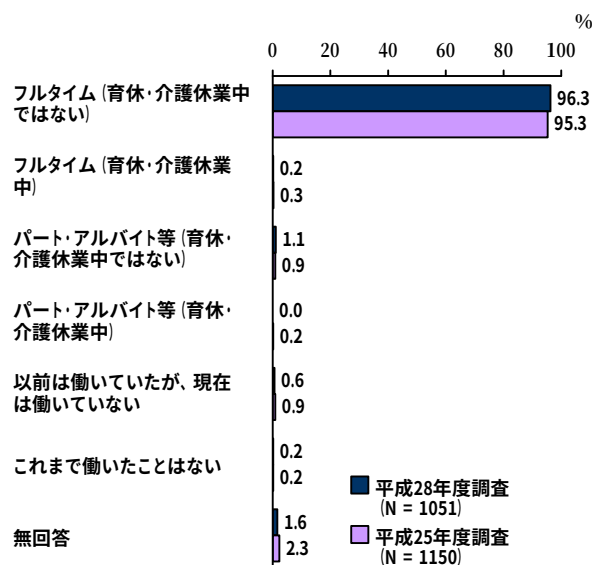
平成25年度調査と比較すると、「フルタイム（産休・育休・介護休業中ではない）」の割合が増加し、「以前は働いていたが、現在は働いていない」の割合が減少しています。



（２）父親

「フルタイム（育休・介護休業中ではない）」の割合が96.3%と最も高くなっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

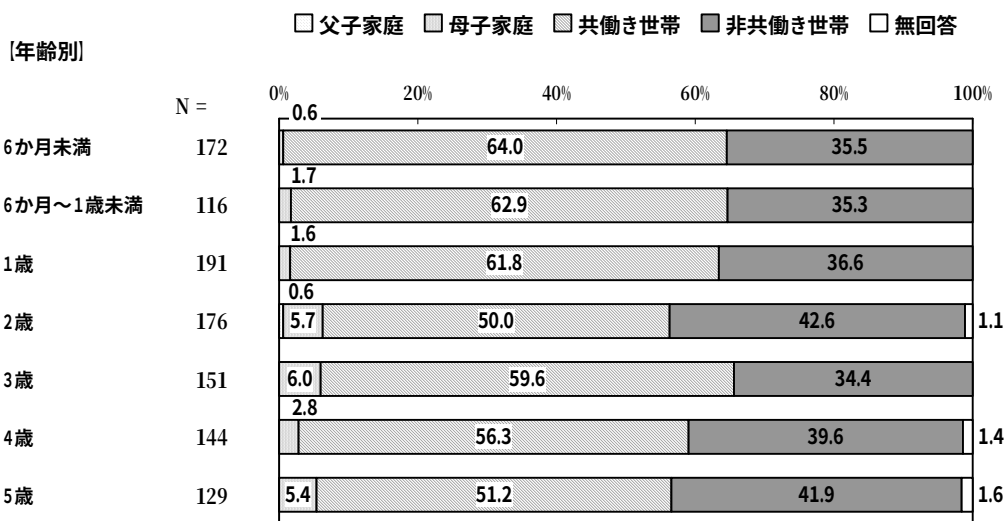
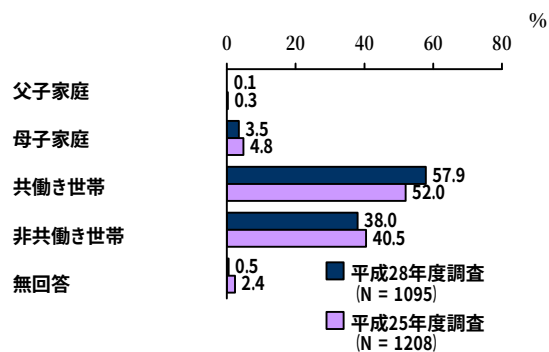


家庭類型

問4、問5から家庭類型を集計すると、「共働き世帯」の割合が57.9%と最も高く、次いで「非共働き世帯」の割合が38.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「共働き世帯」の割合が増加しています。

年齢別でみると、大きな差異はありません。



※年齢無回答者数：16人

前問で1～4に○をつけた方にうかがいます。

問6 就労日数や就労時間等（残業時間を含む）をお答えください。

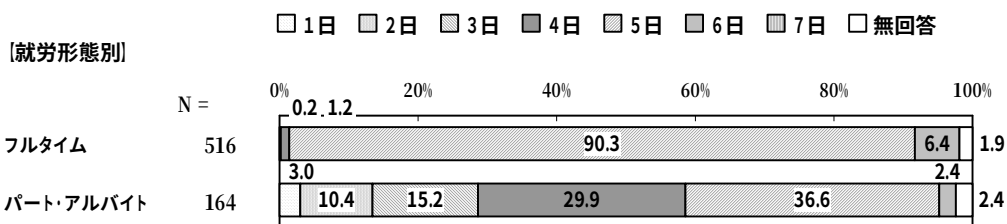
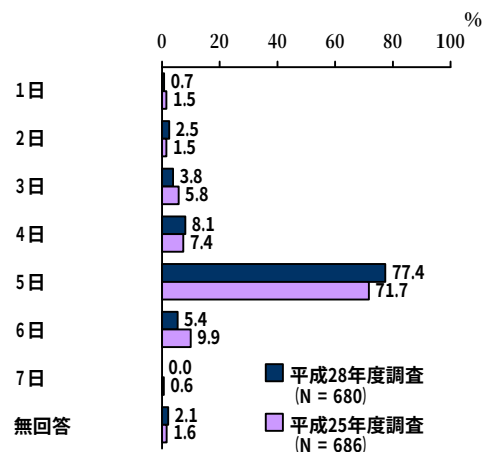
（1）母親

①就労日数（1週あたり）

「5日」の割合が77.4%と最も高くなっています。

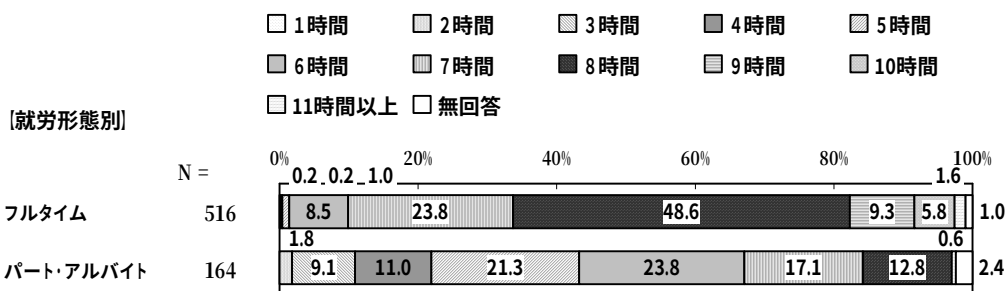
平成25年度調査と比較すると、「5日」の割合が増加しています。

就労形態別でみると、フルタイムで「5日」の割合が高く、約9割となっています。また、パート・アルバイトで「5日」の割合が36.6%、「4日」の割合が29.9%となっています。



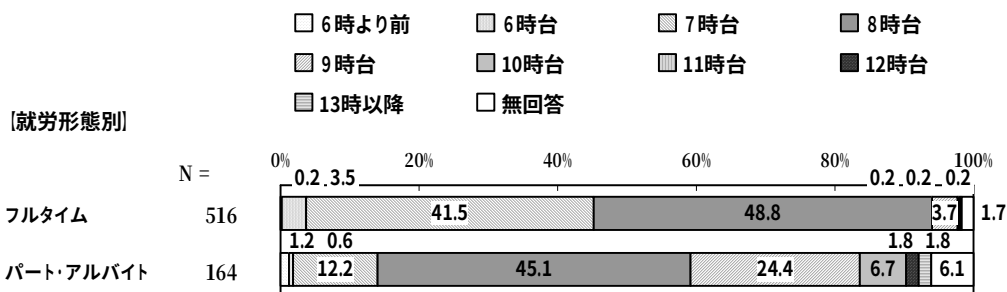
②就労時間（1日あたり）

就労形態別でみると、フルタイムで「7時間」「8時間」の割合が高くなっています。また、パート・アルバイトで「5時間」「6時間」の割合が高くなっています。



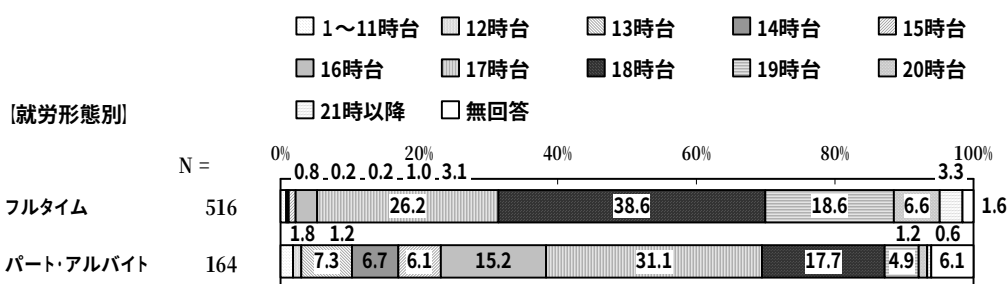
③家を出る時間

就労形態別でみると、フルタイムで「7時台」「8時台」の割合が高くなっています。また、パート・アルバイトで「8時台」「9時台」の割合が高くなっています。



④帰宅時間

就労形態別でみると、フルタイムで「17時台」「18時台」「19時台」の割合が高くなっています。また、パート・アルバイトで「16時台」「17時台」「18時台」の割合が高くなっています。



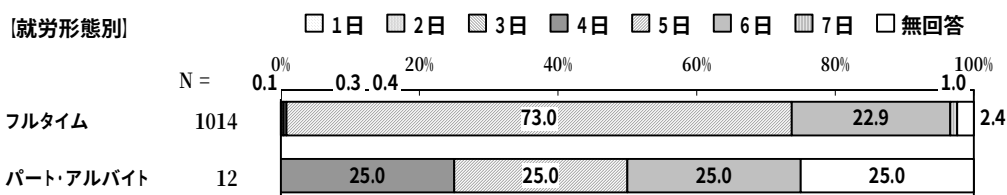
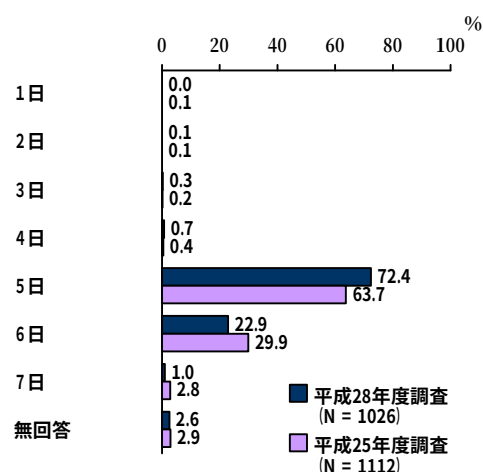
(2) 父親

①就労日数（1週あたり）

「5日」の割合が72.4%と最も高く、次いで「6日」の割合が22.9%、「7日」の割合が1.0%となっています。

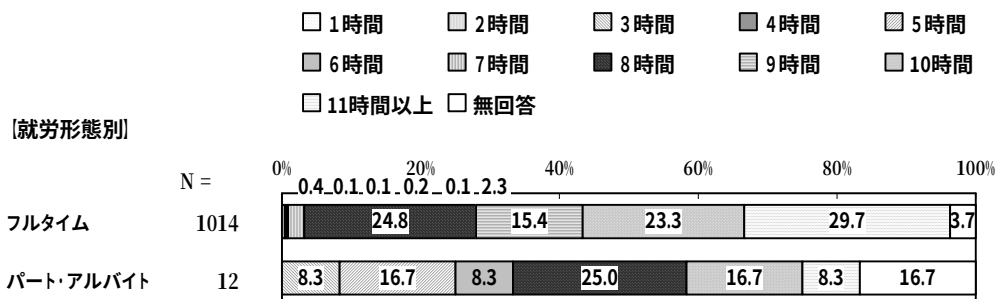
平成25年度調査と比較すると、「5日」の割合が増加し、「6日」の割合が減少しています。

就労形態別でみると、フルタイムで「5日」の割合が高く、約7割となっています。



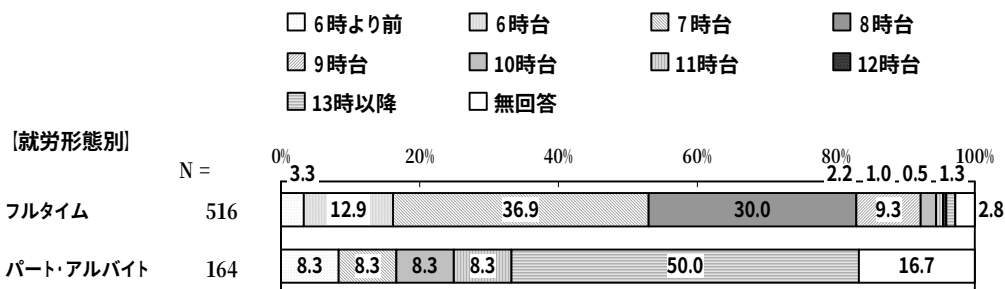
②就労時間（1日あたり）

就労形態別でみると、フルタイムで「9時間」「10時間」「11時間以上」の割合が高くなっています。



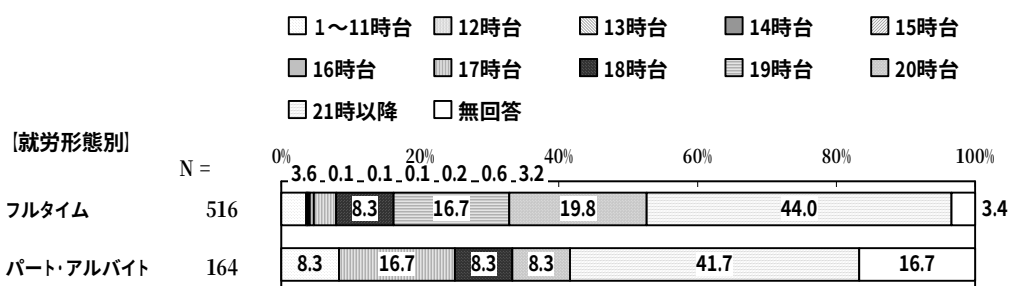
③家を出る時間

就労形態別でみると、フルタイムで「6時台」「7時台」「8時台」の割合が高くなっています。



④帰宅時間

就労形態別でみると、フルタイムで「19時台」「20時台」の割合が高くなっています。



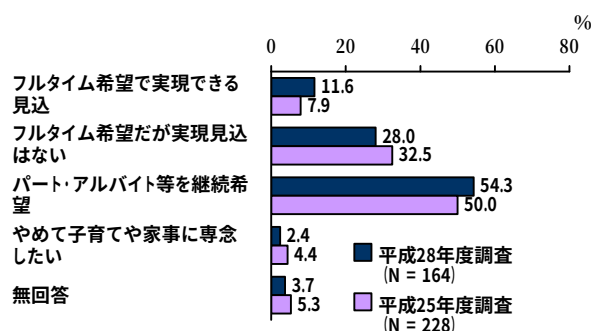
問5で3～4（パート・アルバイト等）に○をつけた方にうかがいます。

問7 フルタイム（週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はありますか。

（1）母親

「パート・アルバイト等を継続希望」の割合が54.3%と最も高く、次いで「フルタイム希望だが実現見込はない」の割合が28.0%、「フルタイム希望で実現できる見込」の割合が11.6%となっています。

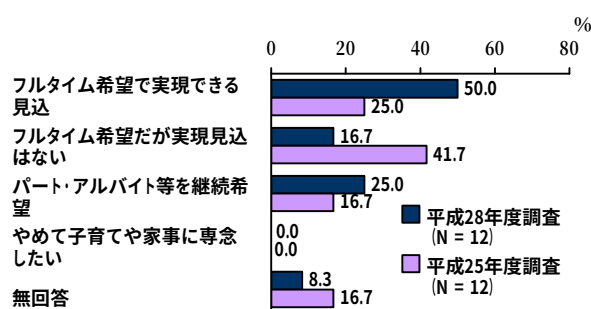
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



（2）父親

「フルタイム希望で実現できる見込」の割合が50.0%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等を継続希望」の割合が25.0%、「フルタイム希望だが実現見込はない」の割合が16.7%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「フルタイム希望で実現できる見込」「パート・アルバイト等を継続希望」の割合が増加し、「フルタイム希望だが実現見込はない」の割合が減少しています。



問5で5～6に○をつけた方（現在は働いていない方）にうかがいます。

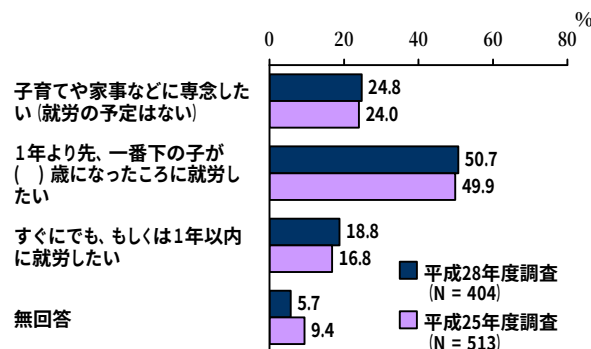
問8 就労したいという希望はありますか。

（1）母親

①就労希望

「1年より先、一番下の子が()歳になったところに就労したい」の割合が50.7%と最も高く、次いで「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」の割合が24.8%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が18.8%となっています。

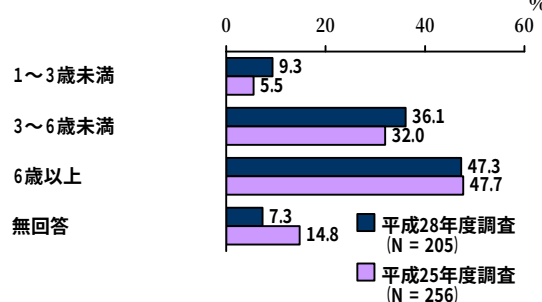
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②就労したい時期（「1年より先、一番下の子が()歳になったところに就労したい」と回答した人） %

「6歳以上」の割合が47.3%と最も高く、次いで「3～6歳未満」の割合が36.1%となっています。

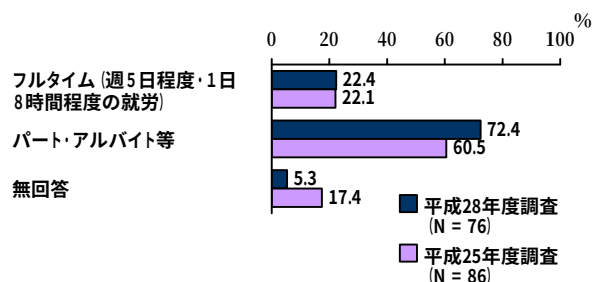
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



③就労希望形態（「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人）

「パート・アルバイト等」の割合が72.4%、「フルタイム（週5日程度・1日8時間程度の就労）」の割合が22.4%となっています。

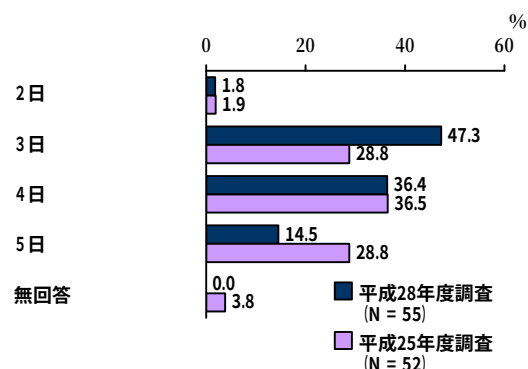
平成25年度調査と比較すると、「パート・アルバイト等」の割合が増加しています。



④希望就労日数（「パート・アルバイト等」と回答した人）

「3日」の割合が47.3%と最も高く、次いで「4日」の割合が36.4%、「5日」の割合が14.5%となっています。

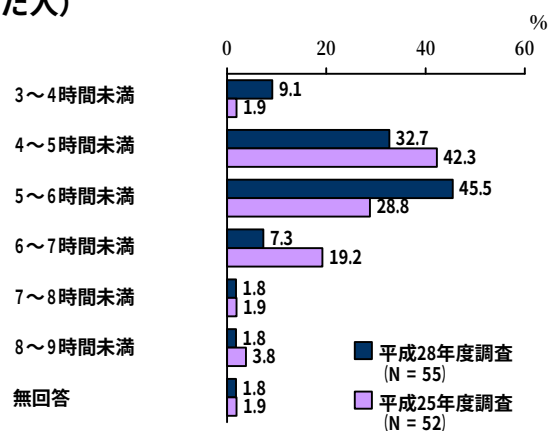
平成25年度調査と比較すると、「3日」の割合が増加し、「5日」の割合が減少しています。



⑤就労希望時間（「パート・アルバイト等」と回答した人）

「5～6時間未満」の割合が45.5%と最も高く、次いで「4～5時間未満」の割合が32.7%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「3～4時間未満」「4～5時間未満」「5～6時間未満」の割合が増加し、「6～7時間未満」の割合が減少しています。



(2) 父親 (N = 8)

①就労希望

「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が3件、「1年より先、一番下の子が()歳になったところに就労したい」、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が各1件となっています。

②就労したい時期（「1年より先、一番下の子が()歳になったところに就労したい」と回答した人）

「6歳以上」が1件となっています。

③就労希望形態（「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人）

「フルタイム（週5日程度・1日8時間程度の就労）」が1件となっています。

④希望就労日数（「パート・アルバイト等」と回答した人）

有効回答はありません。

⑤就労希望時間（「パート・アルバイト等」と回答した人）

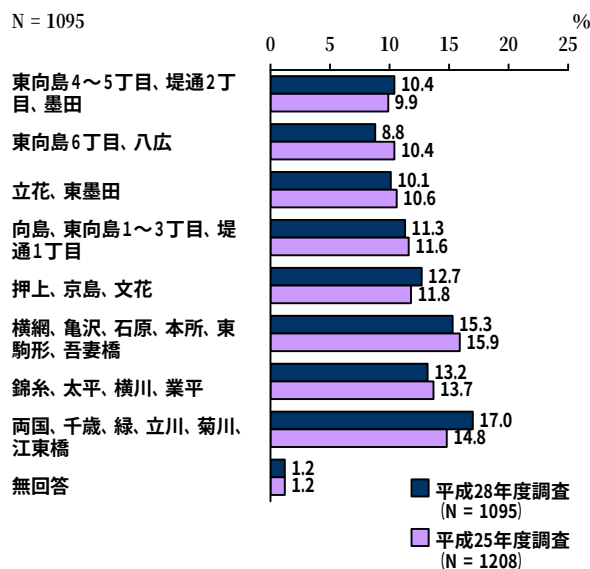
有効回答はありません。

問9 お住まいの住所をご記入ください。

「両国、千歳、緑、立川、菊川、江東橋」の割合が17.0%と最も高く、次いで「横網、亀沢、石原、本所、東駒形、吾妻橋」の割合が15.3%、「錦糸、太平、横川、業平」の割合が13.2%となっています。

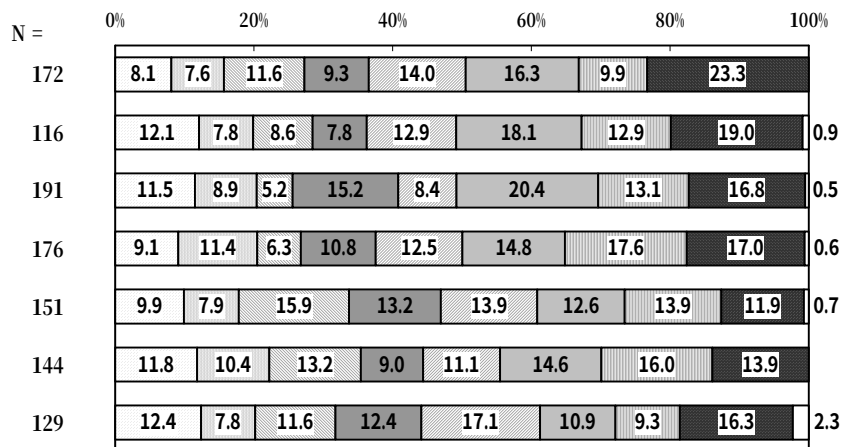
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

N = 1095



- ☐ 東向島4～5丁目、堤通2丁目、墨田
- ☐ 立花、東墨田
- ☐ 押上、京島、文花
- ☐ 錦糸、太平、横川、業平
- ☐ 無回答
- ☐ 東向島6丁目、八広
- ☐ 向島、東向島1～3丁目、堤通1丁目
- ☐ 横網、亀沢、石原、本所、東駒形、吾妻橋
- ☐ 両国、千歳、緑、立川、菊川、江東橋

[年齢別]



※年齢無回答者数：16人

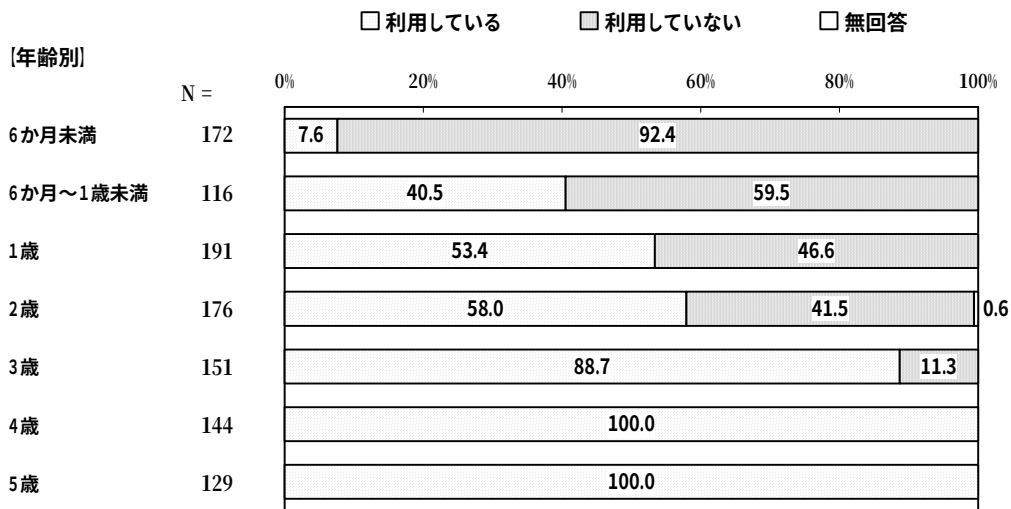
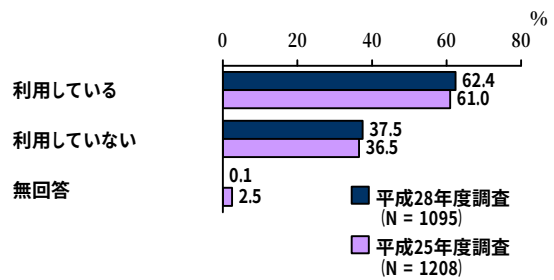
問 10 対象のお子さんは、現在、幼稚園や保育所（園）などの「定期的な教育・保育事業」を利用していますか（1つに○）。

「利用している」の割合が62.4%、「利用していない」の割合が37.5%となっています。

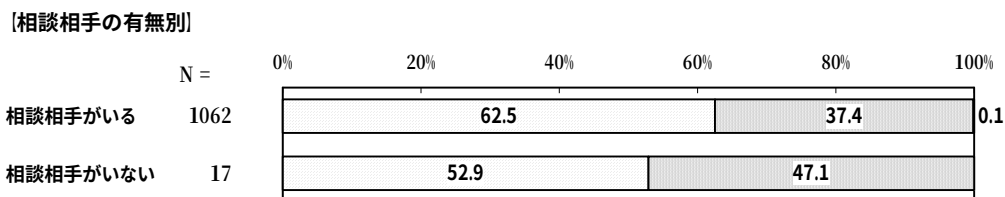
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「利用している」の割合が高くなっており、4歳、5歳で全員が利用しています。

相談相手の有無別でみると、大きな差異はありません。



※年齢無回答者数：16 人



※相談相手の有無無回答者数：11 人

※ “相談相手がいる”人は、問 21 で「特に相談することはない」「相談できる人はいない」以外を回答した人
 “相談相手がいない”人は、問 21 で「相談できる人はいない」と回答した人

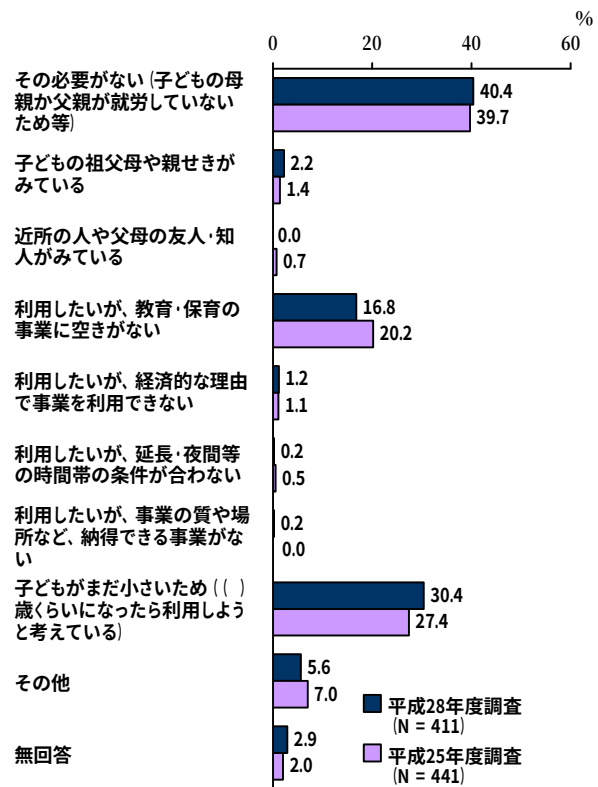
問 10 で「2．利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

問 11 利用していない主な理由は何ですか（最もあてはまる理由1つに○）。

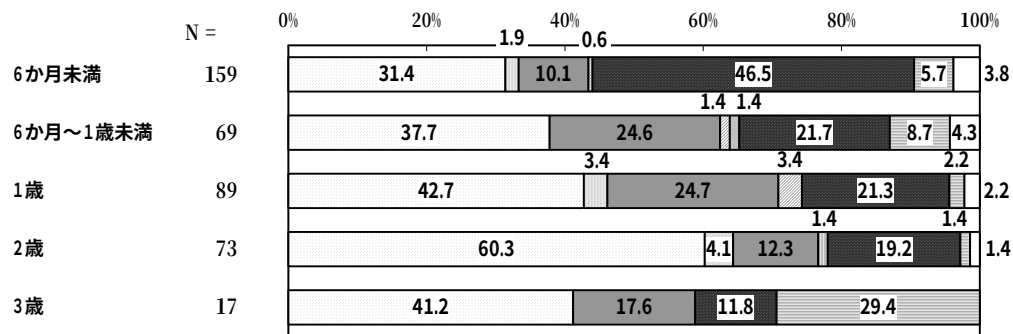
「その必要がない（子どもの母親か父親が就労していないため等）」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため（（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている）」の割合が 30.4%、「利用したいが、教育・保育の事業に空きがない」の割合が 16.8%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

年齢別でみると、2 歳で「その必要がない（子どもの母親か父親が就労していないため等）」の割合が高く、約 6 割となっています。また、6 か月～1 歳未満、1 歳で「利用したいが、教育・保育の事業に空きがない」の割合が高くなっています。



- ☐ その必要がない (子どもの母親か父親が就労していないため等)
- ☐ 子どもの祖父母や親せきがみている
- ☐ 近所の人や父母の友人・知人がみている
- ☐ 利用したいが、教育・保育の事業に空きがない
- ☐ 利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない
- ☐ 利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない
- ☐ 利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない
- ☐ 子どもがまだ小さいため (() 歳くらいになったら利用しようと考えている)
- ☐ その他
- ☐ 無回答

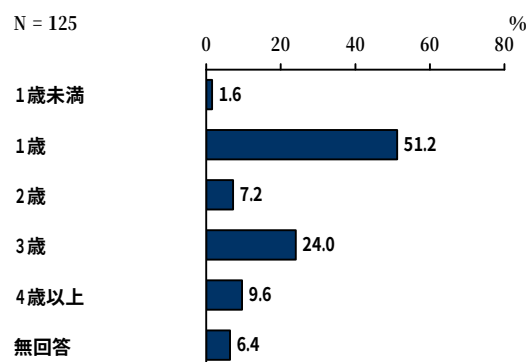


※年齢無回答者数：16 人

※ 4、5 歳は利用しているため、回答はありません。

何歳くらいになったら利用しようと考えているか

「1歳」の割合が51.2%と最も高く、次いで「3歳」の割合が24.0%となっています。



問10で「1 利用している」に○をつけた方にうかがいます。

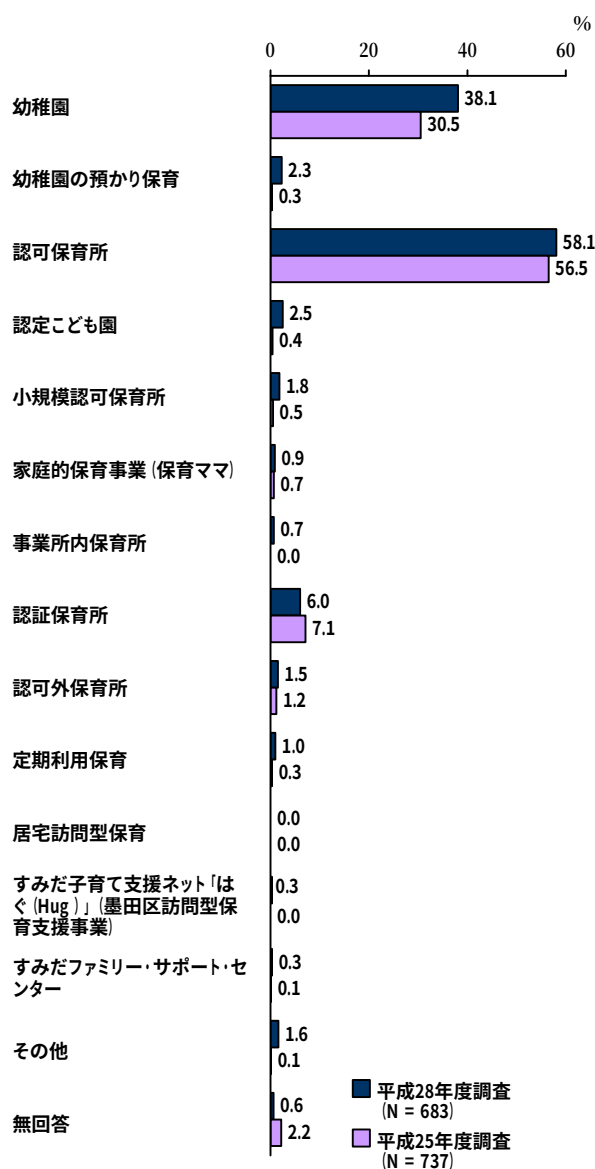
問12 対象のお子さんは、平日どのような教育・保育事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください（あてはまるものすべてに○）。また、下欄に利用している事業の番号と、利用日数、利用時間、開始時刻と終了時刻（24 時間制）について、(1)現在と(2)希望をご記入ください。特に希望がない場合は現在の利用状況だけで構いません。

(1) 利用している事業

「認可保育所」の割合が58.1%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が38.1%、「認証保育所」の割合が6.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「幼稚園」の割合が増加しています。

家庭類型別でみると、母子家庭で「認可保育所」の割合が高く、8割半ばとなっています。また、非共働き世帯で「幼稚園」の割合が高く、約9割となっています。



※平成25年度調査には「すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」(墨田区訪問型保育支援事業)」の選択肢はありませんでした。

【家庭類型別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	小規模認可保育所	家庭的保育事業（保育ママ）	事業所内保育所
全体	683	38.1	2.3	58.1	2.5	1.8	0.9	0.7
父子家庭	1	—	—	100.0	—	—	—	—
母子家庭	33	24.2	3.0	84.8	6.1	—	—	—
共働き世帯	478	20.7	1.7	74.7	1.3	2.5	1.3	1.0
非共働き世帯	167	89.2	3.6	6.0	5.4	—	—	—

区分	認証保育所	認可外保育所	定期利用保育	居宅訪問型保育	すみだ子育て支援ネット「はぐ（ハグ）」（墨田区訪問型保育支援事業）	すみだファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	6.0	1.5	1.0	—	0.3	0.3	1.6	0.6
父子家庭	—	—	—	—	—	—	—	—
母子家庭	—	—	—	—	3.0	—	—	—
共働き世帯	8.2	1.9	1.5	—	0.2	0.4	1.3	0.2
非共働き世帯	1.2	0.6	—	—	—	—	3.0	1.8

※家族類型無回答者数：4人

【2事業以上利用している場合の利用先】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	小規模認可保育所	家庭的保育事業 (保育ママ)	事業所内保育所
全体	683	38.1	2.3	58.1	2.5	1.8	0.9	0.7
幼稚園	260		6.2	21.2	3.5	0.4	0.4	0.8
幼稚園の預かり保育	16	100.0		25.0	—	—	—	—
認可保育所	397	13.9	1.0		0.3	—	—	0.3
認定こども園	17	52.9	—	5.9		—	—	—
小規模認可保育所	12	8.3	—	—	—		—	—
家庭的保育事業(保育ママ)	6	16.7	—	—	—	—		—
事業所内保育所	5	40.0	—	20.0	—	—	—	
認証保育所	41	14.6	—	—	—	—	—	—
認可外保育所	10	10.0	—	—	—	—	—	—
定期利用保育	7	42.9	—	—	—	—	—	—
居宅訪問型保育	—	—	—	—	—	—	—	—
すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」 (墨田区訪問型保育支援事業)	2	100.0	50.0	—	—	—	—	—
すみだファミリー・サポート・センター	2	—	—	100.0	—	—	—	—
その他	11	45.5	—	36.4	—	—	—	—

【2事業以上利用している場合の利用先（つづき）】

単位：％

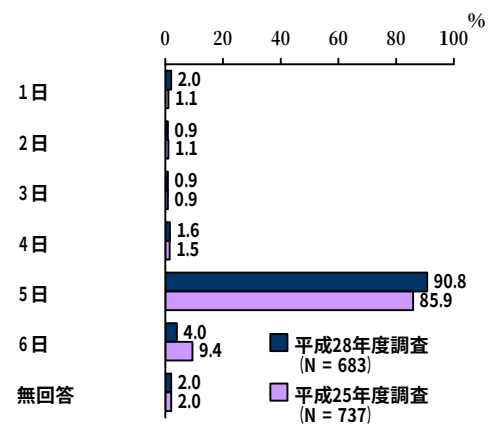
区分	認証保育所	認可外保育所	定期利用保育	居宅訪問型保育	すみだ子育て支援ネット「はぐ（Hug）」（墨田区訪問型保育支援事業）	すみだファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	6.0	1.5	1.0	—	0.3	0.3	1.6	0.6
幼稚園	2.3	0.4	1.2	—	0.8	—	1.9	—
幼稚園の預かり保育	—	—	—	—	6.3	—	—	—
認可保育所	—	—	—	—	—	0.5	1.0	—
認定こども園	—	—	—	—	—	—	—	—
小規模認可保育所	—	—	—	—	—	—	—	—
家庭的保育事業（保育ママ）	—	—	—	—	—	—	—	—
事業所内保育所	—	—	—	—	—	—	—	—
認証保育所	—	—	—	—	—	—	—	—
認可外保育所	—	—	—	—	—	—	—	—
定期利用保育	—	—	—	—	14.3	—	14.3	—
居宅訪問型保育	—	—	—	—	—	—	—	—
すみだ子育て支援ネット「はぐ（Hug）」（墨田区訪問型保育支援事業）	—	—	50.0	—	—	—	50.0	—
すみだファミリー・サポート・センター	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	9.1	—	9.1	—	—	—

（２）現在の利用状況

①週あたりの利用日数

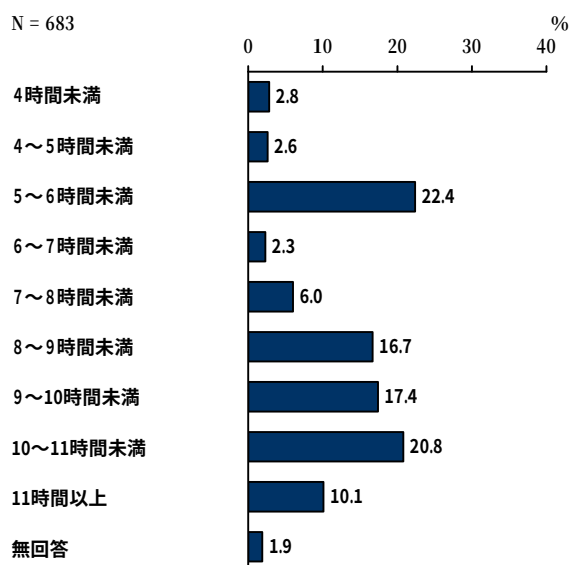
「５日」の割合が90.8%と最も高くなっています。

平成25年度調査と比較すると、「６日」の割合が減少しています。



② 1日あたりの利用時間

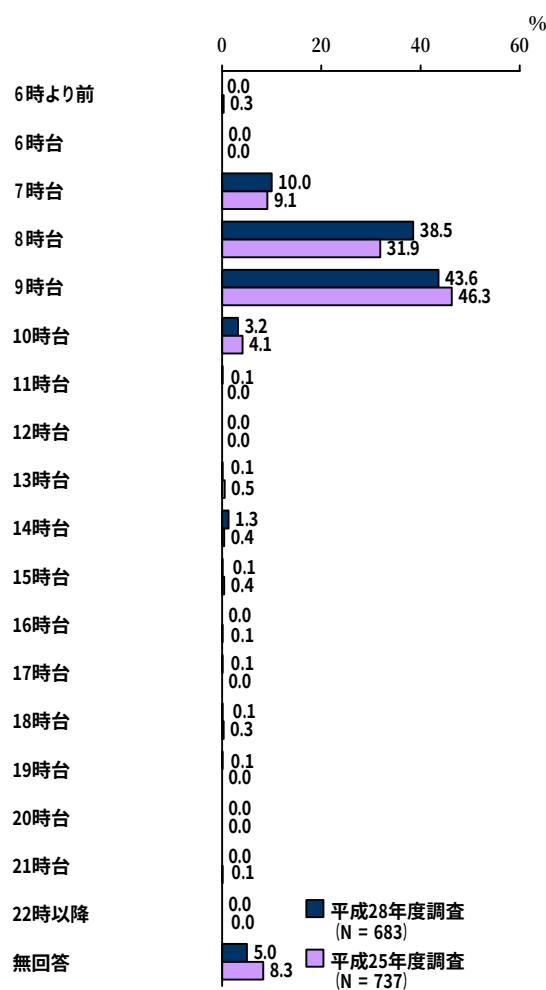
「5～6時間未満」の割合が22.4%と最も高く、次いで「10～11時間未満」の割合が20.8%、「9～10時間未満」の割合が17.4%となっています。



③ 利用開始時間

「9時台」の割合が43.6%と最も高く、次いで「8時台」の割合が38.5%、「7時台」の割合が10.0%となっています。

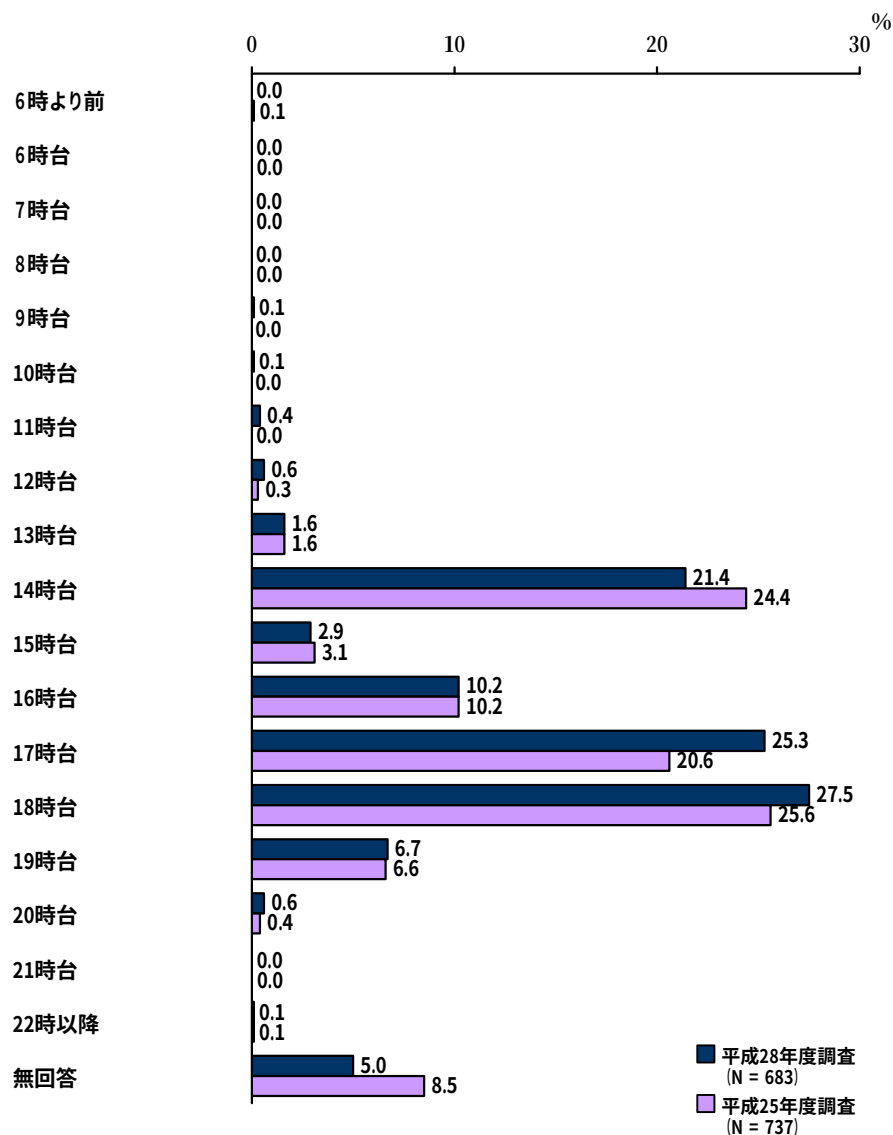
平成25年度調査と比較すると、「8時台」の割合が増加しています。



④利用終了時間

「18 時台」の割合が 27.5%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 25.3%、「14 時台」の割合が 21.4%となっています。

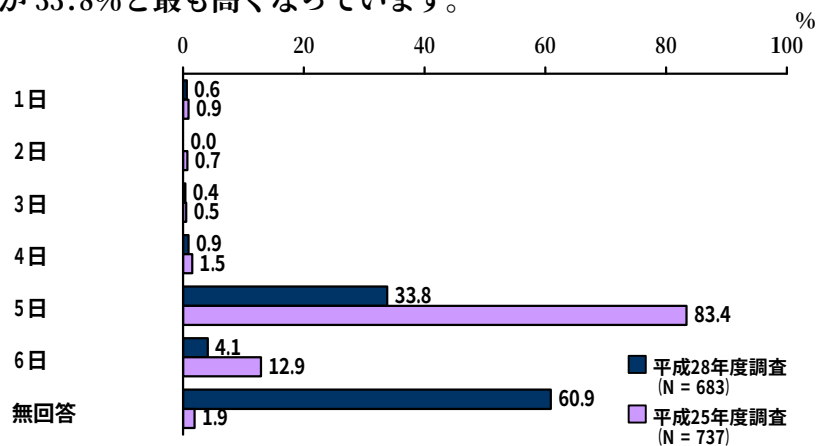
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(3) 希望

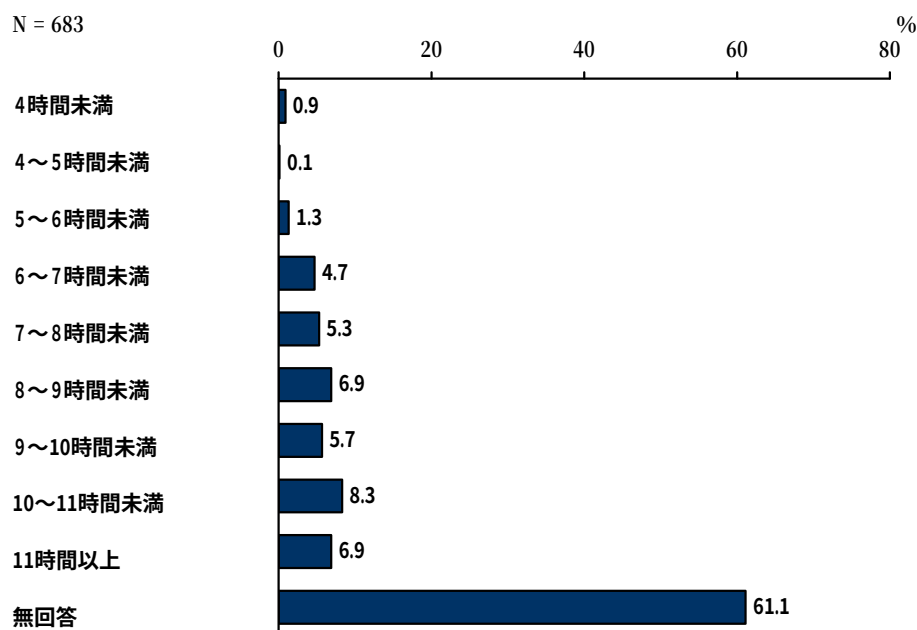
① 週あたりの利用日数

「5日」の割合が33.8%と最も高くなっています。



② 1日あたりの利用時間

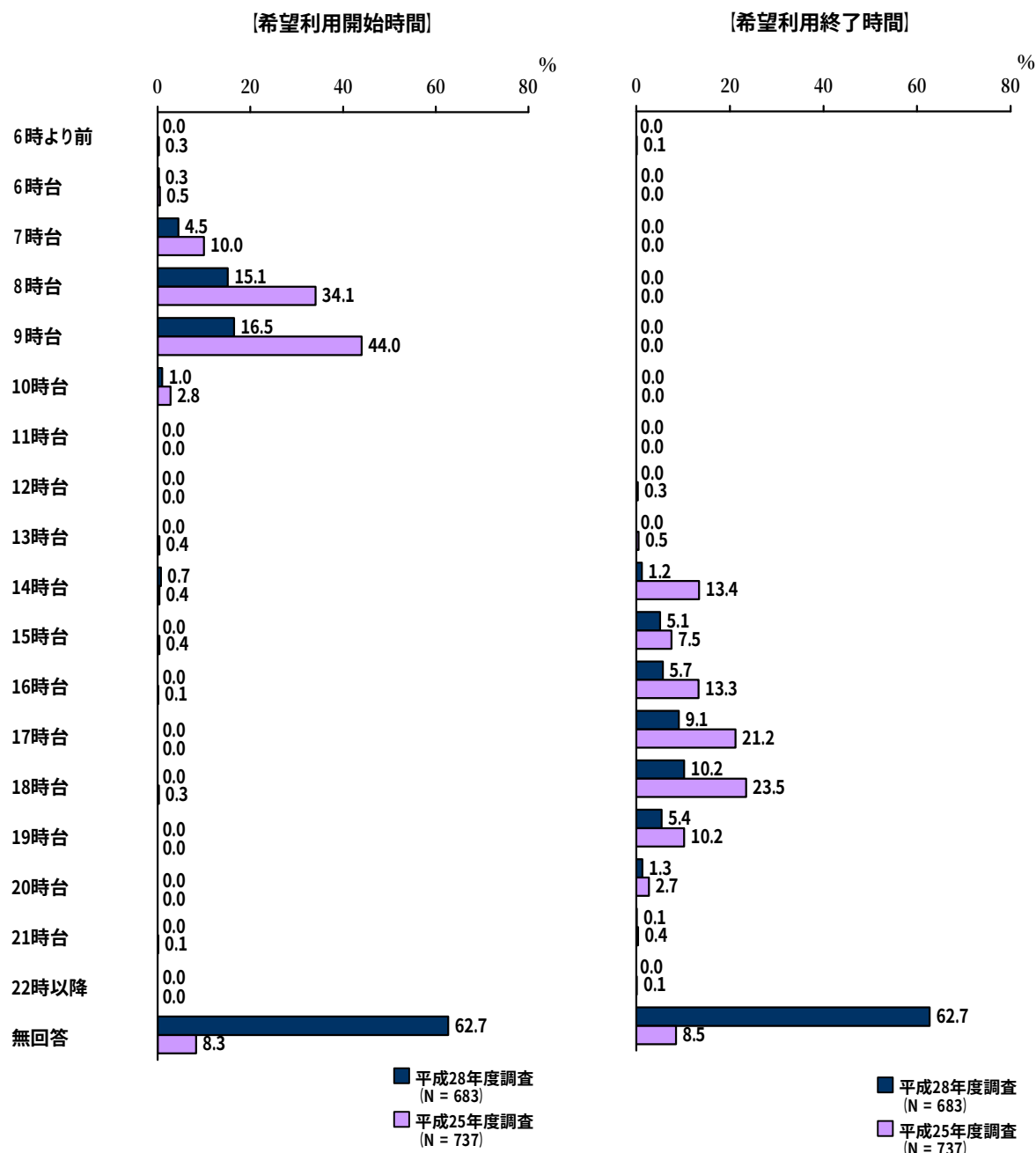
「10～11 時間未満」の割合が8.3%と最も高くなっています。全体的にみると、6時間以降で平均されています。



③希望利用開始時間・希望利用終了時間

希望利用開始時間では、「9時台」の割合が16.5%と最も高く、次いで「8時台」の割合が15.1%となっています。

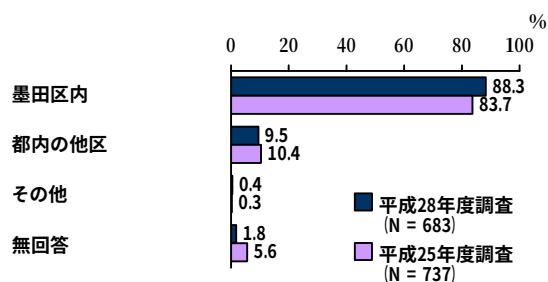
希望利用終了時間では、「18時台」の割合が10.2%と最も高くなっています。



問 13 現在、主に利用している教育・保育事業の実施場所をお答えください（1つに○）。

「墨田区内」の割合が88.3%と最も高くなっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



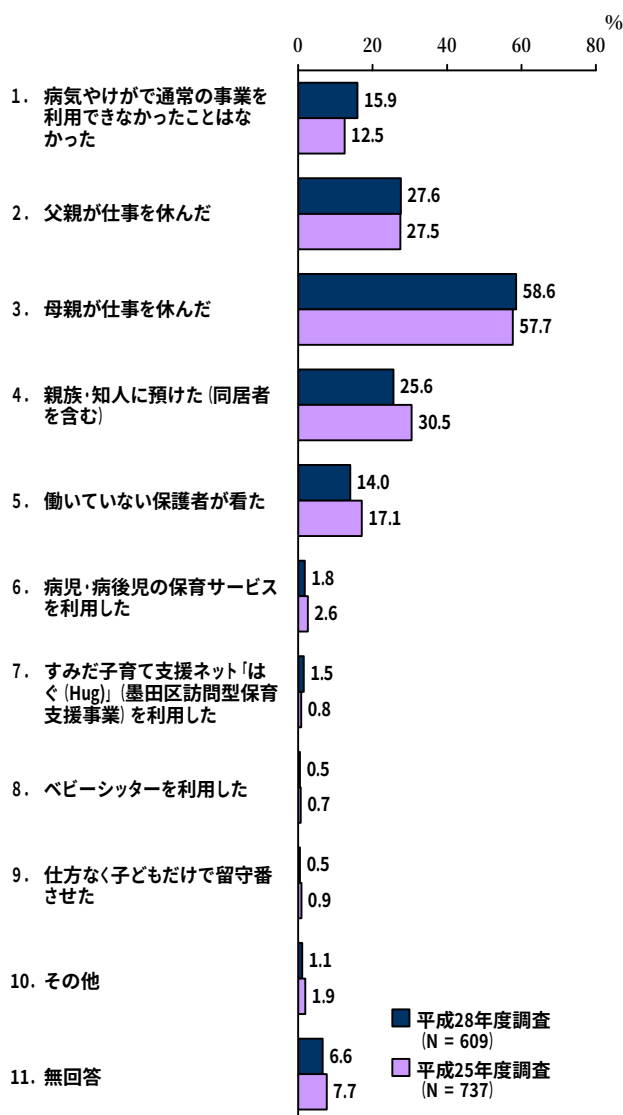
通常の教育・保育事業（幼稚園、保育園等）利用者に病気の際の対応についてうかがいます。

問 14 この1年間に、対象のお子さんが病気やけがで、通常の事業を利用できなかったことがありましたか。そのときの対処法などをお答えください。半日程度も1日として数えてください。

「母親が仕事を休んだ」の割合が58.6%と最も高く、次いで「父親が仕事を休んだ」の割合が27.6%、「親族・知人に預けた（同居者を含む）」の割合が25.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

全体的に「母親が仕事を休んだ」の割合が高く、年齢別でみると、2歳より下での割合が高く、8割近くとなっています。



【年齢別】

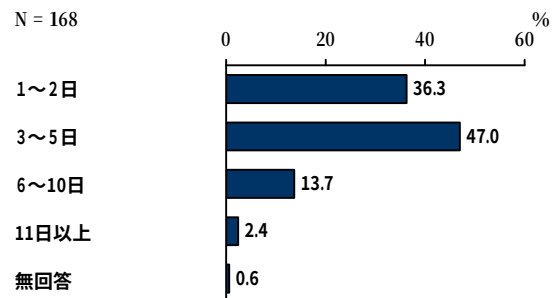
単位：％

区分	有効回答数（件）	病気やけがで通常の事業を利用できなかったことはなかった	父親が仕事を休んだ	母親が仕事を休んだ	親族・知人に預けた（同居者を含む）	働いていない保護者が見た	利用した	病児・病後児の保育サービスを利用した	業）を利用した	すみだ子育て支援ネット「はぐ（正西）」（墨田区訪問型保育支援事業）を利用した	ベビーシッターを利用した	仕方なく子どもだけで留守番させた	その他	無回答
全体	609	15.9	27.6	58.6	25.6	14.0	1.8	1.5	0.5	0.5	1.1	6.6		
6か月未満	9	11.1	44.4	77.8	22.2	22.2	—	—	—	—	—	11.1		
6か月～1歳未満	34	5.9	38.2	79.4	26.5	5.9	—	2.9	—	—	—	2.9		
1歳	76	7.9	40.8	78.9	44.7	3.9	5.3	1.3	3.9	—	—	2.6		
2歳	89	11.2	37.1	78.7	29.2	1.1	2.2	3.4	—	—	1.1	4.5		
3歳	127	19.7	26.8	51.2	23.6	14.2	1.6	—	—	—	1.6	6.3		
4歳	139	18.0	19.4	48.2	19.4	23.0	0.7	2.9	—	—	2.2	7.2		
5歳	124	21.0	21.0	43.5	21.0	21.0	1.6	—	—	2.4	0.8	10.5		

※年齢無回答者数：11人

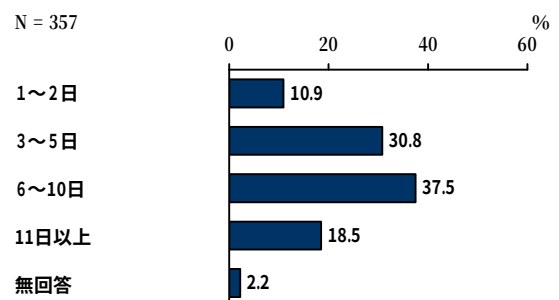
①父親が休んだ日数

「3～5日」の割合が47.0%と最も高く、次いで「1～2日」の割合が36.3%、「6～10日」の割合が13.7%となっています。



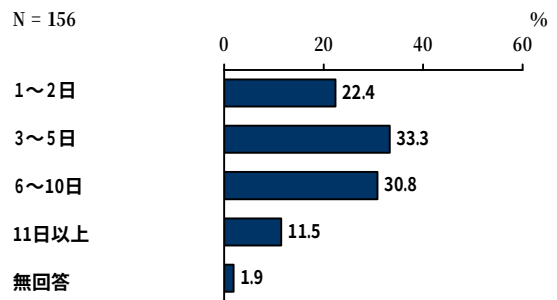
②母親が仕事を休んだ日数

「6～10日」の割合が37.5%と最も高く、次いで「3～5日」の割合が30.8%、「11日以上」の割合が18.5%となっています。



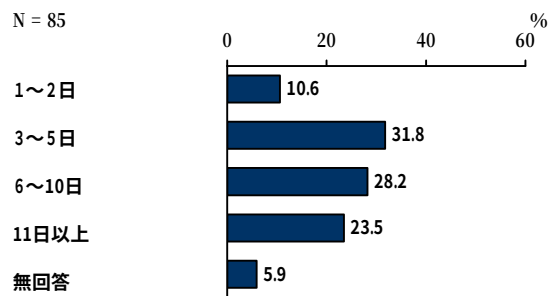
③親族・知人に預けた（同居者を含む）日数

「3～5日」の割合が33.3%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が30.8%、「1～2日」の割合が22.4%となっています。



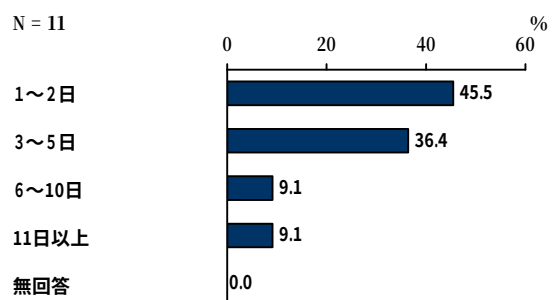
④働いていない保護者が見た日数

「3～5日」の割合が31.8%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が28.2%、「11日以上」の割合が23.5%となっています。



⑤病児・病後児の保育サービスを利用した日数

「1～2日」の割合が45.5%と最も高く、次いで「3～5日」の割合が36.4%、「6～10日」「11日以上」の割合が9.1%となっています。



⑥すみだ子育て支援ネット「はぐ（Hug）」（墨田区訪問型保育支援事業）を利用した日数

「1～2日」が7件、「3～5日」「6～10日」が1件となっています。

⑦ベビーシッターを利用した日数

「1～2日」「3～5日」「6～10日」が各1件となっています。

⑧仕方なく子どもだけで留守番させた

「1～2日」「3～5日」「11日以上」が各1件となっています。

⑨その他

「1～2日」「3～5日」が各3件となっています。

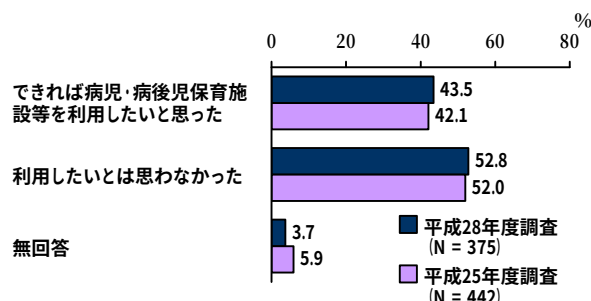
前問で2か3のいずれかに○をつけた方にうかがいます。

問 15 仕事を休んだ際、病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思いましたが(1)利用希望欄の1つに○)。利用したいと思った方は(2)に利用希望日数、(3)に希望の保育施設等お答えください。

(1) 利用希望

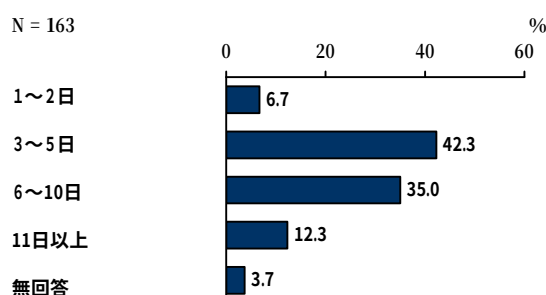
「できれば病児・病後児保育施設等を利用したいと思った」の割合が43.5%、「利用したいとは思わなかった」の割合が52.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2) 利用希望日数

「3～5日」の割合が42.3%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が35.0%、「11日以上」の割合が12.3%となっています。

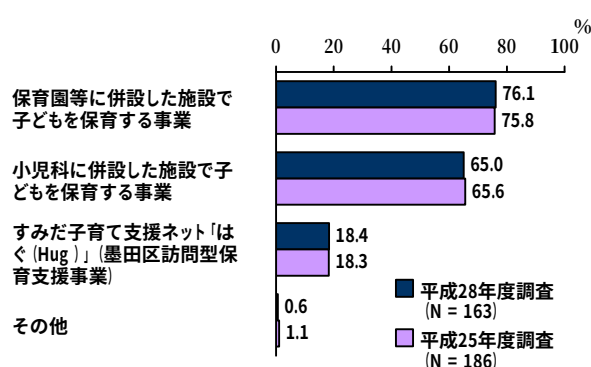


(3) 希望する病児・病後児のための保育施設等

「保育園等に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が76.1%と最も高く、次いで「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が65.0%、「すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」(墨田区訪問型保育支援事業)」の割合が18.4%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

年齢別でみると、5歳で「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が高く、8割近くとなっています。



【年齢別】

単位：％

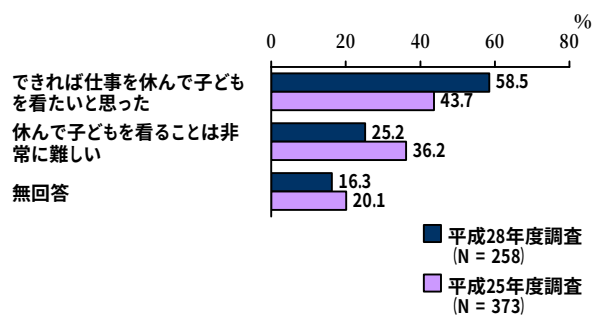
区分	有効回答数 (件)	保育園等に併設した施設で子どもを保育する事業	小児科に併設した施設で子どもを保育する事業	すみだ子育て支援ネット「はぐ（エぬ）」（墨田区訪問型保育支援事業）	その他	無回答
全体	163	76.1	65.0	18.4	0.6	3.7
6か月未満	2	50.0	100.0	—	—	—
6か月～1歳未満	17	70.6	64.7	23.5	—	5.9
1歳	30	73.3	66.7	23.3	—	—
2歳	38	81.6	63.2	21.1	—	7.9
3歳	28	85.7	53.6	17.9	3.6	3.6
4歳	24	58.3	66.7	16.7	—	4.2
5歳	22	86.4	77.3	9.1	—	—

問 14 で 4～10 に○をつけた方にうかがいます。

問 16 できれば父親・母親のいずれかが仕事を休んで子どもを看たいと思いましたが（1つに○）。

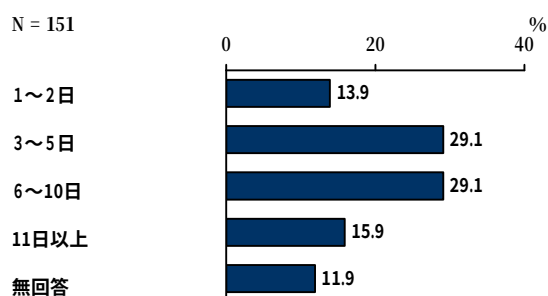
「できれば仕事を休んで子どもを看たいと思った」の割合が 58.5%、「休んで子どもを看ることは非常に難しい」の割合が 25.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「できれば仕事を休んで子どもを看たいと思った」の割合が増加し、「休んで子どもを看ることは非常に難しい」の割合が減少しています。



休んで看たいと思った日数

「3～5日」「6～10日」の割合が 29.1%と最も高く、次いで「11日以上」の割合が 15.9%となっています。



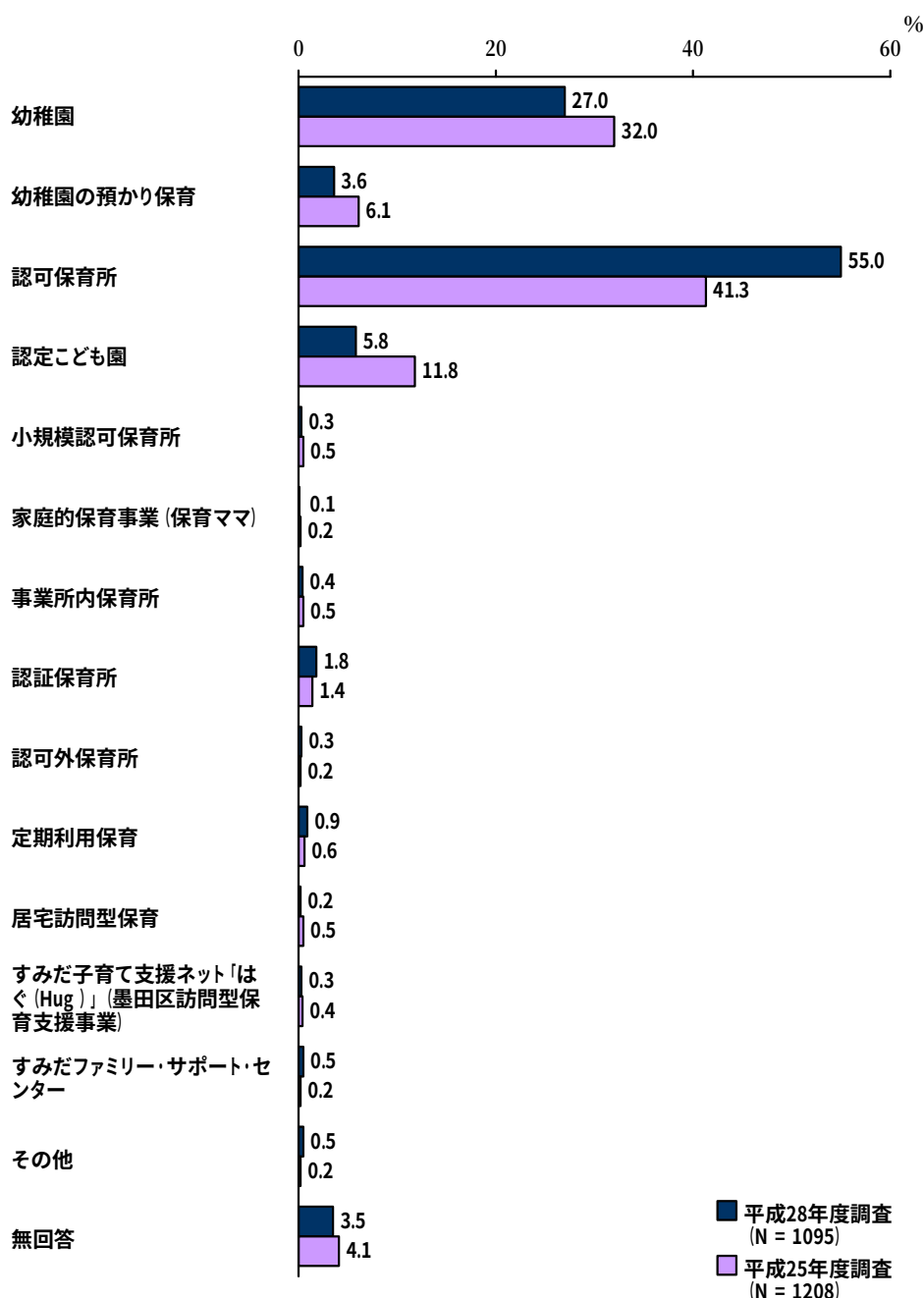
問 17 現在、利用している、利用していないにかかわらず、対象のお子さんの平日の教育・保育の事業として、定期的に最も利用したいと思う事業を第1希望欄にご記入ください。第2希望、第3希望があれば、それぞれの欄にご記入ください。なお、利用には保育料など利用者の負担があります。事業の概要は別添のガイドをご覧ください。

(1) 第1希望

「認可保育所」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が 27.0%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「認可保育所」の割合が増加しています。また、「幼稚園」「認定こども園」の割合が減少しています。

年齢別でみると、6か月未満、6か月～1歳未満、1歳で「認可保育所」の割合が高く、6割を超えています。また、4歳以上で「幼稚園」の割合が高くなっています。



【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	小規模認可保育所	家庭的保育事業 (保育ママ)	事業所内保育所
全体	1095	27.0	3.6	55.0	5.8	0.3	0.1	0.4
6か月未満	172	18.0	1.2	65.7	3.5	—	—	0.6
6か月～1歳未満	116	14.7	1.7	68.1	5.2	—	0.9	0.9
1歳	191	24.1	2.1	62.3	3.1	1.0	—	—
2歳	176	28.4	6.3	49.4	7.4	0.6	—	0.6
3歳	151	30.5	6.0	49.0	8.6	—	—	0.7
4歳	144	39.6	3.5	45.1	5.6	—	—	—
5歳	129	34.9	4.7	44.2	7.8	—	—	—

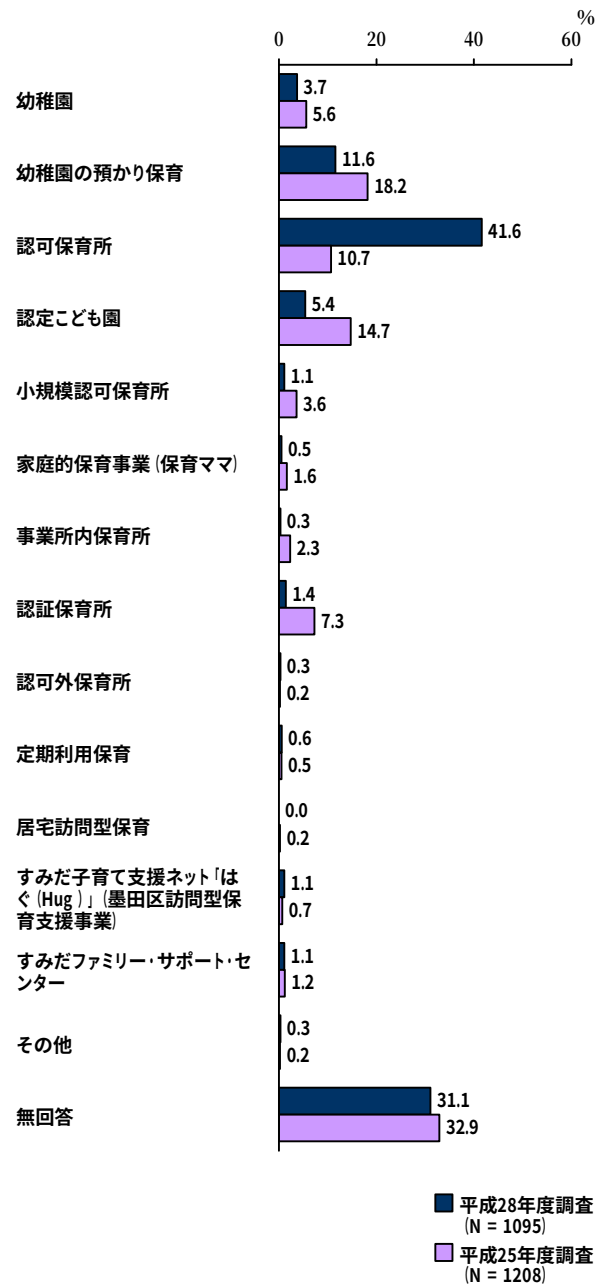
区分	認証保育所	認可外保育所	定期利用保育	居宅訪問型保育	すみだ子育て支援ネット 「はぐ(エス)」(墨田区訪問型保育支援事業)	すみだファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	3.5	—	1.7	—	0.6	—	—	5.2
6か月未満	2.6	—	1.7	—	0.9	—	0.9	2.6
6か月～1歳未満	1.6	—	0.5	0.5	—	1.0	0.5	3.1
1歳	0.6	0.6	0.6	0.6	—	—	1.1	4.0
2歳	0.7	0.7	0.7	—	0.7	0.7	—	2.0
3歳	—	—	0.7	—	—	0.7	0.7	4.2
4歳	3.1	0.8	—	—	—	0.8	0.8	3.1
5歳	3.5	—	1.7	—	0.6	—	—	5.2

※年齢無回答者数：16人

(2) 第2希望

「認可保育所」の割合が41.6%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」の割合が11.6%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「幼稚園の預かり保育」「認定こども園」「認証保育所」の割合が減少しています。



【第1希望別にみた第2希望】

単位：％

区分	有効 回答 数 (件)	第2希望							
		幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	小規模認可保育所	家庭的保育事業(保育ママ)	事業所内保育所	事業所内保育
全体	1095	3.7	11.6	41.6	5.4	1.1	0.5	0.3	
第1希望	幼稚園	296	—	33.8	17.6	4.4	0.3	—	0.3
	幼稚園の預かり保育	39	20.5	—	20.5	17.9	—	—	—
	認可保育所	602	2.7	2.7	58.8	6.1	1.5	0.8	0.3
	認定こども園	63	17.5	11.1	44.4	—	—	—	—
	小規模認可保育所	3	—	—	66.7	—	—	—	—
	家庭的保育事業(保育ママ)	1	—	—	—	—	—	—	—
	事業所内保育所	4	25.0	—	50.0	—	—	—	—
	認証保育所	20	5.0	—	15.0	10.0	5.0	5.0	—
	認可外保育所	3	—	—	33.3	—	—	—	—
	定期利用保育	10	10.0	30.0	40.0	—	10.0	—	—
	居宅訪問型保育	2	—	—	50.0	—	—	—	—
	すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」 (墨田区訪問型保育支援事業)	3	—	33.3	—	—	—	—	—
	すみだファミリー・サポート・センター	5	—	—	—	—	—	—	—
	その他	6	16.7	—	—	—	—	—	—

区分	認証 保育所	認可 外 保育所	定期 利用 保育	居宅 訪問 型 保育	すみだ子育て支援ネット 「はぐ(Hug)」(墨田区 訪問型保育支援事業)	すみだファミリー・サ ポート・センター	その他	無 回 答
全体	1.4	0.3	0.6	—	1.1	1.1	0.3	31.1
第1希望	幼稚園	—	0.3	—	—	1.7	0.7	40.9
	幼稚園の預かり保育	2.6	—	—	—	5.1	—	33.3
	認可保育所	2.3	—	0.7	—	0.8	0.8	22.1
	認定こども園	—	—	3.2	—	—	—	23.8
	小規模認可保育所	—	—	—	—	—	—	33.3
	家庭的保育事業(保育ママ)	—	—	—	—	100.0	—	—
	事業所内保育所	—	—	—	—	—	—	25.0
	認証保育所	—	10.0	5.0	—	5.0	5.0	35.0
	認可外保育所	—	—	—	—	—	—	66.7
	定期利用保育	—	—	—	—	—	—	10.0
	居宅訪問型保育	—	—	—	—	50.0	—	—
	すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」 (墨田区訪問型保育支援事業)	—	—	—	—	33.3	—	33.3
	すみだファミリー・サポート・センター	—	—	—	—	—	—	100.0
	その他	—	—	—	—	16.7	—	66.7

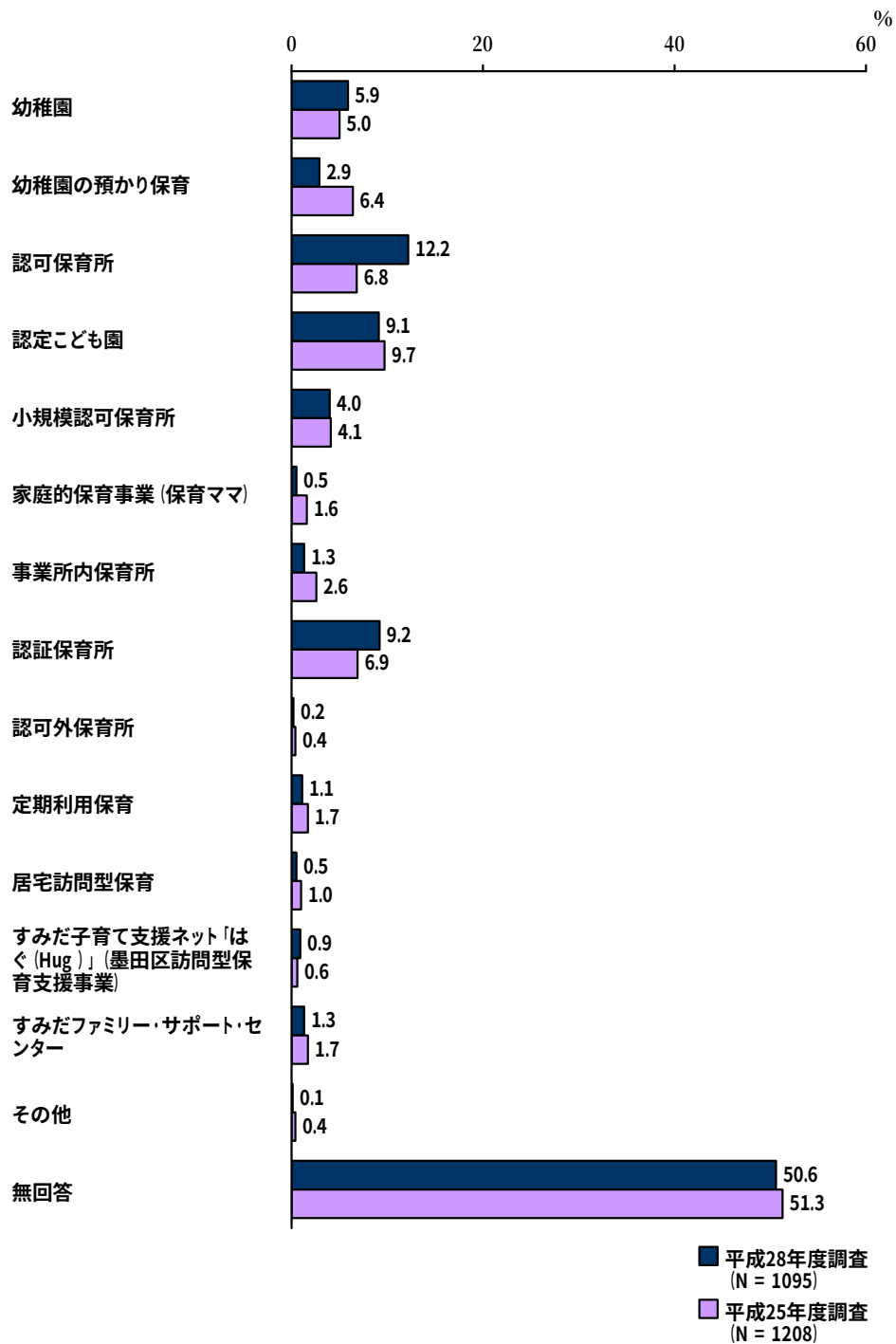
※第1希望無回答者数：38人

※認可保育所については、公立認可保育所、私立認可保育所を合算して集計しています。
そのため、第1希望と第2希望の両方に認可保育所を選択している回答者がいます。

(3) 第3希望

「認可保育所」の割合が12.2%と最も高くなっています。

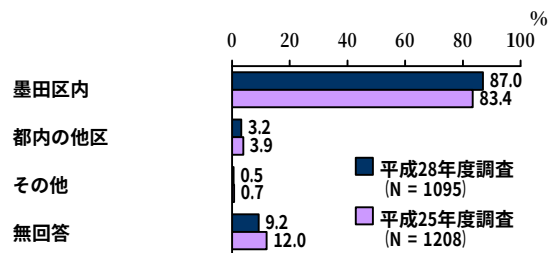
平成25年度調査と比較すると、「認可保育所」の割合が増加しています。



問 18 利用したい教育・保育事業の実施場所をお答えください（1つに○）。

「墨田区内」の割合が 87.0%、「都内の他区」の割合が 3.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

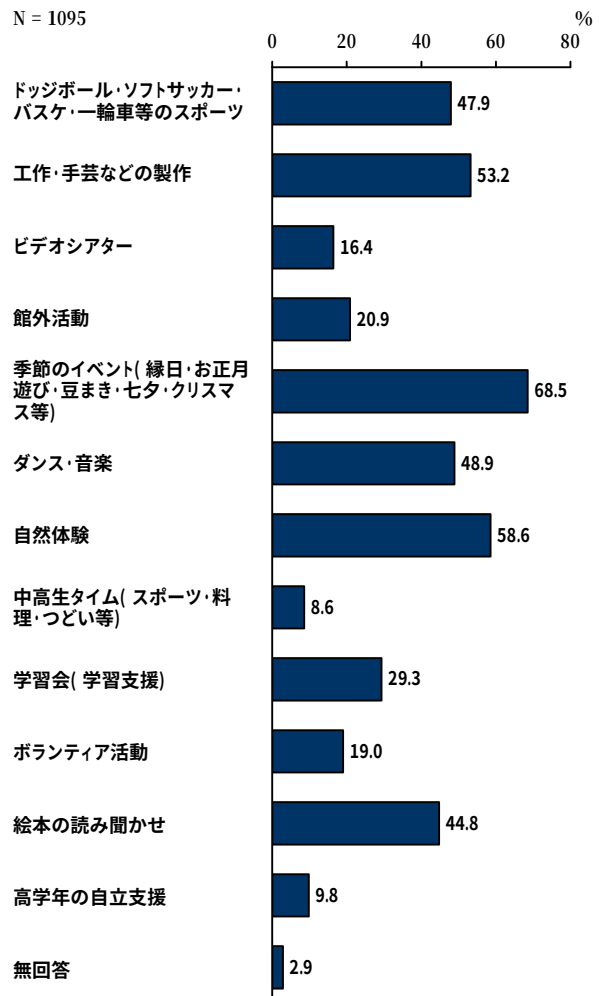


問 19 墨田区では、在宅で子育て中の保護者及びお子さんへのサービスを一層充実していきたいと考えています。そのひとつである児童館についてお尋ねします。

（１）児童館で子どもに利用してほしい事業

「季節のイベント(縁日・お正月遊び・豆まき・七夕・クリスマス等)」の割合が 68.5%と最も高く、次いで「自然体験」の割合が 58.6%、「工作・手芸などの製作」の割合が 53.2%となっています。

N = 1095



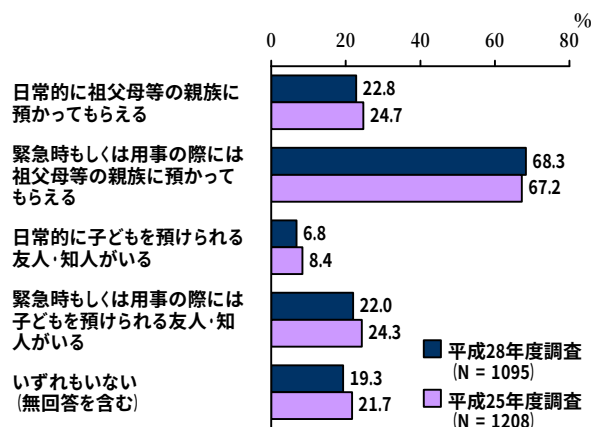
（２）児童館を地域子育て支援拠点として充実した施設とするために、あなたが児童館に対して希望すること

項目	件数
児童館に対して希望すること	644 件
主な意見 ・子どもと一緒に入れるトイレ ・子育て講座やセミナー ・老朽化している施設を建て替えてほしい ・おむつ替え、授乳しやすいコーナーを設けてほしい など	

問 20 日ごろ、対象のお子さんを預かってもらえる親族・知人はいますか（①～④のそれぞれにあてはまるもの1つに○。①～④のいずれも預ける人がいない場合は⑤に○）。預ける人がいる場合、(2) の状況もお答えください。

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」の割合が68.3%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」の割合が22.8%、「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」の割合が22.0%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

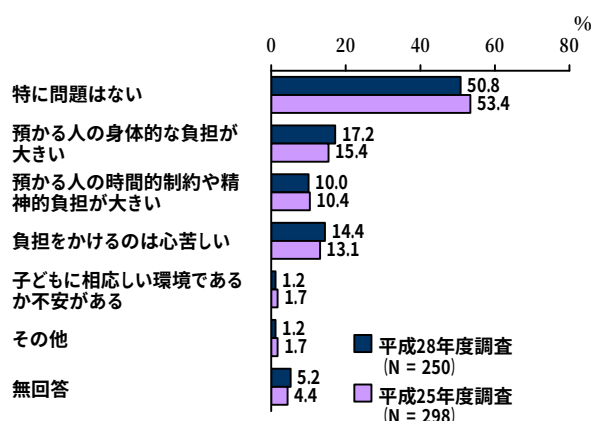


(1) 預ける状況

①日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる

「特に問題はない」の割合が50.8%と最も高く、次いで「預かる人の身体的な負担が大きい」の割合が17.2%、「負担をかけるのは心苦しい」の割合が14.4%となっています。

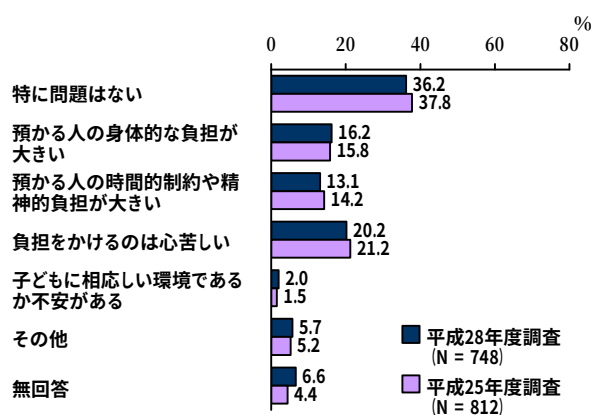
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる

「特に問題はない」の割合が36.2%と最も高く、次いで「負担をかけるのは心苦しい」の割合が20.2%、「預かる人の身体的な負担が大きい」の割合が16.2%となっています。

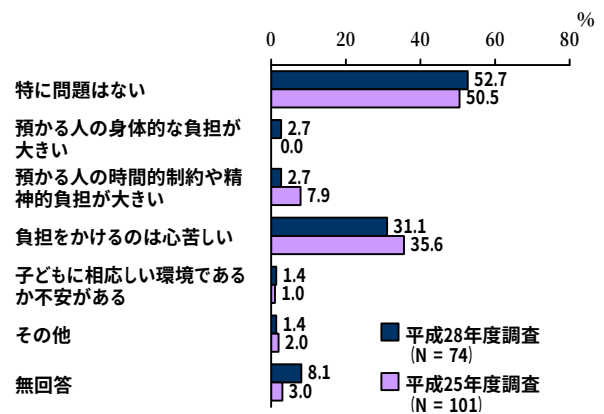
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



③日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる

「特に問題はない」の割合が52.7%と最も高く、次いで「負担をかけるのは心苦しい」の割合が31.1%となっています。

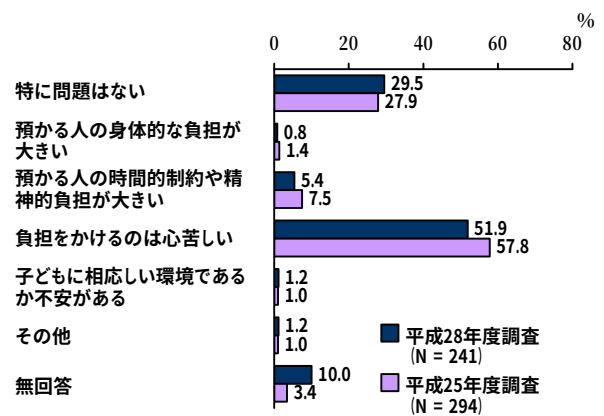
平成25年度調査と比較すると、「預かる人の時間的制約や精神的負担が大きい」の割合が減少しています。



④緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる

「負担をかけるのは心苦しい」の割合が51.9%と最も高く、次いで「特に問題はない」の割合が29.5%となっています。

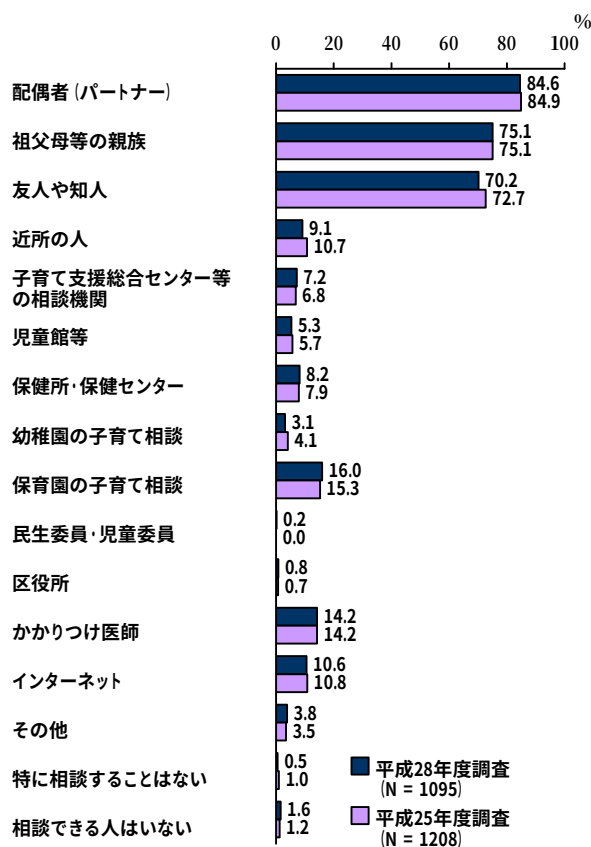
平成25年度調査と比較すると、「負担をかけるのは心苦しい」の割合が減少しています。



問 21 対象のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また相談できる場所等がありますか（あてはまるものすべてに○）。

「配偶者（パートナー）」の割合が 84.6%と最も高く、次いで「祖父母等の親族」の割合が 75.1%、「友人や知人」の割合が 70.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

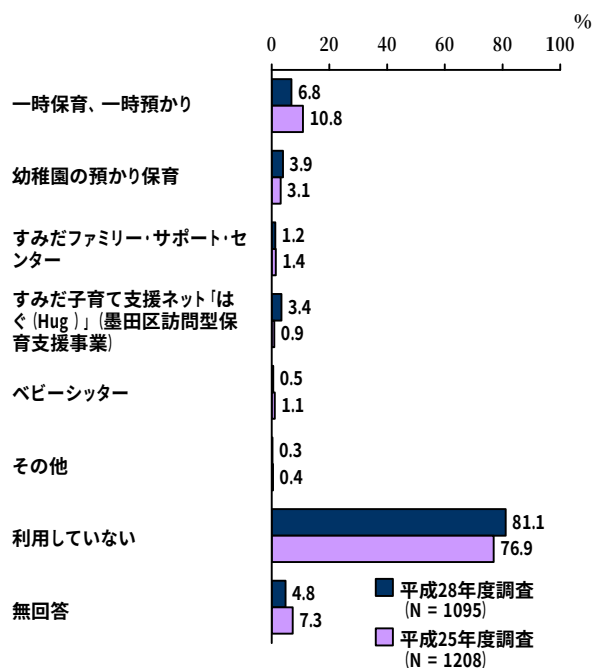


問 22 対象のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不
定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業はありますか（(1)はあてはまるものす
べてに○。利用していない場合は7に○）。利用している事業は(2)におおよその利用日数を
ご記入ください。

（１）利用している事業

「利用していない」の割合が 81.1%と最
も高くなっています。

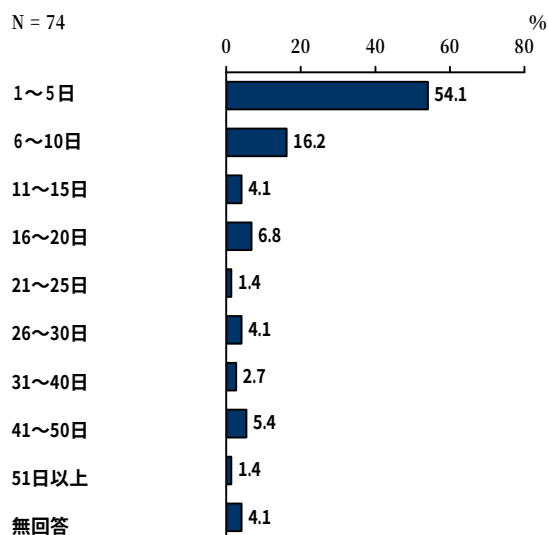
平成 25 年度調査と比較すると、大きな
変化はみられません。



（２）利用日数

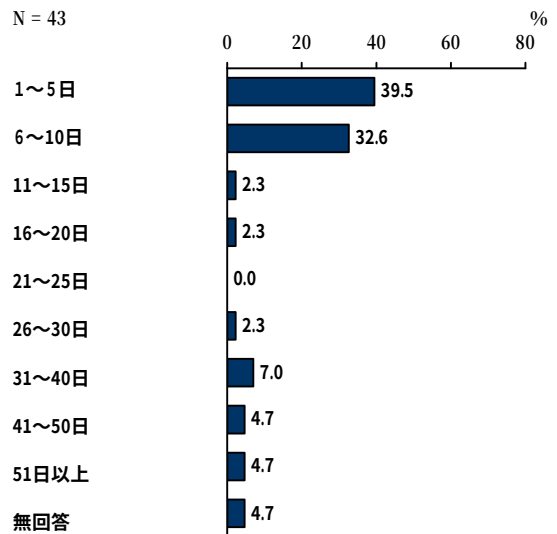
①一時保育、一時預かり

「1～5日」の割合が 54.1%と最も高く、
次いで「6～10日」の割合が 16.2%とな
っています。



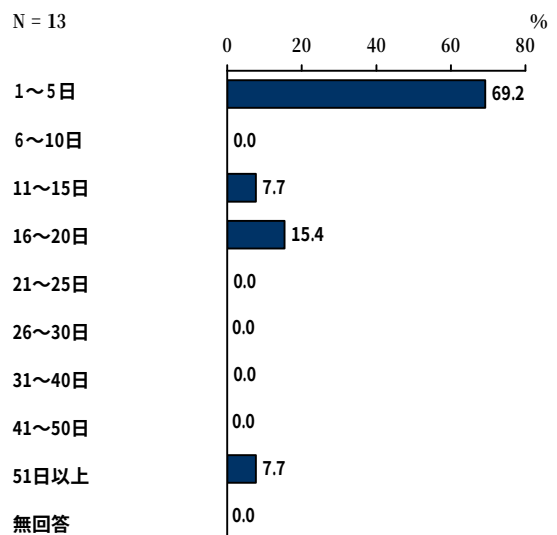
②幼稚園の預かり保育

「1～5日」の割合が39.5%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が32.6%となっています。



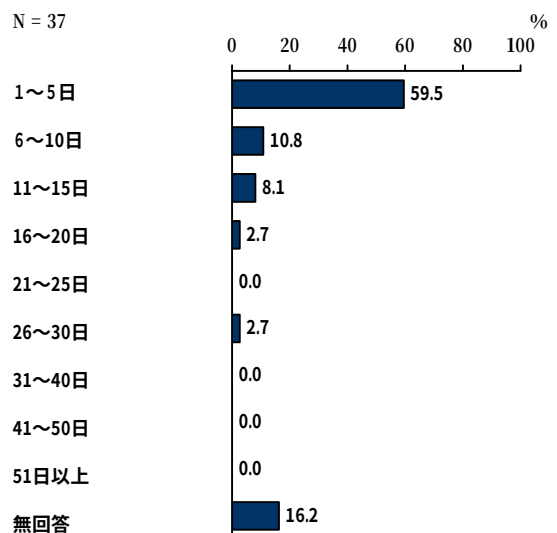
③すみだファミリー・サポート・センター

「1～5日」の割合が69.2%と最も高く、次いで「16～20日」の割合が15.4%となっています。



④すみだ子育て支援ネット「はぐ (Hug)」(墨田区訪問型保育支援事業)

「1～5日」の割合が59.5%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が10.8%となっています。



⑤ベビーシッター

「1～5日」が3件、「6～10日」「11～15日」「16～20日」が各1件となっています。

⑥その他

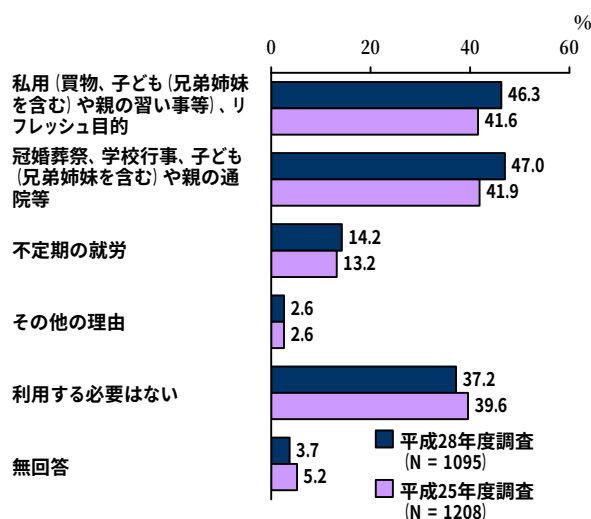
「1～5日」「6～10日」「26～30日」が各1件となっています。

問 23 対象のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で一時的預かりを利用する必要があると思いますか（(1)は利用したい理由であてはまるものすべてに○。必要がない場合は5に○）。利用したい方は(2)に利用するのに必要な日数、(3)に望ましい事業形態をお答えください。なお、事業の利用にあたっては一定の利用料がかかります。

(1) 利用したい理由

「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」の割合が47.0%と最も高く、次いで「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」の割合が46.3%、「利用する必要はない」の割合が37.2%となっています。

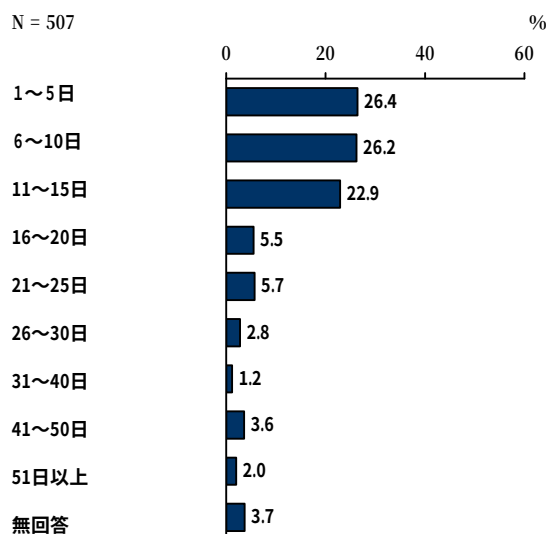
平成25年度調査と比較すると、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」の割合が増加しています。



(2) 必要な日数

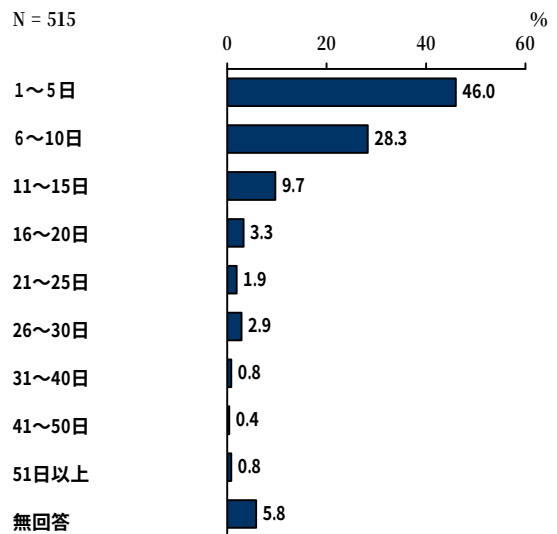
①私用（買物、子どもや親の習い事等）、リフレッシュ目的

「1～5日」の割合が26.4%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が26.2%、「11～15日」の割合が22.9%となっています。



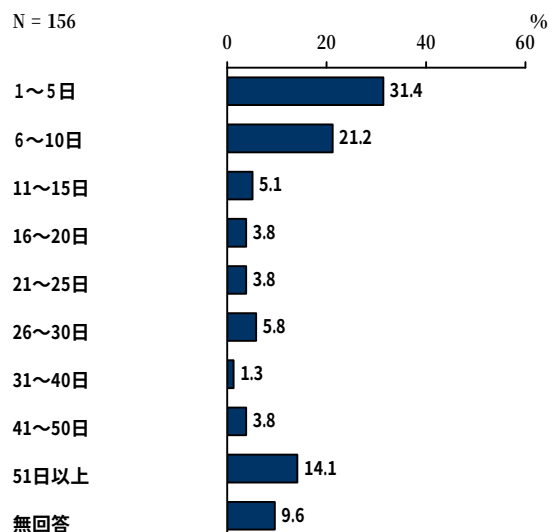
②冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等

「1～5日」の割合が46.0%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が28.3%となっています。



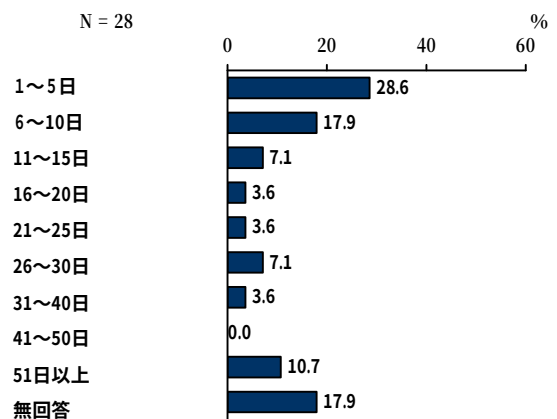
③不定期の就労

「1～5日」の割合が31.4%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が21.2%、「51日以上」の割合が14.1%となっています。



④その他の理由

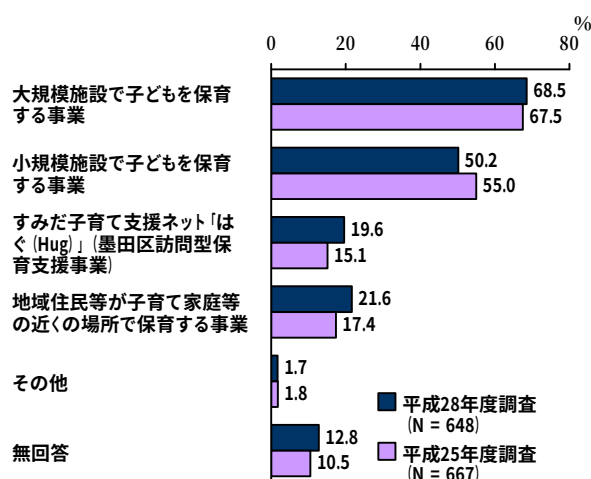
「1～5日」の割合が28.6%と最も高く、次いで「6～10日」の割合が17.9%、「51日以上」の割合が10.7%となっています。



(3) 利用する際の望ましい形態

「大規模施設で子どもを保育する事業」の割合が68.5%と最も高く、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業」の割合が50.2%、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」の割合が21.6%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

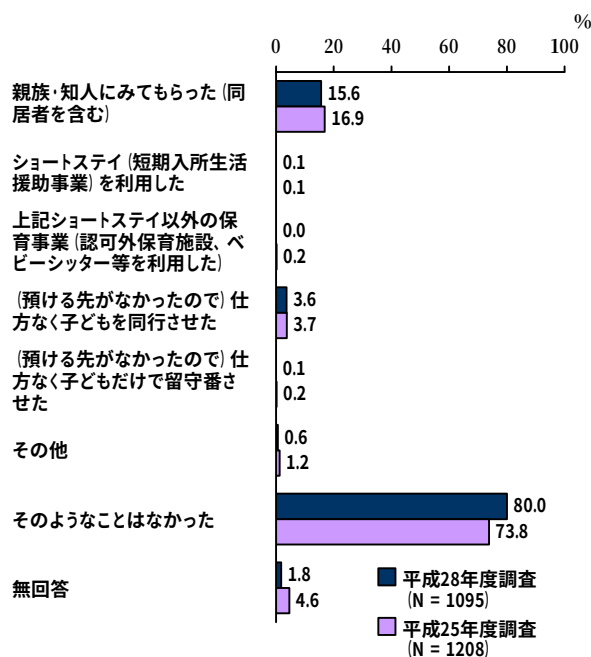


問24 この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、対象のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことがありましたか(預け先が見つからなかった場合も含みます)。そのときの(1)対処法と(2)それぞれの泊数をお答えください。「1 親族・知人にみてもらった」に○をつけた方は、(3)にもお答えください(1つに○)。

(1) 対処法

「そのようなことはなかった」の割合が80.0%と最も高く、次いで「親族・知人にみてもらった(同居者を含む)」の割合が15.6%となっています。

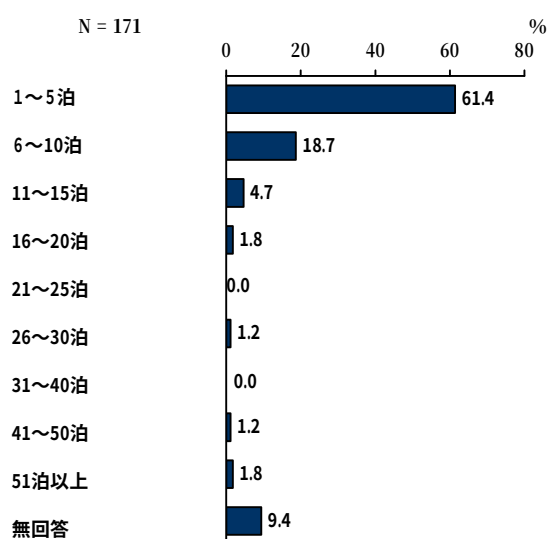
平成25年度調査と比較すると、「そのようなことはなかった」の割合が増加しています。



(2) 泊数

①親族・知人にみてもらった（同居者を含む）

「1～5泊」の割合が61.4%と最も高く、次いで「6～10泊」の割合が18.7%となっています。



②ショートステイ（短期入所生活援助事業）を利用した

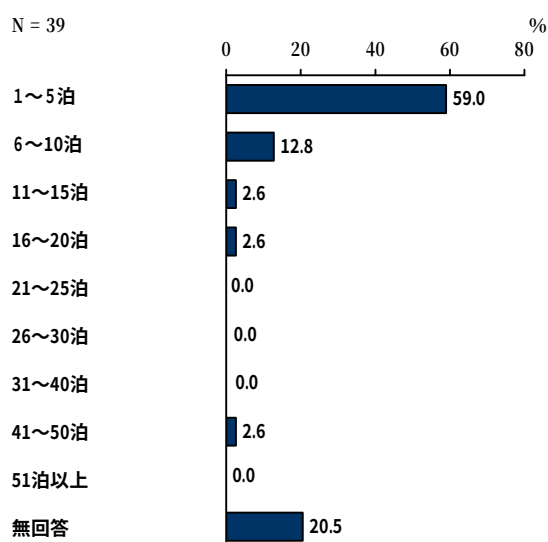
「1～5泊」が1件となっています。

③上記ショートステイ以外の保育事業（認可外保育施設、ベビーシッター等を利用した）

有効回答はありません。

④（預ける先がなかったのに）仕方なく子どもを同行させた

「1～5泊」の割合が59.0%と最も高く、次いで「6～10泊」の割合が12.8%となっています。



⑤（預ける先がなかったのに）仕方なく子どもだけで留守番させた

「1～5泊」が1件となっています。

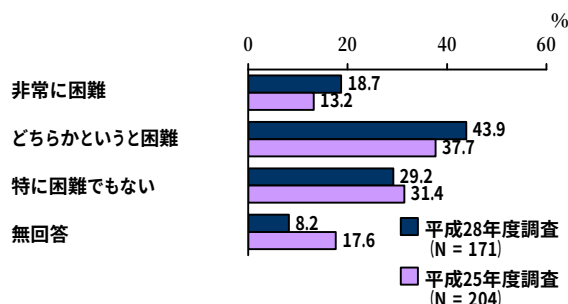
⑥その他

「1～5泊」が4件、「6～10泊」が2件となっています。

(3) 親族・知人にみてもらった時の困難度

「どちらかという困難」の割合が43.9%と最も高く、次いで「特に困難でもない」の割合が29.2%、「非常に困難」の割合が18.7%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「非常に困難」「どちらかという困難」の割合が増加しています。



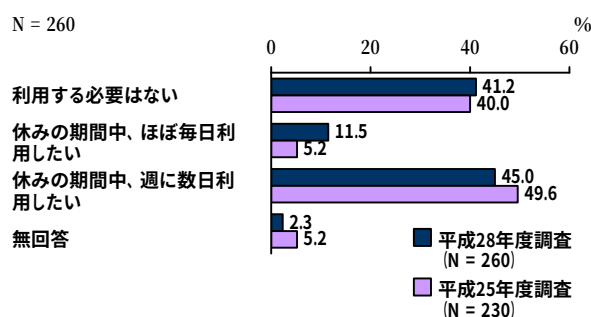
幼稚園を利用されている方にうかがいます。

問 25 対象のお子さんの夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯をお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

(1) 利用希望

「休みの期間中、週に数日利用したい」の割合が45.0%と最も高く、次いで「利用する必要はない」の割合が41.2%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」の割合が11.5%となっています。

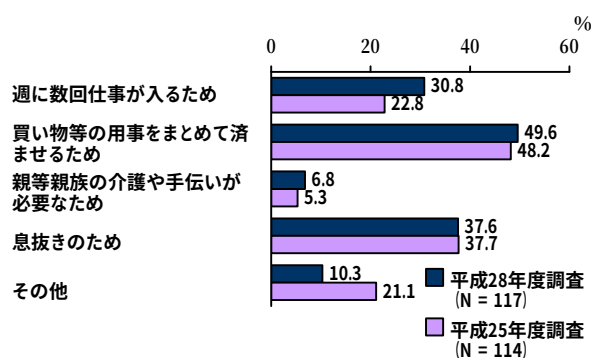
平成25年度調査と比較すると、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」の割合が増加しています。



(2) 週に数日利用したい（毎日ではなく、たまに利用したい）理由

「買い物等の用事をまとめて済ませるため」の割合が49.6%と最も高く、次いで「息抜きのため」の割合が37.6%、「週に数回仕事が入るため」の割合が30.8%となっています。

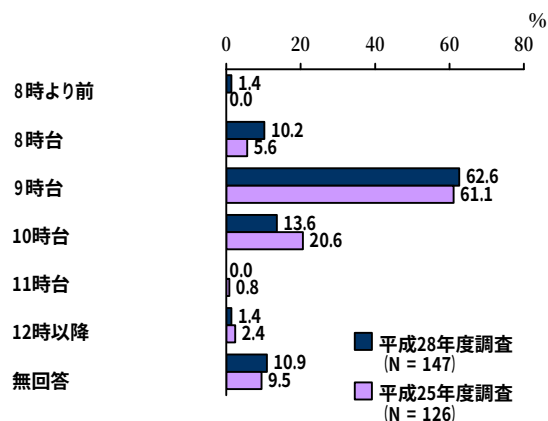
平成25年度調査と比較すると、「週に数回仕事が入るため」の割合が増加しています。



(3) 希望利用開始時間

「9時台」の割合が62.6%と最も高く、次いで「10時台」の割合が13.6%、「8時台」の割合が10.2%となっています。

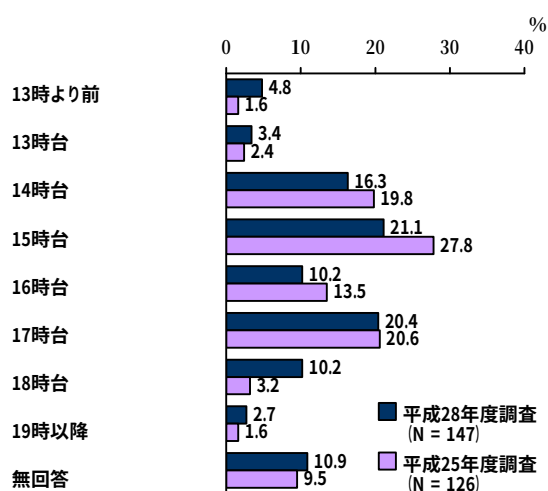
平成25年度調査と比較すると、「10時台」の割合が減少しています。



(4) 希望利用終了時間

「15時台」の割合が21.1%と最も高く、次いで「17時台」の割合が20.4%、「14時台」の割合が16.3%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「18時台」の割合が増加し、「15時台」の割合が減少しています。



問 26 “土曜と日曜・祝日”の定期的な教育・保育の事業の利用希望について、利用したい回数と時間帯、特に利用したい事業をお答えください（一時的な利用は除きます）。現在の利用の有無に関係なく、また実際に利用可能な時間帯に関係なくお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

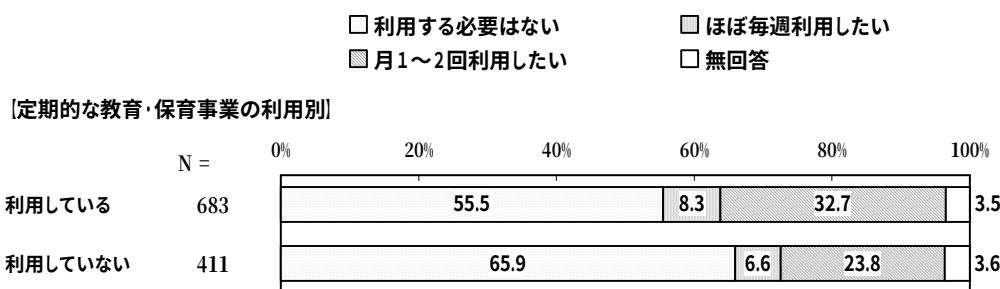
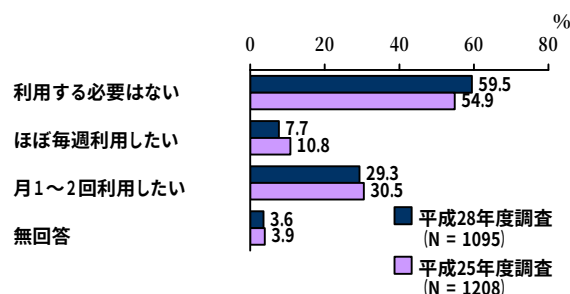
（１）利用希望

①土曜日

「利用する必要はない」の割合が 59.5%と最も高く、次いで「月１～２回利用したい」の割合が 29.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

定期的な教育・保育事業の利用別でみると、利用しているで「月１～２回利用したい」の割合が、利用していないで「利用する必要はない」の割合が高くなっています。



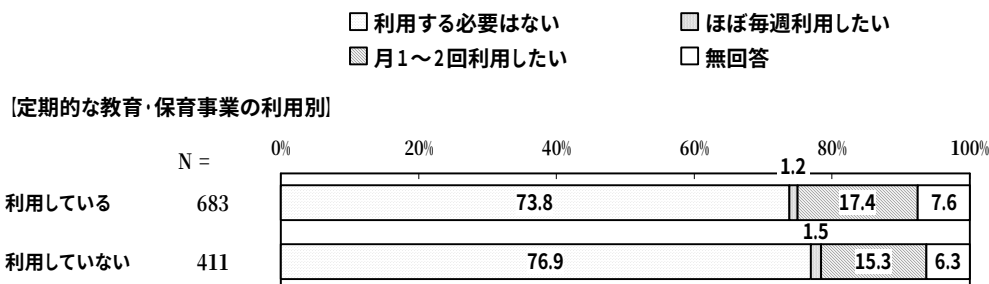
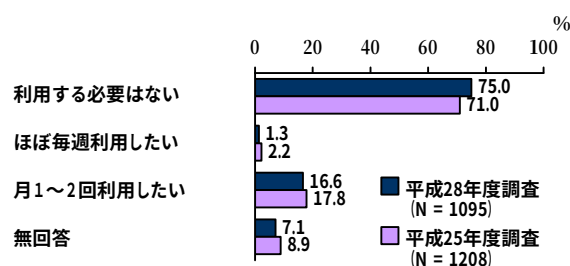
※利用状況無回答者数：１人

②日曜・祝日

「利用する必要はない」の割合が 75.0%と最も高く、次いで「月１～２回利用したい」の割合が 16.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

定期的な教育・保育事業の利用別でみると、大きな差異はみられません



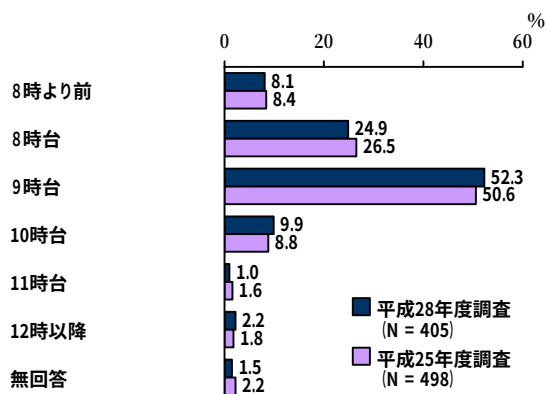
※利用状況無回答者数：１人

（２）希望利用時間

①土曜日開始時間

「９時台」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「８時台」の割合が 24.9%となっています。

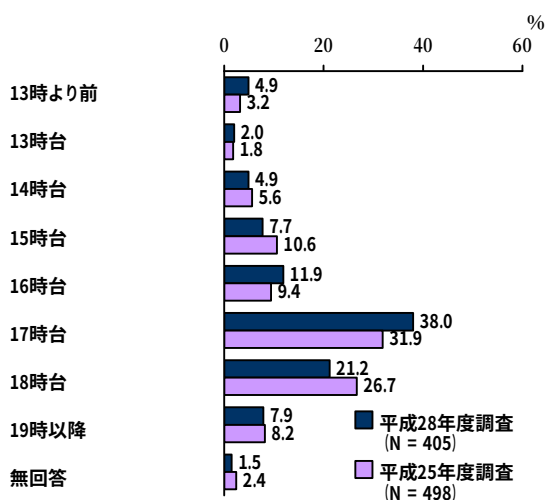
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②土曜日終了時間

「17 時台」の割合が 38.0%と最も高く、次いで「18 時台」の割合が 21.2%、「16 時台」の割合が 11.9%となっています。

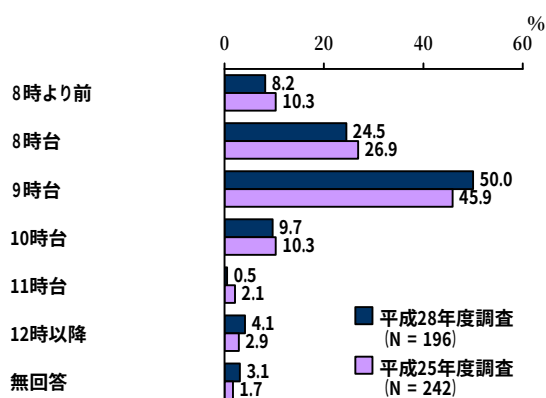
平成 25 年度調査と比較すると、「17 時台」の割合が増加し、「18 時台」の割合が減少しています。



③日曜・祝日開始時間

「９時台」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「８時台」の割合が 24.5%となっています。

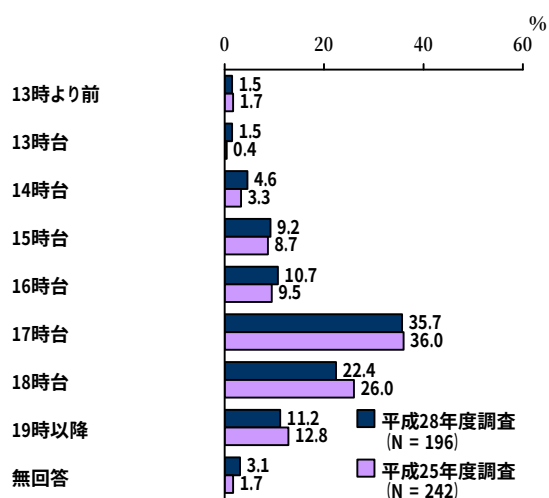
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



④日曜・祝日終了時間

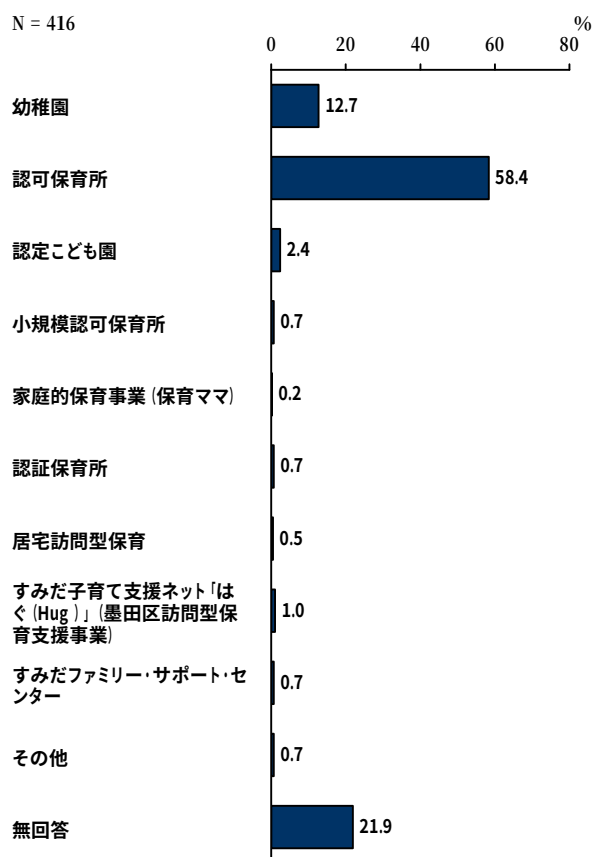
「17 時台」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「18 時台」の割合が 22.4%、「19 時以降」の割合が 11.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(3) 特に利用したい事業

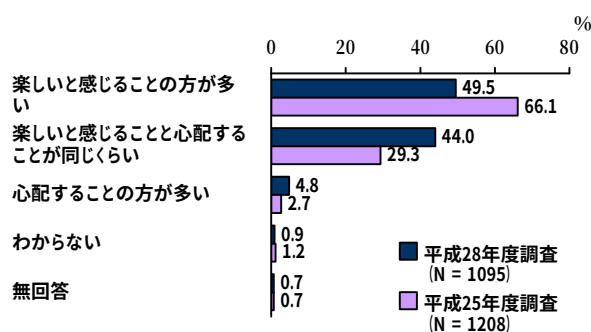
「認可保育所」の割合が 58.4%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が 12.7%となっています。



問 27 子育てをどのように感じていますか（1つに○）。

「楽しいと感じることの方が多い」の割合が49.5%と最も高く、次いで「楽しいと感じることと心配することが同じくらい」の割合が44.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「楽しいと感じることと心配することが同じくらい」の割合が増加し、「楽しいと感じることの方が多い」の割合が減少しています。



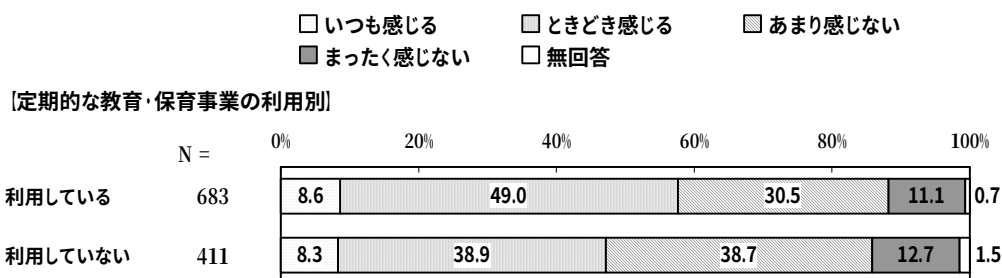
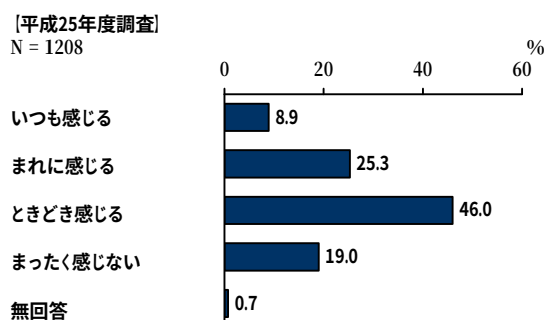
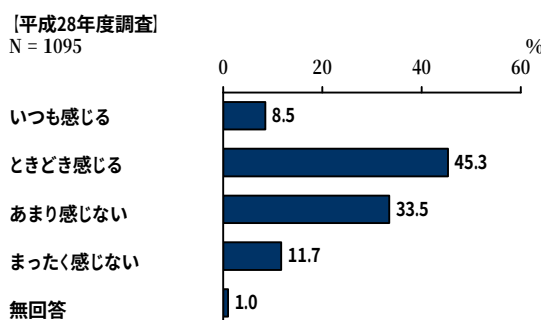
※平成25年度調査では、「楽しいと感じることと心配することが同じくらい」は「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」、「心配することの方が多い」は「つらいと感じることの方が多い」

問 28 家族や周囲の理解・協力が得られずに、子育てに自信が持てないと感じたり、不安や孤独を感じたりすることはありますか（①と②のそれぞれについて1～4の1つに○）。

①子育てに自信が持てないと感じることがある

「いつも感じる」と「ときどき感じる」をあわせた“感じる”の割合が53.8%、「あまり感じない」と「まったく感じない」をあわせた“感じることではない”の割合が45.2%となっています。

定期的な教育・保育事業の利用別でみると、利用しているで“感じる”の割合が、利用していないで“感じる”の割合が高くなっています。



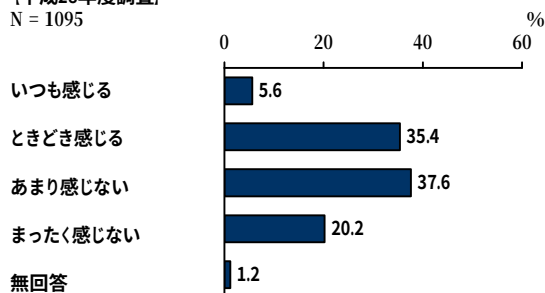
※利用状況無回答者数：1人

②子育てに不安や孤独を感じることがある

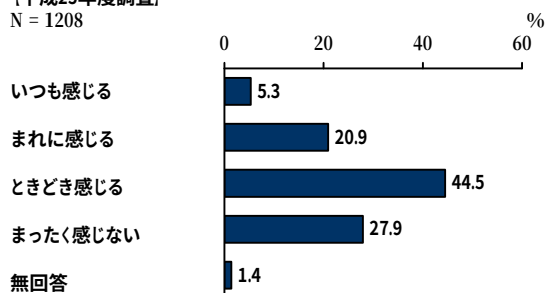
“感じる”の割合が 41.0%、
“感じない”の割合が 57.8%とな
っています。

定期的な教育・保育事業の利用別でみる
と、大きな差異はみられません。

[平成28年度調査]
N = 1095

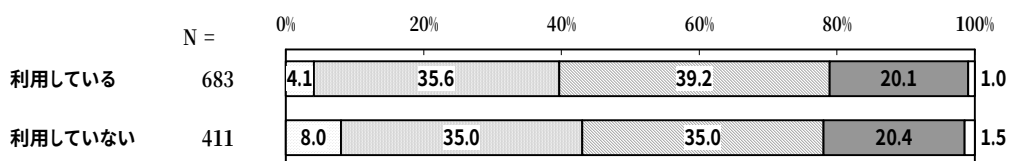


[平成25年度調査]
N = 1208



□ いつも感じる □ ときどき感じる □ あまり感じない
■ まったく感じない □ 無回答

[定期的な教育・保育事業の利用別]



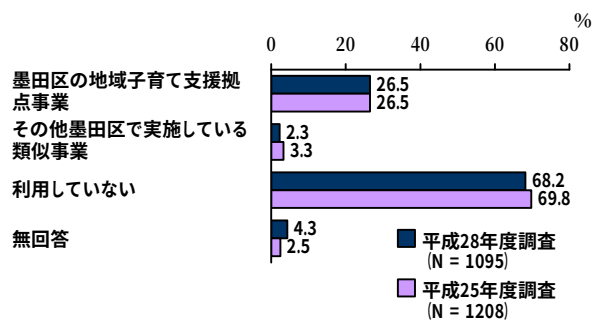
※利用状況無回答者数：1人

問 29 対象のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業を利用していますか（(1)利用状況にあてはまるものすべてに○。利用していない場合は3に○）。利用している方は、(2)におおよその利用回数（頻度）をご記入ください。また、現在利用していない方は(3)に今後の利用希望（1つに○）、(5)に利用希望回数をお答えください。現在利用している方の今後の利用希望は(4)に、利用回数を増やしたい方は(5)に回数をお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生する場合があります。

（1）利用状況

「利用していない」の割合が 68.2%と最も高く、次いで「墨田区の地域子育て支援拠点事業」の割合が 26.5%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【相談相手の有無別】

相談相手の有無別でみると、相談相手がいなくて「利用していない」の割合が高く、約8割となっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	墨田区の地域子育て 支援拠点事業	その他墨田区で実 施している類似事 業	利用していない	無回答
全体	1095	26.5	2.3	68.2	4.3
相談相手がいる	1062	27.0	2.1	68.2	4.0
相談相手がいらない	17	5.9	17.6	76.5	5.9

※相談相手の有無無回答者数：11人

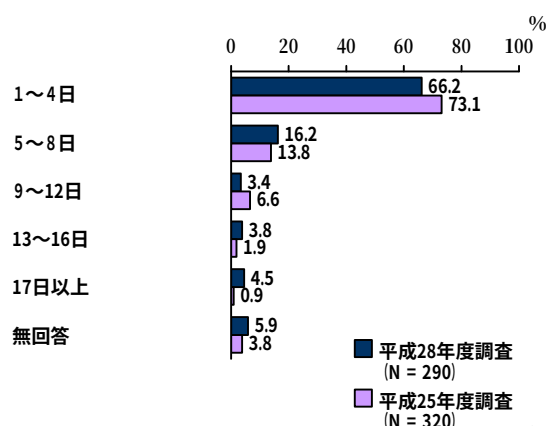
※“相談相手がいる”人は、問21で「特に相談することはない」「相談できる人はいない」以外を回答した人
“相談相手がいらない”人は、問21で「相談できる人はいない」と回答した人

(2) 利用回数

①墨田区の地域子育て支援拠点事業

「1～4日」の割合が66.2%と最も高くなっています。

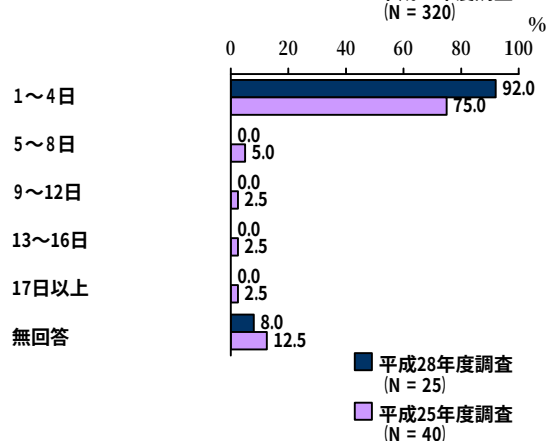
平成25年度調査と比較すると、「1～4日」の割合が減少しています。



②その他墨田区で実施している類似事業

「1～4日」の割合が92.0%と最も高くなっています。

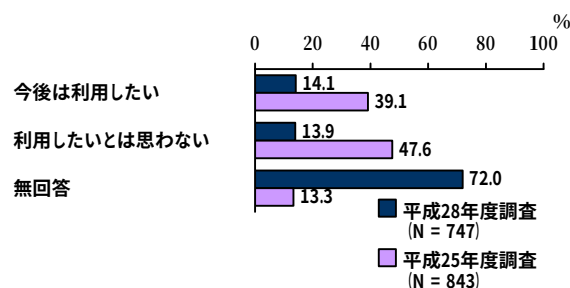
平成25年度調査と比較すると、「1～4日」の割合が増加しています。



(3) 利用していない方の今後の希望

「今後は利用したい」の割合が14.1%、「利用したいとは思わない」の割合が13.9%となっています。

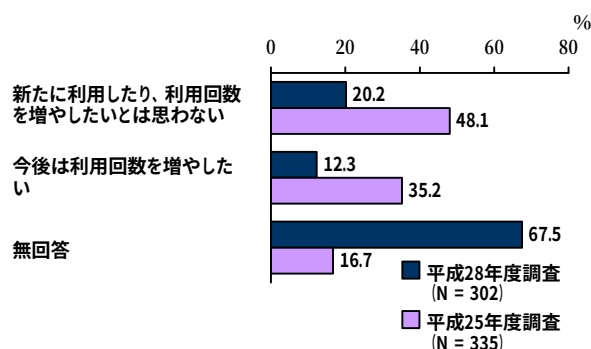
平成25年度調査と比較すると、「今後は利用したい」「利用したいとは思わない」の割合が減少しています。



（４）今後の利用希望

「新たに利用したり、利用回数を増やしたいとは思わない」の割合が 20.2%、「今後は利用回数を増やしたい」の割合が 12.3%となっています。

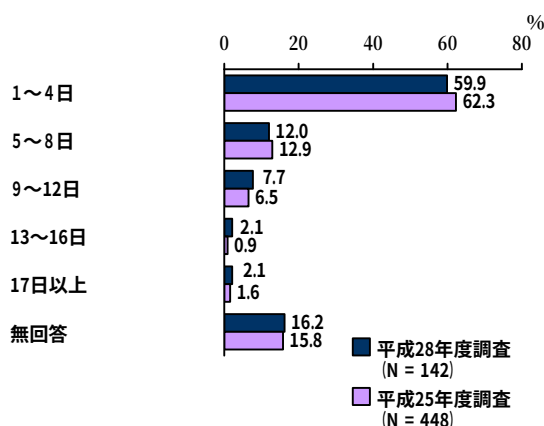
平成 25 年度調査と比較すると、「新たに利用したり、利用回数を増やしたいとは思わない」「今後は利用回数を増やしたい」の割合が減少しています。



（５）利用希望回数

「1～4日」の割合が 59.9%と最も高くなっています。

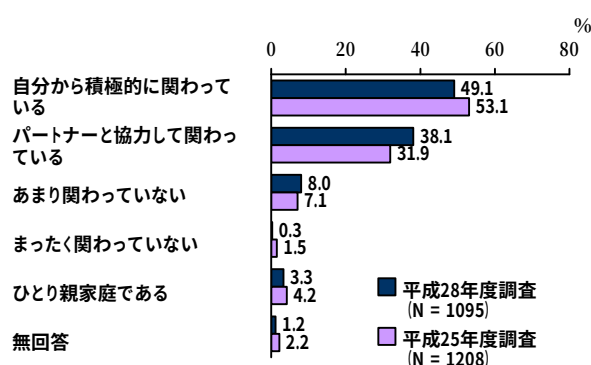
平成 25 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問 30 対象のお子さんに父親としてどのように関わっていますか（1つに○）。（回答者が対象のお子さんの母親のときは父親についてお答えください）

「自分から積極的に関わっている」の割合が 49.1%と最も高く、次いで「パートナーと協力して関わっている」の割合が 38.1%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「パートナーと協力して関わっている」の割合が増加しています。

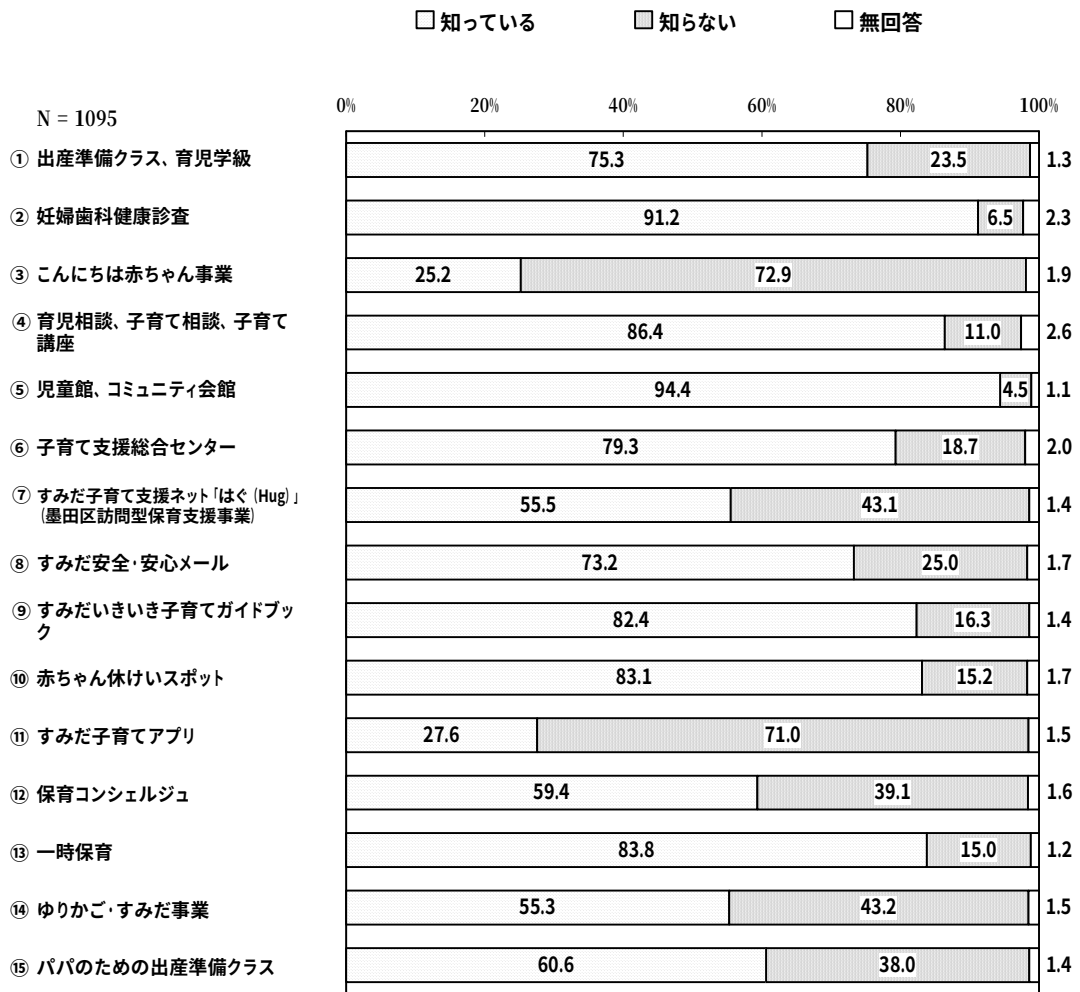


問 31 墨田区で行っている次の①～⑮の子育て支援サービスについて、(1)認知状況、(2)利用状況、利用したことがある方は(3)の満足度にお答えください。

(1) 認知度

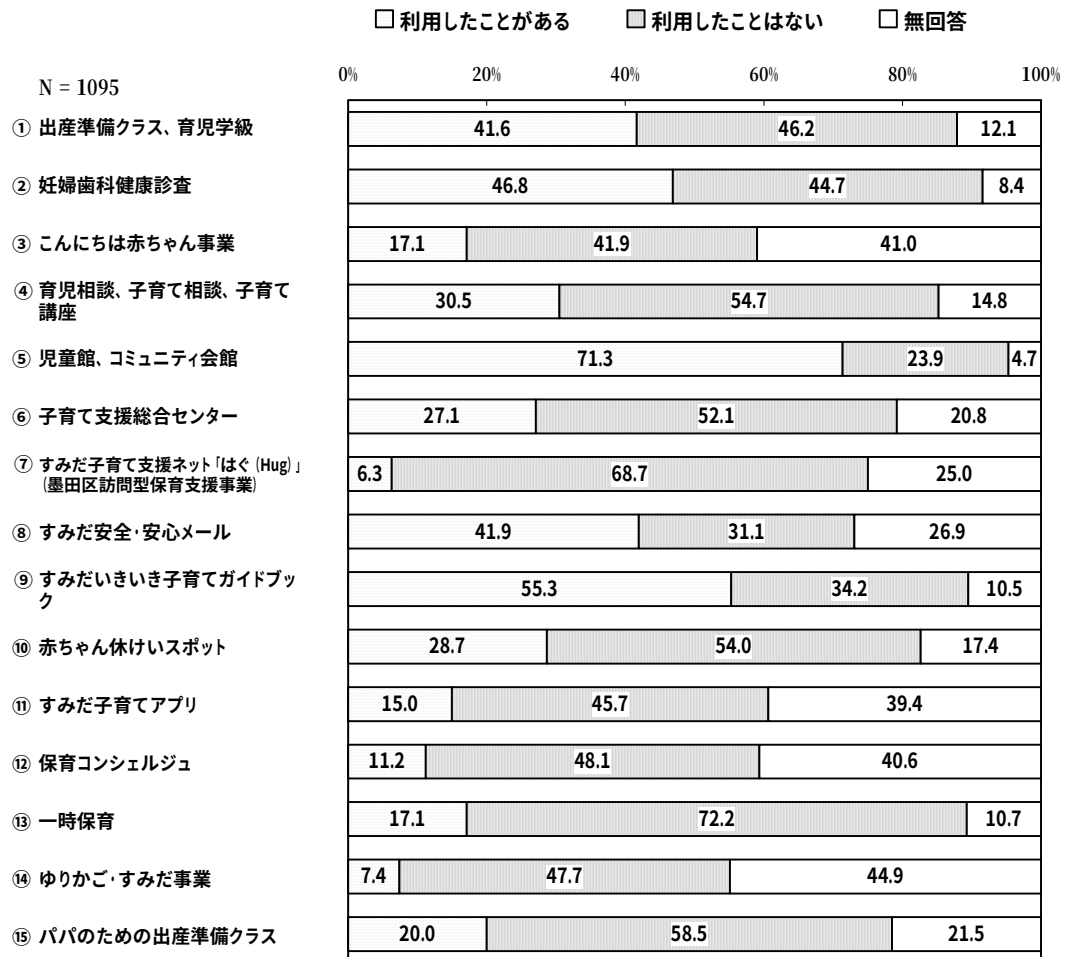
②妊婦歯科健康診査、④育児相談、子育て相談、子育て講座、⑤児童館、コミュニティ会館で「知っている」の割合が高く、約9割となっています。

一方、③こんにちは赤ちゃん事業、⑪すみだ子育てアプリで「知っている」の割合が低く、3割未満となっています。



(2) 利用状況

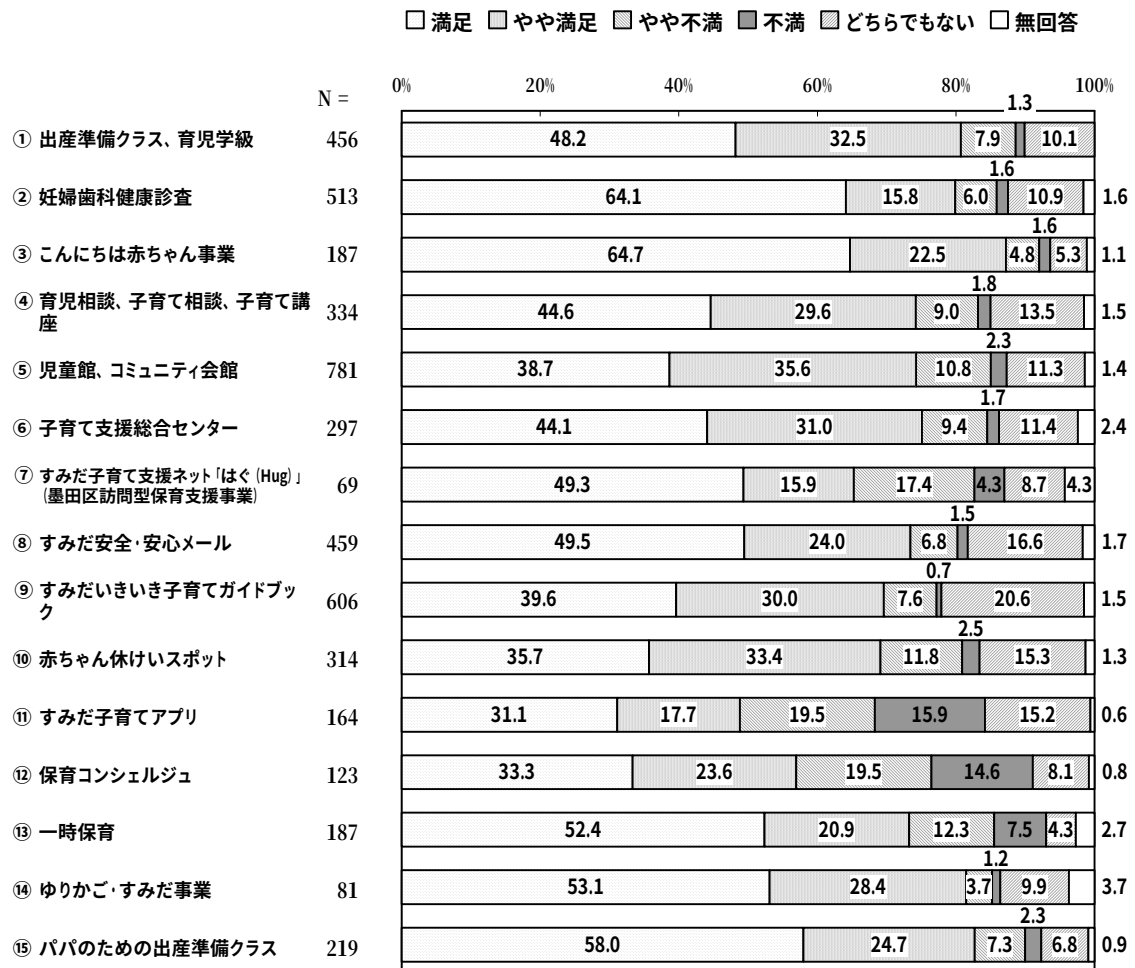
⑤児童館、コミュニティ会館で「利用したことがある」の割合が高く、約7割となっています。
一方、⑦すみだ子育て支援ネット「はぐ (Hug)」(墨田区訪問型保育支援事業)、⑭ゆりかご・すみだ事業で「利用したことがある」の割合が低く、1割未満となっています。



(3) 満足度

①出産準備クラス、育児学級、③こんにちは赤ちゃん事業、⑭ゆりかご・すみだ事業、⑮パパのための出産準備クラスで「満足」と「やや満足」をあわせた“満足”の割合が高く、8割を超えています。

一方、⑪すみだ子育てアプリの“満足”の割合は5割を下回っています。

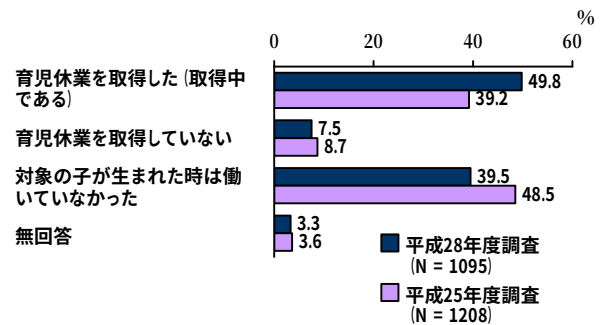


問 32 対象のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。

(1) 母親

「育児休業を取得した（取得中である）」の割合が 49.8%と最も高く、次いで「対象の子が生まれた時は働いていなかった」の割合が 39.5%となっています。

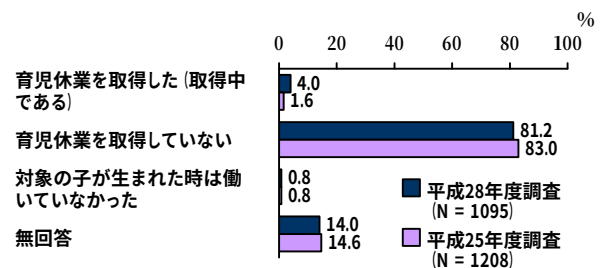
平成 25 年度調査と比較すると、「育児休業を取得した（取得中である）」の割合が増加し、「対象の子が生まれた時は働いていなかった」の割合が減少しています。



(2) 父親

「育児休業を取得していない」の割合が 81.2%と最も高くなっています。

平成 25 年度調査と比較すると、微増しているものの、大きな変化はみられません。



※参考 男性の育児休業取得率 全国：2.65
（厚生労働省「平成 27 年度雇用均等基本調査」）

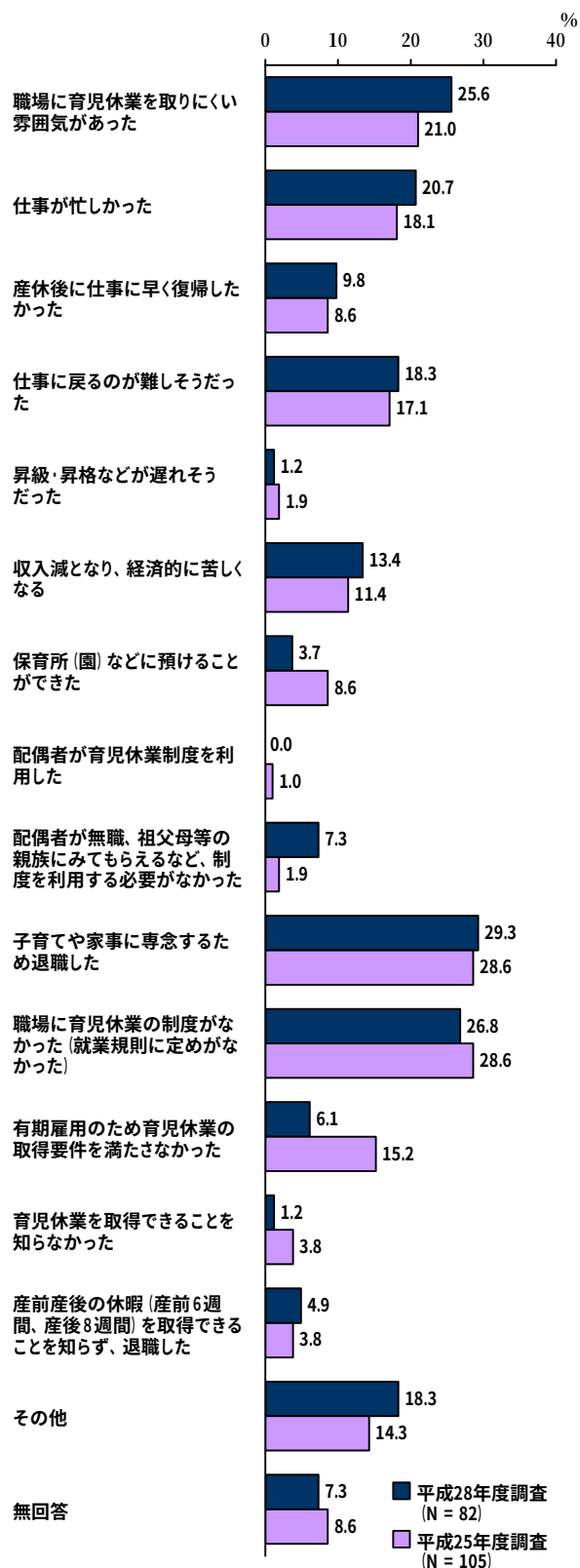
前問で「2. 育児休業を取得していない」に○をつけた方にうかがいます。

問 33 育児休業を取得していない理由について、あてはまる番号すべてをご記入ください。

(1) 母親

「子育てや家事に専念するため退職した」の割合が29.3%と最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」の割合が26.8%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」の割合が25.6%となっています。

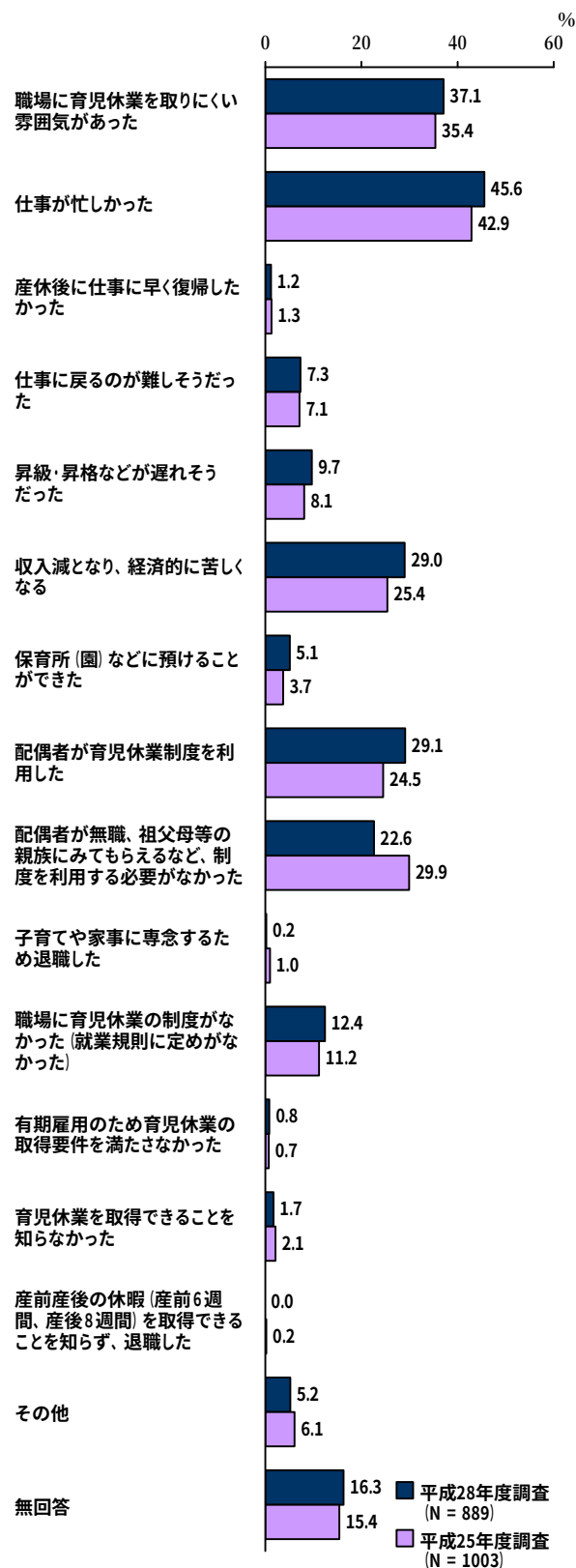
平成25年度調査と比較すると、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」の割合が増加し、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」の割合が減少しています。



(2) 父親

「仕事が忙しかった」の割合が45.6%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」の割合が37.1%、「配偶者が育児休業制度を利用した」の割合が29.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」の割合が減少しています。



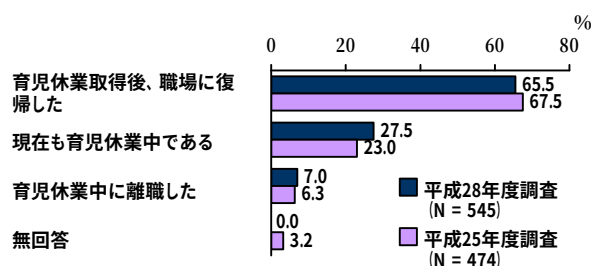
問 32 で「1 育児休業を取得した（取得中である）」に○をつけた方にうかがいます。

問 34 育児休業取得後の職場への復帰についてお答えください。

（１）母親

「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が 65.5%と最も高く、次いで「現在も育児休業中である」の割合が 27.5%となっています。

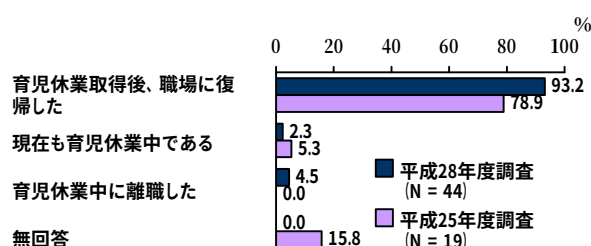
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



（２）父親

「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が 93.2%と最も高くなっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が増加しています。



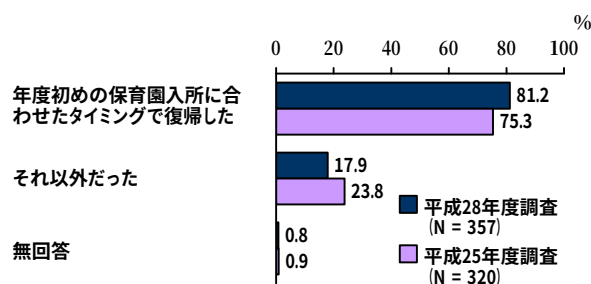
前問で「1 育児休業取得後、職場に復帰した」に○をつけた方にうかがいます。

問 35 育児休業から職場に復帰した時期についてお答えください。

（１）母親

「年度初めの保育園入所に合わせたタイミングで復帰した」の割合が 81.2%、「それ以外だった」の割合が 17.9%となっています。

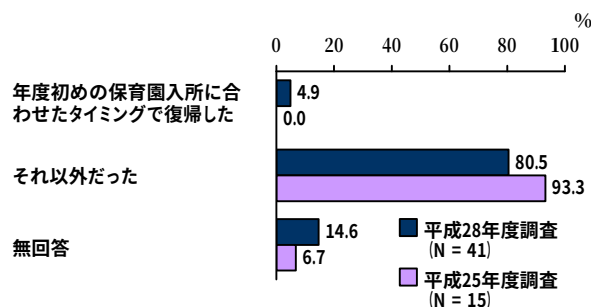
平成 25 年度調査と比較すると、「年度初めの保育園入所に合わせたタイミングで復帰した」の割合が増加しています。



（２）父親

「それ以外だった」の割合が 80.5%、「年度初めの保育園入所に合わせたタイミングで復帰した」の割合が 4.9%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「それ以外だった」の割合が減少しています。



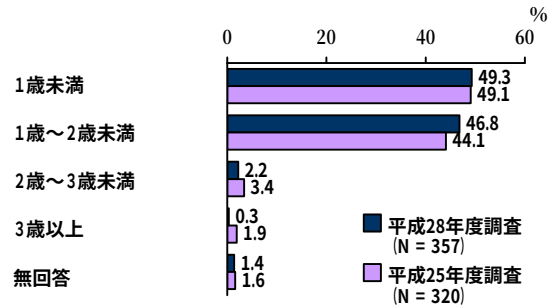
問 36 お子さんが何歳の時に育児休業から職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業制度の期間内において、希望としてはお子さんが何歳の時まで育児休業をとりたかったですか。

(1) 母親

①取得期間

「1歳未満」の割合が49.3%と最も高く、次いで「1歳～2歳未満」の割合が46.8%となっています。

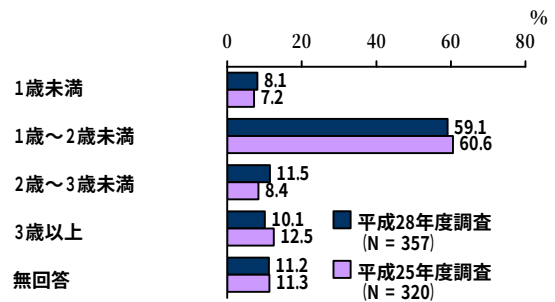
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



②希望取得期間

「1歳～2歳未満」の割合が59.1%と最も高く、次いで「2歳～3歳未満」の割合が11.5%、「3歳以上」の割合が10.1%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

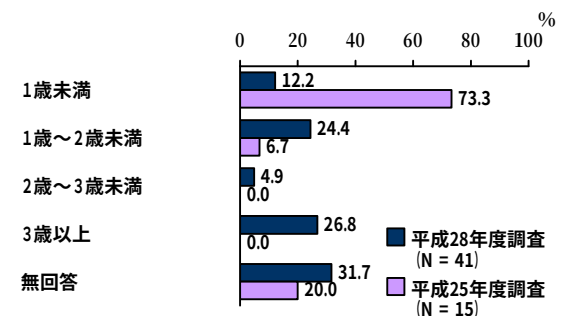


(2) 父親

①取得期間

「3歳以上」の割合が26.8%と最も高く、次いで「1歳～2歳未満」の割合が24.4%、「1歳未満」の割合が12.2%となっています。

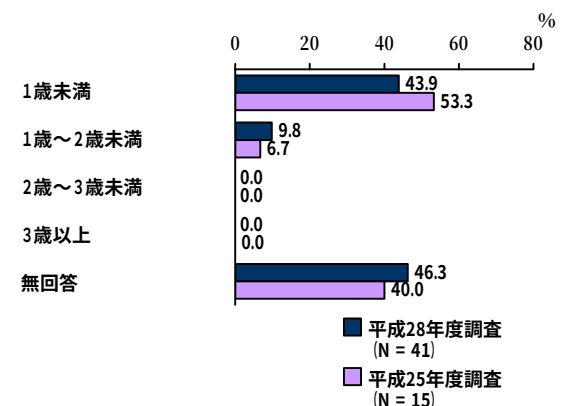
平成 25 年度調査と比較すると、「1歳～2歳未満」「3歳以上」の割合が増加し、「1歳未満」の割合が減少しています。



②希望取得期間

「1歳未満」の割合が43.9%と最も高くなっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「1歳未満」の割合が減少しています。

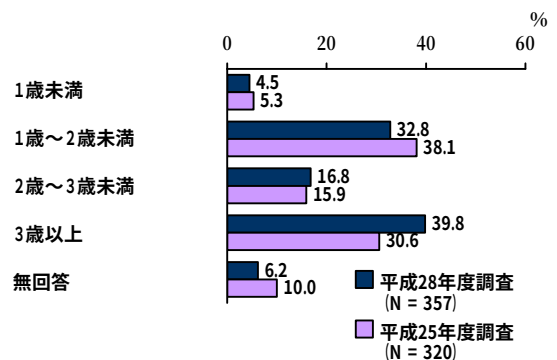


問 37 お勤め先に育児のため3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、希望としてはお子さんが何歳の時までとりたかったですか。

(1) 母親

「3歳以上」の割合が39.8%と最も高く、次いで「1歳～2歳未満」の割合が32.8%、「2歳～3歳未満」の割合が16.8%となっています。

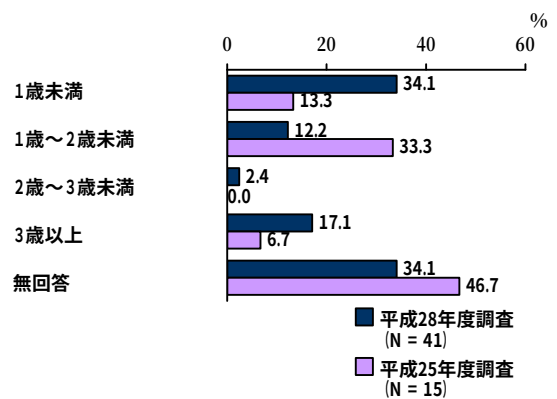
平成25年度調査と比較すると、「3歳以上」の割合が増加し、「1歳～2歳未満」の割合が減少しています。



(2) 父親

「1歳未満」の割合が34.1%と最も高く、次いで「3歳以上」の割合が17.1%、「1歳～2歳未満」の割合が12.2%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「1歳未満」「3歳以上」の割合が増加し、「1歳～2歳未満」の割合が減少しています。



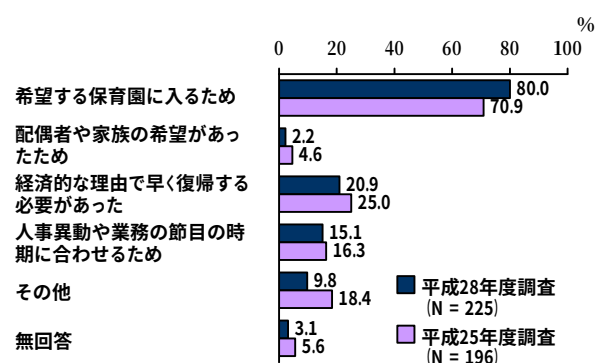
問 36 で取得期間が希望より少なかった（希望より早く復帰した）方にうかがいます。

問 38 希望より早く職場に復帰した理由は何ですか。

(1) 母親

「希望する保育園に入るため」の割合が80.0%と最も高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があるため」の割合が20.9%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」の割合が15.1%となっています。

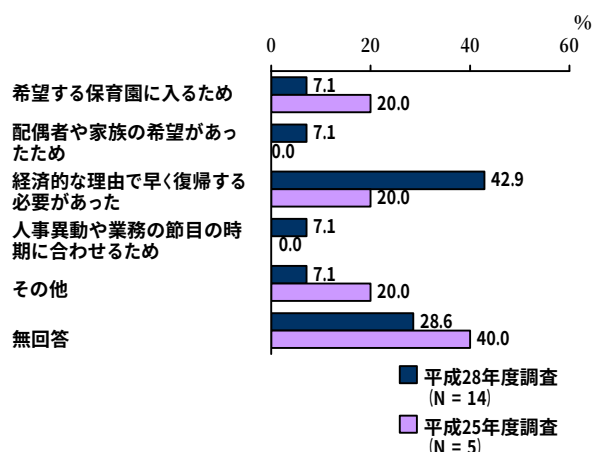
平成25年度調査と比較すると、「希望する保育園に入るため」の割合が増加しています。



(2) 父親

「経済的な理由で早く復帰する必要があった」の割合が42.9%と最も高くなっています。

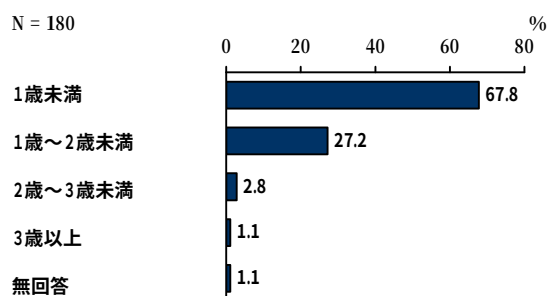
平成25年度調査と比較すると、「配偶者や家族の希望があったため」「経済的な理由で早く復帰する必要があった」「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」の割合が増加し、「希望する保育園に入るため」の割合が減少しています。



問 39 実際に、お子さんが何歳の時に保育園に入れましたか。また、希望としては何歳から保育園に入れたかったですか。

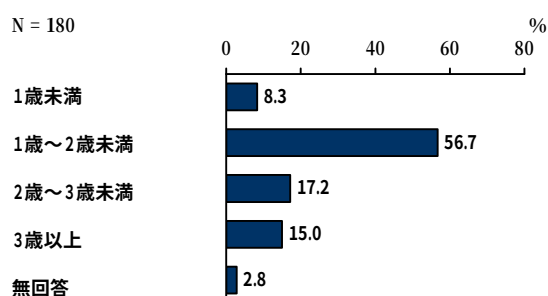
①入園時期

「1歳未満」の割合が67.8%と最も高く、次いで「1歳～2歳未満」の割合が27.2%となっています。



②希望の入園時期

「1歳～2歳未満」の割合が56.7%と最も高く、次いで「2歳～3歳未満」の割合が17.2%、「3歳以上」の割合が15.0%となっています。



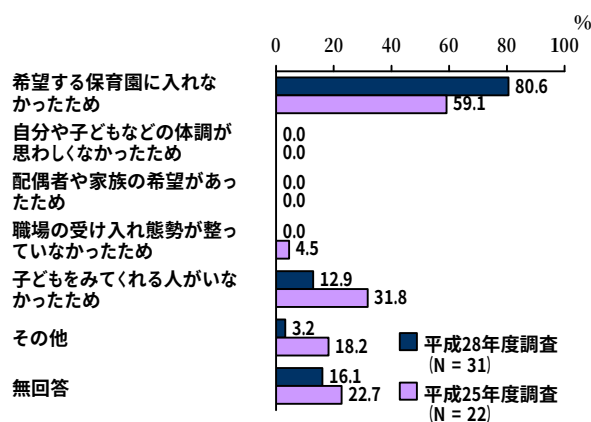
問 36 で取得期間が希望より多かった（希望より遅く復帰した）方にうかがいます。

問 40 希望より遅く職場に復帰した理由は何ですか。

（１）母親

「希望する保育園に入れなかったため」の割合が 80.6%と最も高く、次いで「子どもをみてくれる人がいなかったため」の割合が 12.9%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「希望する保育園に入れなかったため」の割合が増加し、「子どもをみてくれる人がいなかったため」の割合が減少しています。



（２）父親

有効回答はありません。

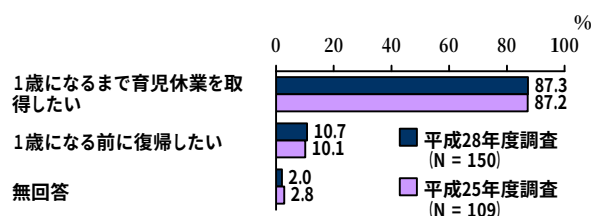
問 34 で「2 現在も育児休業中である」に○をつけた方にうかがいます。

問 41 対象のお子さんが1歳になった時に必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。

（１）母親

「1歳になるまで育児休業を取得したい」の割合が 87.3%、「1歳になる前に復帰したい」の割合が 10.7%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



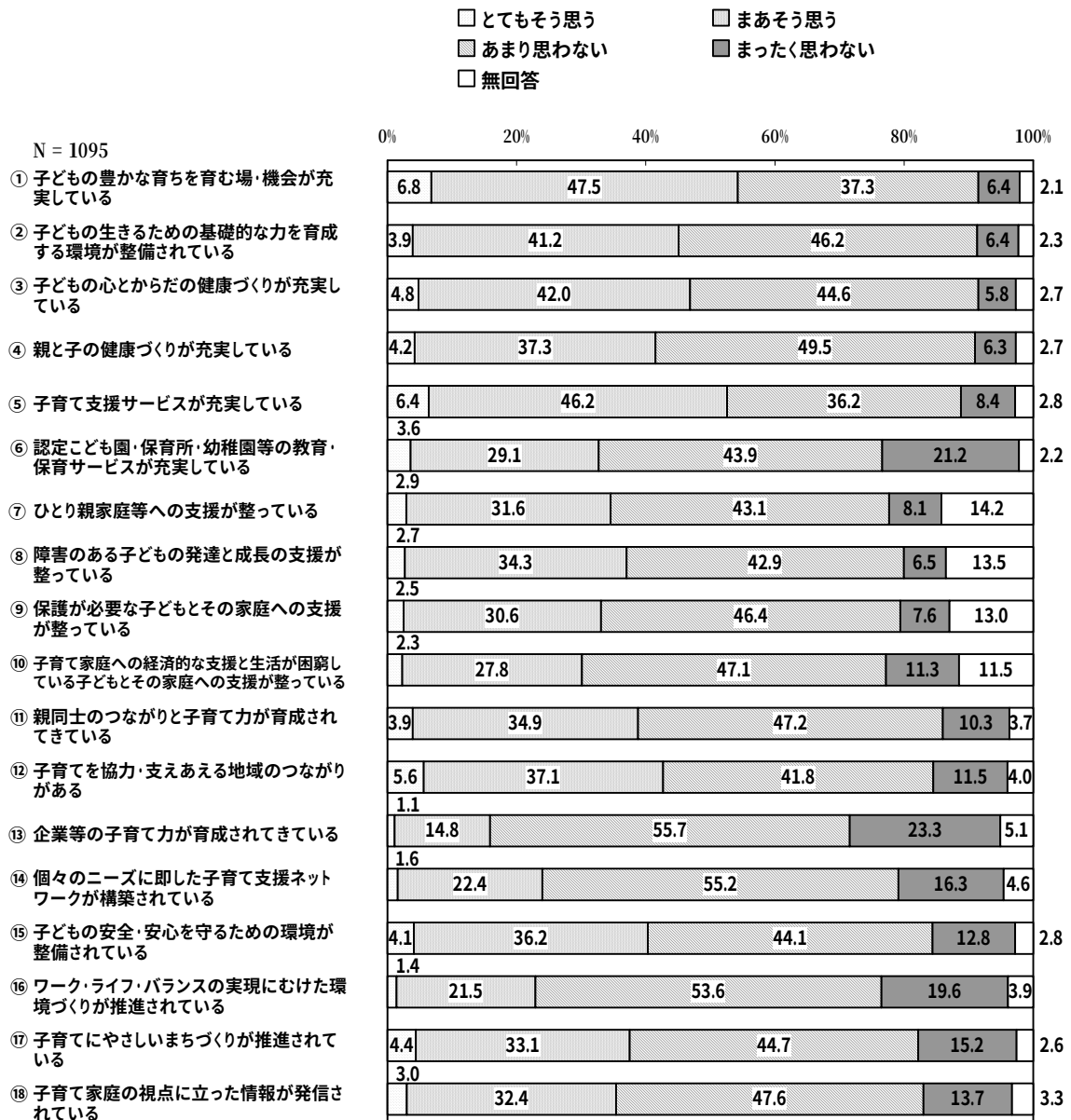
（２）父親

「1歳になる前に復帰したい」が1件となっています。

問 42 乳幼児期のお子さんを育てていく上で、墨田区の環境をどのように感じていますか
(①～⑱のそれぞれについて1～4の1つに○)。

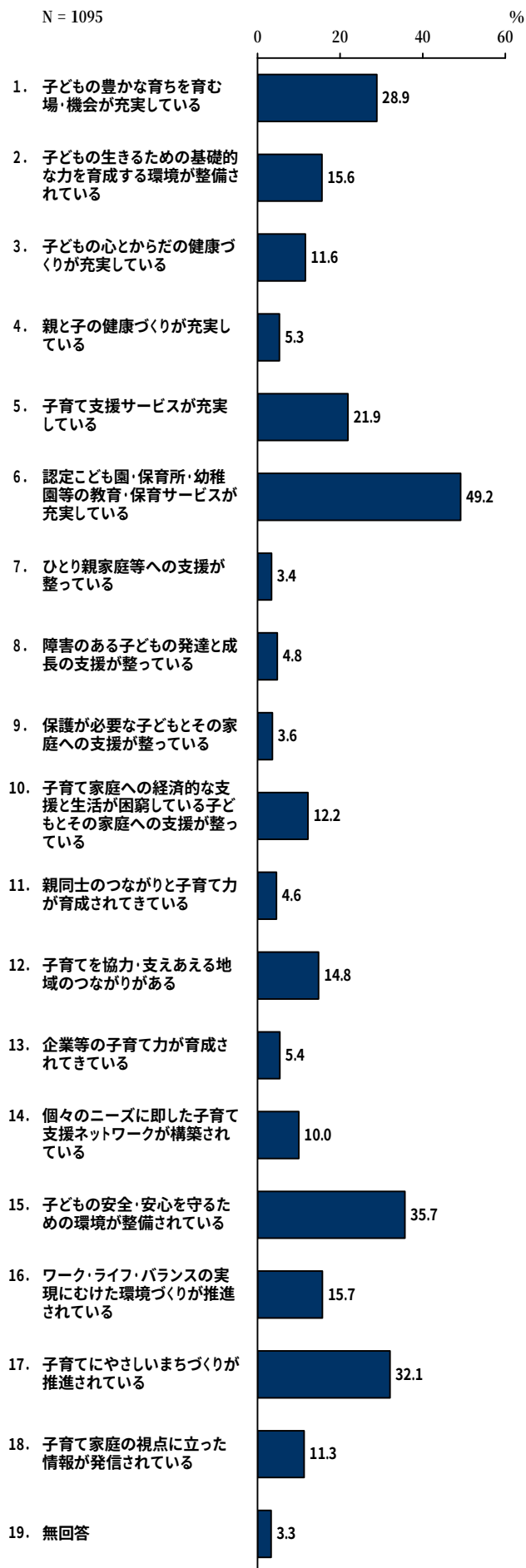
①子どもの豊かな育ちを育む場・機会が充実している、⑤子育て支援サービスが充実しているで「とてもそう思う」と「まあそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、5割を超えています。

一方、⑬企業等の子育て力が育成されてきている、⑭個々のニーズに即した子育て支援ネットワークが構築されている、⑯ワーク・ライフ・バランスの実現にむけた環境づくりが推進されているで“そう思う”の割合が低く、3割を下回っています。



問 43 前問①～⑱の中で、墨田区がめざす環境として重要だと思う番号を下欄に3つご記入ください。

「認定こども園・保育所・幼稚園等の教育・保育サービスが充実している」の割合が49.2%と最も高く、次いで「子どもの安全・安心を守るための環境が整備されている」の割合が35.7%、「子育てにやさしいまちづくりが推進されている」の割合が32.1%となっています。

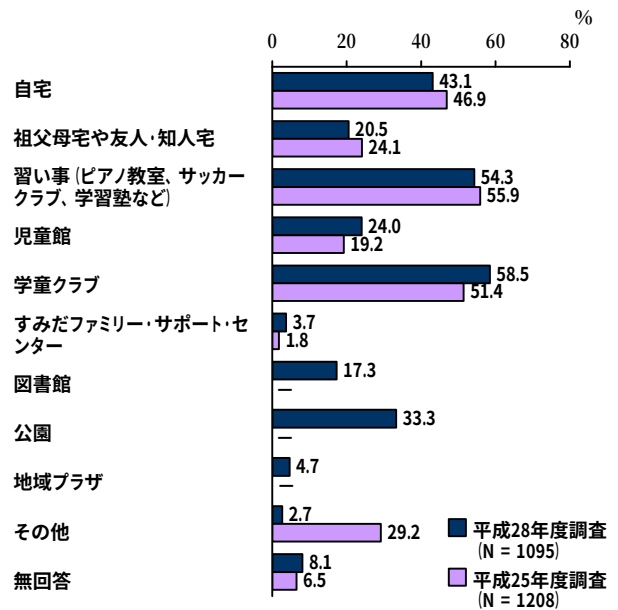


問 44 対象のお子さんが小学校低学年（１～３年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所等で過ごさせたいと思いますか。(1)のあてはまるものすべてに○をつけ、それぞれ希望する利用日数を(2)に、「5 学童クラブ」は終了時刻を(3)にご記入ください。

(1) 居場所

「学童クラブ」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が 54.3%、「自宅」の割合が 43.1%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「学童クラブ」の割合が増加しています。



※平成 25 年度調査では、図書館、公園、地域プラザ等が「その他」の項目

【母親の就労状況別】

母親の就労状況別でみると、働いているで「学童クラブ」の割合が高くなっています。また、働いていないで「自宅」「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」「児童館」「図書館」「公園」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	自宅	人宅 祖父母宅や友人・知人宅	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	児童館	学童クラブ	すみだファミリー・サポート・センター	図書館	公園	地域プラザ	その他	無回答
働いている	680	29.1	18.4	47.1	19.1	74.6	3.5	13.4	20.6	4.0	2.4	6.3
働いていない	404	66.8	23.8	67.1	32.7	32.2	4.0	23.8	54.7	6.2	3.5	10.6

※母親の就労状況無回答者数：４人

※“働いている”人は、問５で「フルタイム」「パート・アルバイト等」と回答した人

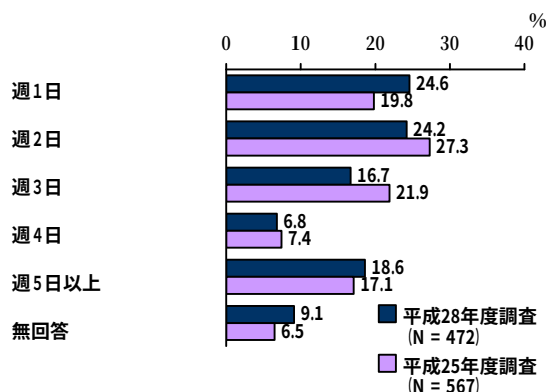
“働いていない”人は、問５で「以前は働いていたが、現在は働いていない」「これまで働いたことはない」と回答した人

（２）利用する日数

①自宅

「週１日」の割合が 24.6%と最も高く、次いで「週２日」の割合が 24.2%、「週５日以上」の割合が 18.6%となっています。

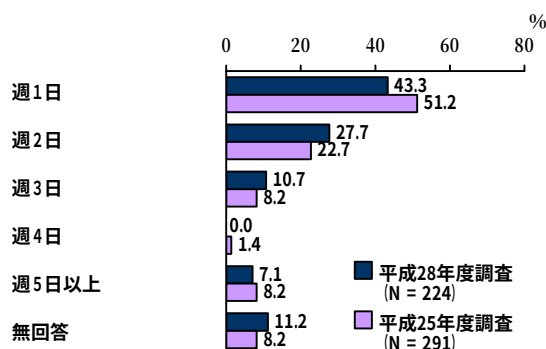
平成 25 年度調査と比較すると、「週３日」の割合が減少しています。



②祖父母宅や友人・知人宅

「週１日」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「週２日」の割合が 27.7%、「週３日」の割合が 10.7%となっています。

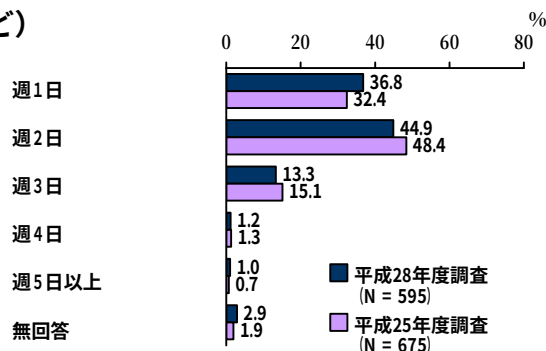
平成 25 年度調査と比較すると、「週２日」の割合が増加し、「週１日」の割合が減少しています。



③習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）

「週２日」の割合が 44.9%と最も高く、次いで「週１日」の割合が 36.8%、「週３日」の割合が 13.3%となっています。

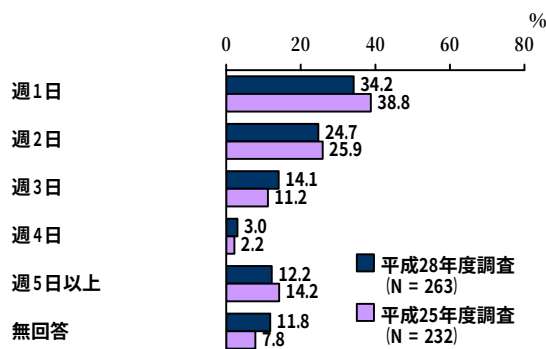
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



④児童館

「週１日」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「週２日」の割合が 24.7%、「週３日」の割合が 14.1%となっています。

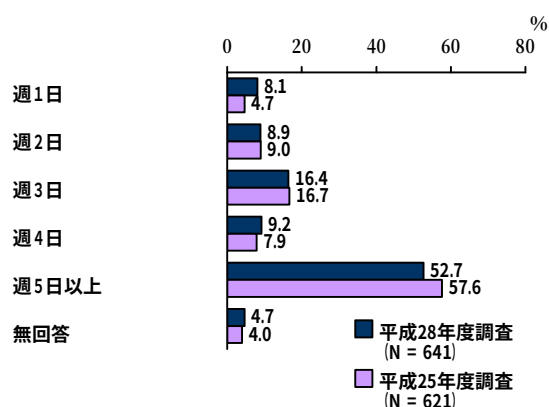
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑤学童クラブ

「週5日以上」の割合が52.7%と最も高く、次いで「週3日」の割合が16.4%となっています。

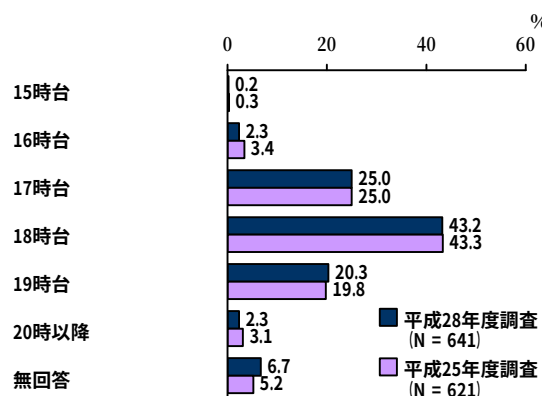
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



学童クラブの希望利用終了時間

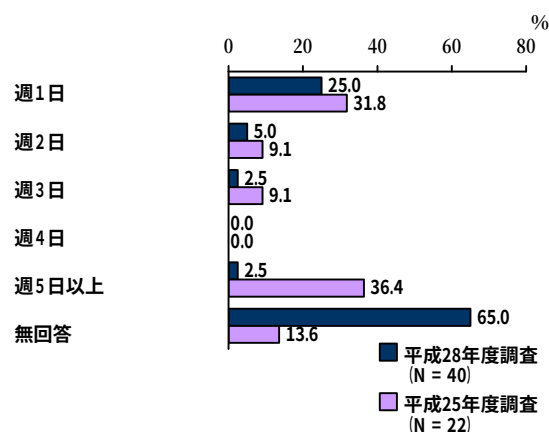
「18時台」の割合が43.2%と最も高く、次いで「17時台」の割合が25.0%、「19時台」の割合が20.3%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



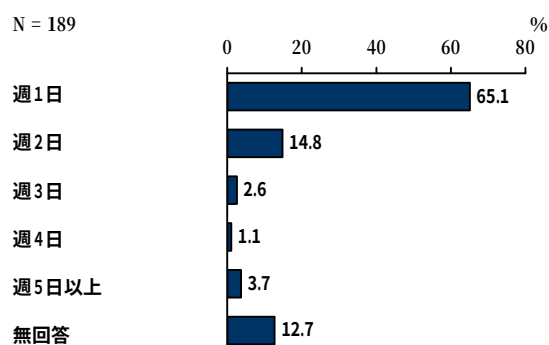
⑥すみだファミリー・サポート・センター

「週1日」の割合が25.0%と最も高くなっています。



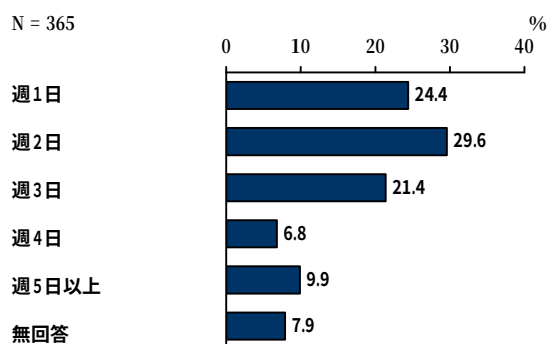
⑦図書館

「週1日」の割合が65.1%と最も高く、次いで「週2日」の割合が14.8%となっています。



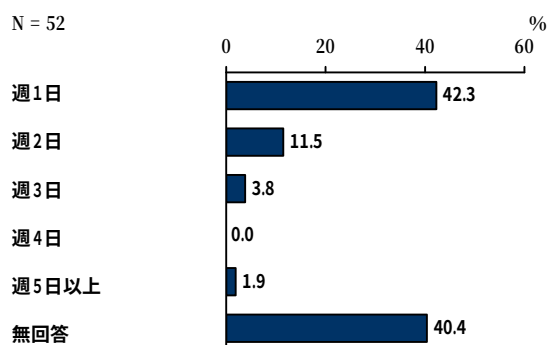
⑧公園

「週2日」の割合が29.6%と最も高く、次いで「週1日」の割合が24.4%、「週3日」の割合が21.4%となっています。



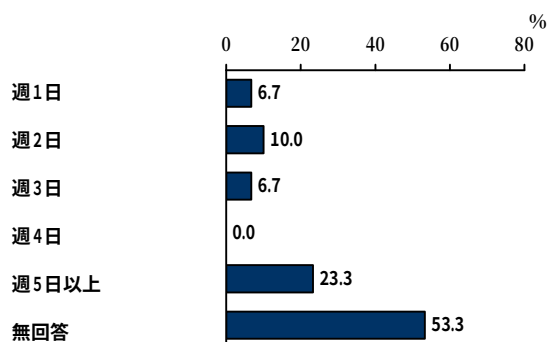
⑨地域プラザ

「週1日」の割合が42.3%と最も高く、次いで「週2日」の割合が11.5%となっています。



⑩その他

「週5日以上」の割合が23.3%と最も高く、次いで「週2日」の割合が10.0%となっています。

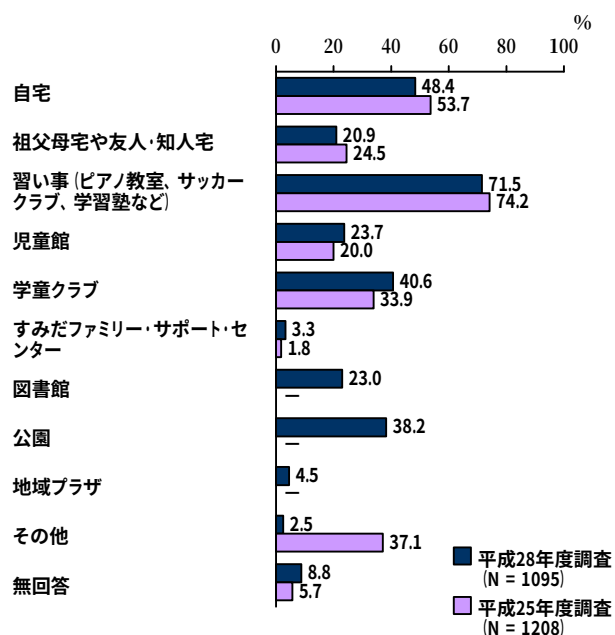


問 45 対象のお子さんが小学校高学年（4～6 年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所等で過ごさせたいと思いますか。(1)のあてはまるものすべてに○をつけ、それぞれ希望する利用日数を(2)に、「5 学童クラブ」は終了時刻を(3)にご記入ください。

(1) 居場所

「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が 71.5%と最も高く、次いで「自宅」の割合が 48.4%、「学童クラブ」の割合が 40.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「学童クラブ」の割合が増加し、「自宅」の割合が減少しています。

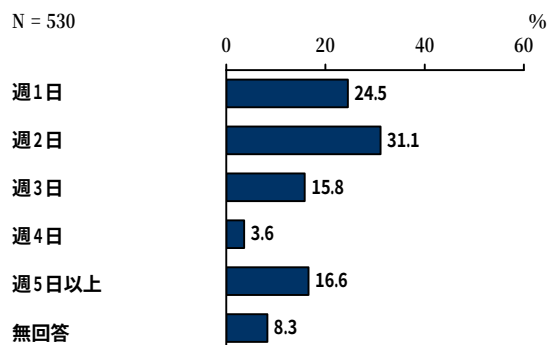


※平成 25 年度調査では、図書館、公園、地域プラザ等が「その他」の項目

(2) 利用する日数

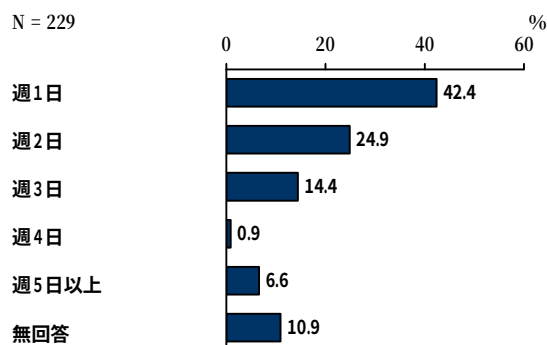
① 自宅

「週 2 日」の割合が 31.1%と最も高く、次いで「週 1 日」の割合が 24.5%、「週 5 日以上」の割合が 16.6%となっています。



② 祖父母宅や友人・知人宅

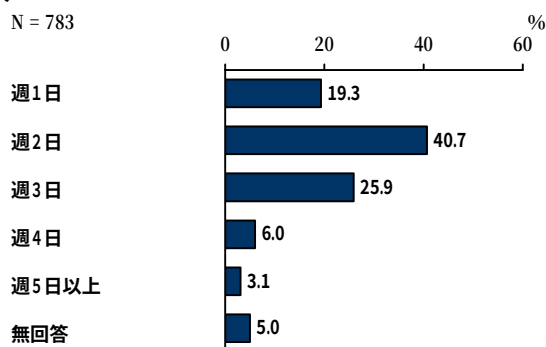
「週 1 日」の割合が 42.4%と最も高く、次いで「週 2 日」の割合が 24.9%、「週 3 日」の割合が 14.4%となっています。



③習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）

「週2日」の割合が40.7%と最も高く、次いで「週3日」の割合が25.9%、「週1日」の割合が19.3%となっています。

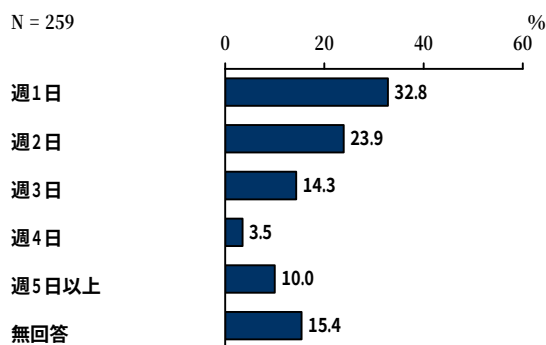
N = 783



④児童館

「週1日」の割合が32.8%と最も高く、次いで「週2日」の割合が23.9%、「週3日」の割合が14.3%となっています。

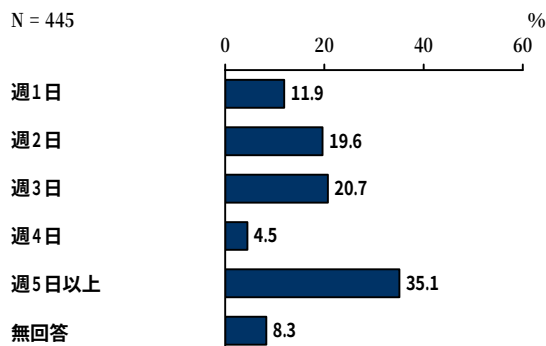
N = 259



⑤学童クラブ

「週5日以上」の割合が35.1%と最も高く、次いで「週3日」の割合が20.7%、「週2日」の割合が19.6%となっています。

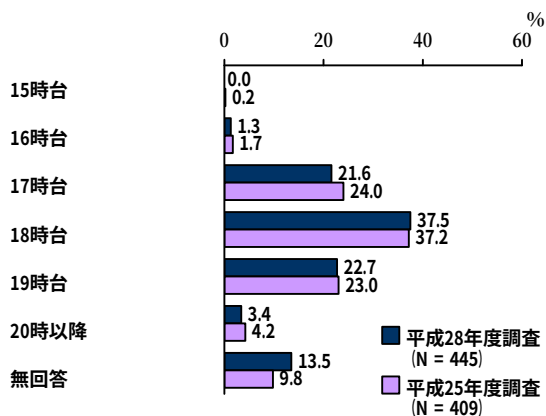
N = 445



学童クラブの希望終了時刻

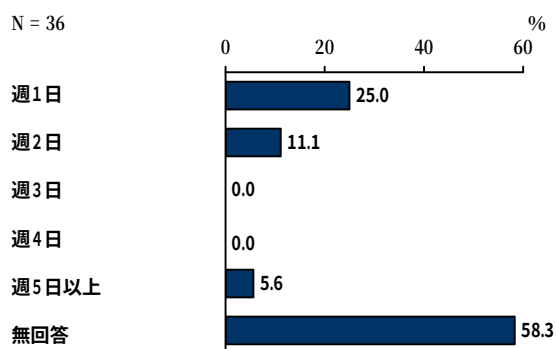
「18時台」の割合が37.5%と最も高く、次いで「19時台」の割合が22.7%、「17時台」の割合が21.6%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



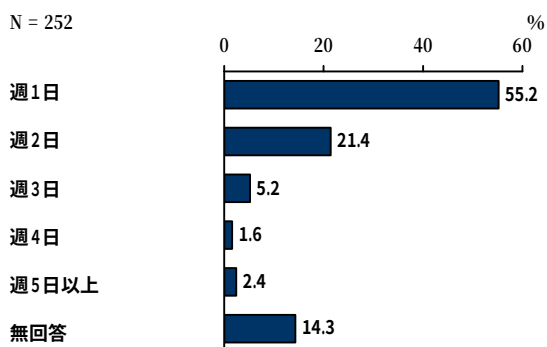
⑥すみだファミリー・サポート・センター

「週1日」の割合が25.0%と最も高く、次いで「週2日」の割合が11.1%となっています。



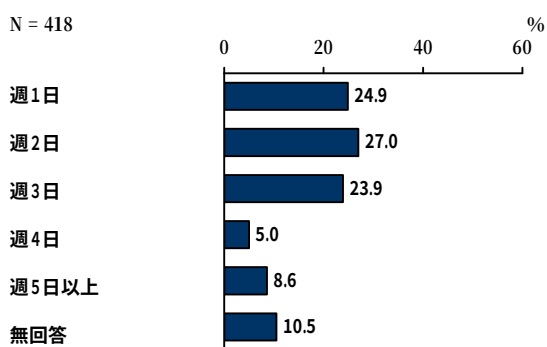
⑦図書館

「週1日」の割合が55.2%と最も高く、次いで「週2日」の割合が21.4%となっています。



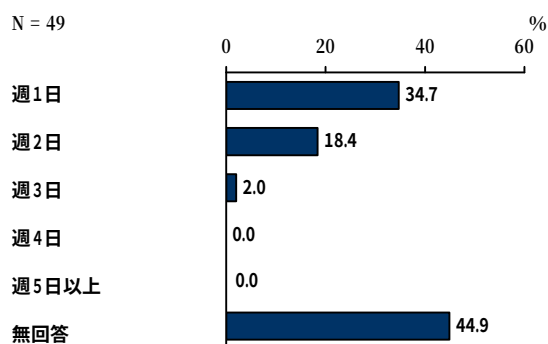
⑧公園

「週2日」の割合が27.0%と最も高く、次いで「週1日」の割合が24.9%、「週3日」の割合が23.9%となっています。



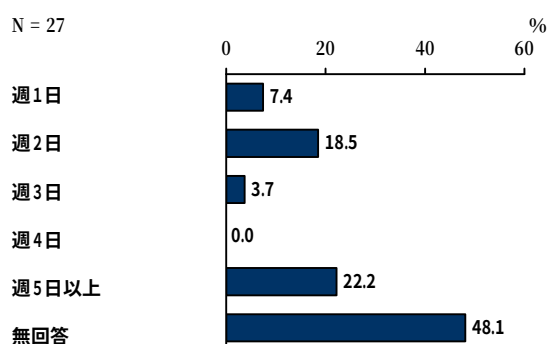
⑨地域プラザ

「週1日」の割合が34.7%と最も高く、次いで「週2日」の割合が18.4%となっています。



⑩その他

「週5日以上」の割合が22.2%と最も高く、次いで「週2日」の割合が18.5%となっています。



問44 または問45 で学童クラブに○をつけた方にうかがいます。

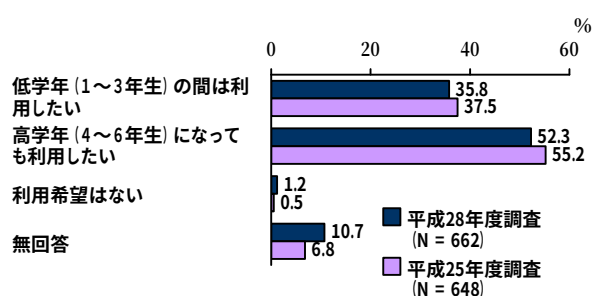
問46 通常の学童クラブの利用について、①～④それぞれに、利用希望をお答えください（1つに○）。利用希望がある場合は(2)に時間帯をご記入ください。利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

①平日

(1) 利用希望

「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の割合が52.3%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」の割合が35.8%となっています。

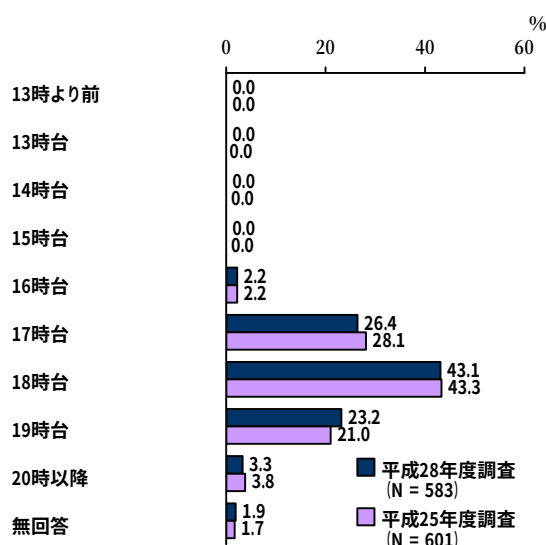
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



（２）希望利用終了時間

「18 時台」の割合が 43.1%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 26.4%、「19 時台」の割合が 23.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

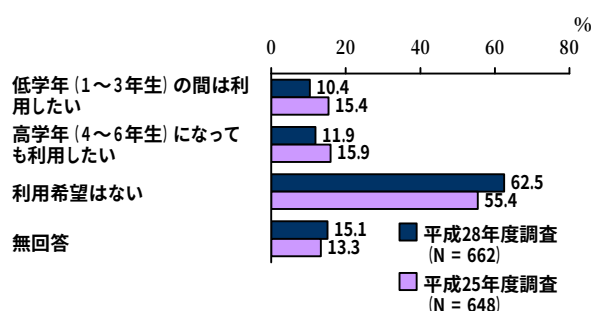


②土曜日

（１）利用希望

「利用希望はない」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「高学年（４～６年生）になっても利用したい」の割合が 11.9%、「低学年（１～３年生）の間は利用したい」の割合が 10.4%となっています。

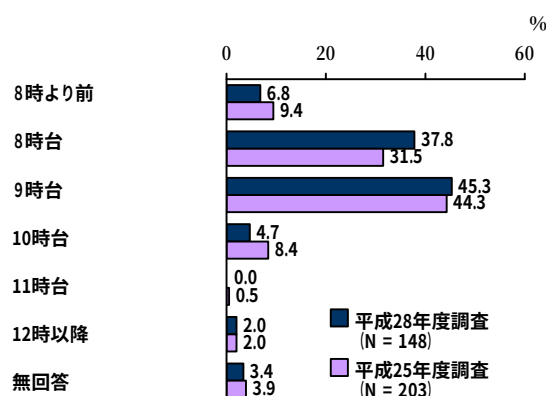
平成 25 年度調査と比較すると、「利用希望はない」の割合が増加し、「低学年（１～３年生）の間は利用したい」の割合が減少しています。



（２）希望利用開始時間

「9 時台」の割合が 45.3%と最も高く、次いで「8 時台」の割合が 37.8%となっています。

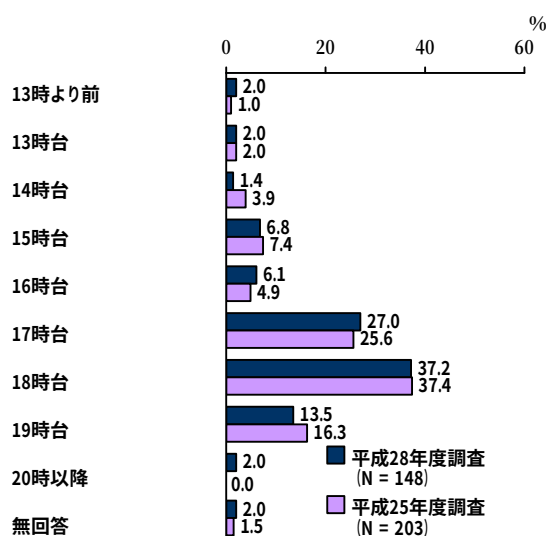
平成 25 年度調査と比較すると、「8 時台」の割合が増加しています。



(3) 希望利用終了時間

「18 時台」の割合が 37.2%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 27.0%、「19 時台」の割合が 13.5%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

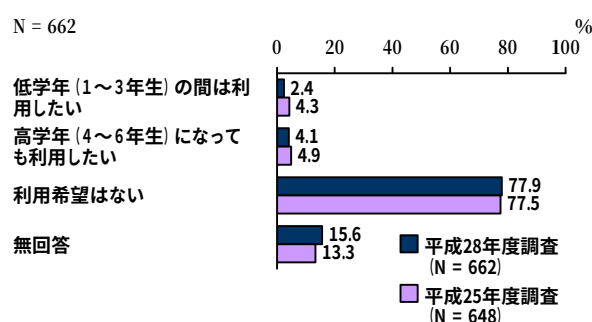


③日曜・祝日

(1) 利用希望

「利用希望はない」の割合が 77.9%と最も高くなっています。

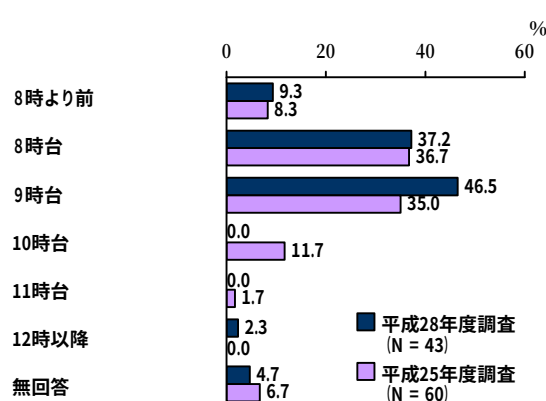
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2) 希望利用開始時間

「9 時台」の割合が 46.5%と最も高く、次いで「8 時台」の割合が 37.2%となっています。

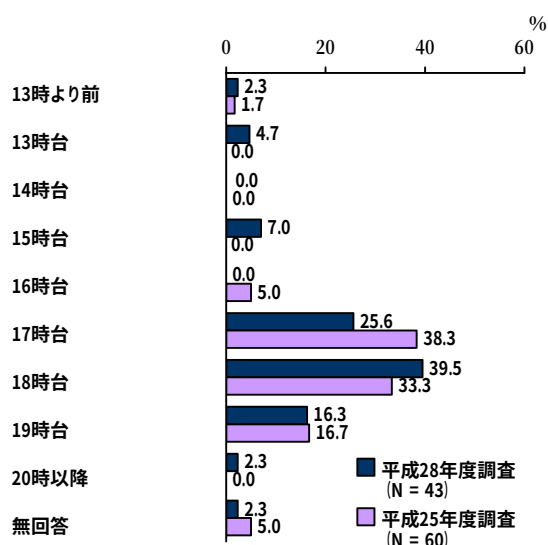
平成 25 年度調査と比較すると、「9 時台」の割合が増加し、「10 時台」の割合が減少しています。



（３）希望利用終了時間

「18 時台」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 25.6%、「19 時台」の割合が 16.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「15 時台」「18 時台」の割合が増加し、「16 時台」「17 時台」の割合が減少しています。

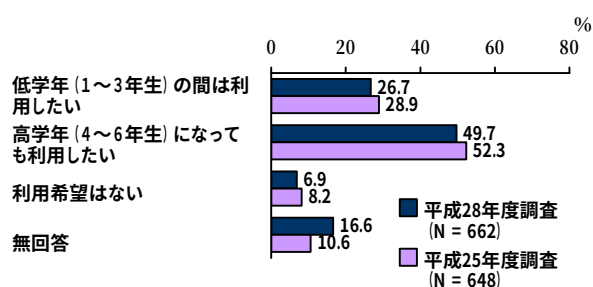


④夏休みなど長期休暇

（１）利用希望

「高学年（４～６年生）になっても利用したい」の割合が 49.7%と最も高く、次いで「低学年（１～３年生）の間は利用したい」の割合が 26.7%となっています。

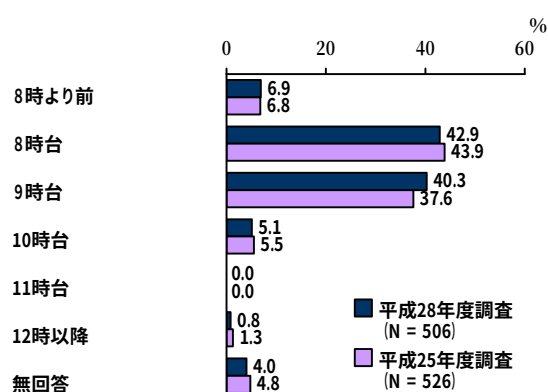
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



（２）希望利用開始時間

「8 時台」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「9 時台」の割合が 40.3%となっています。

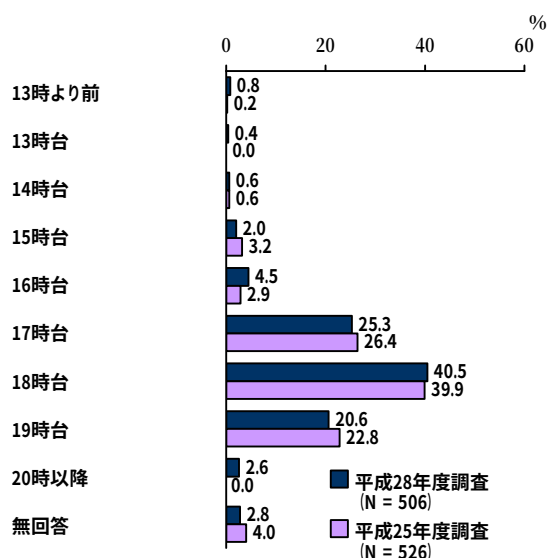
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(3) 希望利用終了時間

「18 時台」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 25.3%、「19 時台」の割合が 20.6%となっています。

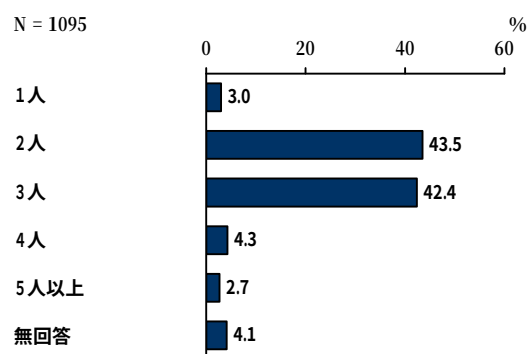
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 47 理想では子どもは何人ほしいですか。また、実際には何人の子どもを持つことができると考えていますか。

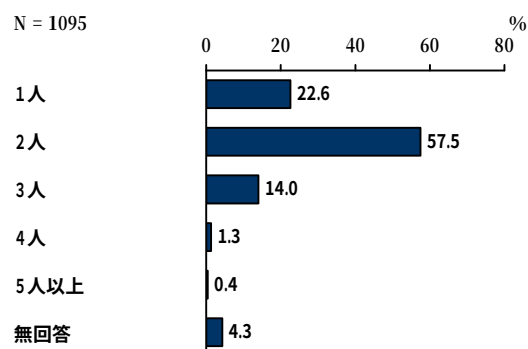
①理想の（ほしい）子どもの人数

「2 人」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「3 人」の割合が 42.4%となっています。



②実際に持つことができる子どもの人数

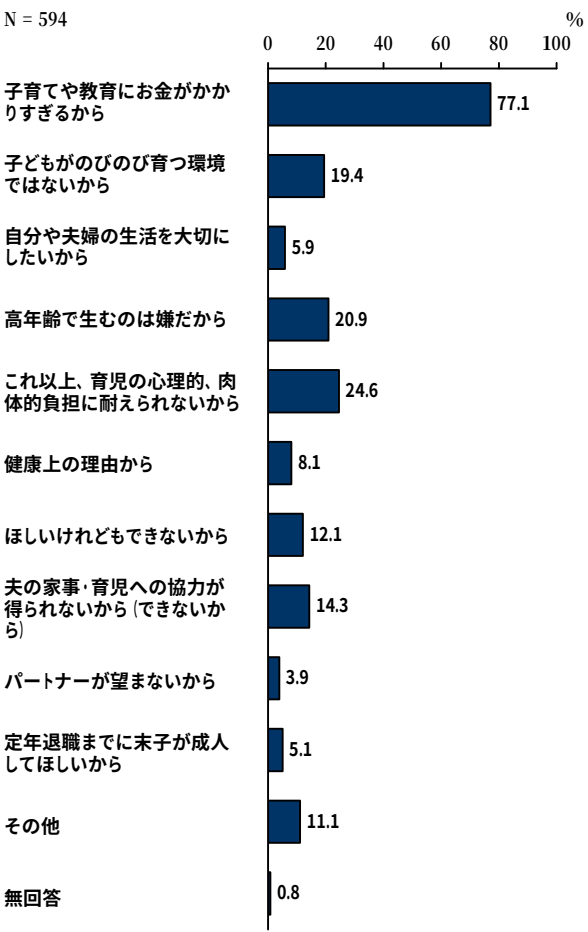
「2 人」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「1 人」の割合が 22.6%、「3 人」の割合が 14.0%となっています。



前問で、理想の子どもの人数と比べて、実際に持つことができると考える子どもの人数が少ない方にうかがいます。

問 48 実際に持つことができると考える子どもの人数が、理想の（ほしい）子どもの人数より少ないのはどうしてですか（あてはまるものすべてに○）。

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が 77.1%と最も高く、次いで「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」の割合が 24.6%、「高年齢で生むのは嫌だから」の割合が 20.9%となっています。



【母親の就労状況別】

母親の就労状況別でみると、働いていないで「健康上の理由から」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	高年齢で生むのは嫌だから	これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	健康上の理由から	ほしいけれどもできないから	夫の家事・育児への協力が得られないから（できないから）	パートナーが望まないから	定年退職までに末子が成人してほしいから	その他	無回答
全体	594	77.1	19.4	5.9	20.9	24.6	8.1	12.1	14.3	3.9	5.1	11.1	0.8
働いている	384	78.1	19.0	5.5	20.1	23.4	5.7	11.2	15.6	2.6	5.7	14.8	0.8
働いていない	206	75.2	20.4	6.8	22.8	27.2	12.1	13.6	12.1	6.3	3.9	4.4	1.0

※母親の就労状況無回答者数：4人

※“働いている”人は、問5で「フルタイム」「パート・アルバイト等」と回答した人
“働いていない”人は、問5で「以前は働いていたが、現在は働いていない」「これまで働いたことはない」と回答した人

【子育てをどのように感じるか別】

子育てをどのように感じるか別でみると、楽しいと感じることと心配することが同じくらいで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が高く、約8割となっています。また、心配することの方が多いで「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」の割合が高く、7割を超えています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	高齢で生むのは嫌だから	これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	健康上の理由から	ほしいけれどもできないから	夫の家事・育児への協力が得られないから（できないから）	パートナーが望まないから	定年退職までに末子が成人してほしいから	その他	無回答
全体	594	77.1	19.4	5.9	20.9	24.6	8.1	12.1	14.3	3.9	5.1	11.1	0.8
楽しいと感じることの方が多い	292	74.7	18.5	5.1	18.2	12.7	7.2	12.3	13.7	4.1	4.8	12.3	1.4
楽しいと感じることと心配することが同じくらい	269	79.9	19.3	5.2	23.0	33.5	8.2	11.5	13.0	3.0	5.6	9.3	—
心配することの方が多い	25	72.0	28.0	24.0	28.0	72.0	20.0	12.0	36.0	8.0	—	20.0	4.0
わからない	6	100.0	33.3	—	16.7	16.7	—	33.3	16.7	16.7	16.7	—	—

※子育ての感じ方無回答者数：2人

【子育てに自信が持てないと感じるか別】

子育てに自信がもてないと感じるか別でみると、いつも感じるで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が高く、8割を超えています。また、自信が持てないと感じている人ほど「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	高齢で生むのは嫌だから	これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	健康上の理由から	ほしいけれどもできないから	夫の家事・育児への協力が得られないから（できないから）	パートナーが望まないから	定年退職までに末子が成人してほしいから	その他	無回答
全体	594	77.1	19.4	5.9	20.9	24.6	8.1	12.1	14.3	3.9	5.1	11.1	0.8
いつも感じる	57	82.5	21.1	15.8	28.1	50.9	10.5	5.3	31.6	7.0	3.5	7.0	1.8
ときどき感じる	285	77.2	20.4	4.9	23.2	28.8	8.4	13.3	16.5	2.8	5.6	10.9	—
あまり感じない	188	78.7	14.9	5.3	19.7	16.5	7.4	10.6	9.0	4.3	5.9	9.0	1.6
まったく感じない	62	67.7	27.4	3.2	8.1	6.5	6.5	17.7	4.8	4.8	1.6	21.0	1.6

※子育ての自信無回答者数：2人

【子育てに不安や孤独を感じるか別】

子育てに不安や孤独を感じるか別でみると、あまり感じないで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が高く、約8割となっています。また、不安や孤独を感じている人ほど「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」「夫の家事・育児への協力が得られないから（できないから）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	高年齢で生むのは嫌だから	これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	健康上の理由から	ほしいけれどもできないから	夫の家事・育児への協力が得られないから（できないから）	パートナーが望まないから	定年退職までに末子が成人してほしいから	その他	無回答
全体	594	77.1	19.4	5.9	20.9	24.6	8.1	12.1	14.3	3.9	5.1	11.1	0.8
いつも感じる	40	75.0	25.0	22.5	17.5	57.5	7.5	10.0	40.0	5.0	—	12.5	2.5
ときどき感じる	220	79.1	20.9	4.5	25.5	34.1	10.5	11.8	15.0	3.6	5.5	9.1	—
あまり感じない	215	80.5	16.7	6.5	19.5	18.1	6.0	11.6	11.6	4.2	6.0	9.3	0.9
まったく感じない	113	68.1	19.5	1.8	15.9	7.1	6.2	15.0	8.0	3.5	3.5	17.7	1.8

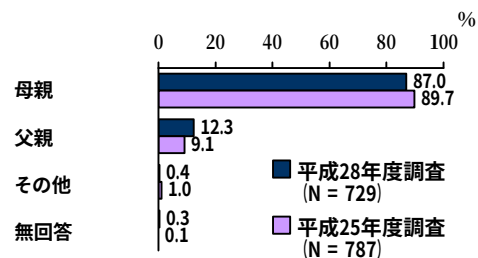
※子育ての不安や孤独無回答者数：6人

2 小学生の保護者

問1 回答される方は、対象のお子さんからみてどなたですか（1つに○）。

「母親」の割合が 87.0%、「父親」の割合が 12.3%となっています。

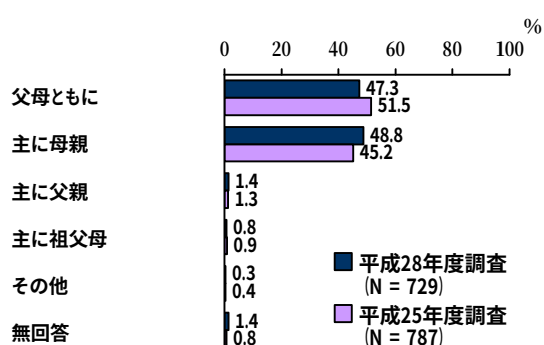
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問2 対象のお子さんの子育て（教育を含む）を主にしているのは、お子さんからみてどなたですか（1つに○）。

「主に母親」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「父母ともに」の割合が 47.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

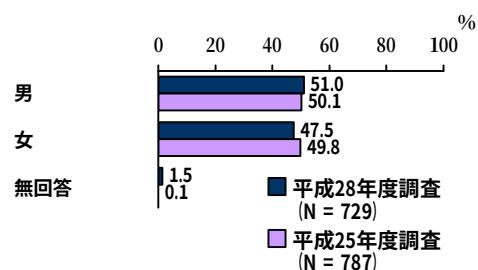


問3 対象のお子さんについて性別、学年をお答えください（1つに○）。

(1) 性別

「男」の割合が 51.0%、「女」の割合が 47.5%となっています。

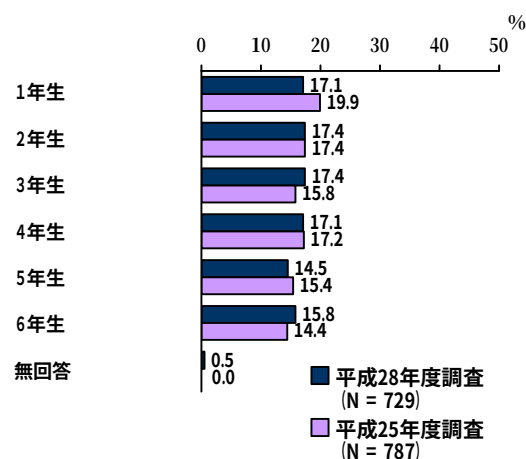
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2) 学年

「2年生」、「3年生」の割合が 17.4%と最も高く、次いで、「1年生」、「4年生」の割合が 17.1%となっています。

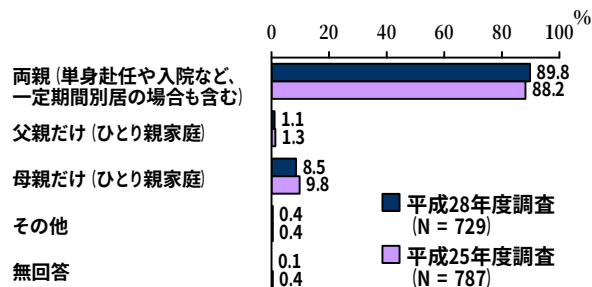
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問4 対象のお子さんの主な保護者はどなたですか（1つに○）。

「両親（単身赴任や入院など、一定期間別居の場合も含む）」の割合が 89.8%と最も高くなっています。

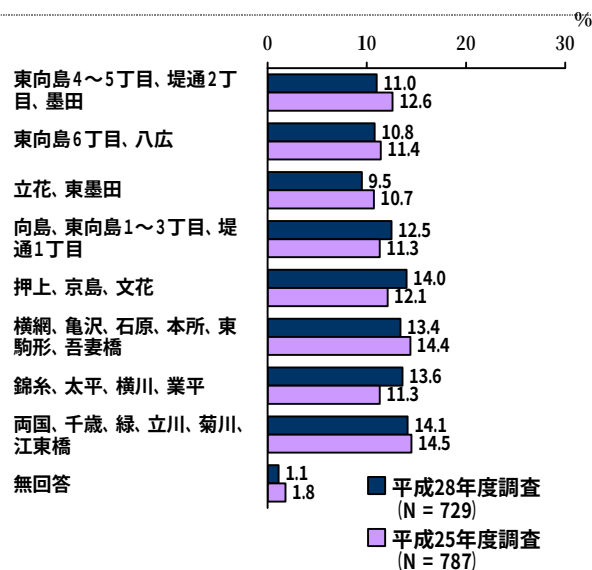
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問5 お住まいの住所をご記入ください。

「両国、千歳、緑、立川、菊川、江東橋」の割合が 14.1%と最も高く、次いで「京島、文花、押上」の割合が 14.0%、「業平、横川、太平、錦糸」の割合が 13.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

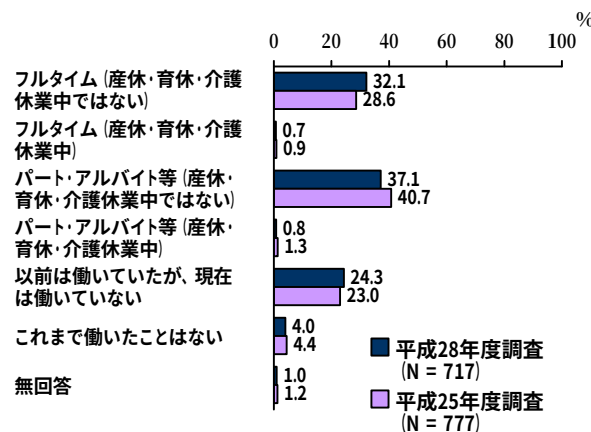


問6 保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお答えください。

(1) 母親（いずれか1つに○）

「パート・アルバイト等（産休・育休・介護休業中ではない）」の割合が 37.1%と最も高く、次いで「フルタイム（産休・育休・介護休業中ではない）」の割合が 32.1%、「以前は働いていたが、現在は働いていない」の割合が 24.3%となっています。

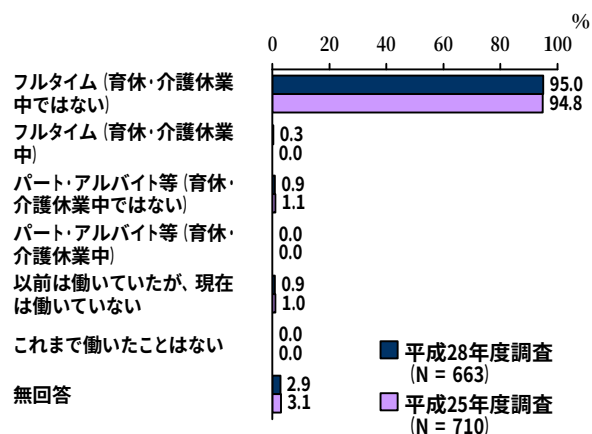
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2) 父親（いずれか1つに○）

「フルタイム（育休・介護休業中ではない）」の割合が 95.0%と最も高くなっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



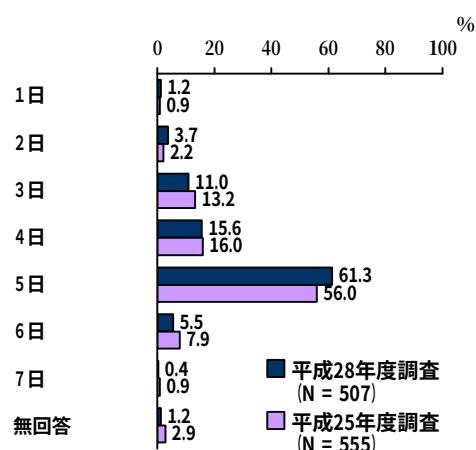
問7 日数や就労時間をお答えください。

(1) 母親

① 就労日数

「5日」の割合が61.3%と最も高く、次いで「4日」の割合が15.6%、「3日」の割合が11.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「5日」の割合が増加しています。

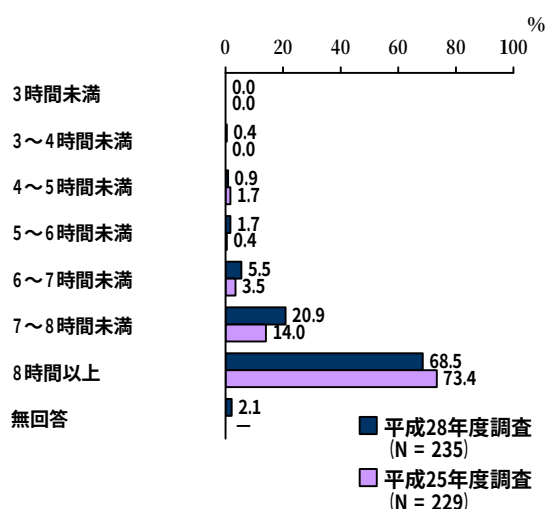


② 平均就労時間

フルタイム

「8時間以上」の割合が68.5%と最も高く、次いで「7～8時間未満」の割合が20.9%、「6～7時間未満」の割合が5.5%となっています。

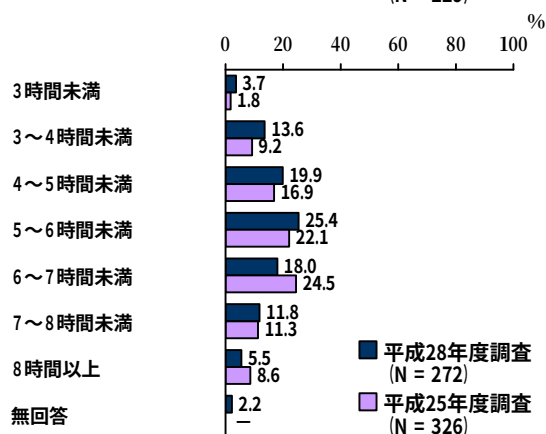
平成25年度調査と比較すると、「7～8時間未満」の割合が増加しています。



パート・アルバイト

「5～6時間未満」の割合が25.4%と最も高く、次いで「4～5時間未満」の割合が19.9%、「6～7時間未満」の割合が18.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「6～7時間未満」の割合が減少しています。

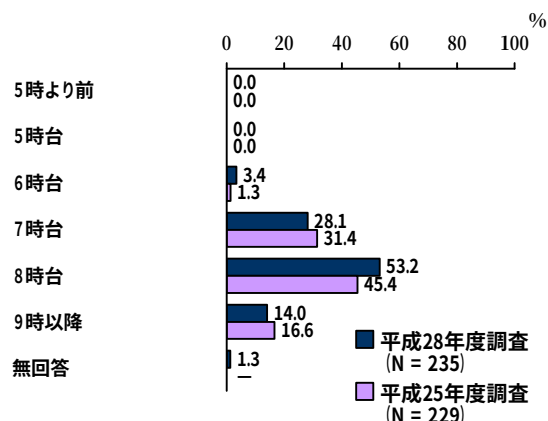


③ 家を出る時刻

フルタイム

「8時台」の割合が53.2%と最も高く、次いで「7時台」の割合が28.1%、「9時以降」の割合が14.0%となっています。

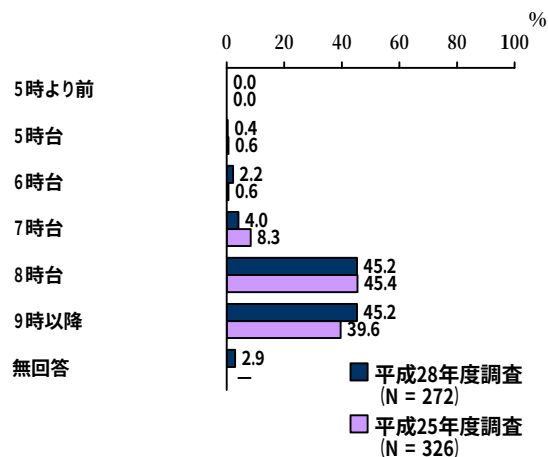
平成25年度調査と比較すると、「8時台」の割合が増加しています。



パート・アルバイト

「8時台」「9時以降」の割合が45.2%と最も高くなっています。

平成25年度調査と比較すると、「9時以降」の割合が増加しています。

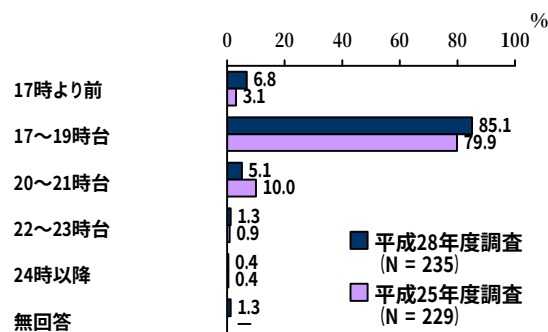


④ 帰宅時刻

フルタイム

「17～19時台」の割合が85.1%と最も高くなっています。

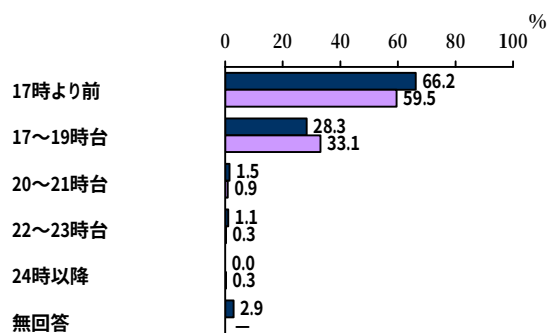
平成25年度調査と比較すると、「17～19時台」の割合が増加しています。



パート・アルバイト

「17時より前」の割合が66.2%と最も高く、次いで「17～19時台」の割合が28.3%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「17時より前」の割合が増加しています。

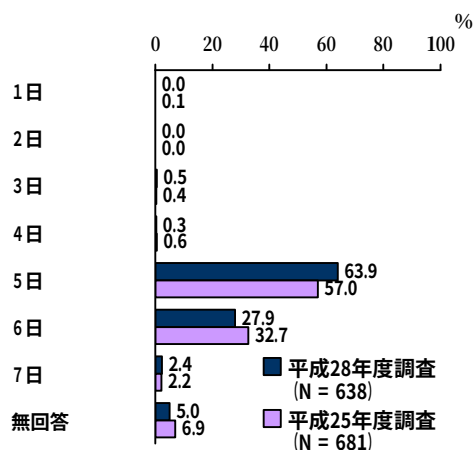


(2)父親

① 就労日数

「5日」の割合が63.9%と最も高く、次いで「6日」の割合が27.9%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「5日」の割合が増加しています。



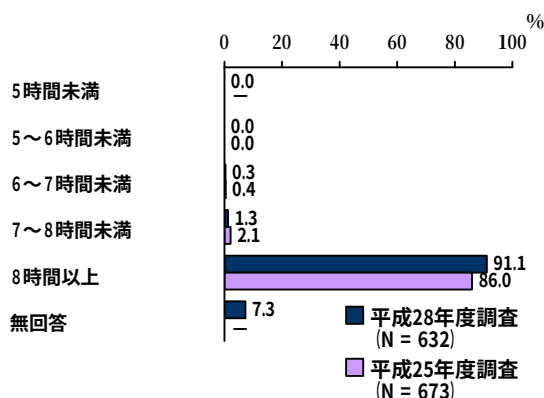
② 平均就労時間

フルタイム

「8時間以上」の割合が90.8%と最も高くなっています。

パート・アルバイト (N = 6)

「8時間以上」が3件となっています。



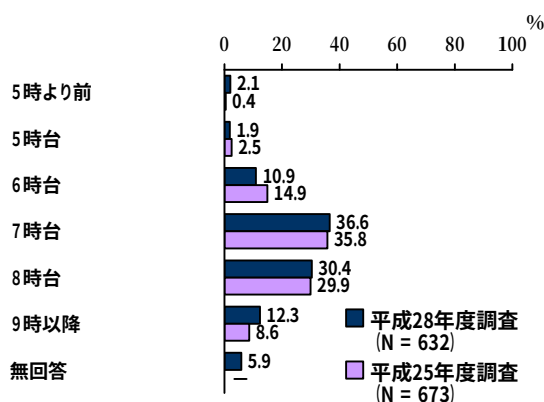
③ 家を出る時刻

フルタイム

「7時台」の割合が36.6%と最も高く、次いで「8時台」の割合が30.4%、「9時以降」の割合が12.3%となっています。

パート・アルバイト (N = 6)

「9時以降」が3件となっています。

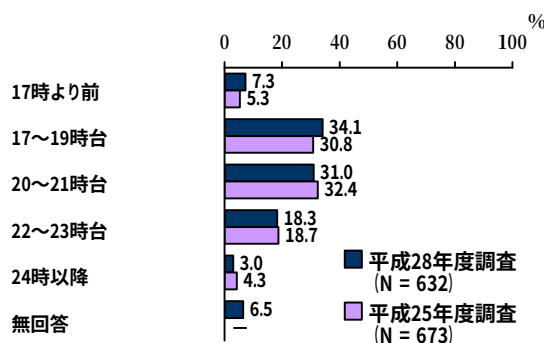


④ 帰宅時刻

「17～19 時台」の割合が34.1%と最も高く、次いで「20～21 時台」の割合が31.0%、「22～23 時台」の割合が18.3%となっています。

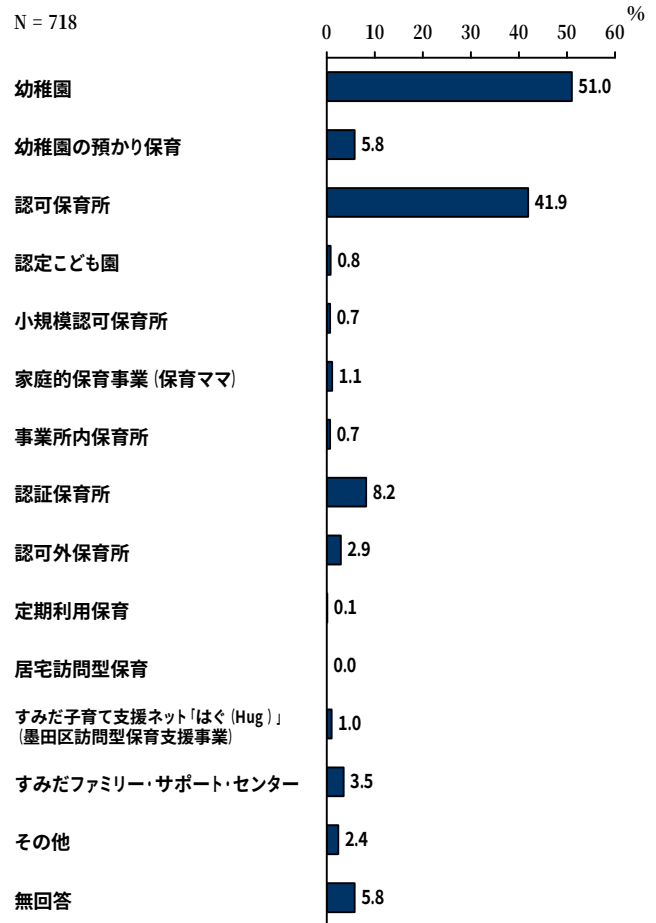
パート・アルバイト (N = 6)

「17 時より前」が4件となっています。



問8 対象のお子さんは、幼稚園や保育園などの「定期的な教育・保育事業」を利用していましたか（あてはまるものすべてに○）。

「幼稚園」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「認可保育所」の割合が 41.9%、「認証保育所」の割合が 8.2%となっています。

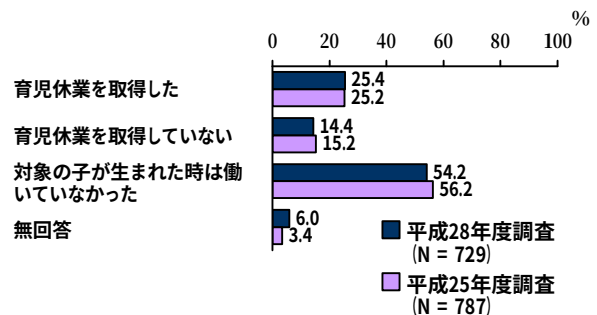


問9 対象のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。

(1) 母親 (いずれか1つに○)

「対象の子が生まれた時は働いていなかった」の割合が 54.2%と最も高く、次いで「育児休業を取得した」の割合が 25.4%、「育児休業を取得していない」の割合が 14.4%となっています。

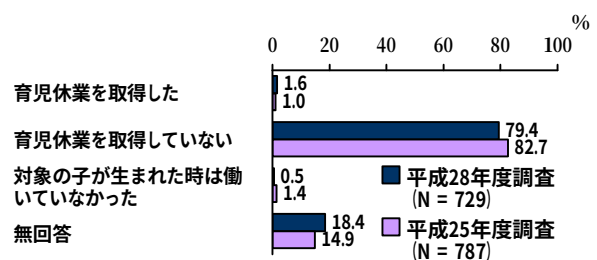
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2) 父親 (いずれか1つに○)

「育児休業を取得していない」の割合が 79.4%と最も高くなっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

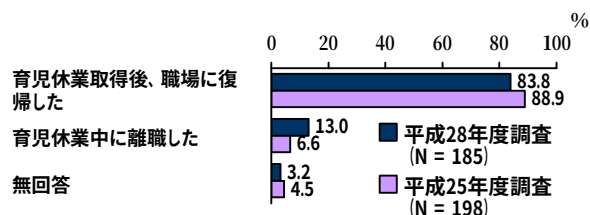


問 10 休業取得後の職場についてお答えください。

(1) 母親 (いずれか1つに○)

「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が 83.8%、「育児休業中に離職した」の割合が 13.0%となっています。

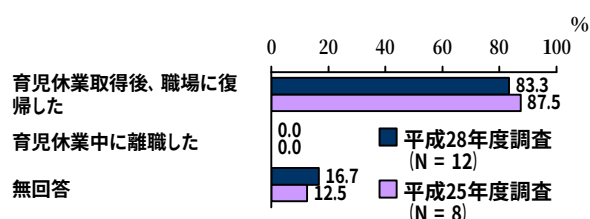
平成 25 年度調査と比較すると、「育児休業中に離職した」の割合が増加し、「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が減少しています。



(2) 父親 (いずれか1つに○)

「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が 83.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

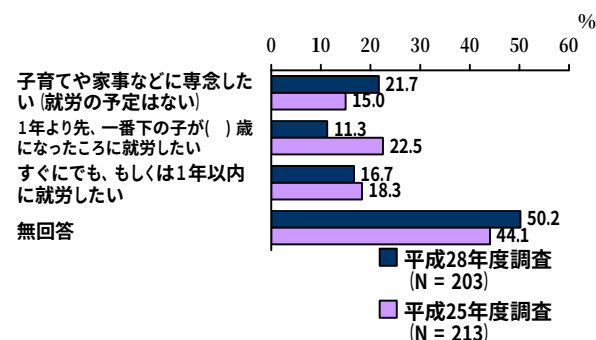


問 11 就労したいという希望はありますか。

(1) 母親 (いずれか1つに○)

「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」の割合が 21.7%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が 16.7%、「1年より先、一番下の子が()歳になったころに就労したい」の割合が 11.3%となっています。

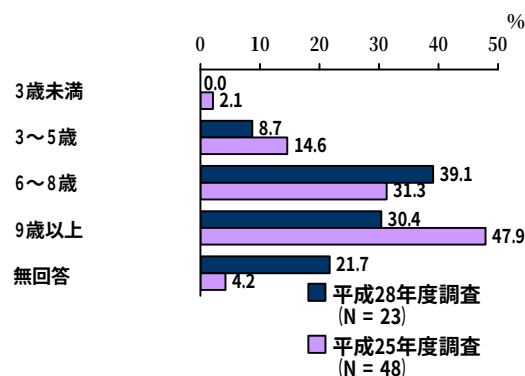
平成 25 年度調査と比較すると、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」の割合が増加し、「1年より先、一番下の子が()歳になったころに就労したい」の割合が減少しています。



① 就労希望時の子どもの年齢

「6～8歳」の割合が 39.1%と最も高く、次いで「9歳以上」の割合が 30.4%となっています。

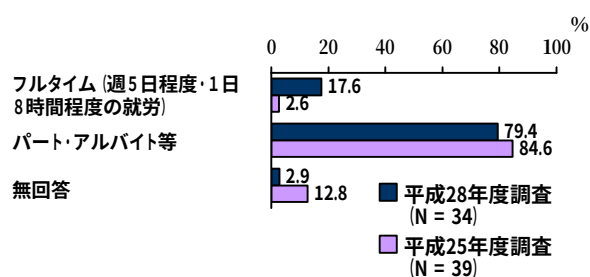
平成 25 年度調査と比較すると、「6～8歳」の割合が増加し、「3～5歳」「9歳以上」の割合が減少しています。



② 希望の就労形態

「パート・アルバイト等」の割合が79.4%、「フルタイム（週5日程度・1日8時間程度の就労）」の割合が17.6%となっています。

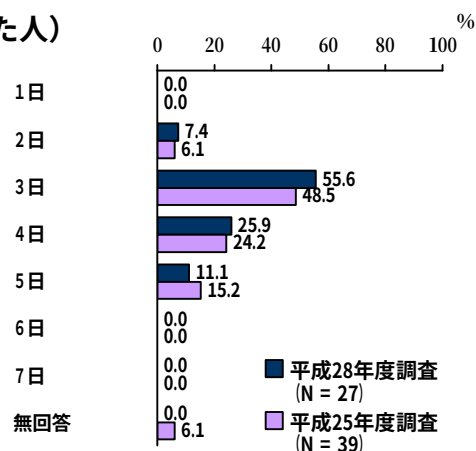
平成25年度調査と比較すると、「フルタイム（週5日程度・1日8時間程度の就労）」の割合が増加し、「パート・アルバイト等」の割合が減少しています。



③ 希望の就労日数（「パート・アルバイト等」と回答した人）

「3日」の割合が55.6%と最も高く、次いで「4日」の割合が25.9%、「5日」の割合が11.1%となっています。

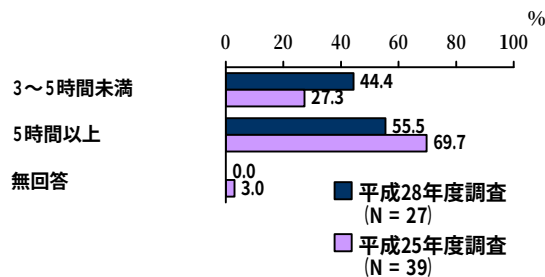
平成25年度調査と比較すると、「3日」の割合が増加しています。



④ 希望の就労時間（「パート・アルバイト等」と回答した人）

「5時間以上」の割合が55.5%と最も高く、次いで「3～5時間未満」の割合が44.4%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「3～5時間未満」の割合が増加し、「5時間以上」の割合が減少しています。



(2)父親 (いずれか1つに○)

「1年より先、一番下の子が()歳になったところに就労したい」が2件、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が1件となっています。

① 就労希望時の子どもの年齢

「6～8歳」が2件となっています。

② 希望の就労形態

「フルタイム（週5日程度・1日8時間程度の就労）」が1件となっています。

③ 希望の就労日数

有効回答はありません。

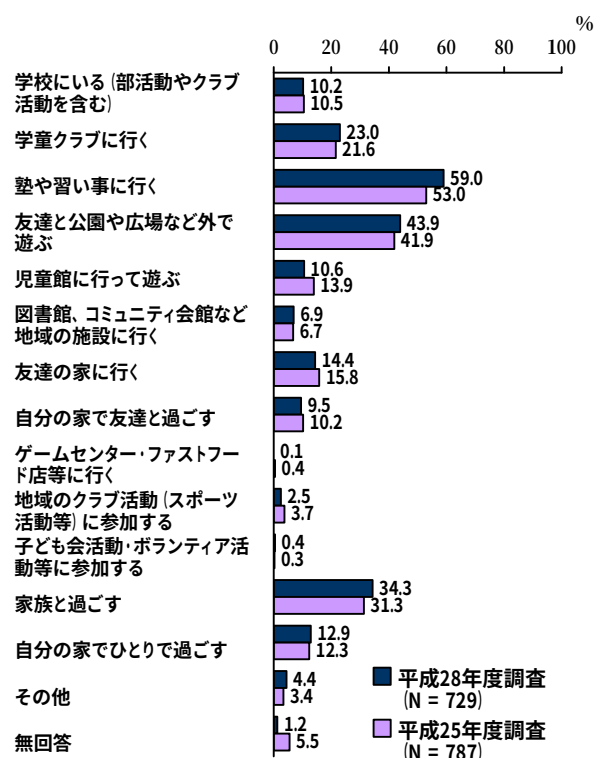
④ 希望の就労時間

有効回答はありません。

問 12 対象のお子さんは、月曜日から金曜日の放課後、どのように過ごすことが多いですか（最も多い過ごし方3つまでに○）。

「塾や習い事に行く」の割合が59.0%と最も高く、次いで「友達と公園や広場など外で遊ぶ」の割合が43.9%、「家族と過ごす」の割合が34.3%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「塾や習い事に行く」の割合が増加しています。

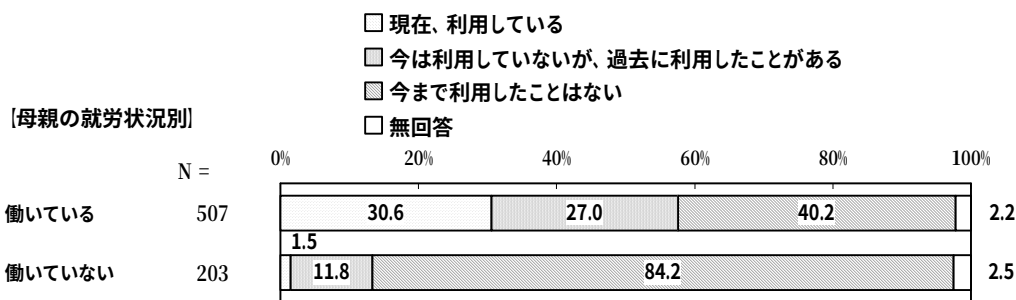
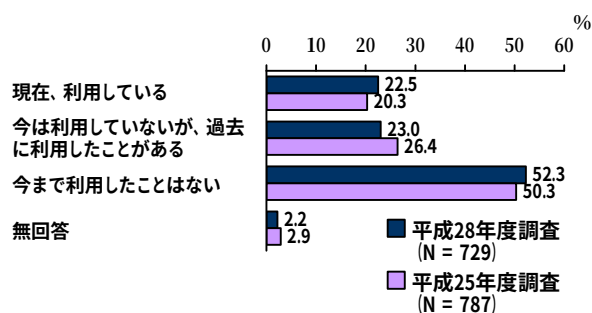


問 13 対象のお子さんは学童クラブを利用したことがありますか（1つに○）。

「今まで利用したことはない」の割合が52.3%と最も高く、次いで「今は利用していないが、過去に利用したことがある」の割合が23.0%、「現在、利用している」の割合が22.5%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

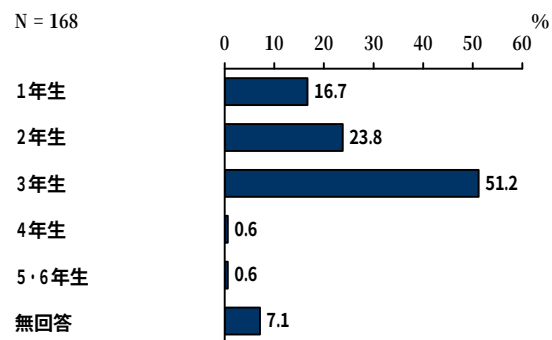
母親の就労状況別でみると、働いているで「現在、利用している」「今は利用していないが、過去に利用したことがある」の割合が、働いていないで「今まで利用したことはない」の割合が高くなっています。



※ “働いている”人は、問6で「フルタイム」「パート・アルバイト等」と回答した人
“働いていない”人は、問6で「以前は働いていたが、現在は働いていない」「これまで働いたことはない」と回答した人

【何年生まで利用していたか】

「3年生」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「2年生」の割合が 23.8%、「1年生」の割合が 16.7%となっています。



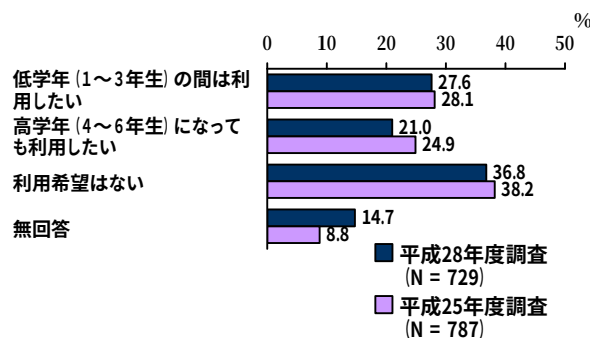
問 14 通常の学童クラブの①～④の利用について、(1)に利用希望をお答えください(①～④それぞれ1つに○)。利用希望がある場合は(2)に時間帯をご記入ください。利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

①平日

(1)利用希望

「利用希望はない」の割合が36.8%と最も高く、次いで「低学年(1～3年生)の間は利用したい」の割合が27.6%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」の割合が21.0%となっています。

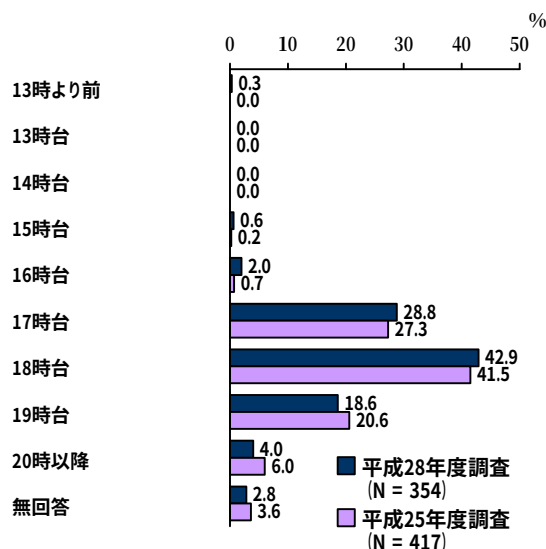
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2)希望利用終了時間

「18時台」の割合が42.9%と最も高く、次いで「17時台」の割合が28.8%、「19時台」の割合が18.6%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

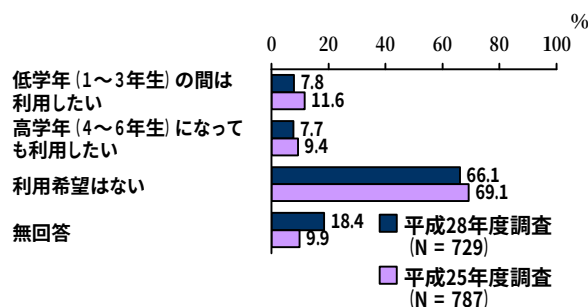


②土曜日

(1)利用希望(1つに○)

「利用希望はない」の割合が66.1%と最も高くなっています。

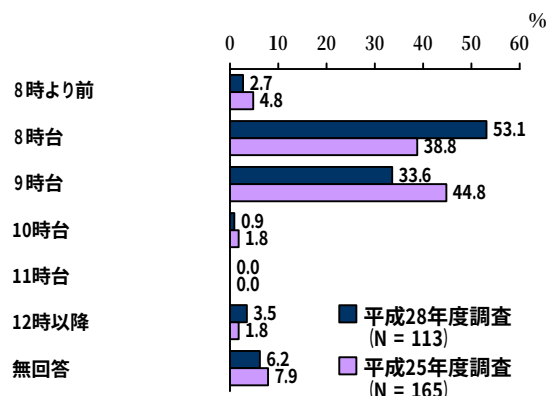
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2)希望利用開始時間

「8時台」の割合が53.1%と最も高く、次いで「9時台」の割合が33.6%となっています。

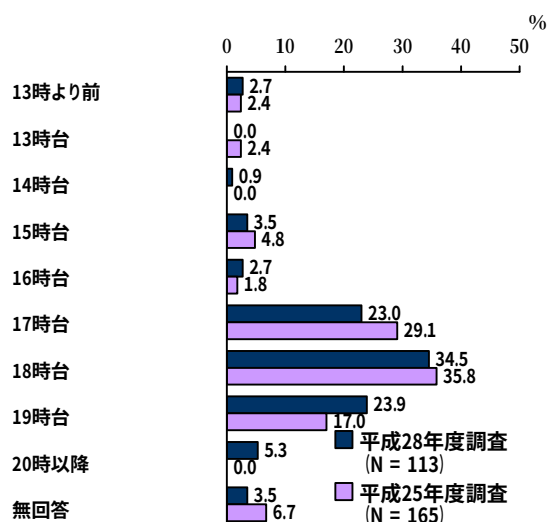
平成25年度調査と比較すると、「8時台」の割合が増加し、「9時台」の割合が減少しています。



(3) 希望利用終了時間

「18 時台」の割合が 34.5%と最も高く、次いで「19 時台」の割合が 23.9%、「17 時台」の割合が 23.0%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「19 時台」「20 時以降」の割合が増加し、「17 時台」の割合が減少しています。

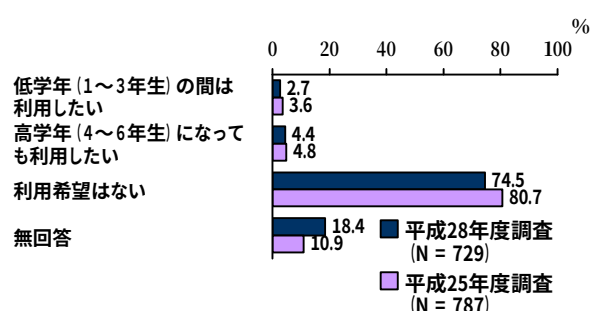


③日曜・祝日

(1) 利用希望

「利用希望はない」の割合が 74.5%と最も高くなっています。

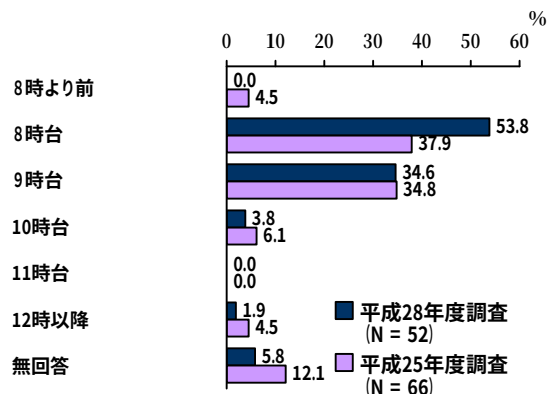
平成 25 年度調査と比較すると、「利用希望はない」の割合が減少しています。



(2) 希望利用開始時間

「8 時台」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「9 時台」の割合が 34.6%となっています。

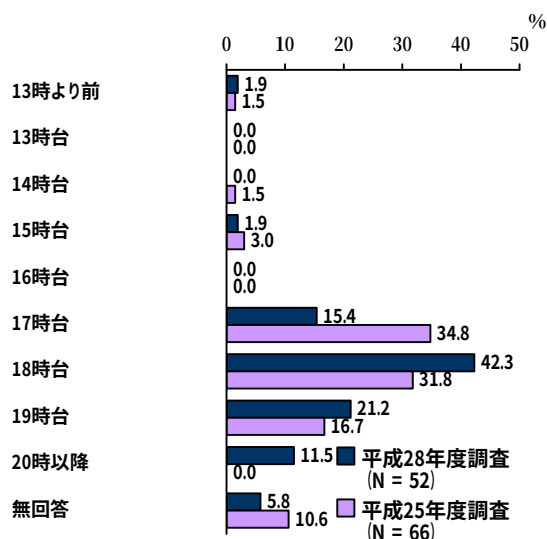
平成 25 年度調査と比較すると、「8 時台」の割合が増加しています。



(3) 希望利用終了時間

「18 時台」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「19 時台」の割合が 21.2%、「17 時台」の割合が 15.4%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「18 時台」「20 時以降」の割合が増加し、「17 時台」の割合が減少しています。

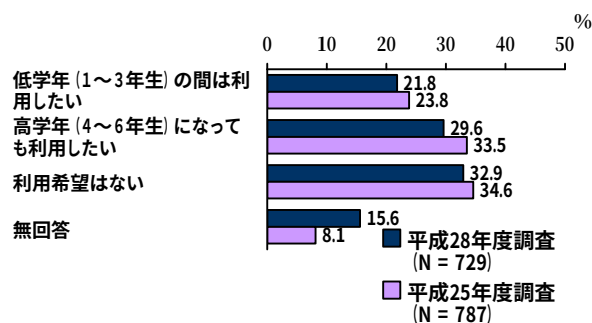


④夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中

(1)利用希望

「利用希望はない」の割合が 32.9%と最も高く、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の割合が 29.6%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」の割合が 21.8%となっています。

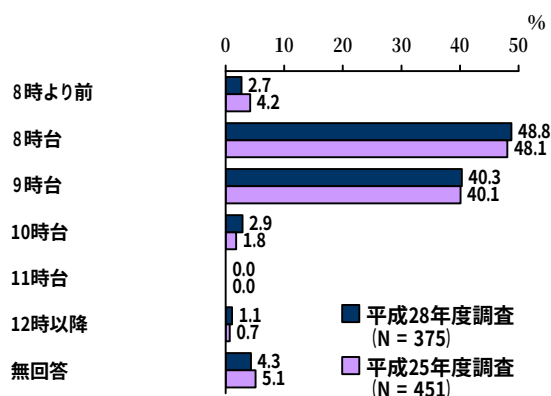
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(2)希望利用開始時間

「8時台」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「9時台」の割合が 40.3%となっています。

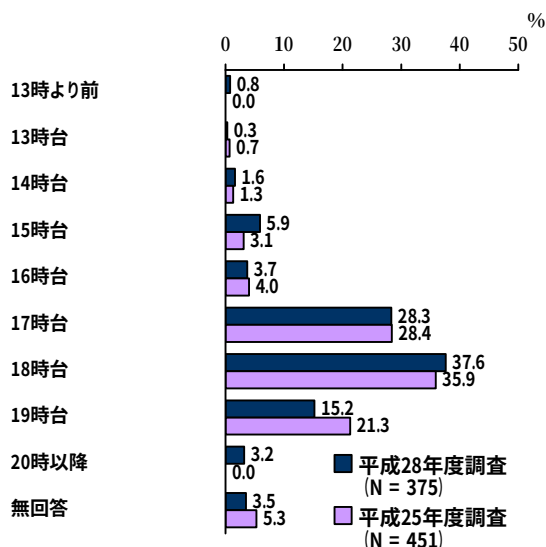
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



(3)希望利用終了時間

「18時台」の割合が 37.6%と最も高く、次いで「17時台」の割合が 28.3%、「19時台」の割合が 15.2%となっています。

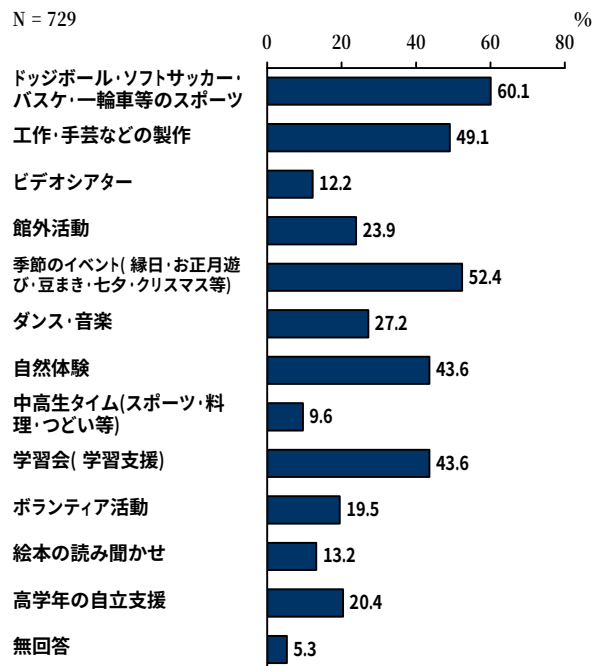
平成 25 年度調査と比較すると、「19時台」の割合が減少しています。



問 15 墨田区では、在宅で子育て中の保護者及びお子さんへのサービスを一層充実していきたいと考えています。そのひとつである児童館についてお尋ねします。
児童館でお子さんに利用してほしい事業は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「ドッジボール・ソフトサッカー・バスケット・一輪車等のスポーツ」の割合が 60.1%と最も高く、次いで「季節のイベント(縁日・お正月遊び・豆まき・七夕・クリスマス等)」の割合が 52.4%、「工作・手芸などの製作」の割合が 49.1%となっています。

N = 729



問 16 お子さんが小学校に入学した時に心配なことは何でしたか。

(①～⑫のそれぞれについて、1～4 の1つに○)。

① 通学の安全、② 新しい生活にスムーズに移行できるか、⑩ 子どもが留守番できるか、留守中の安全・防犯で「とても心配」と「まあ心配」をあわせた“心配”の割合が高く、7割を超えています。また、⑨ どのような習いごとをさせたらよいか、⑫ すみだファミリー・サポート・センターなど放課後、子どもを世話してくれる人がみつかるかで「あまり心配ではない」と「ぜんぜん心配ではない」をあわせた“心配ではない”の割合が高く、約7割となっています。

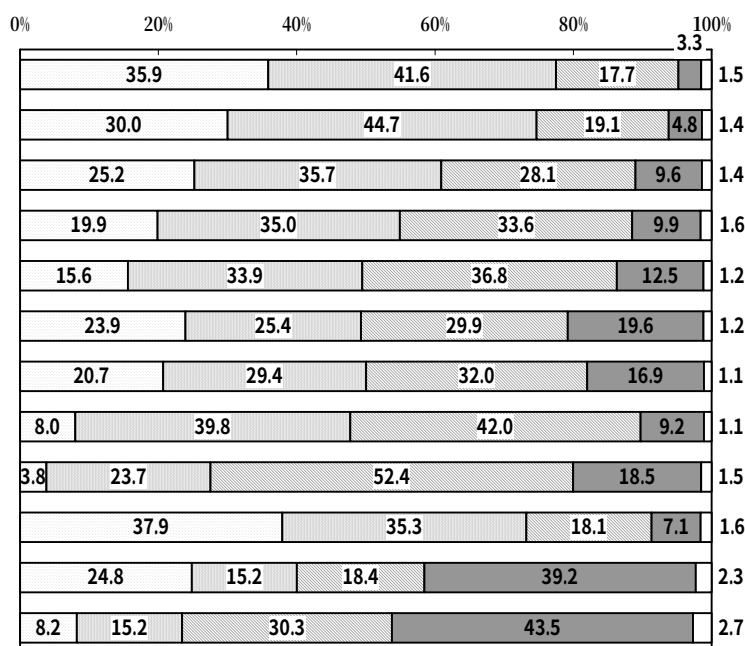
平成 25 年度調査と比較すると、④ 授業についていけるかどうか、⑧ 家庭内でどのような学習をさせたらよいかで“心配”の割合が増加しています。

□ とても心配 □ まあ心配 □ あまり心配ではない
■ ぜんぜん心配ではない □ 無回答

[平成28年度調査]

N = 729

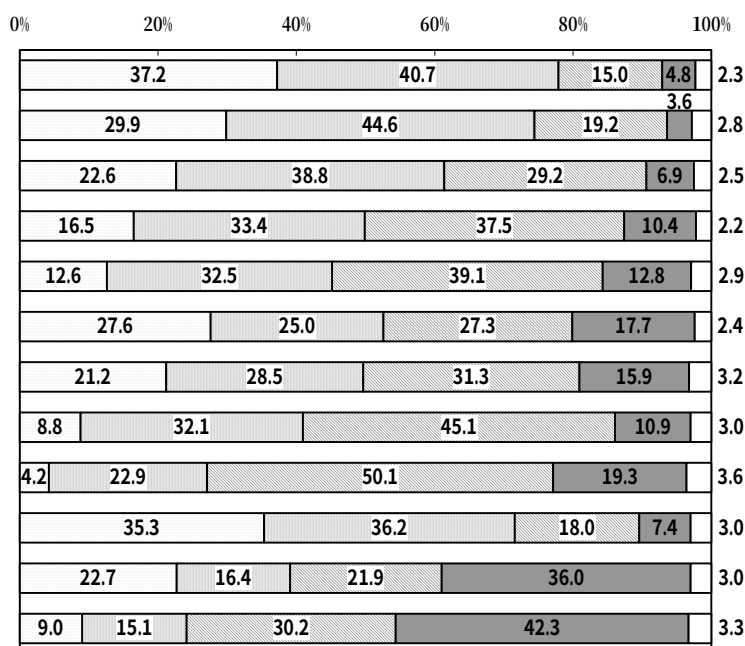
- ① 通学の安全
- ② 新しい生活にスムーズに移行できるか
- ③ 小学校で友だちができるか
- ④ 授業についていけるかどうか
- ⑤ 小学校で身の回りのことが自分でできるか
- ⑥ 子どもの夏休みなど長期休み中の居場所
- ⑦ 子どもの放課後の居場所
- ⑧ 家庭内でどのような学習をさせたらよいか
- ⑨ どのような習いごとをさせたらよいか
- ⑩ 子どもが留守番できるか、留守中の安全・防犯
- ⑪ 学童クラブに入所できるか
- ⑫ すみだファミリー・サポート・センターなど放課後、子どもを世話してくれる人がみつかるか



[平成25年度調査]

N = 787

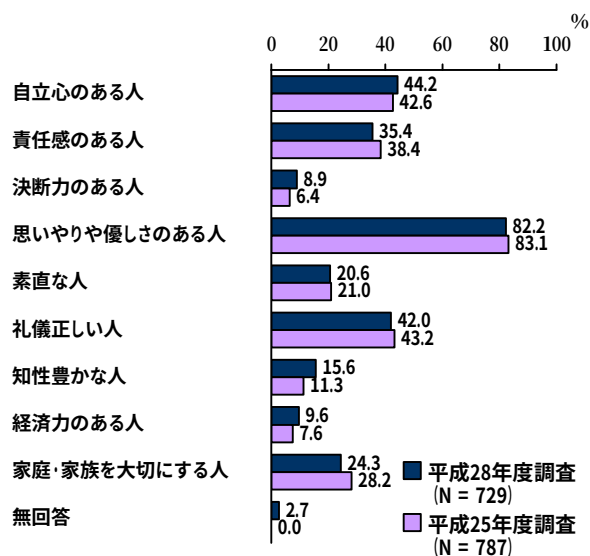
- ① 通学の安全
- ② 新しい生活にスムーズに移行できるか
- ③ 小学校で友だちができるか
- ④ 授業についていけるかどうか
- ⑤ 小学校で身の回りのことが自分でできるか
- ⑥ 子どもの夏休みなど長期休み中の居場所
- ⑦ 子どもの放課後の居場所
- ⑧ 家庭内でどのような学習をさせたらよいか
- ⑨ どのような習いごとをさせたらよいか
- ⑩ 子どもが留守番できるか、留守中の安全・防犯
- ⑪ 学童クラブに入所できるか
- ⑫ すみだファミリー・サポート・センターなど放課後、子どもを世話してくれる人がみつかるか



問 17 お子さんにどのような人になってほしいですか（3つまでに○）。

「思いやりや優しさのある人」の割合が82.2%と最も高く、次いで「自立心のある人」の割合が44.2%、「礼儀正しい人」の割合が42.0%となっています。

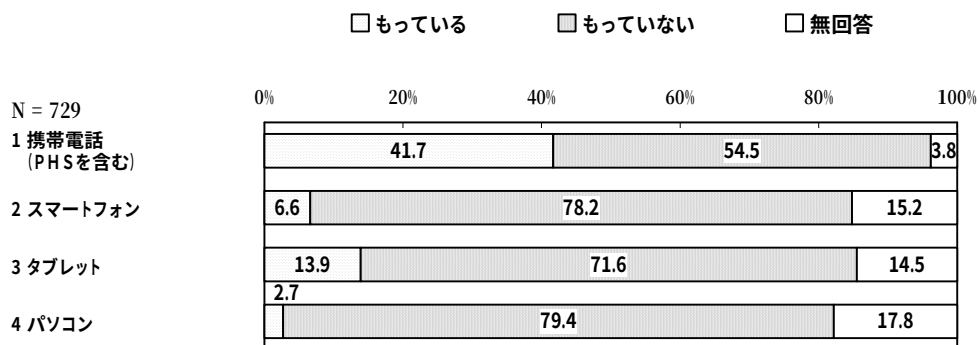
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 18 お子さんは子ども専用の携帯電話（PHSを含む）、スマートフォン、タブレット、パソコンを持っていますか（1～4のそれぞれについて1つに○）。また、持っている場合はそれを自分専用として使いはじめたのはいつ頃からですか。それぞれにお答えください。

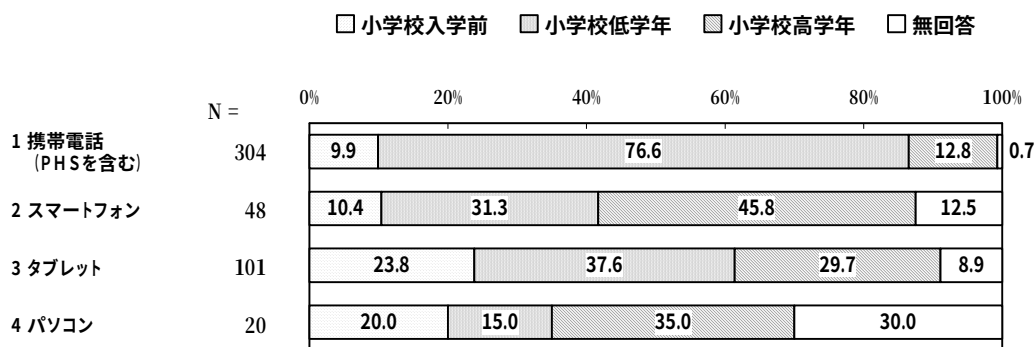
① 保有の状況

1 携帯電話（PHSを含む）で「持っている」の割合が高く、約4割となっています。他の項目については「もっていない」の割合が高く、7割以上となっています。



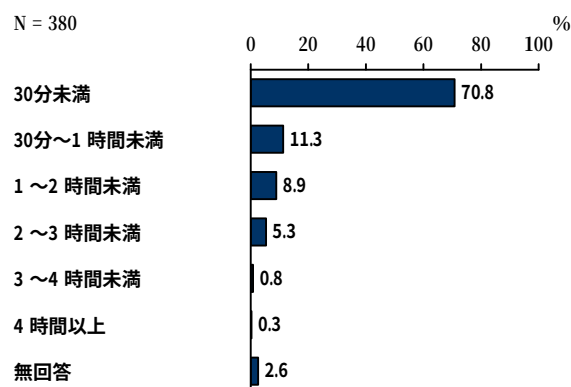
② 自分専用として使いはじめた時期

1 携帯電話（PHSを含む）で「小学校低学年」の割合が高く、7割台半ばとなっています。また、3 タブレット、4 パソコンで「小学校入学前」の割合が高く、約2割となっています。



問 19 1日にどれくらいの時間利用しますか（1つに○）。

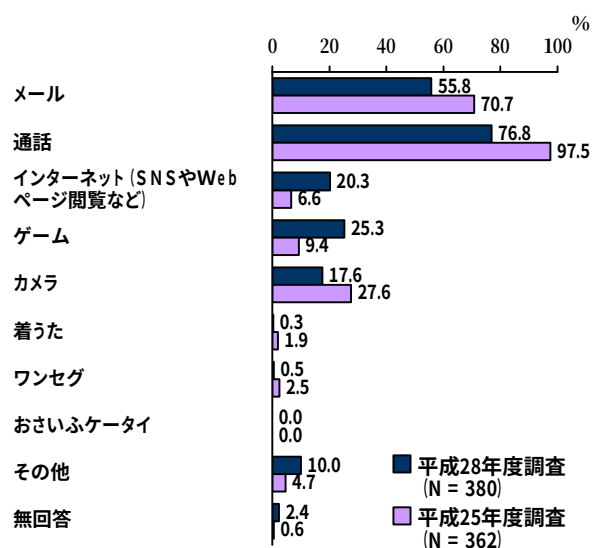
「30分未満」の割合が70.8%と最も高く、次いで「30分～1時間未満」の割合が11.3%となっています。



問 20 どんな機能を使っていますか（あてはまるものすべてに○）。

「通話」の割合が76.8%と最も高く、次いで「メール」の割合が55.8%、「ゲーム」の割合が25.3%となっています。

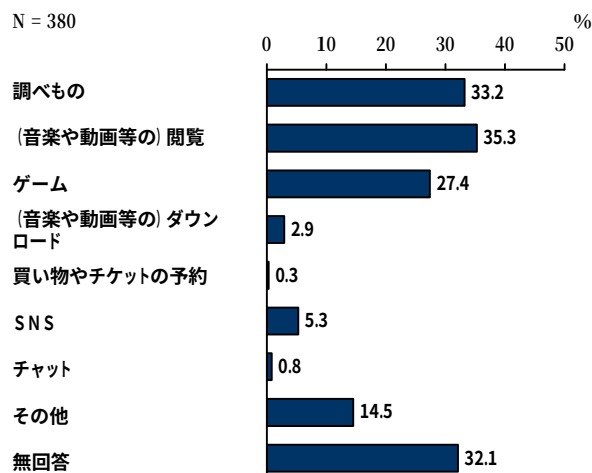
平成25年度調査と比較すると、「インターネット（SNSやWebページ閲覧など）」「ゲーム」の割合が増加し、「メール」「通話」「カメラ」の割合が減少しています。



問 21 インターネットでどのようなことをしていますか（あてはまるものすべてに○）。

「（音楽や動画等の）閲覧」の割合が 35.3%と最も高く、次いで「調べもの」の割合が 33.2%、「ゲーム」の割合が 27.4%となっています。

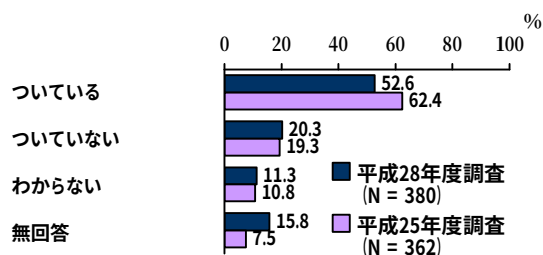
N = 380



問 22 携帯電話に、フィルタリングサービスまたは使いすぎ防止機能はついていますか（1つに○）。

「ついている」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「ついていない」の割合が 20.3%、「わからない」の割合が 11.3%となっています。

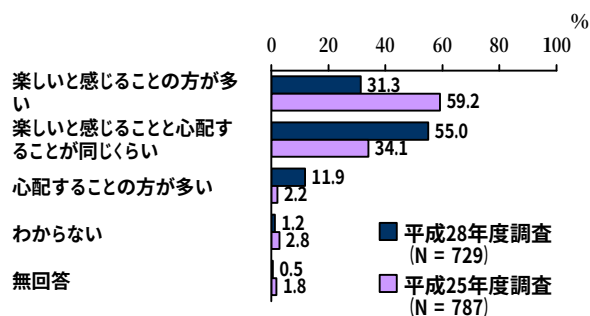
平成 25 年度調査と比較すると、「ついている」の割合が減少しています。



問 23 子育てについてどのように感じていますか（1つに○）。

「楽しいと感じることと心配することが同じくらい」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「楽しいと感じることの方が多い」の割合が 31.3%、「心配することの方が多い」の割合が 11.9%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「楽しいと感じることと心配することが同じくらい」「心配することの方が多い」の割合が増加し、「楽しいと感じることの方が多い」の割合が減少しています。



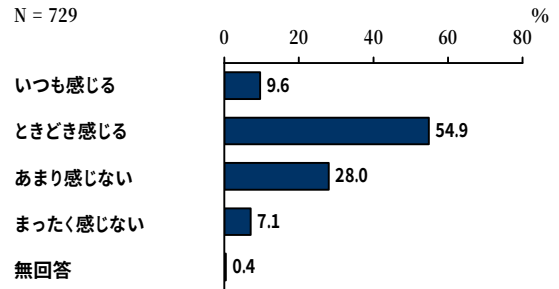
※平成 25 年度調査では、「楽しいと感じることと心配することが同じくらい」は「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」、「心配することの方が多い」は「つらいと感じることの方が多い」

**問 24 子育てに自信が持てないと感じたり、不安や孤独を感じたりすることはありますか
(①と②のそれぞれについて1～4の1つに○)。**

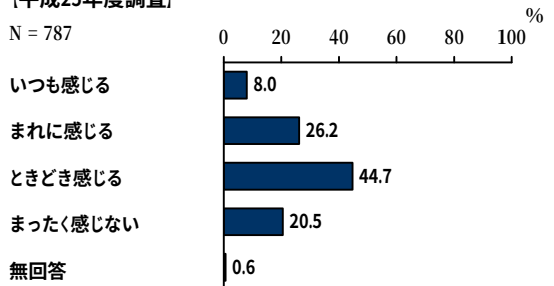
①子育てに自信が持てないと感じることがある

「いつも感じる」と「ときどき感じる」をあわせた“感じる”の割合が64.5%、「あまり感じない」と「まったく感じない」をあわせた“感じない”の割合が35.1%となっています。

[平成28年度調査]
N = 729



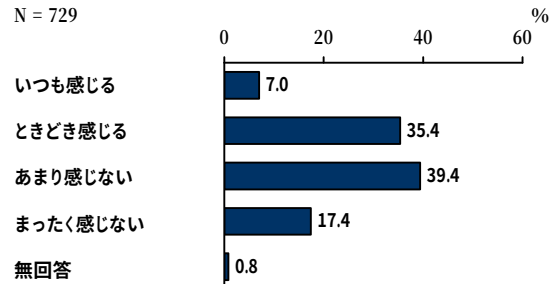
[平成25年度調査]
N = 787



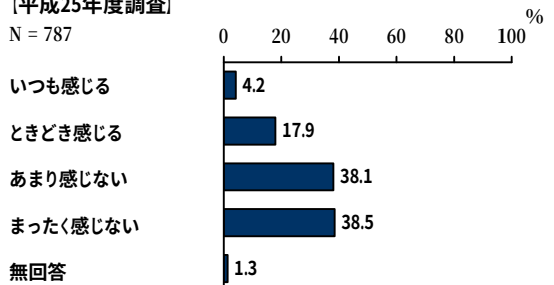
②子育てに不安や孤独を感じることがある

“感じる”の割合が42.4%、“感じない”の割合が56.8%となっています。

[平成28年度調査]
N = 729



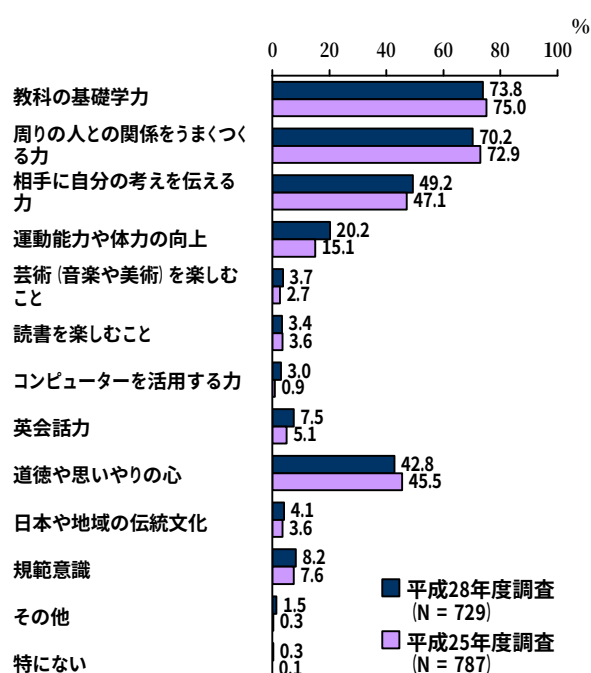
[平成25年度調査]
N = 787



問 25 学校教育の場で身につけてほしいことは何ですか（3つまでに○）。

「教科の基礎学力」の割合が73.8%と最も高く、次いで「周りの人との関係をうまくつくる力」の割合が70.2%、「相手に自分の考えを伝える力」の割合が49.2%となっています。

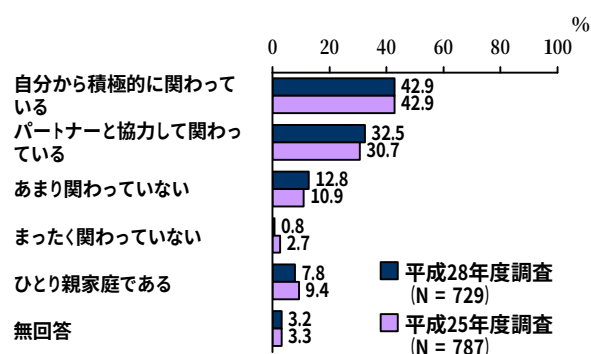
平成25年度調査と比較すると、「運動能力や体力の向上」の割合が増加しています。



**問 26 対象のお子さんに父親としてどのように関わっていますか（1つに○）。
（回答者が対象のお子さんの母親のときは父親についてお答えください）**

「自分から積極的に関わっている」の割合が42.9%と最も高く、次いで「パートナーと協力して関わっている」の割合が32.5%、「あまり関わっていない」の割合が12.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

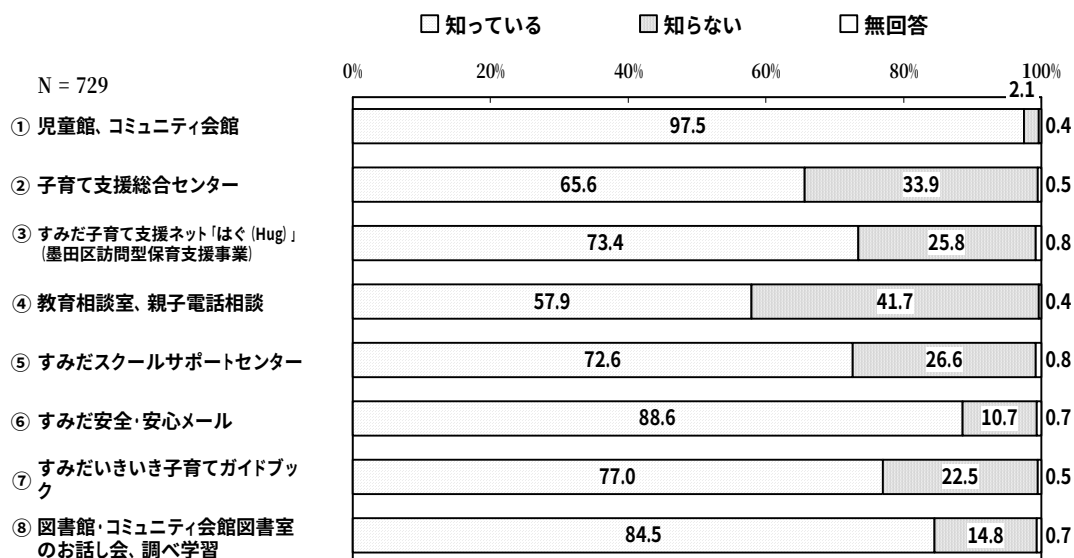


※平成25年度調査では、「自分から積極的に関わっている」は「自分から積極的に参加している」、「パートナーと協力して関わっている」は「パートナーの指示を待って協力する」、「あまり関わっていない」は「あまり協力しない」、「まったく関わっていない」は「まったく協力しない」

問 27 墨田区で行っている次のサービス等について、(1)認知状況、(2)利用状況、利用したことがある方は(3)の満足度にお答えください。

(1) 認知度

①児童館、コミュニティ会館で「知っている」の割合が高く、9割を超えています。一方、④教育相談室、親子電話相談で「知っている」の割合が低く、約6割となっています。



「知っている」と回答した人

平成 25 年度調査と比較すると、③すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」(墨田区訪問型保育支援事業)、⑤すみだスクールサポートセンターの認知度が高くなっています。

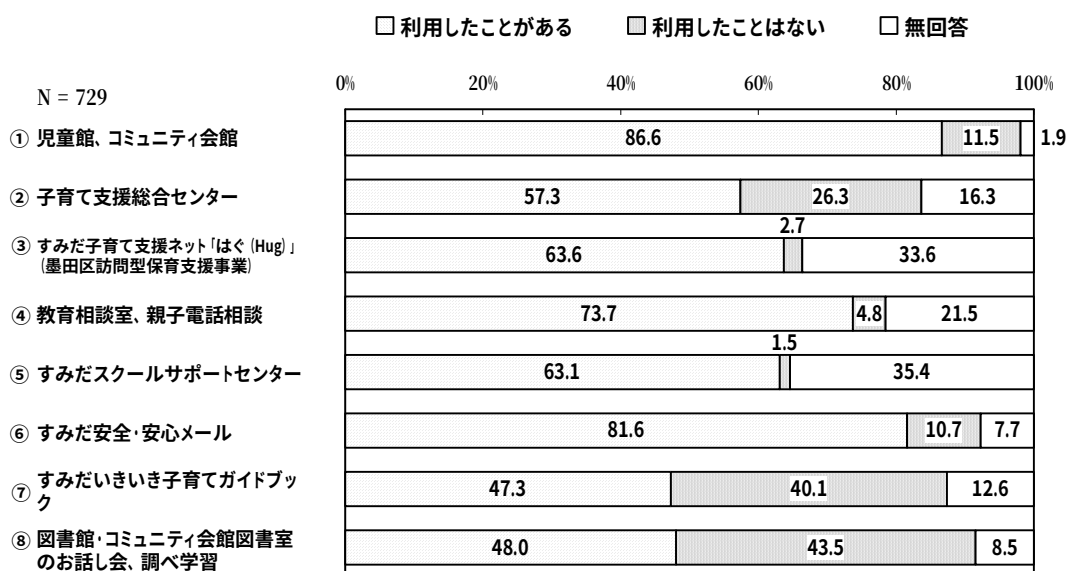
単位：%

	① 児童館、コミュニティ会館	② 子育て支援総合センター	③ すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」(墨田区訪問型保育支援事業)	④ 教育相談室、親子電話相談	⑤ すみだスクールサポートセンター	⑥ すみだ安全・安心メール	⑦ すみだいきいき子育てガイドブック	⑧ 図書館・コミュニティ会館図書室のお話し会、調べ学習
平成 28 年度調査	97.5	65.6	73.4	57.9	72.6	88.6	77.0	84.5
平成 25 年度調査	97.5	67.6	26.0	55.3	30.5	87.5	75.7	81.8

（２）利用状況

①児童館、コミュニティ会館、⑥すみだ安全・安心メールで「利用したことがある」の割合が高く、８割を超えています。

一方、⑦すみだいきいき子育てガイドブック、⑧図書館・コミュニティ会館図書室のお話し会、調べ学習で「利用したことがある」の割合が低く、５割未満となっています。



「利用したことがある」と回答した人

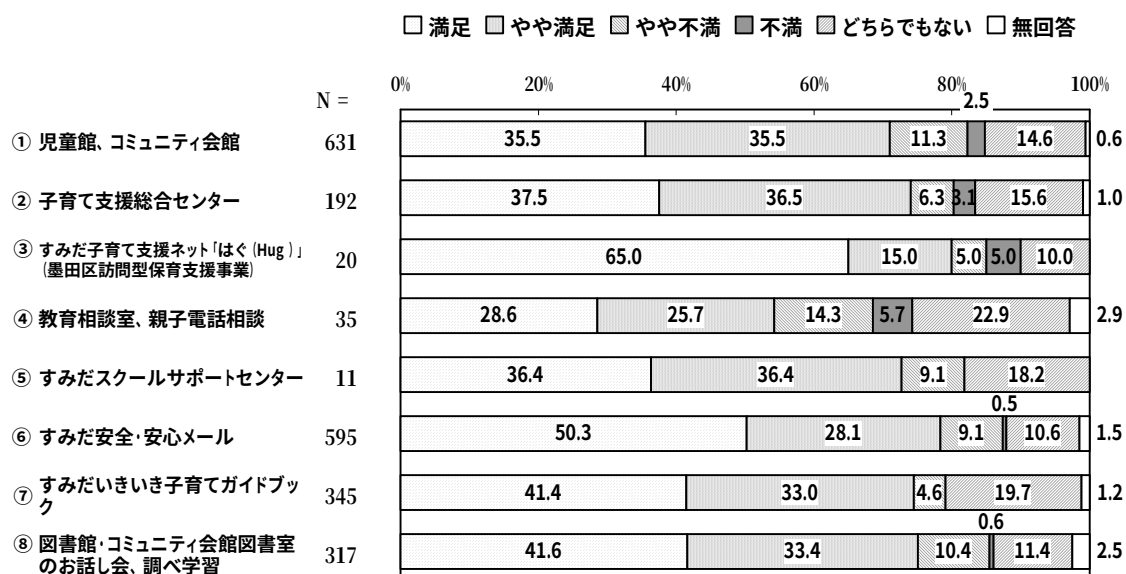
平成 25 年度調査と比較すると、②子育て支援総合センター、③すみだ子育て支援ネット「はぐ (Hug)」(墨田区訪問型保育支援事業)、④教育相談室、親子電話相談、⑤すみだスクールサポートセンターの認知度がとくに高くなっています。

単位：％

	① 児童館、 コミュニティ会館	② 子育て 支援総合センター	③ すみだ子育て支援ネット 「はぐ (Hug)」(墨田区訪問 型保育支援事業)	④ 教育相談室、親子電話相談	⑤ すみだ スクールサポートセ ンター	⑥ すみだ安全・安心メール	⑦ すみだ いきいき子育てガイ ドブック	⑧ 図書館・コミュニティ会館 図書室のお話し会、調べ学習
平成 28 年度調査	86.6	57.3	63.6	73.7	63.1	81.6	47.3	48.0
平成 25 年度調査	88.8	27.1	1.1	2.9	1.9	76.2	47.0	42.2

(3) 満足度

③すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」(墨田区訪問型保育支援事業)、⑥すみだ安全・安心メールで「満足」と「やや満足」をあわせた“満足”の割合が高く、約8割となっています。一方、④教育相談室、親子電話相談で「やや不満」と「不満」をあわせた“不満”の割合が高く、2割となっています。



“満足”と回答した人

平成 25 年度調査と比較すると、⑤すみだスクールサポートセンターの満足度が高くなっています。

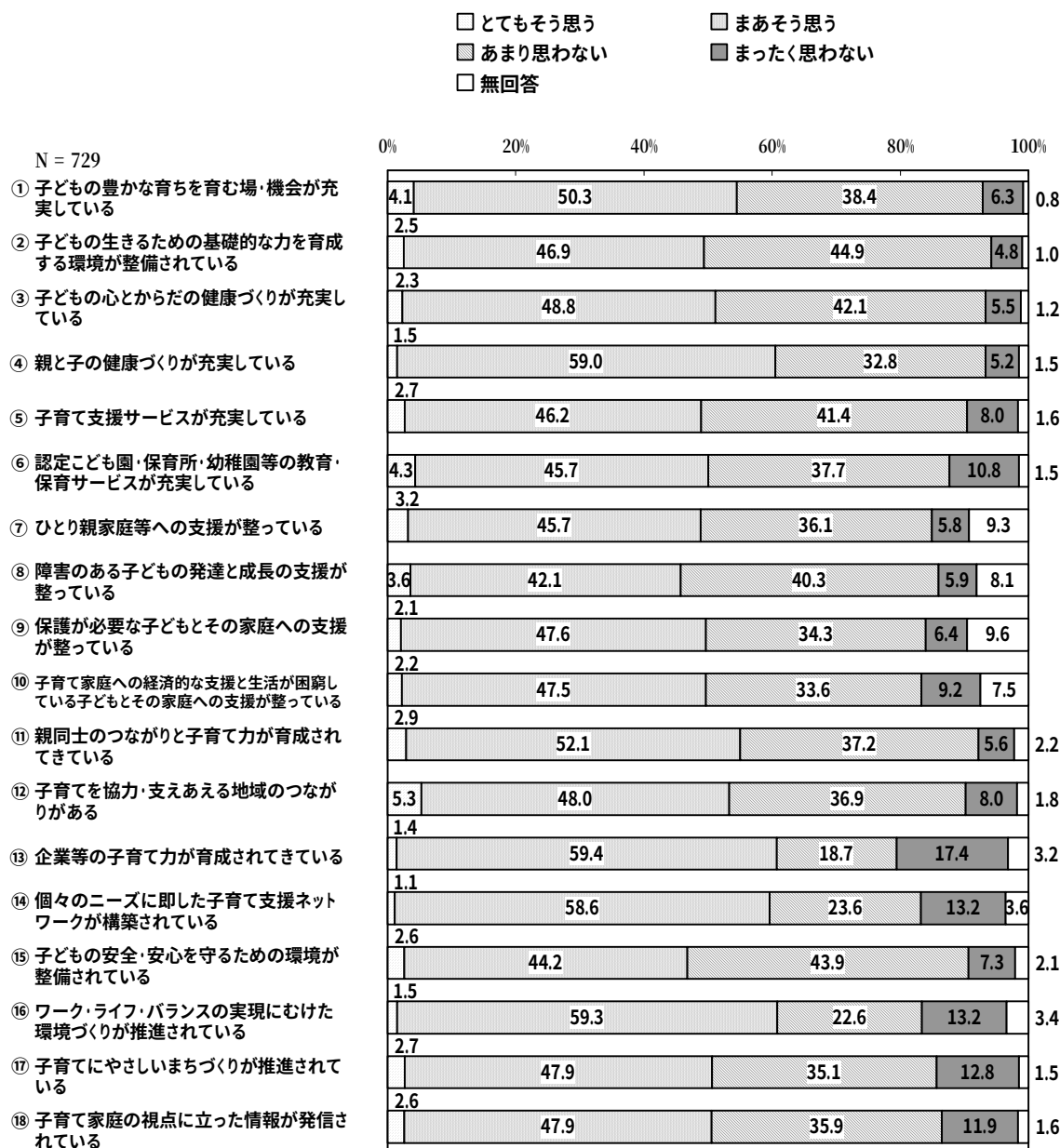
単位：%

	① 児童館、 コミュニティ会館	② 子育て 支援総合センター	③ すみだ子育て支援ネット 「はぐ(Hug)」(墨田区訪問型 保育支援事業)	④ 教育相談室、親子電話相談	⑤ すみだスクールサポートセンター	⑥ すみだ安全・安心メール	⑦ すみだいきいき子育てガイドブック	⑧ 図書館・コミュニティ会館 図書室のお話し会、調べ学習
平成 28 年度調査	71.0	74.0	80.0	54.3	72.8	78.4	74.4	75.0
平成 25 年度調査	72.7	76.1	100.0	69.6	46.6	84.0	79.7	78.3

問 28 小学生のお子さんを育てていく上で、墨田区的环境をどのように感じていますか (①～⑱のそれぞれについて1～4の1つに○)。

④親と子の健康づくりが充実している、⑬企業等の子育て力が育成されてきている、⑯ワーク・ライフ・バランスの実現にむけた環境づくりが推進されているで「とてもそう思う」と「まあそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、6割を超えています。

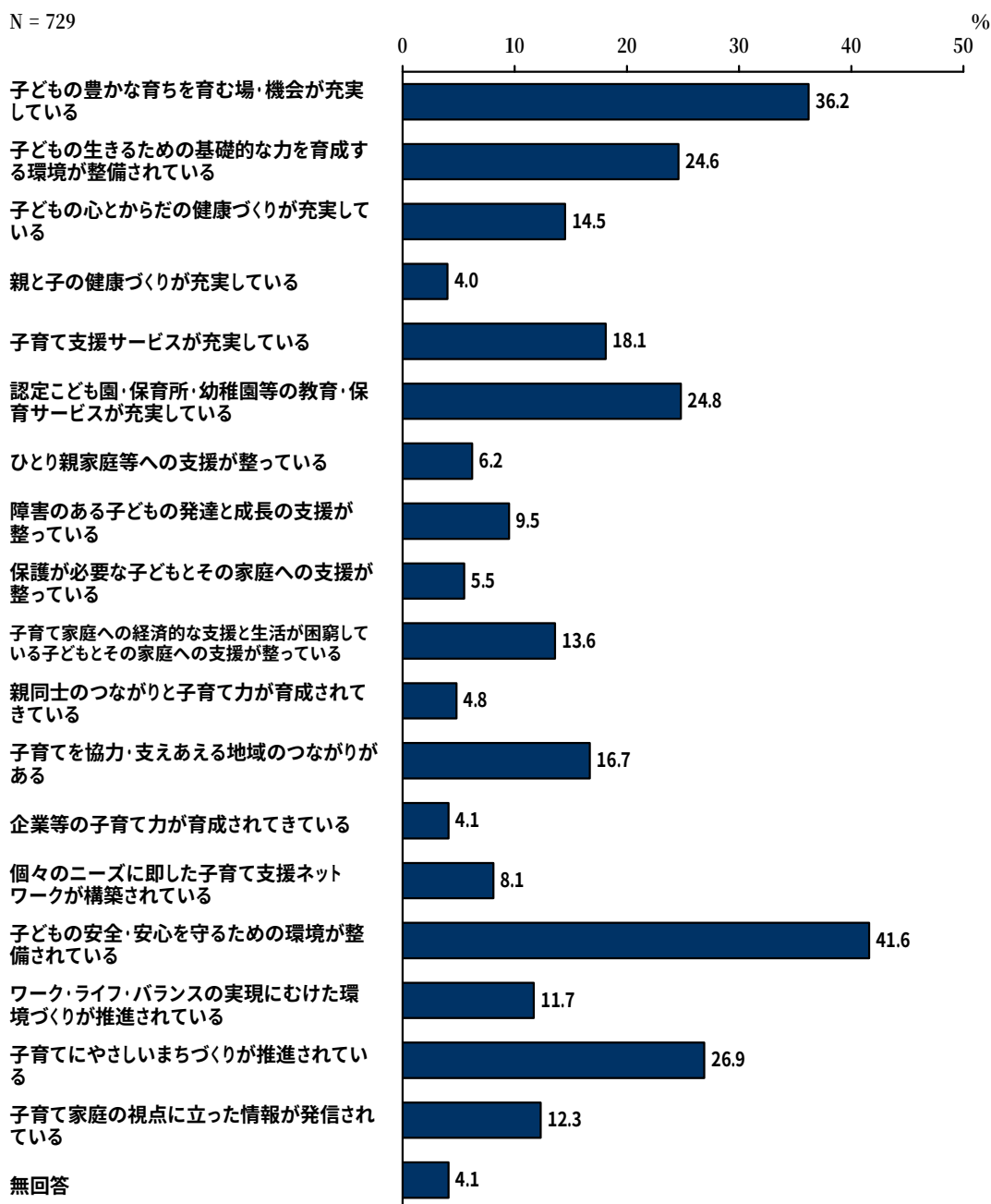
一方、⑧障害のある子どもの発達と成長の支援が整っているで“そう思う”の割合が低く、5割を下回っています。



問 29 前問①～⑱の中で、墨田区がめざす環境として重要だと思う番号を下欄に3つご記入ください。

「子どもの安全・安心を守るための環境が整備されている」の割合が41.6%と最も高く、次いで「子どもの豊かな育ちを育む場・機会が充実している」の割合が36.2%、「子育てにやさしいまちづくりが推進されている」の割合が26.9%となっています。

N = 729

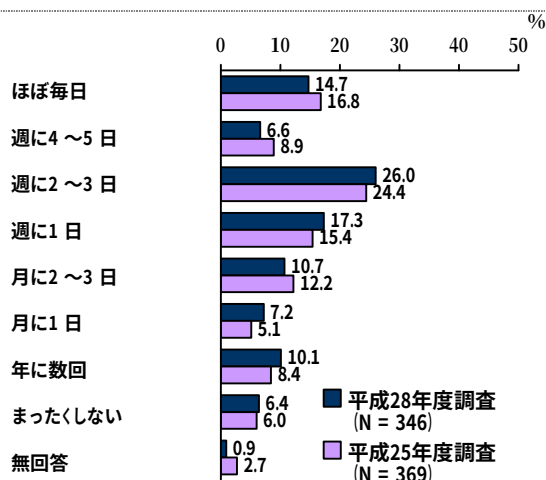


次の質問は小学4年生以上の方、ご本人がお答えください。

問 30 そうじ、洗たく、食事のしたく、買物など家の用事をどのくらい手伝っていますか（1つに○）。

「週に2～3日」の割合が26.0%と最も高く、次いで「週に1日」の割合が17.3%、「ほぼ毎日」の割合が14.7%となっています。

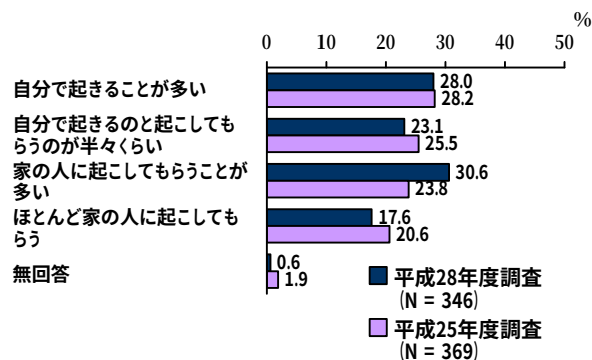
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 31 朝は起きられますか（1つに○）。

「家の人に起こしてもらうことが多い」の割合が30.6%と最も高く、次いで「自分で起きることが多い」の割合が28.0%、「自分で起きることが多い」の割合が28.0%、「自分で起きると起こしてもらうのが半々くらい」の割合が23.1%となっています。

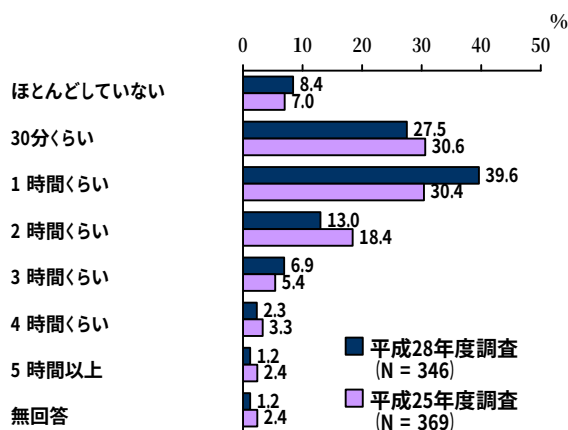
平成25年度調査と比較すると、「家の人に起こしてもらうことが多い」の割合が増加しています。



問 32 ふだん、学校以外で1日何時間くらい勉強をしていますか（1つに○）。

「1時間くらい」の割合が39.6%と最も高く、次いで「30分くらい」の割合が27.5%、「2時間くらい」の割合が13.0%となっています。

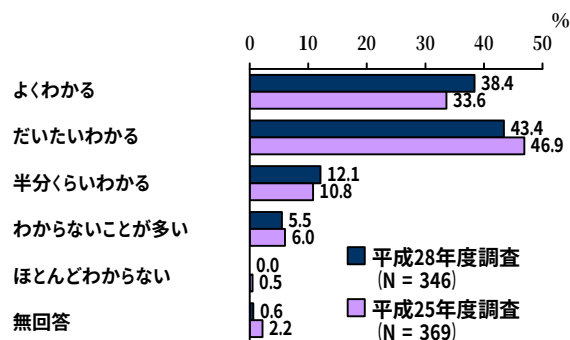
平成25年度調査と比較すると、「1時間くらい」の割合が増加し、「2時間くらい」の割合が減少しています。



問 33 学校の授業はよくわかりますか（1つに○）。

「だいたいわかる」の割合が43.4%と最も高く、次いで「よくわかる」の割合が38.4%、「半分くらいわかる」の割合が12.1%となっています。

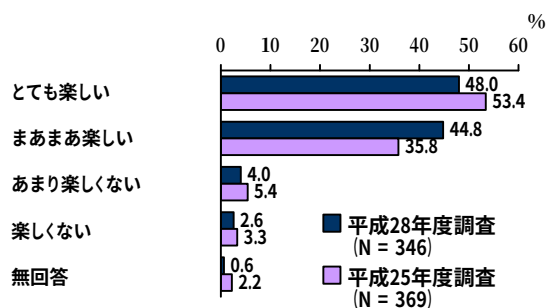
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 34 学校は楽しいですか（1つに○）。

「とても楽しい」と「まあまあ楽しい」の割合が“楽しい”の割合が92.8%、「あまり楽しくない」と「楽しくない」の割合が6.6%となっています。

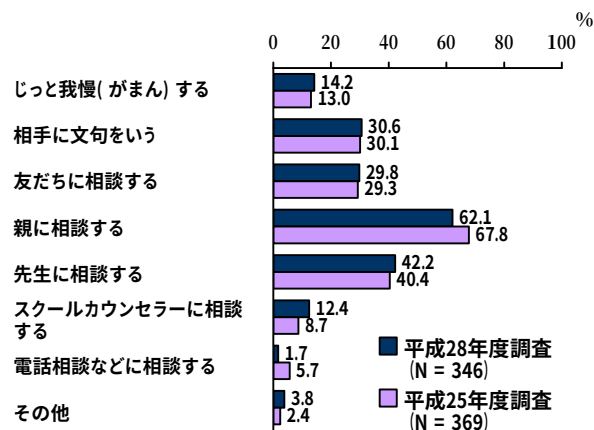
平成 25 年度調査と比較すると、「とても楽しい」の割合が減少し、「まあまあ楽しい」の割合が増加しています。



問 35 もし、あなたがいじめを受けたらどうしますか（あてはまるものすべてに○）。

「親に相談する」の割合が62.1%と最も高く、次いで「先生に相談する」の割合が42.2%、「相手に文句をいう」の割合が30.6%となっています。

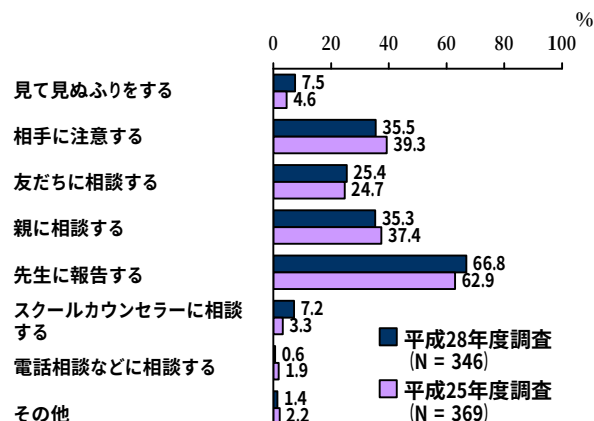
平成 25 年度調査と比較すると、「親に相談する」の割合が減少しています。



**問 36 もし、あなたがいじめを目撃(もくげき)したらどうしますか
(あてはまるものすべてに○)。**

「先生に報告する」の割合が 66.8%と最も高く、次いで「相手に注意する」の割合が 35.5%、「親に相談する」の割合が 35.3%となっています。

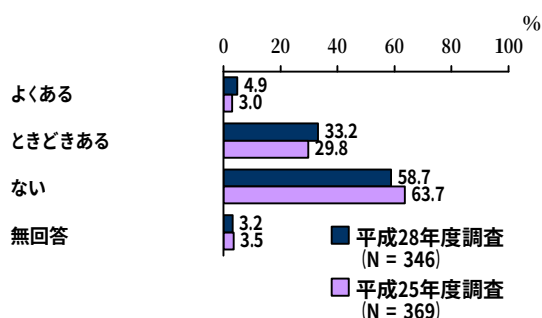
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 37 この1年の間に、病気やケガなどの理由以外で、学校に行きたくないと思ったことがありますか (1つに○)。

「ない」の割合が 58.7%と最も高く、次いで「ときどきある」の割合が 33.2%となっています。

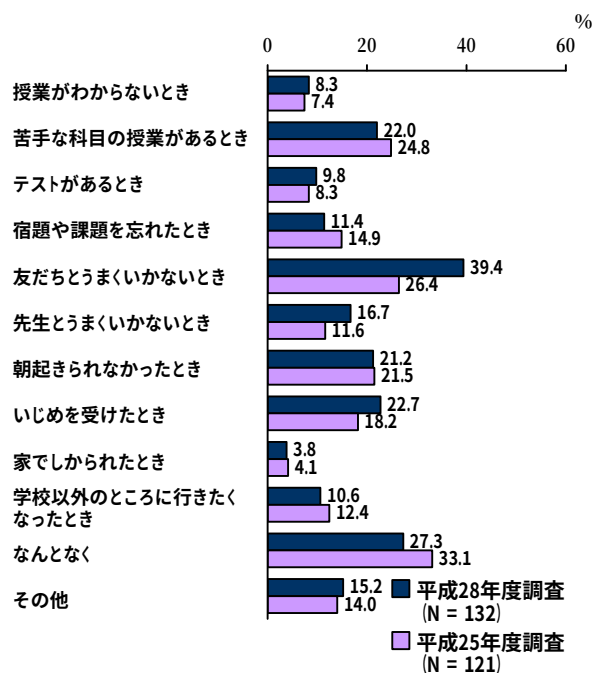
平成 25 年度調査と比較すると、「ない」の割合が減少しています。



問 38 学校に行きたくないと思うのはどのようなときですか (あてはまるものすべてに○)。

「友だちとうまくいかないとき」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「なんとなく」の割合が 27.3%、「いじめを受けたとき」の割合が 22.7%となっています。

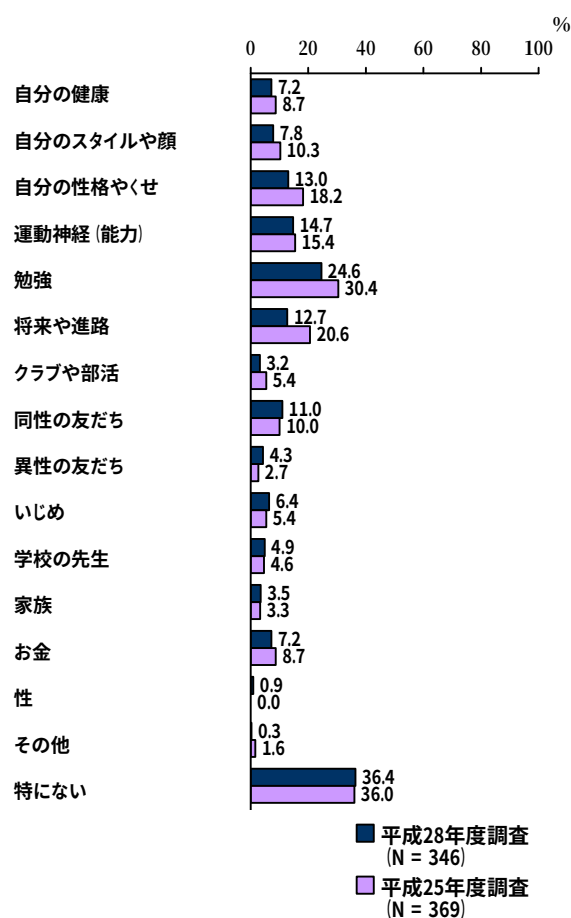
平成 25 年度調査と比較すると、「友だちとうまくいかないとき」「先生とうまくいかないとき」の割合が増加し、「なんとなく」の割合が減少しています。



問 39 なやみや心配なことがありますか（あてはまるものすべてに○）。

「特にない」の割合が 36.4%と最も高く、次いで「勉強」の割合が 24.6%、「運動神経（能力）」の割合が 14.7%となっています。

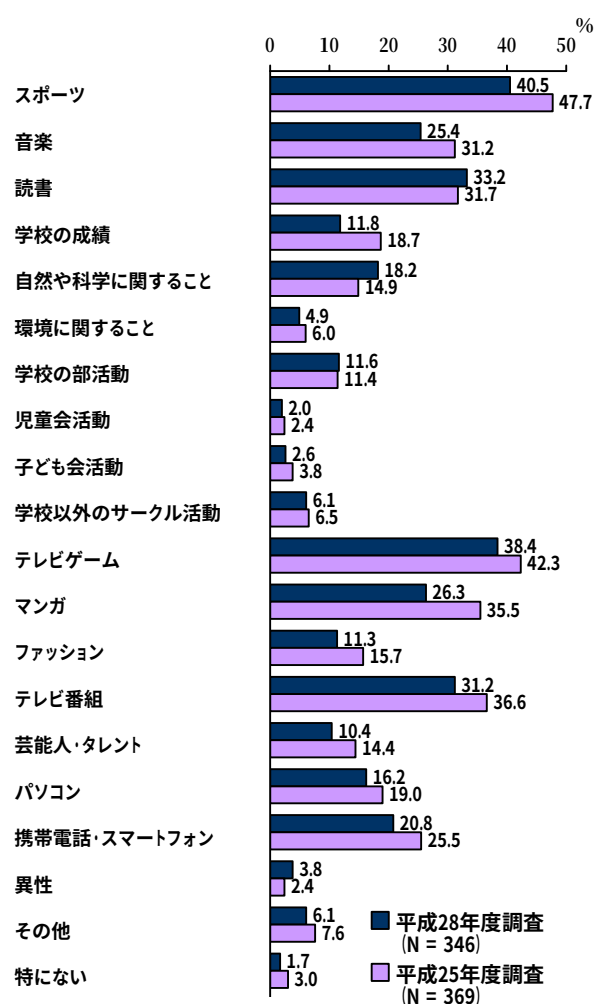
平成 25 年度調査と比較すると、「自分の性格やくせ」「勉強」「将来や進路」の割合が減少しています。



問 40 今、どのようなことに関心がありますか（あてはまるものすべてに○）。

「スポーツ」の割合が40.5%と最も高く、次いで「テレビゲーム」の割合が38.4%、「読書」の割合が33.2%となっています。

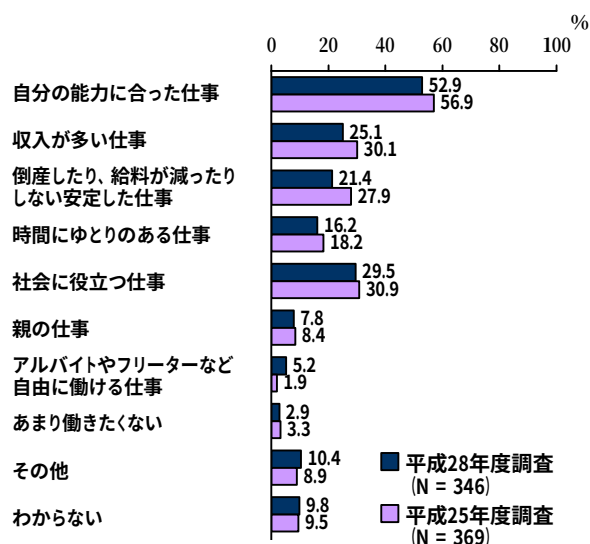
平成25年度調査と比較すると、「スポーツ」「音楽」「学校の成績」「マンガ」「テレビ番組」の割合が減少しています。



問 41 将来どんな仕事につきたいですか（あてはまるものすべてに○）。

「自分の能力に合った仕事」の割合が52.9%と最も高く、次いで「社会に役立つ仕事」の割合が29.5%、「収入が多い仕事」の割合が25.1%となっています。

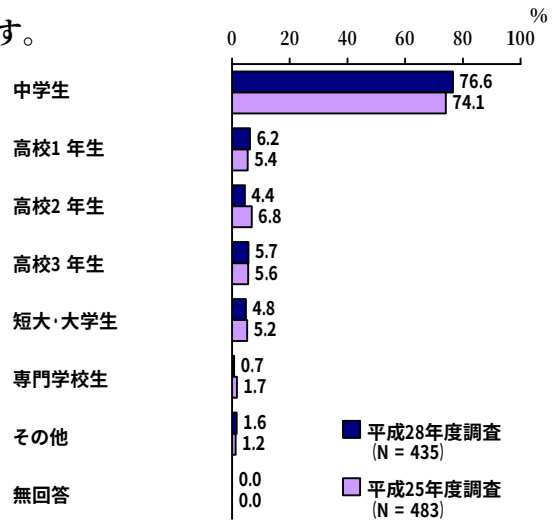
平成25年度調査と比較すると、「収入が多い仕事」「倒産したり、給料が減ったりしない安定した仕事」の割合が減少しています。



3 成人前

問1 あなたは、次の中のどれにあてはまりますか（1つに○）。

「中学生」の割合が76.6%と最も高くなっています。



※中学生は、全員2年生が回答しています。

問2 性別をお答えください（1つに○）。

中学生では、「男性」の割合が50.8%、「女性」の割合が47.1%となっています。

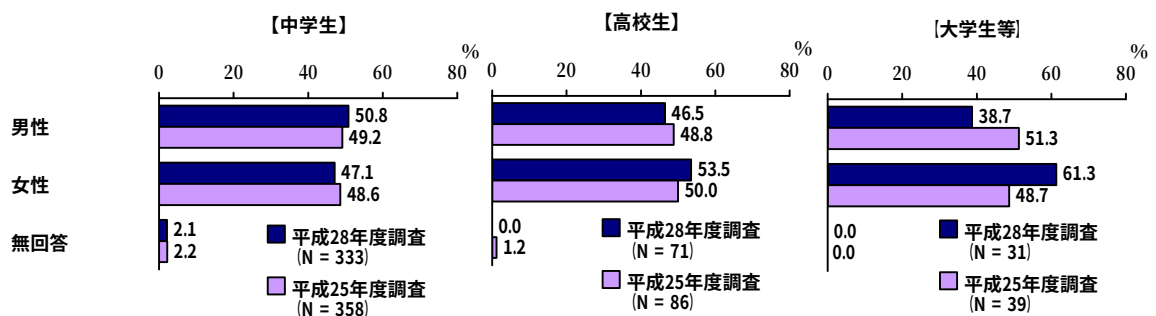
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

高校生では、「男性」の割合が46.5%、「女性」の割合が53.5%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

大学生等では、「男性」の割合が38.7%、「女性」の割合が61.3%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「女性」の割合が増加し、「男性」の割合が減少しています。



問3 一緒に暮らしているご家族はどなたですか（あてはまるものすべてに○）。

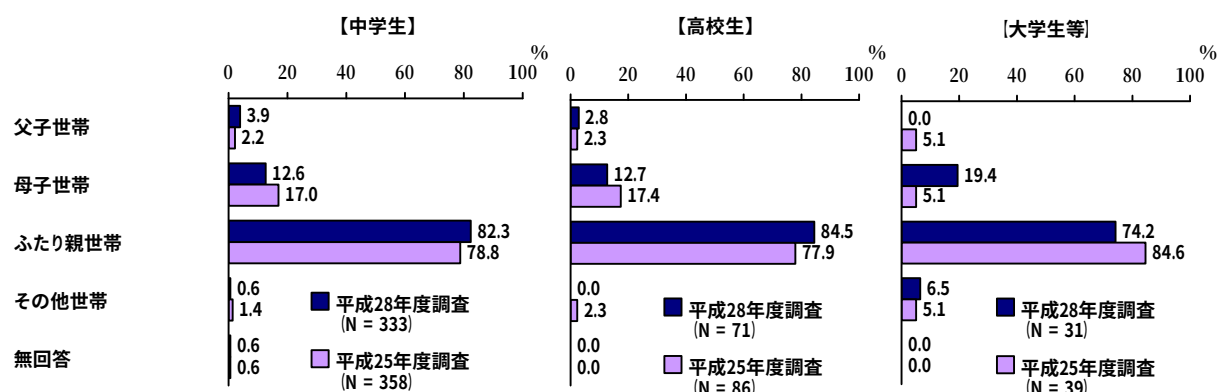
同居の家族から再区分した世帯類型は、中学生では、「ふたり親世帯」の割合が82.3%と最も高く、次いで「母子世帯」の割合が12.6%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

高校生では、「ふたり親世帯」の割合が84.5%と最も高く、次いで「母子世帯」の割合が12.7%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」の割合が増加しています。

大学生等では、「ふたり親世帯」の割合が74.2%と最も高く、次いで「母子世帯」の割合が19.4%となっています。



問4 兄弟姉妹についてお答えください（1つに○）。

中学生では、「2人」の割合が44.4%と最も高く、次いで「3人」の割合が28.5%、「1人（自分だけ）」の割合が18.3%となっています。

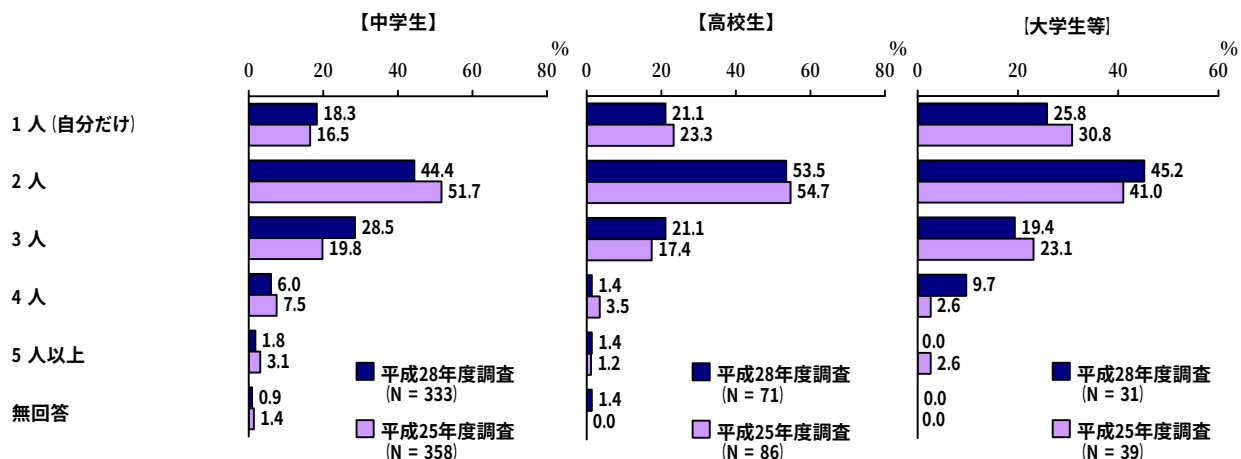
平成25年度調査と比較すると、「3人」の割合が増加し、「2人」の割合が減少しています。

高校生では、「2人」の割合が53.5%と最も高く、次いで「1人（自分だけ）」、「3人」の割合が21.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

大学生等では、「2人」の割合が45.2%と最も高く、次いで「1人（自分だけ）」の割合が25.8%、「3人」の割合が19.4%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「4人」の割合が増加し、「1人（自分だけ）」の割合が減少しています。



問5 お父さん・お母さんはどのような働き方ですか。(1)(2)それぞれにお答えください。

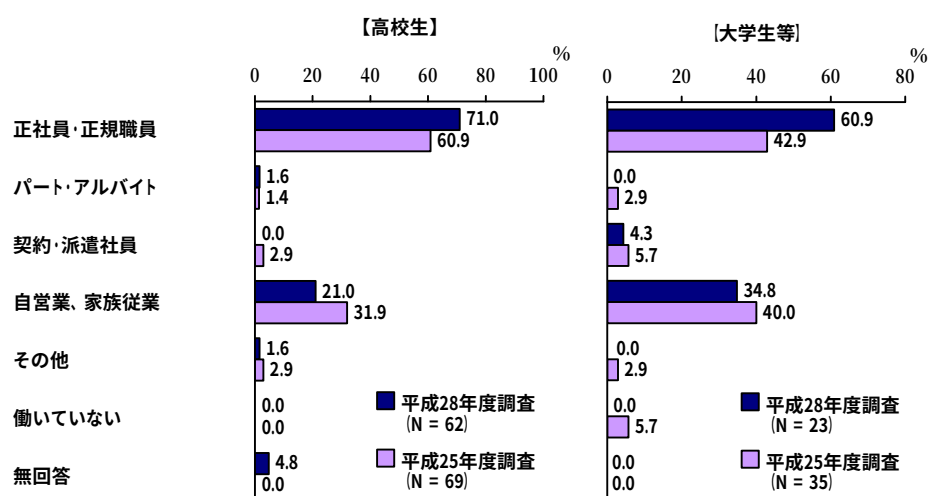
(1) 父親

高校生では、「正社員・正規職員」の割合が71.0%と最も高く、次いで「自営業、家族従業」の割合が21.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「正社員・正規職員」の割合が増加し、「自営業、家族従業」の割合が減少しています。

大学生等では、「正社員・正規職員」の割合が60.9%と最も高く、次いで「自営業、家族従業」の割合が34.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「正社員・正規職員」の割合が増加し、「自営業、家族従業」「働いていない」の割合が減少しています。



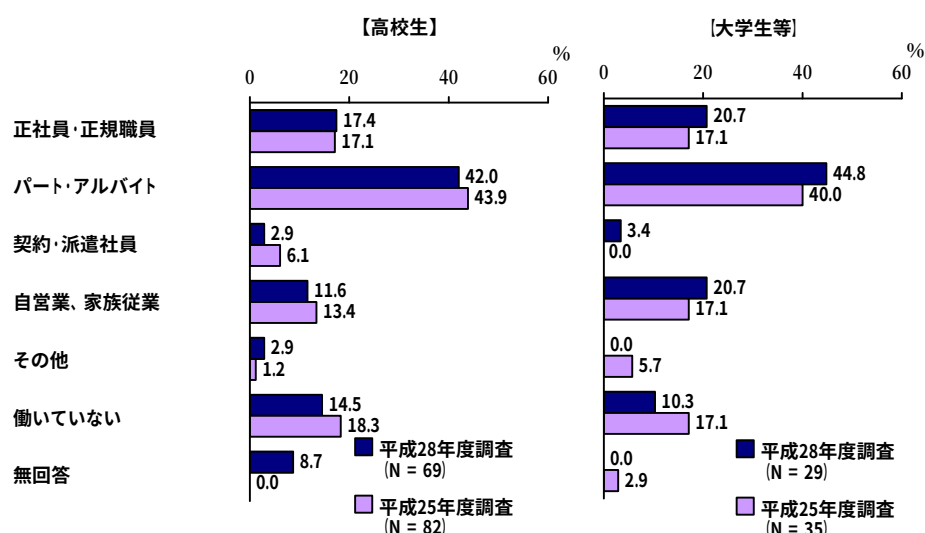
(2) 母親

高校生では、「パート・アルバイト」の割合が42.0%と最も高く、次いで「正社員・正規職員」の割合が17.4%、「働いていない」の割合が14.5%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

大学生等では、「パート・アルバイト」の割合が44.8%と最も高く、次いで「正社員・正規職員」、「自営業、家族従業」の割合が20.7%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「働いていない」の割合が減少しています。



問6 そうじ、洗たく、食事のしたく、買物など家の用事をどのくらいしていますか（1つに○）。

中学生では、「ほぼ毎日」の割合が24.0%と最も高く、次いで「週に2～3日」の割合が21.0%、「週に1日」の割合が15.9%となっています。

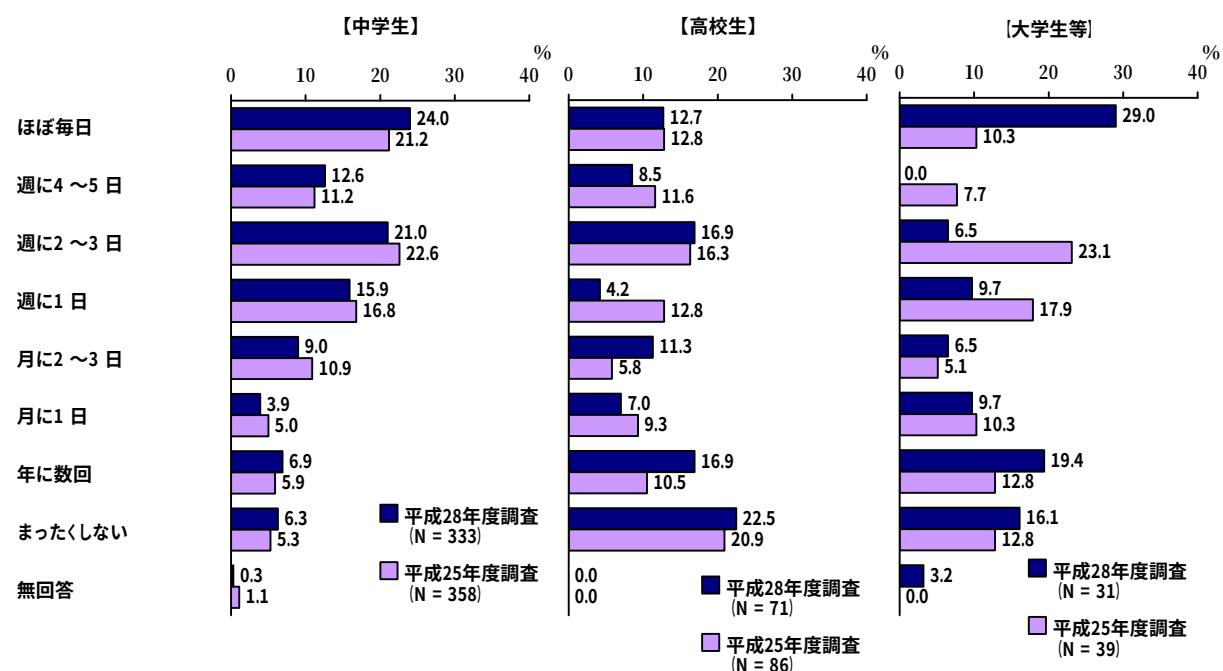
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

高校生では、「まったくしない」の割合が22.5%と最も高く、次いで「週に2～3日」、「年に数回」の割合が16.9%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「月に2～3日」「年に数回」の割合が増加し、「週に1日」の割合が減少しています。

大学生等では、「ほぼ毎日」の割合が29.0%と最も高く、次いで「年に数回」の割合が19.4%、「まったくしない」の割合が16.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「ほぼ毎日」「年に数回」の割合が増加し、「週に4～5日」「週に2～3日」「週に1日」の割合が減少しています。



問7 朝は自分で起きることができますか（1つに○）。

中学生では、「自分で起きることが多い」の割合が 54.4%と最も高く、次いで「自分で起きるのと起こしてもらうのが半々くらい」の割合が 21.3%、「家の人に起こしてもらうことが多い」の割合が 15.6%となっています。

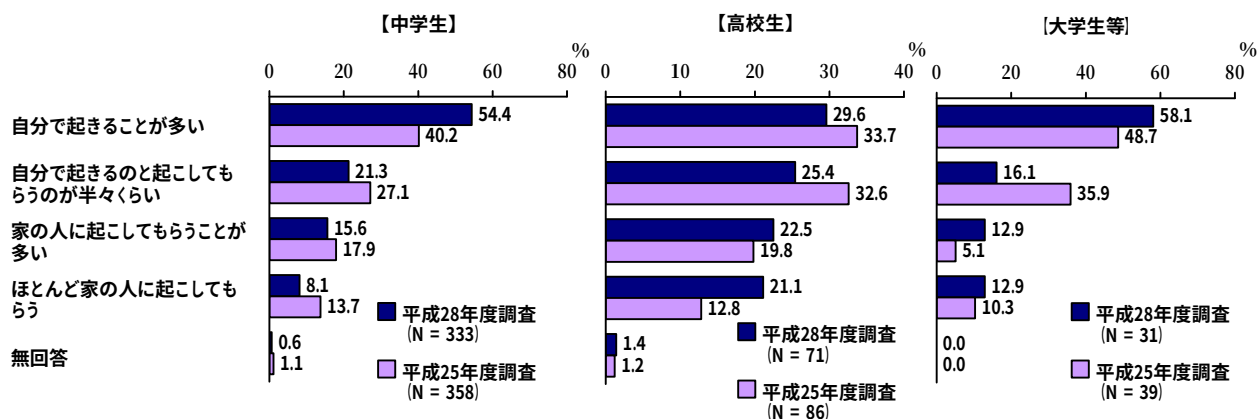
平成 25 年度調査と比較すると、「自分で起きることが多い」の割合が増加し、「自分で起きるのと起こしてもらうのが半々くらい」「ほとんど家の人に起こしてもらう」の割合が減少しています。

高校生では、「自分で起きることが多い」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「自分で起きるのと起こしてもらうのが半々くらい」の割合が 25.4%、「家の人に起こしてもらうことが多い」の割合が 22.5%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「ほとんど家の人に起こしてもらう」の割合が増加し、「自分で起きることが多い」「自分で起きるのと起こしてもらうのが半々くらい」の割合が減少しています。

大学生等では、「自分で起きることが多い」の割合が 58.1%と最も高く、次いで「自分で起きるのと起こしてもらうのが半々くらい」の割合が 16.1%、「家の人に起こしてもらうことが多い」「ほとんど家の人に起こしてもらう」の割合が 12.9%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「自分で起きることが多い」「家の人に起こしてもらうことが多い」の割合が増加し、「自分で起きるのと起こしてもらうのが半々くらい」の割合が減少しています。



問8 食事についてお聞きします（1つに○）。

① 毎日朝ごはんは食べていますか。

中学生では、「毎日食べている」の割合が 80.2%と最も高く、次いで「食べない日もある」の割合が 13.5%となっています。

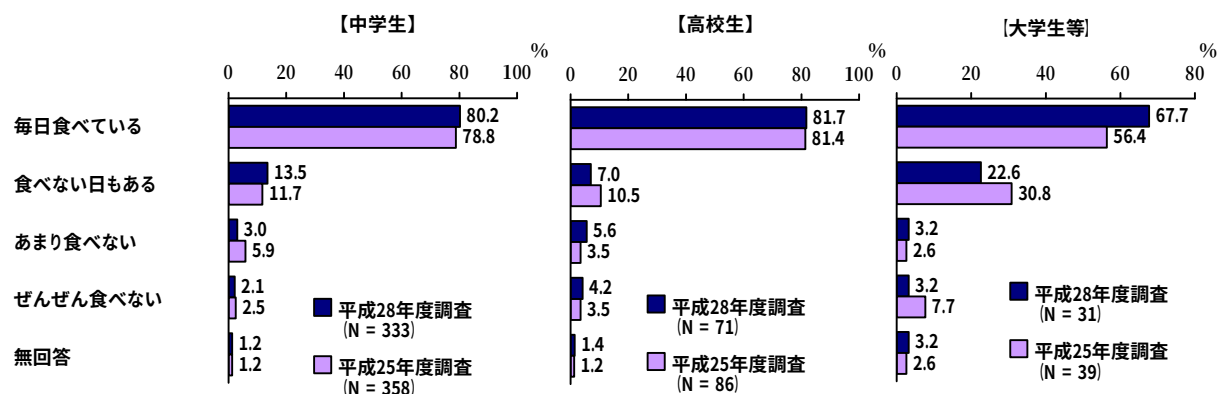
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

高校生では、「毎日食べている」の割合が 81.7%と最も高くなっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

大学生等では、「毎日食べている」の割合が 67.7%と最も高く、次いで「食べない日もある」の割合が 22.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「毎日食べている」の割合が増加し、「食べない日もある」の割合が減少しています。

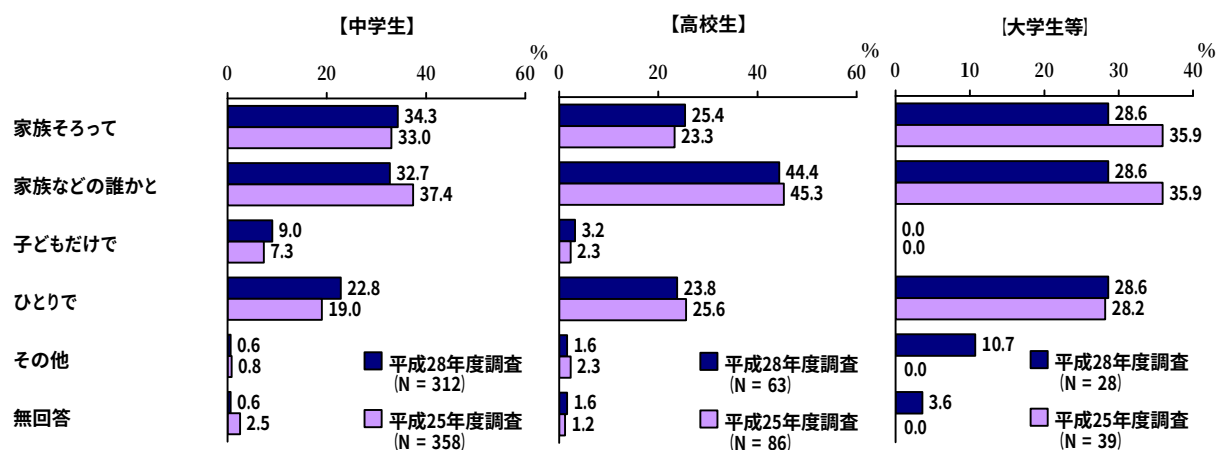


② 家でごはんはどのように食べることが多いですか（もっとも近いもの1つに○）。

中学生では、「家族そろって」の割合が 34.3%と最も高く、次いで「家族などの誰かと」の割合が 32.7%、「ひとりで」の割合が 22.8%となっています。

高校生では、「家族などの誰かと」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「家族そろって」の割合が 25.4%、「ひとりで」の割合が 23.8%となっています。

大学生等では、「家族そろって」、「家族などの誰かと」、「ひとりで」の割合が 28.6%となっています。



問8で「3. あまり食べない」「4. ぜんぜん食べない」に○をつけた方にうかがいます。

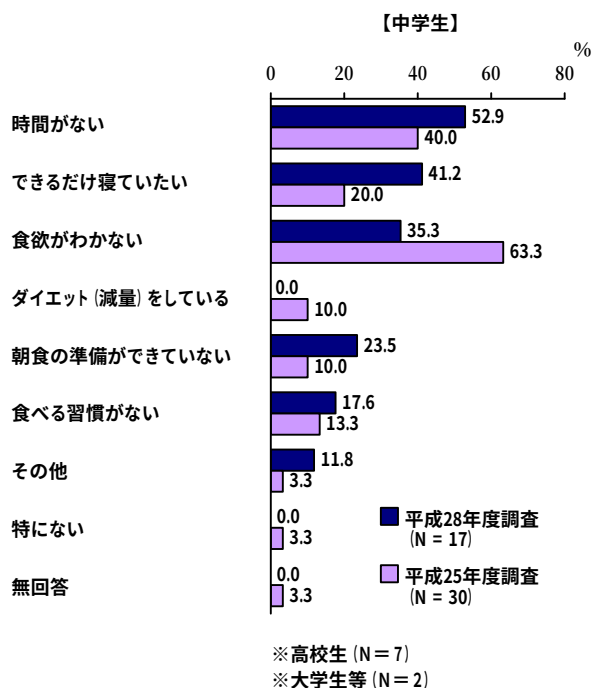
問9 朝ごはんを食べない（食べられない）理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「時間がない」の割合が 52.9%と最も高く、次いで「できるだけ寝ていたい」の割合が 41.2%、「食欲がわかない」の割合が 35.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「時間がない」「できるだけ寝ていたい」「朝食の準備ができていない」の割合が増加し、「食欲がわかない」「ダイエット（減量）をしている」の割合が減少しています。

高校生では、「食欲がわかない」が 4 件、「時間がない」、「できるだけ寝ていたい」が 2 件となっています。

大学生等では、「時間がない」が 1 件となっています。



【性別・年代別】

単位：％

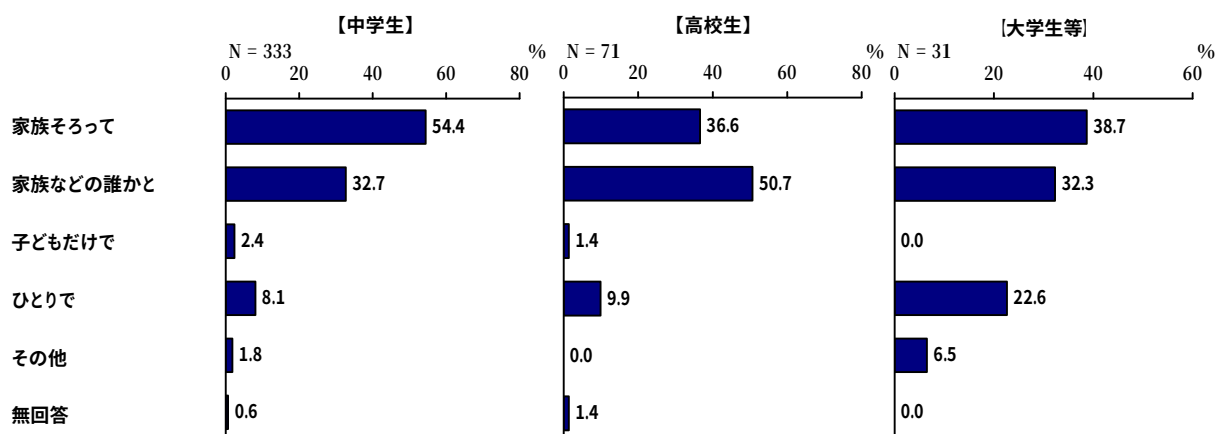
区分		有効回答数 (件)	時間がない	できるだけ寝たい	食欲がわかない	ダイエット(減量)をしている	朝食の準備ができていない	食べる習慣がない	その他	特にない	無回答
全体		26	46.2	34.6	38.5	0.0	19.2	15.4	15.4	0.0	0.0
中学生	男性	10	60.0	40.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	女性	6	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
高校生	男性	4	25.0	25.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
大学生等	男性	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	女性	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 10 家で夕食はどのように食べることが多いですか（もっとも近いもの1つに○）。

中学生では、「家族そろって」の割合が 54.4%と最も高く、次いで「家族などの誰かと」の割合が 32.7%となっています。

高校生では、「家族などの誰かと」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「家族そろって」の割合が 36.6%となっています。

大学生等では、「家族そろって」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「家族などの誰かと」の割合が 32.3%、「ひとりで」の割合が 22.6%となっています。



問 11 日頃、どの程度運動をしていますか（1つに○）。

中学生では、「ほとんど毎日」の割合が47.4%と最も高く、次いで「週2～3回」の割合が18.0%、「週4～5回」の割合が14.4%となっています。

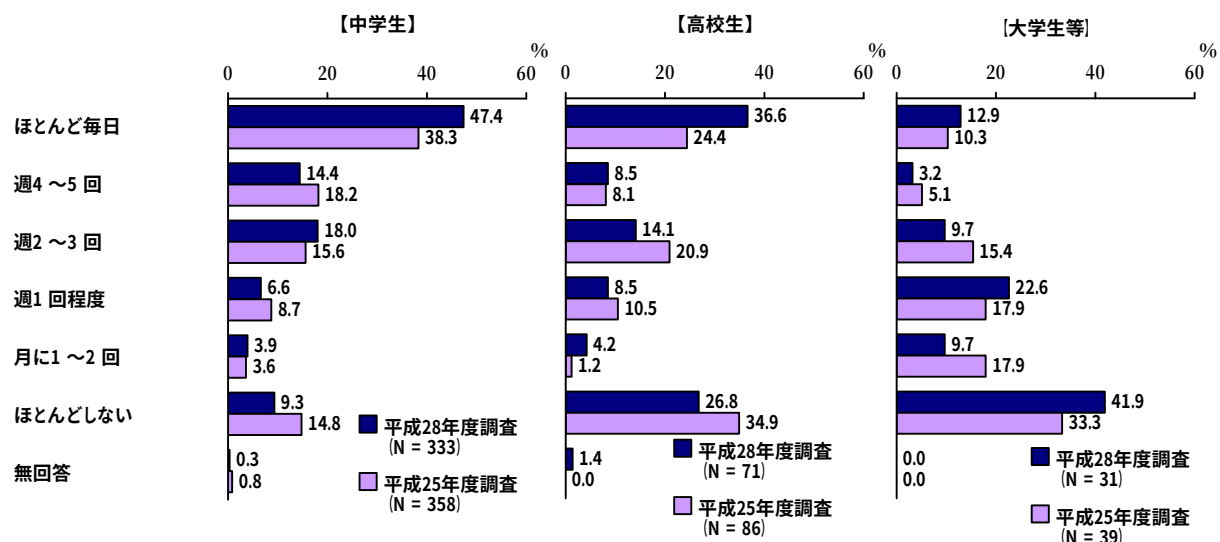
平成25年度調査と比較すると、「ほとんど毎日」の割合が増加し、「ほとんどしない」の割合が減少しています。

高校生では、「ほとんど毎日」の割合が36.6%と最も高く、次いで「ほとんどしない」の割合が26.8%、「週2～3回」の割合が14.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「ほとんど毎日」の割合が増加し、「週2～3回」「ほとんどしない」の割合が減少しています。

大学生等では、「ほとんどしない」の割合が41.9%と最も高く、次いで「週1回程度」の割合が22.6%、「ほとんど毎日」の割合が12.9%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「ほとんどしない」の割合が増加し、「週2～3回」「月に1～2回」の割合が減少しています。



【性別・年代別】

中学生の男女、高校生の男性で「ほとんど毎日」の割合が高くなっています。また、高校生の女性、大学生等の男女で「ほとんどしない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数 (件)	ほとんど毎日	週4～5回	週2～3回	週1回程度	月に1～2回	ほとんどしない	無回答
全体		435	43.2	12.6	16.8	8.0	4.4	14.5	0.5
中学生	男性	169	56.8	16.6	15.4	3.6	3.6	4.1	0.0
	女性	157	37.6	12.1	21.7	10.2	4.5	14.0	0.0
高校生	男性	33	48.5	6.1	12.1	12.1	0.0	21.2	0.0
	女性	38	26.3	10.5	15.8	5.3	7.9	31.6	2.6
大学生等	男性	12	8.3	0.0	16.7	16.7	8.3	50.0	0.0
	女性	19	15.8	5.3	5.3	26.3	10.5	36.8	0.0

※性別・年代別無回答者数：7人

問 12 月曜日から金曜日の放課後（学生でない人は夕方から夜にかけて）、どんなことをすることが多いですか（主なもの3つまでに○）。

中学生では、「学校にいる（部活動やクラブ活動）」の割合が76.3%と最も高く、次いで「友だちと遊ぶ・でかける」の割合が45.3%、「塾や習い事に行く」の割合が42.0%となっています。

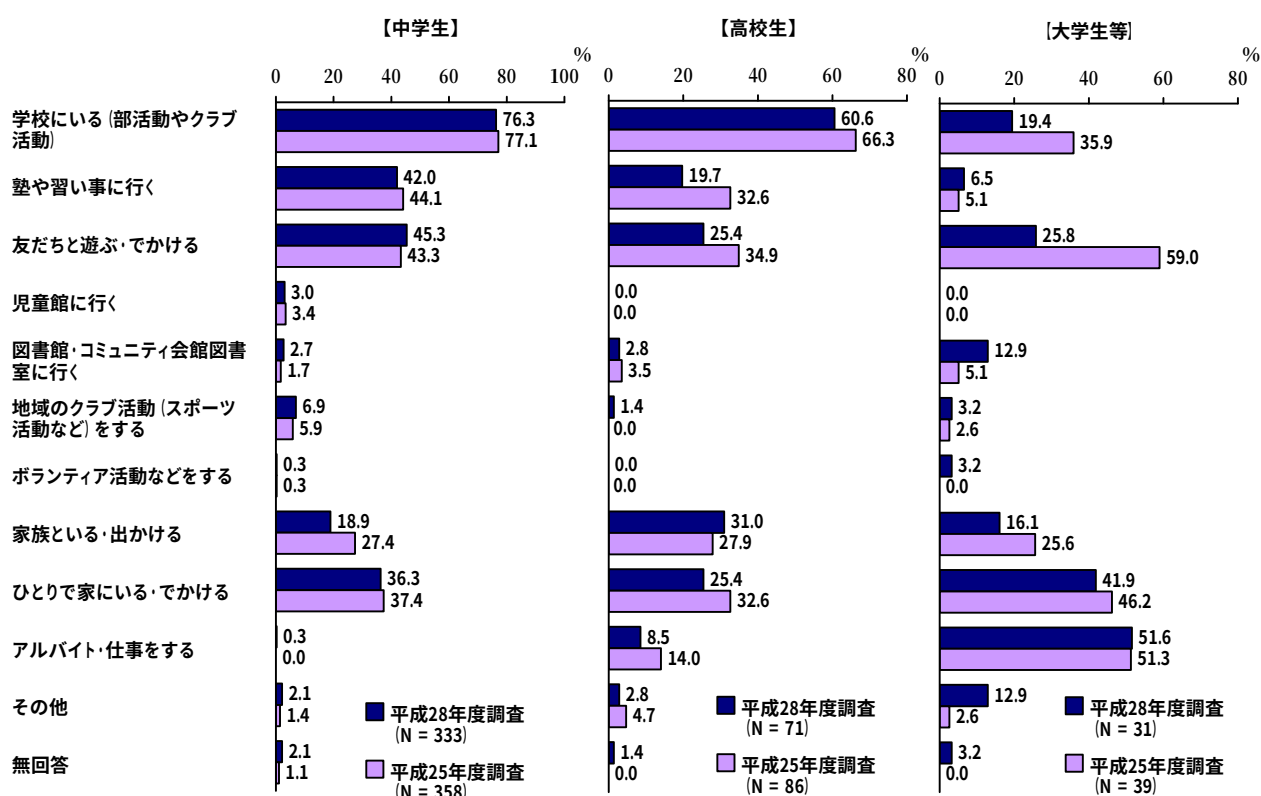
平成25年度調査と比較すると、「家族という・出かける」の割合が減少しています。

高校生では、「学校にいる（部活動やクラブ活動）」の割合が60.6%と最も高く、次いで「家族という・出かける」の割合が31.0%、「友だちと遊ぶ・でかける」、「ひとりで家にいる・でかける」の割合が25.4%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「学校にいる（部活動やクラブ活動）」「塾や習い事に行く」「友だちと遊ぶ・でかける」「ひとりで家にいる・でかける」「アルバイト・仕事をする」の割合が減少しています。

大学生等では、「アルバイト・仕事をする」の割合が51.6%と最も高く、次いで「ひとりで家にいる・でかける」の割合が41.9%、「友だちと遊ぶ・でかける」の割合が25.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「図書館・コミュニティ会館図書室に行く」の割合が増加し、「学校にいる（部活動やクラブ活動）」「友だちと遊ぶ・でかける」「家族という・出かける」の割合が減少しています。



問 13 友だちと遊んだり、でかけたりするところはどこが多いですか（主なもの3つまでに○）。

中学生では、「近くの公園や広場など屋外」の割合が58.3%と最も高く、次いで「友だちの家」の割合が44.1%、「カラオケ、ゲームセンター、まんが喫茶」の割合が26.7%となっています。

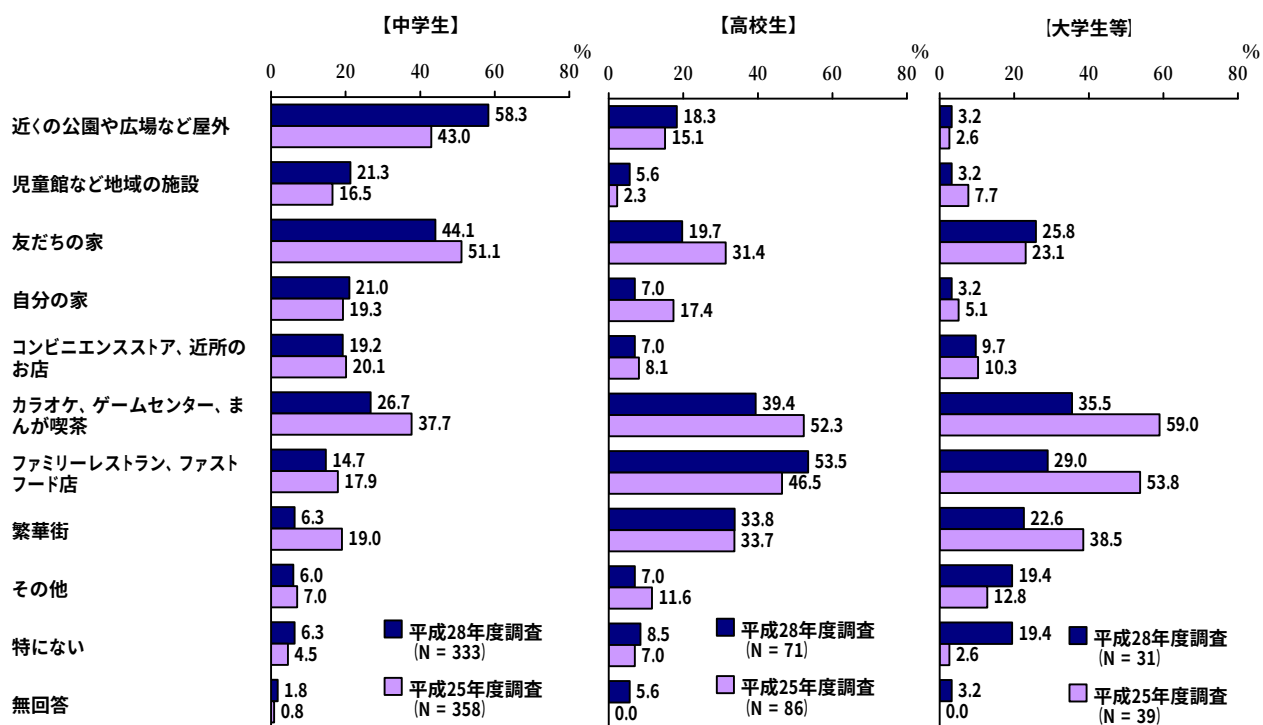
平成25年度調査と比較すると、「近くの公園や広場など屋外」の割合が増加し、「友だちの家」「カラオケ、ゲームセンター、まんが喫茶」「繁華街」の割合が減少しています。

高校生では、「ファミリーレストラン、ファストフード店」の割合が53.5%と最も高く、次いで「カラオケ、ゲームセンター、まんが喫茶」の割合が39.4%、「繁華街」の割合が33.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「ファミリーレストラン、ファストフード店」の割合が増加し、「友だちの家」「自分の家」「カラオケ、ゲームセンター、まんが喫茶」の割合が減少しています。

大学生等では、「カラオケ、ゲームセンター、まんが喫茶」の割合が35.5%と最も高く、次いで「ファミリーレストラン、ファストフード店」の割合が29.0%、「友だちの家」の割合が25.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「特にない」の割合が増加し、「カラオケ、ゲームセンター、まんが喫茶」「ファミリーレストラン、ファストフード店」「繁華街」の割合が減少しています。

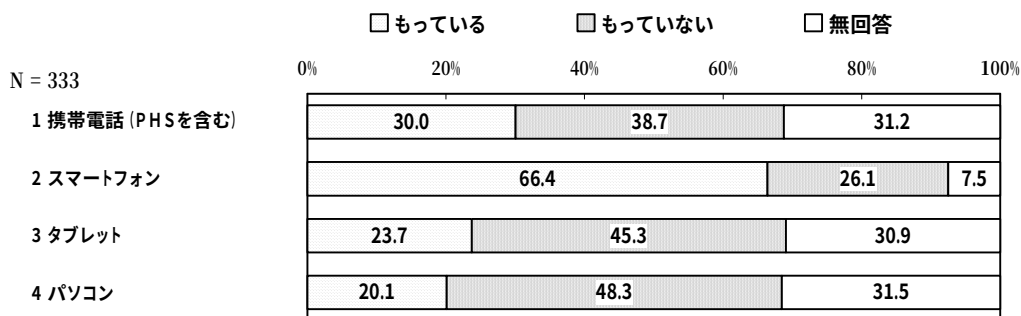


問 14 自分専用の携帯電話（PHSを含む）、スマートフォン、タブレット、パソコンを持っていますか（1～4のそれぞれについて1つに○）。また、持っている場合はそれを自分専用として使いはじめたのはいつ頃からですか。それぞれにお答えください。

（1）中学生

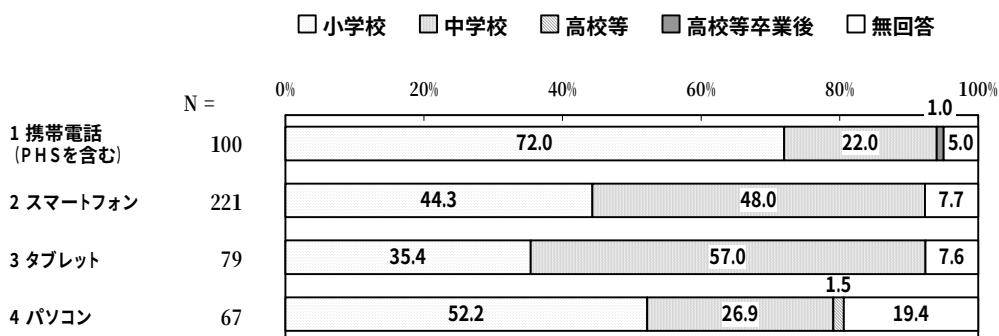
①保有状況

中学生では、スマートフォン「持っている」人の割合が6割を超えています。



②自分専用として使い始めた時期

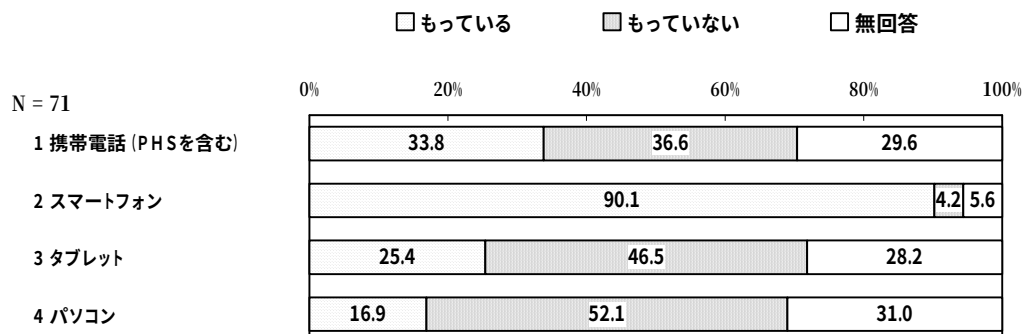
中学生では、携帯電話（PHSを含む）を「小学校」から使い始めた人の割合が約7割と高くなっています。また、パソコンも「小学校」から使い始めた人の割合が約5割と高くなっています。



（２）高校生

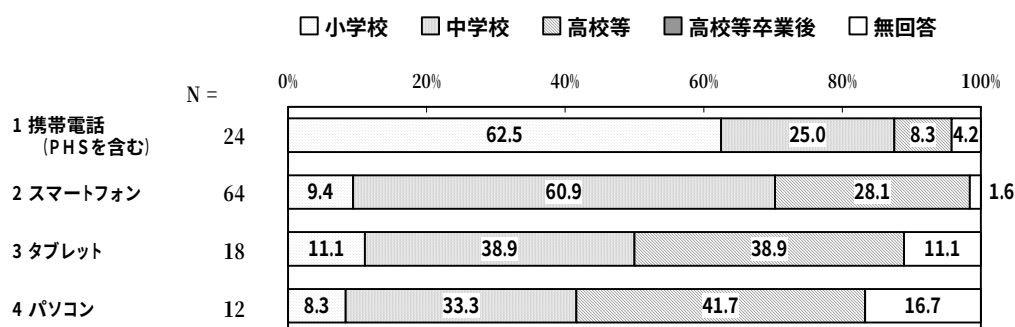
①保有状況

高校生では、スマートフォンを「もっている」人の割合が約９割となっています。



②自分専用として使い始めた時期

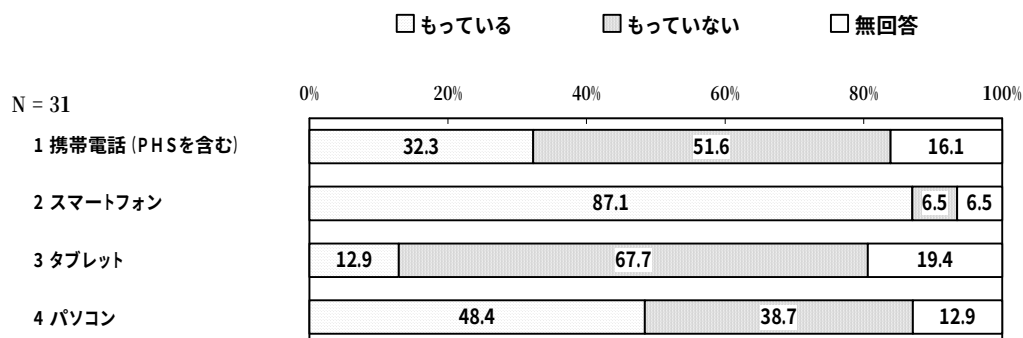
高校生では、携帯電話（PHSを含む）を「小学校」から使い始めた人、スマートフォンを「中学校」から使い始めた人の割合が約６割となっています。



（３）大学生等

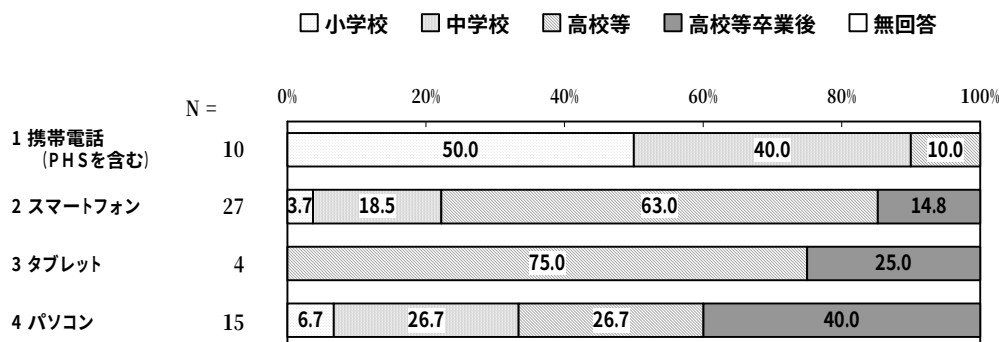
①保有状況

大学生等では、スマートフォンを「もっている」人の割合が約９割となっています。



②自分専用として使い始めた時期

大学生等では、携帯電話（PHSを含む）を「小学校」から使い始めた人の割合が約5割となっています。また、スマートフォンを「高校等」から使い始めた人の割合が約6割となっています。



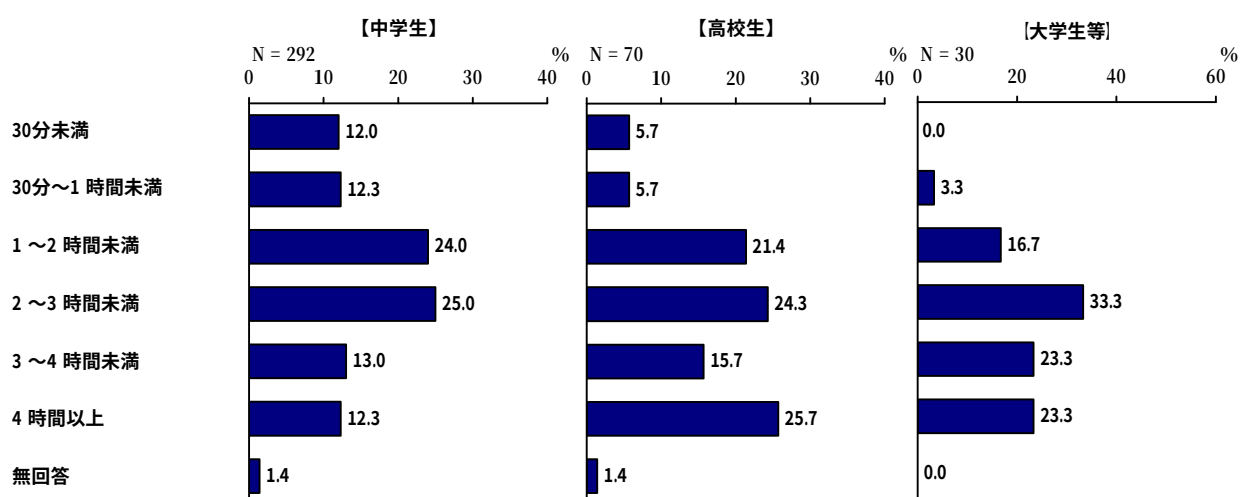
問 14 で 1 ～ 4 のどれかで「もっている」に○をつけた方にうかがいます。

問 15 1日にどれくらいの時間利用しますか（1つに○）。

中学生では、「2 ～3 時間未満」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「1 ～2 時間未満」の割合が 24.0%、「3 ～4 時間未満」の割合が 13.0%となっています。

高校生では、「4 時間以上」の割合が 25.7%と最も高く、次いで「2 ～3 時間未満」の割合が 24.3%、「1 ～2 時間未満」の割合が 21.4%となっています。

大学生等では、「2 ～3 時間未満」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「3 ～4 時間未満」、「4 時間以上」の割合が 23.3%となっています。



問 16 どんな機能を使っていますか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「メール」の割合が76.0%と最も高く、次いで「インターネット（SNSやWebページ閲覧など）」の割合が74.7%、「ゲーム」の割合が70.2%となっています。

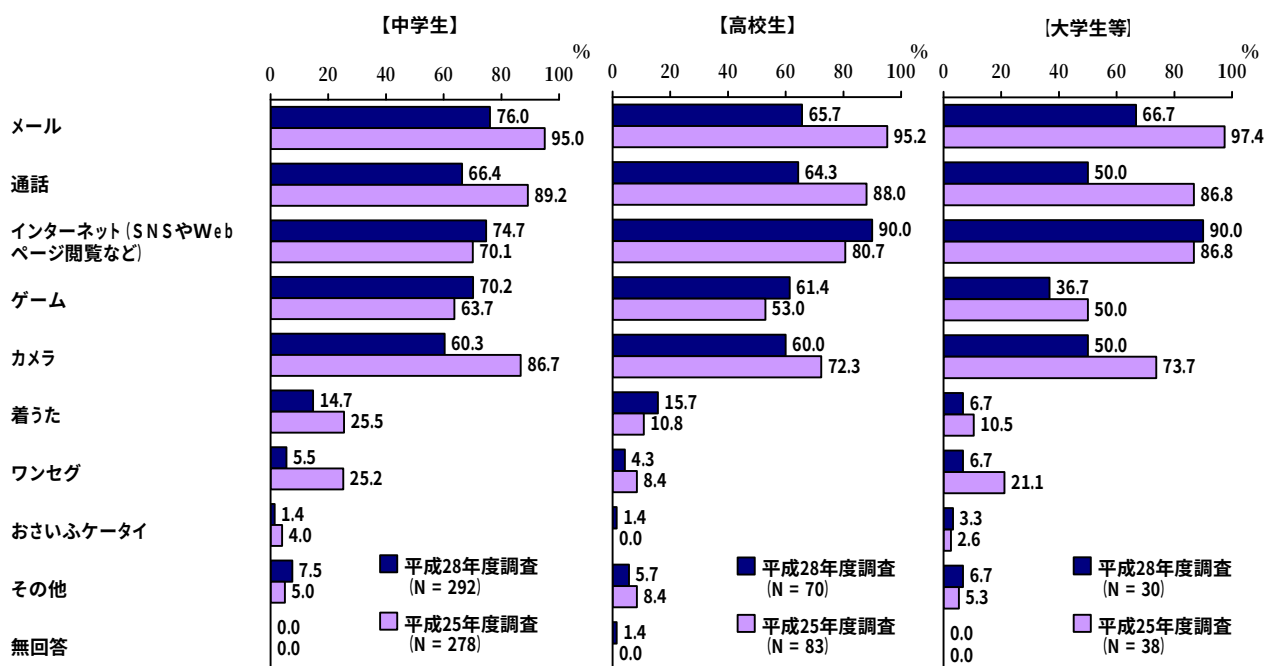
平成25年度調査と比較すると、「ゲーム」の割合が増加し、「メール」「通話」「カメラ」「着うた」「ワンセグ」の割合が減少しています。

高校生では、「インターネット（SNSやWebページ閲覧など）」の割合が90.0%と最も高く、次いで「メール」の割合が65.7%、「通話」の割合が64.3%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「インターネット（SNSやWebページ閲覧など）」「ゲーム」の割合が増加し、「メール」「通話」「カメラ」の割合が減少しています。

大学生等では、「インターネット（SNSやWebページ閲覧など）」の割合が90.0%と最も高く、次いで「メール」の割合が66.7%、「通話」「カメラ」の割合が50.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「メール」「通話」「ゲーム」「カメラ」「ワンセグ」の割合が減少しています。



問 17 インターネットでどのようなことをしていますか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「調べもの」の割合が82.2%と最も高く、次いで「（音楽や動画等の）閲覧」の割合が72.9%、「ゲーム」の割合が52.4%となっています。

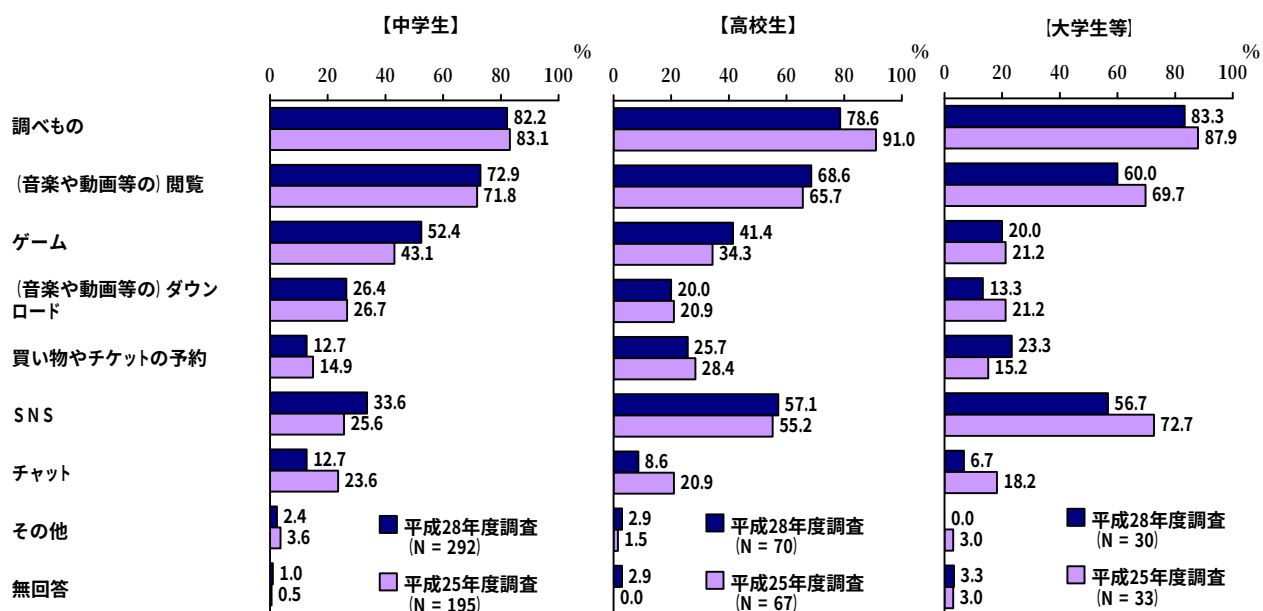
平成25年度調査と比較すると、「ゲーム」「SNS」の割合が増加し、「チャット」の割合が減少しています。

高校生では、「調べもの」の割合が78.6%と最も高く、次いで「（音楽や動画等の）閲覧」の割合が68.6%、「SNS」の割合が57.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「ゲーム」の割合が増加し、「調べもの」「チャット」の割合が減少しています。

大学生等では、「調べもの」の割合が83.3%と最も高く、次いで「（音楽や動画等の）閲覧」の割合が60.0%、「SNS」の割合が56.7%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「買い物やチケットの予約」の割合が増加し、「（音楽や動画等の）閲覧」「（音楽や動画等の）ダウンロード」「SNS」「チャット」の割合が減少しています。



問 18 携帯電話に、フィルタリングサービスまたは使いすぎ防止機能はついていますか（1つに○）。

中学生では、「わからない」の割合が 40.8%と最も高く、次いで「ついている」の割合が 33.9%、「ついていない」の割合が 13.7%となっています。

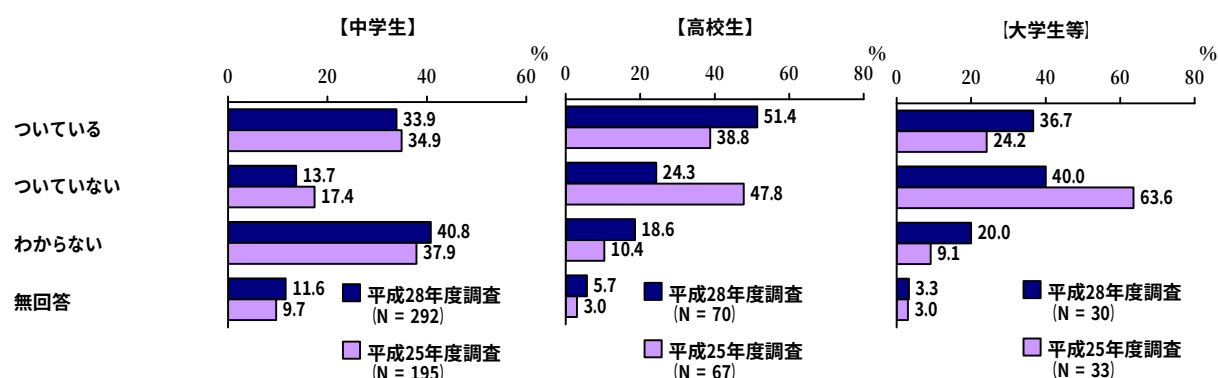
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

高校生では、「ついている」の割合が 51.4%と最も高く、次いで「ついていない」の割合が 24.3%、「わからない」の割合が 18.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「ついている」の割合が増加し、「ついていない」の割合が減少しています。

大学生等では、「ついていない」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「ついている」の割合が 36.7%、「わからない」の割合が 20.0%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「ついている」の割合が増加し、「ついていない」の割合が減少しています。

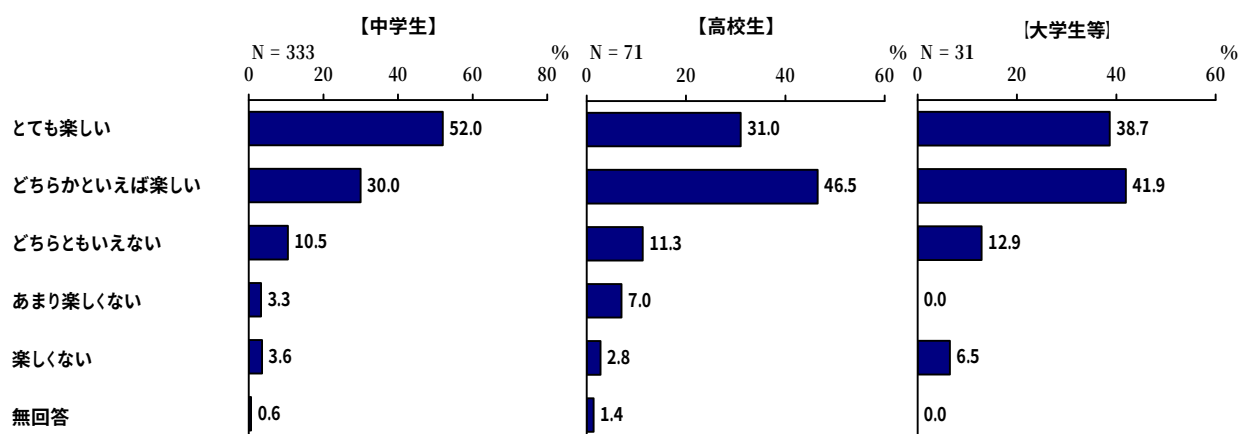


問 19 現在、生活は楽しいですか（1つに○）。学校、家庭等のすべてを含んで回答ください。

中学生では、「とても楽しい」と「どちらかといえば楽しい」をあわせた“楽しい”の割合が 82.0%、「どちらともいえない」の割合が 10.5%、「あまり楽しくない」と「楽しくない」をあわせた“楽しくない”の割合が 6.9%となっています。

高校生では、“楽しい”の割合が 77.5%、「どちらともいえない」の割合が 11.3%、“楽しくない”の割合が 9.8%となっています。

大学生等では、“楽しい”の割合が 80.6%、「どちらともいえない」の割合が 12.9%、“楽しくない”の割合が 6.5%となっています。



問 20 今、どのようなことに関心がありますか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「音楽」の割合が 64.3%と最も高く、次いで「スポーツ」の割合が 53.2%、「学校の部活動」の割合が 41.1%となっています。

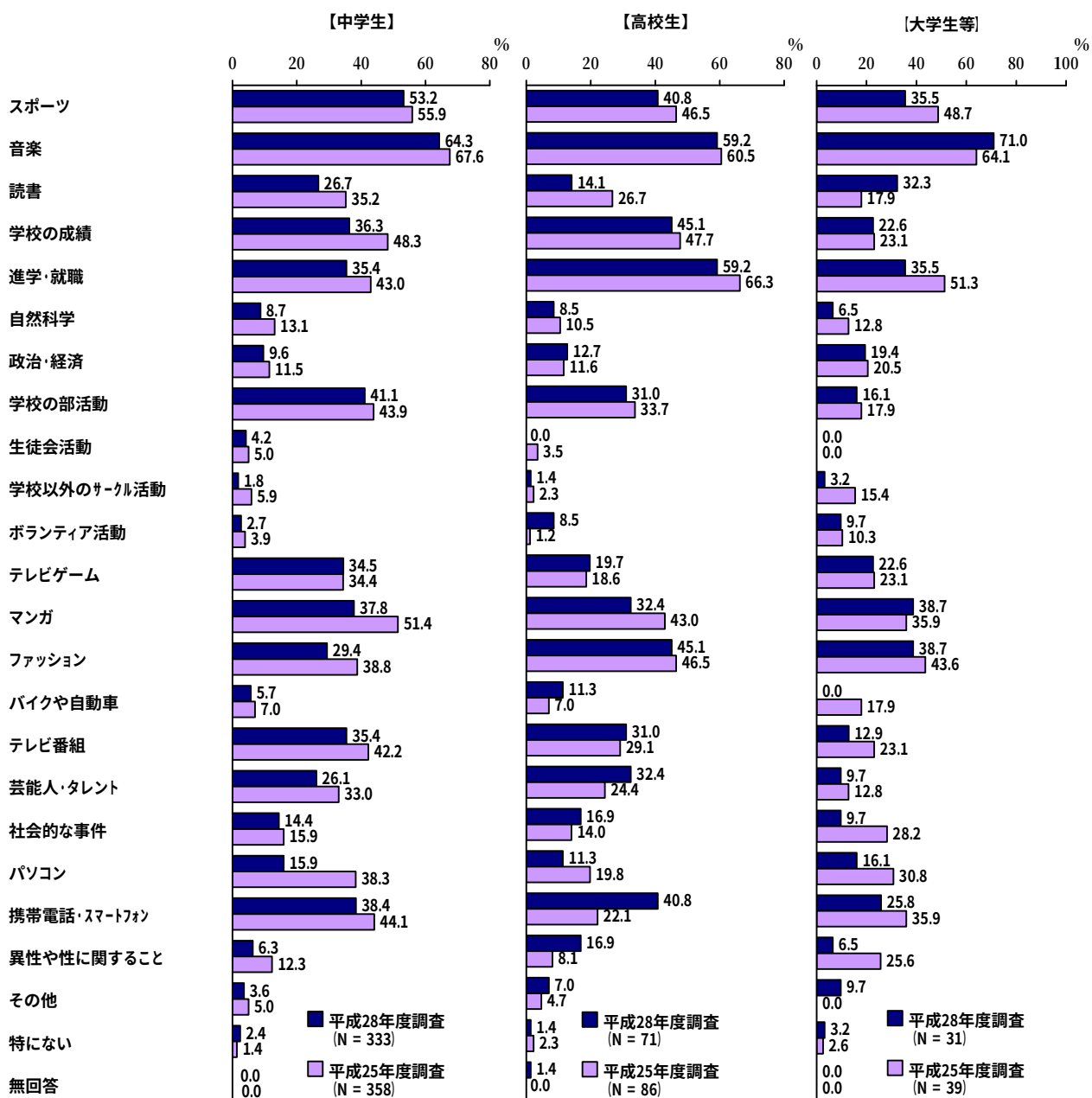
平成 25 年度調査と比較すると、「読書」「学校の成績」「進学・就職」「マンガ」「ファッション」「テレビ番組」「芸能人・タレント」「パソコン」「携帯電話・スマートフォン」「異性や性に関すること」の割合が減少しています。

高校生では、「音楽」、「進学・就職」の割合が 59.2%と最も高く、次いで、「学校の成績」、「ファッション」の割合が 45.1%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「ボランティア活動」「芸能人・タレント」「携帯電話・スマートフォン」「異性や性に関すること」の割合が増加し、「スポーツ」「読書」「進学・就職」「マンガ」「パソコン」の割合が減少しています。

大学生等では、「音楽」の割合が 71.0%と最も高く、次いで「マンガ」、「ファッション」の割合が 38.7%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「音楽」「読書」の割合が増加し、「スポーツ」「進学・就職」「自然科学」「学校以外のサークル活動」「バイクや自動車」「テレビ番組」「社会的な事件」「パソコン」「携帯電話・スマートフォン」「異性や性に関すること」の割合が減少しています。



問 21 悩みや心配なことがありますか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「勉強」の割合が 61.3%と最も高く、次いで「将来や進路」の割合が 52.0%、「運動神経（能力）」の割合が 31.2%となっています。

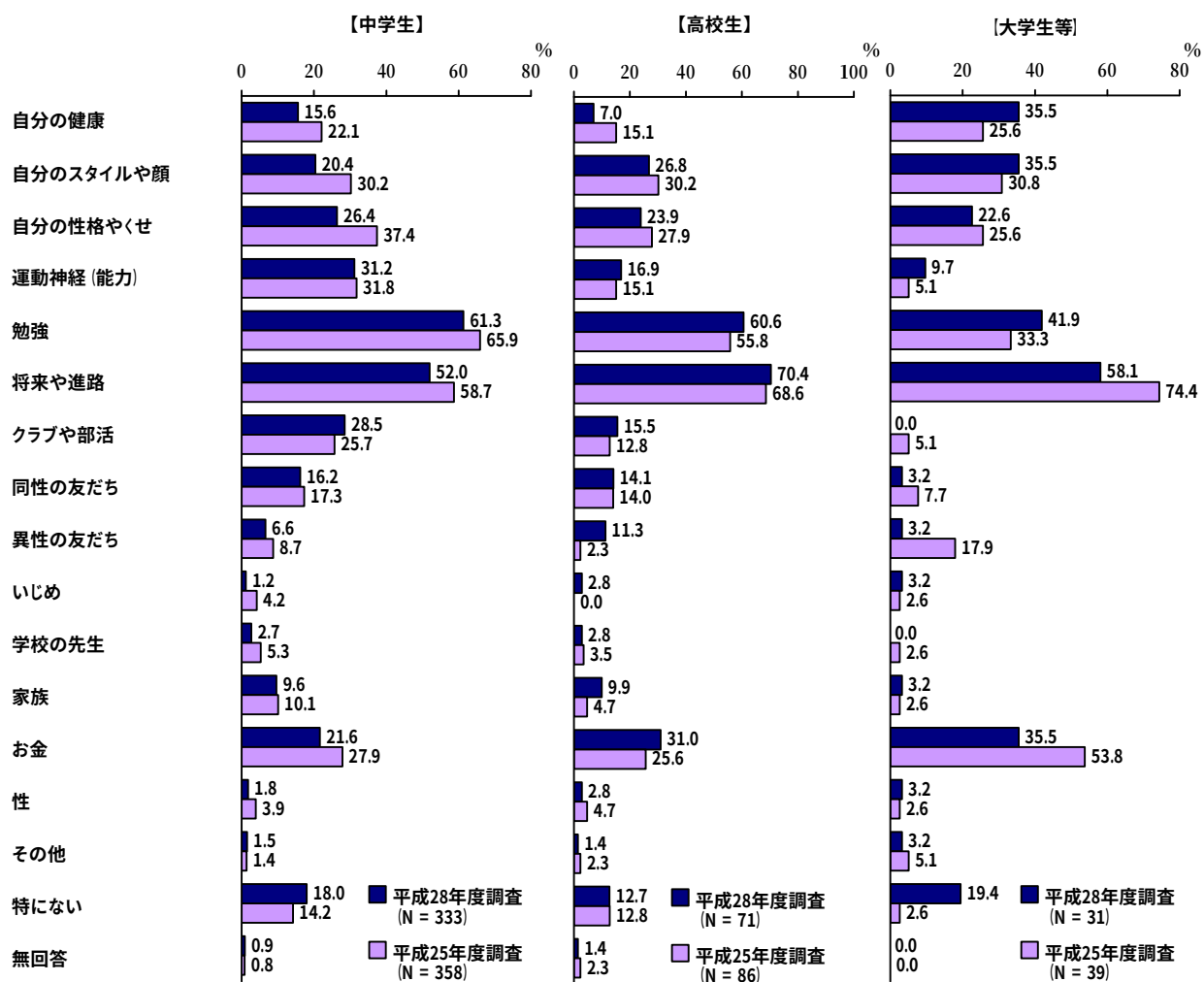
平成 25 年度調査と比較すると、「自分の健康」「自分のスタイルや顔」「自分の性格やくせ」「将来や進路」「お金」の割合が減少しています。

高校生では、「将来や進路」の割合が 70.4%と最も高く、次いで「勉強」の割合が 60.6%、「お金」の割合が 31.0%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「異性の友だち」「家族」「お金」の割合が増加し、「自分の健康」の割合が減少しています。

大学生等では、「将来や進路」の割合が 58.1%と最も高く、次いで「勉強」の割合が 41.9%、「自分の健康」の割合が 35.5%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「自分の健康」「勉強」「特にない」の割合が増加し、「将来や進路」「クラブや部活」「異性の友だち」「お金」の割合が減少しています。



問 22 悩みや心配なことはだれに相談しますか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「友だち」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「母親」の割合が 42.9%、「誰にも相談しない」の割合が 13.5%となっています。

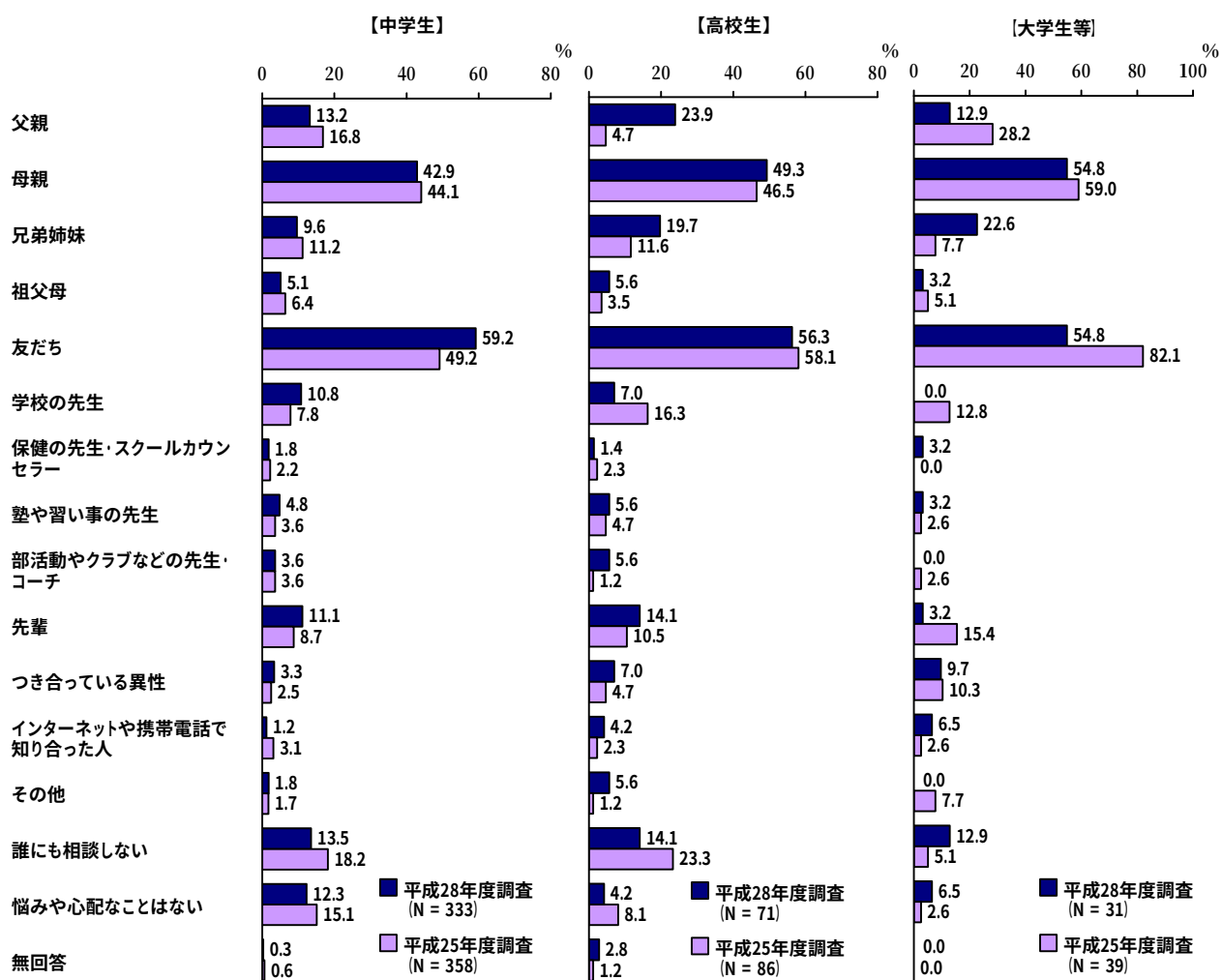
平成 25 年度調査と比較すると、「友だち」の割合が増加しています。

高校生では、「友だち」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「母親」の割合が 49.3%、「父親」の割合が 23.9%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「父親」「兄弟姉妹」の割合が増加し、「学校の先生」「誰にも相談しない」の割合が減少しています。

大学生等では、「母親」「友だち」の割合が 54.8%と最も高く、次いで、「兄弟姉妹」の割合が 22.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「兄弟姉妹」「誰にも相談しない」の割合が増加し、「父親」「友だち」「学校の先生」「先輩」の割合が減少しています。



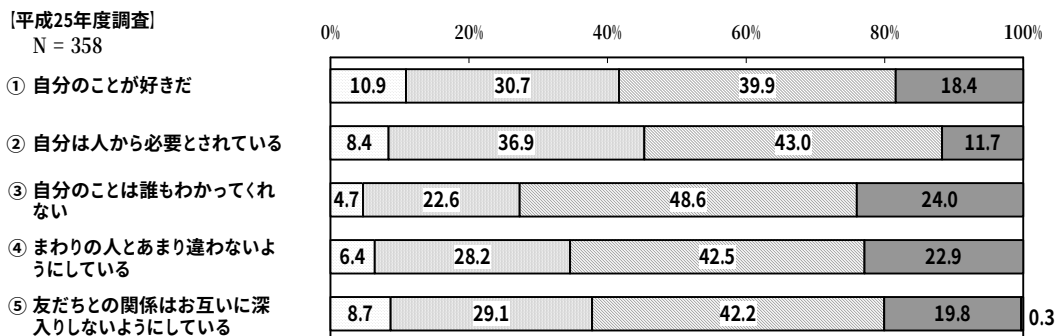
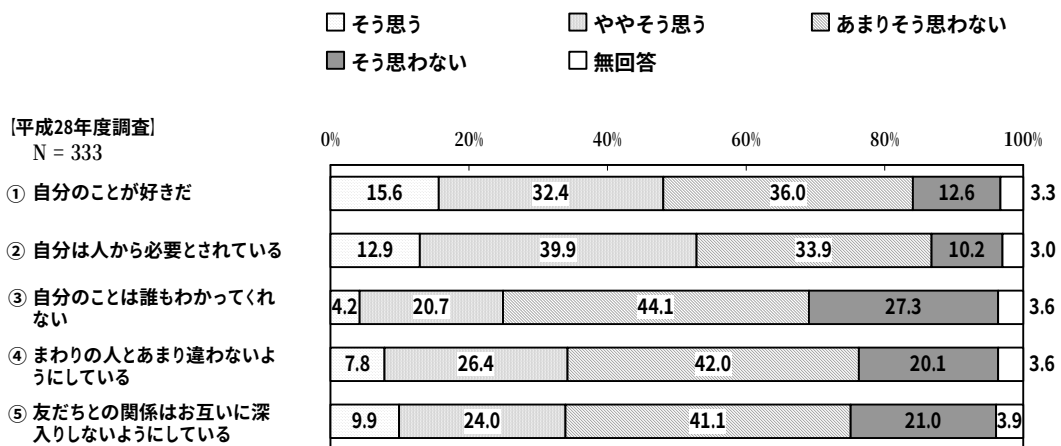
問 23 次の①～⑤の考え方や態度についてどう思いますか。もっとも近いと思うものを 1～4 の中から選んでください（それぞれ1つに○）。

（1）中学生

①自分のことが好きだ、②自分は人から必要とされているで「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、約5割となっています。もっとも、①自分のことが好きだでは「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“あまりそう思わない”の割合が“そう思う”の割合よりも高くなっています。

また、③自分のことは誰もわかってくれないで“そう思わない”の割合が高く、約7割となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、①自分のことが好きだ、②自分は人から必要とされているで“そう思う”の割合が増加しています。



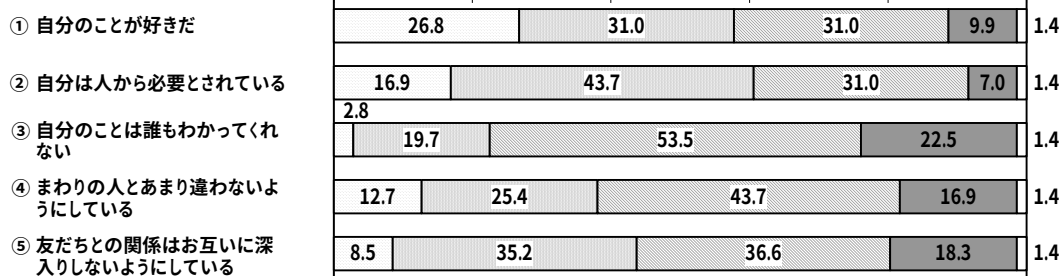
（２）高校生

①自分のことが好きだ、②自分は人から必要とされているで“そう思う”の割合が高く、約６割となっています。また、③自分のことは誰もわかってくれないで“そう思わない”の割合が高く、７割台半ばとなっています。

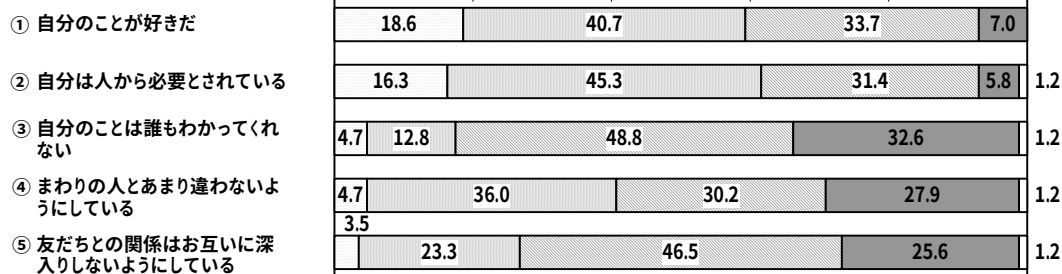
平成 25 年度調査と比較すると、③自分のことは誰もわかってくれない、⑤友だちとの関係はお互いに深入りしないようにしているで“そう思う”の割合が増加しています。

□ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない
■ そう思わない □ 無回答

[平成28年度調査]
N = 71



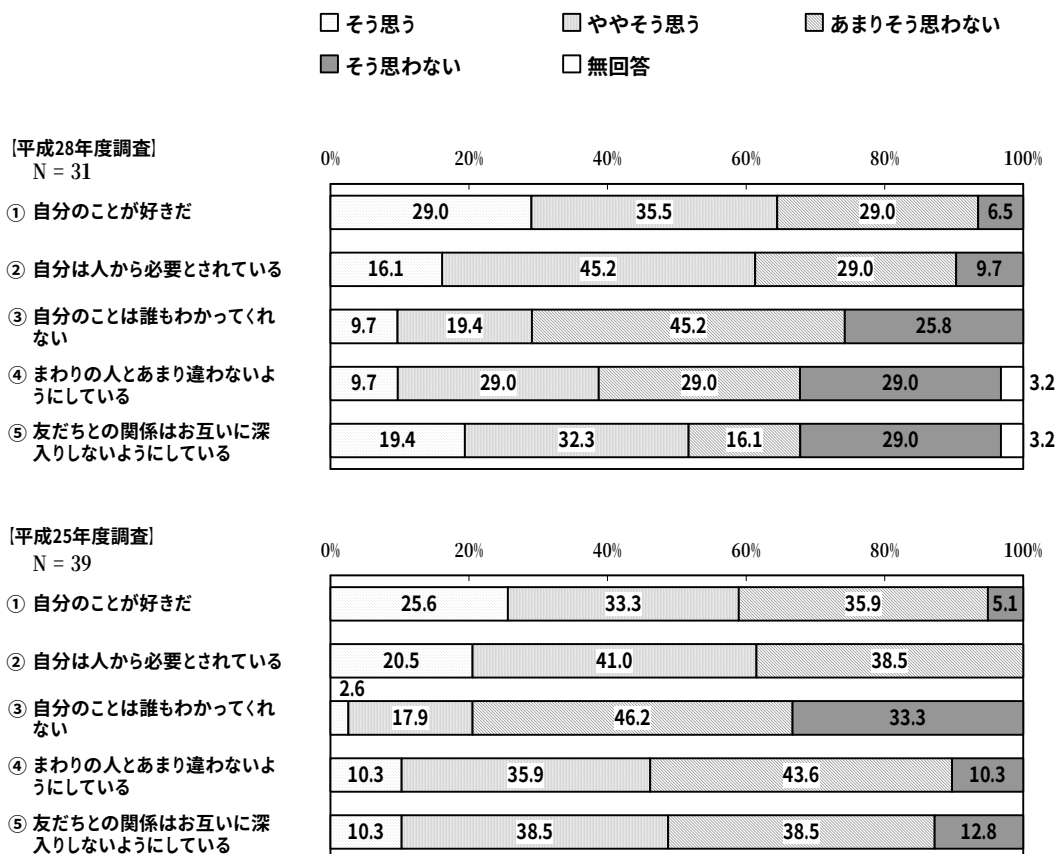
[平成25年度調査]
N = 86



(3) 大学生等

①自分のことが好きだ、②自分は人から必要とされているで“そう思う”の割合が高く、6割を超えています。また、③自分のことは誰もわかってくれないで“そう思わない”の割合が高く、約7割となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、①自分のことが好きだ、③自分のことは誰もわかってくれないで“そう思う”の割合が増加しています。また、④まわりの人とあまり違わないようにしているで“そう思う”の割合が減少しています。



問 24 将来どんな仕事につきたいですか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「自分の能力に合った仕事」の割合が 74.2%と最も高く、次いで「収入が多い仕事」の割合が 47.7%、「倒産したり、給料が減ったりしない安定した仕事」の割合が 40.8%となっています。

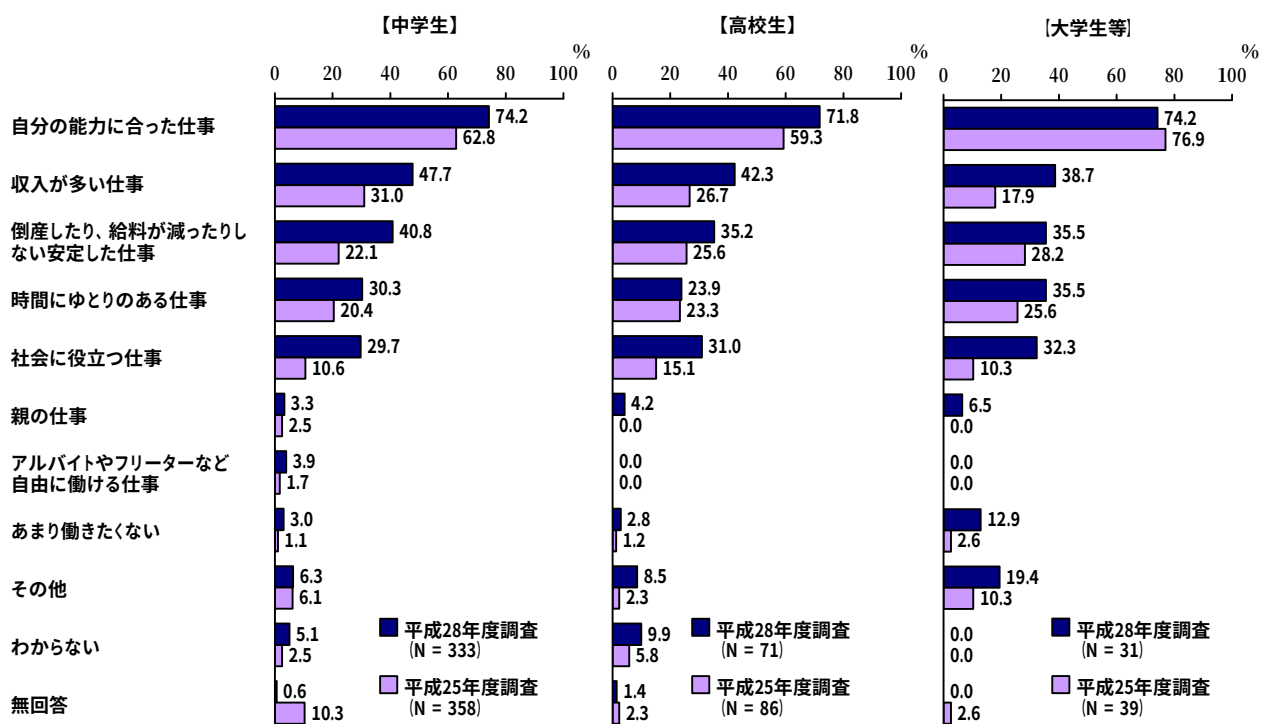
平成 25 年度調査と比較すると、「自分の能力に合った仕事」「収入が多い仕事」「倒産したり、給料が減ったりしない安定した仕事」「時間にゆとりのある仕事」「社会に役立つ仕事」の割合が増加しています。

高校生では、「自分の能力に合った仕事」の割合が 71.8%と最も高く、次いで「収入が多い仕事」の割合が 42.3%、「倒産したり、給料が減ったりしない安定した仕事」の割合が 35.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「自分の能力に合った仕事」「収入が多い仕事」「倒産したり、給料が減ったりしない安定した仕事」「社会に役立つ仕事」の割合が増加しています。

大学生等では、「自分の能力に合った仕事」の割合が 74.2%と最も高く、次いで「収入が多い仕事」の割合が 38.7%、「倒産したり、給料が減ったりしない安定した仕事」「時間にゆとりのある仕事」の割合が 35.5%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「収入が多い仕事」「倒産したり、給料が減ったりしない安定した仕事」「時間にゆとりのある仕事」「社会に役立つ仕事」「親の仕事」の割合が増加するとともに、「あまり働きたくない」の割合が増加しています。

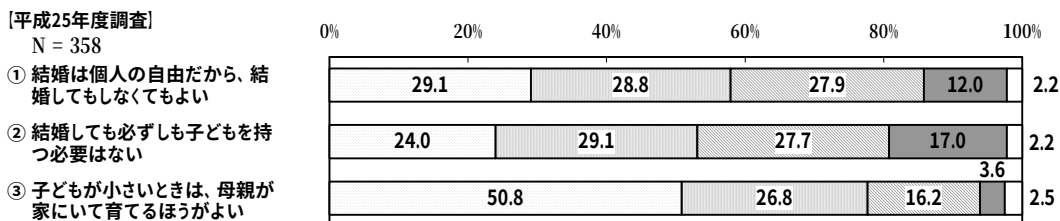
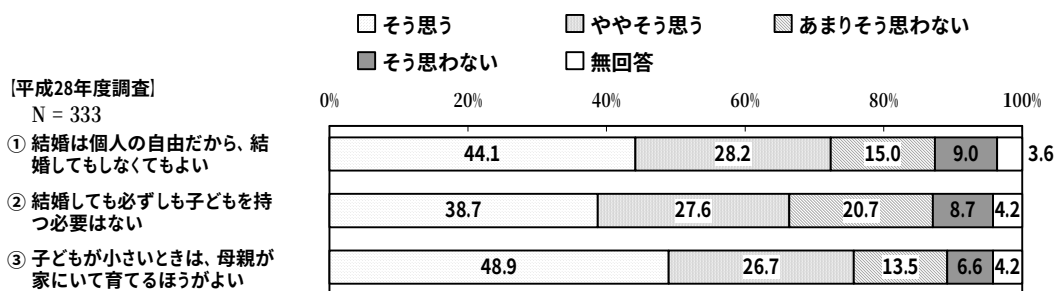


問 25 次の①～③の考え方についてどう思いますか。もっとも近いと思うものを1～4の中から選んでください（それぞれ1つに○）。

（１）中学生

中学生では、いずれの項目でも「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、特に③子どもが小さいときは、母親が家にいて育てるほうがよいで7割台半ばとなっています。

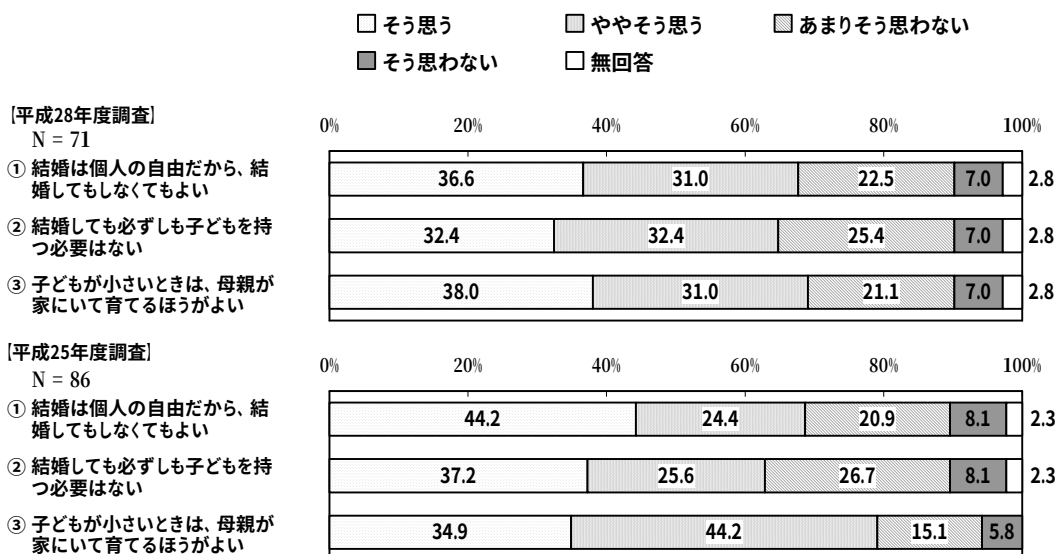
平成 25 年度調査と比較すると、①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい、②結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はないで“そう思う”の割合が増加しています。



（２）高校生

高校生では、いずれの項目でも“そう思う”の割合が高く、6割を超えています。

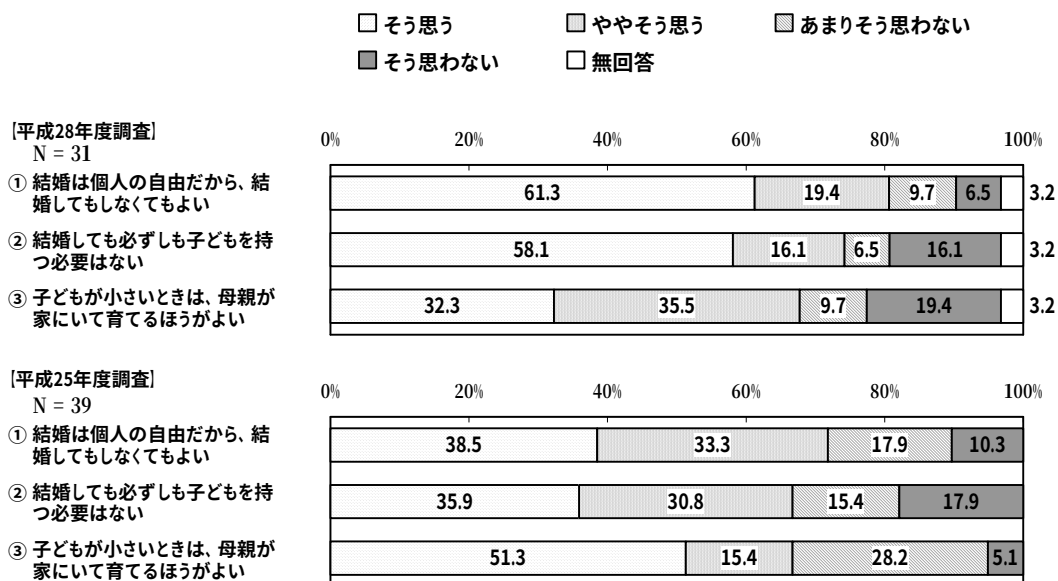
平成 25 年度調査と比較すると、③子どもが小さいときは、母親が家にいて育てるほうがよいで“そう思う”の割合が減少しています。



（３）大学生等

大学生等では、①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよいで“そう思う”の割合が高く、約８割となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、①結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい、②結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はないで“そう思う”の割合が増加しています。



問 26 結婚したいと思いますか（1つに○）。

中学生では、「将来、結婚したいと思う」と「できれば結婚したいと思う」をあわせた“結婚したいと思う”の割合が64.8%、「あまり結婚したくない」と「結婚したくない」をあわせた“結婚したくない”の割合が8.4%となっています。

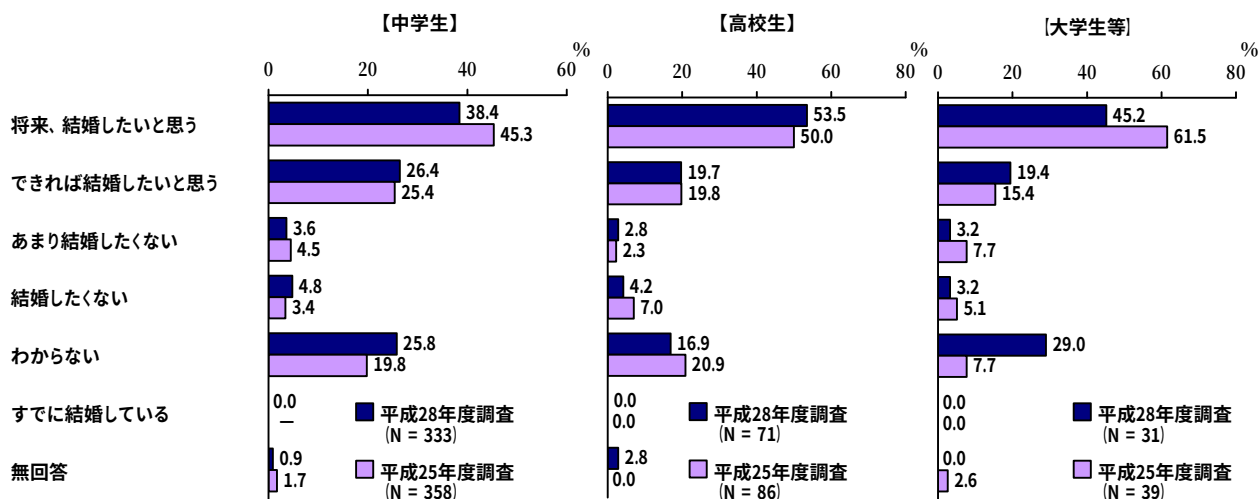
平成25年度調査と比較すると、「わからない」の割合が増加し、「将来、結婚したいと思う」の割合が減少しています。

高校生では、“結婚したいと思う”の割合が73.2%、“結婚したくない”の割合が7.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

大学生等では、“結婚したいと思う”の割合が64.6%、“結婚したくない”の割合が6.4%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「将来、結婚したいと思う」の割合が減少しています。



【性別・年代別】

“結婚したいと思う”の割合の男女差は、中学生では女性が男性より3.6ポイント、高校生では女性が男性より6.6ポイント高くなっています。一方、大学生等では男性が女性より3.5ポイント高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数(件)	将来、結婚したいと思う	できれば結婚したいと思う	あまり結婚したくない	結婚したくない	わからない	すでに結婚している	無回答
全体		435	41.4	24.8	3.4	4.6	24.6	—	1.1
中学生	男性	169	37.3	26.0	2.4	4.7	28.4	—	1.2
	女性	157	40.1	26.8	5.1	4.5	22.9	—	0.6
高校生	男性	33	54.5	15.2	—	6.1	21.2	—	3.0
	女性	38	52.6	23.7	5.3	2.6	13.2	—	2.6
大学生等	男性	12	41.7	25.0	—	—	33.3	—	—
	女性	19	47.4	15.8	5.3	5.3	26.3	—	—

※性別・年代別無回答者数：7人

問 27 子どもを何人ほしいと思いますか（1つに○）。

中学生では、「2人」の割合が39.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が36.3%となっています。

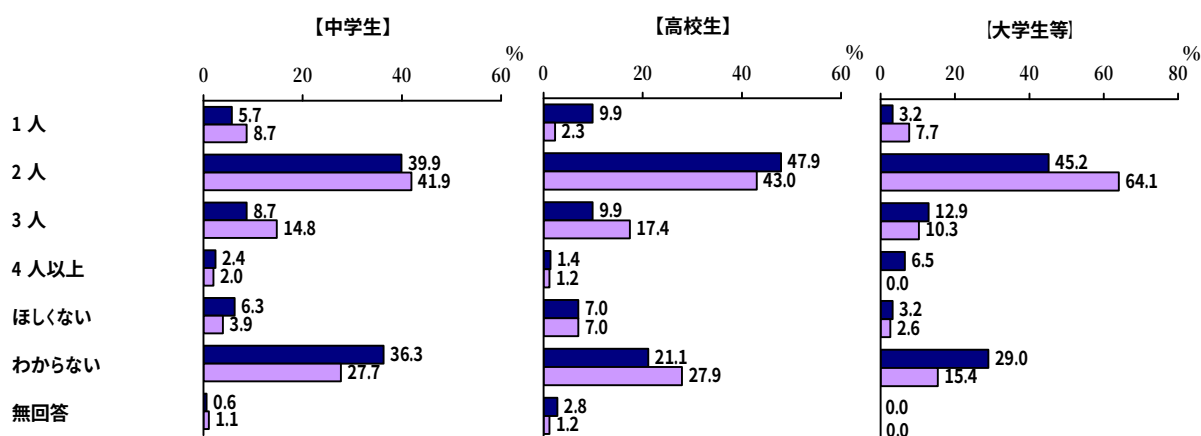
平成25年度調査と比較すると、「3人」の割合が減少しています。

高校生では、「2人」の割合が47.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が21.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「1人」の割合が増加し、「3人」の割合が減少しています。

大学生等では、「2人」の割合が45.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が29.0%、「3人」の割合が12.9%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「2人」の割合が減少しています。

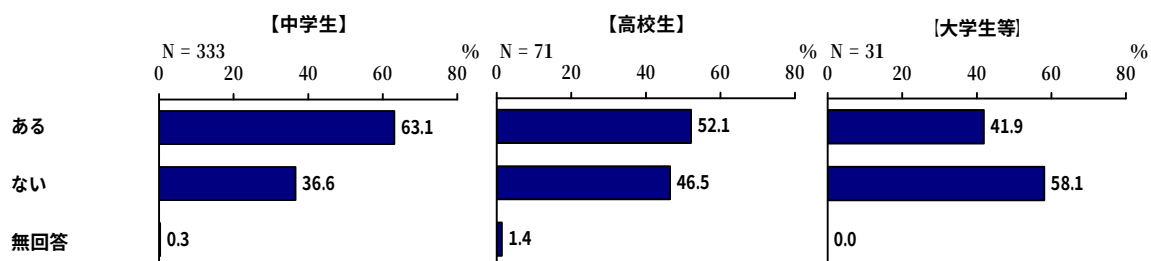


問 28 これまでに赤ちゃん（0歳～1歳くらいまで）を直接お世話（抱っこしたことや、ミルクを飲ませたこと、おむつを替えたことなど）をしたことがありますか（1つに○）。

中学生では、「ある」の割合が63.1%、「ない」の割合が36.6%となっています。

高校生では、「ある」の割合が52.1%、「ない」の割合が46.5%となっています。

大学生等では、「ある」の割合が41.9%、「ない」の割合が58.1%となっています。



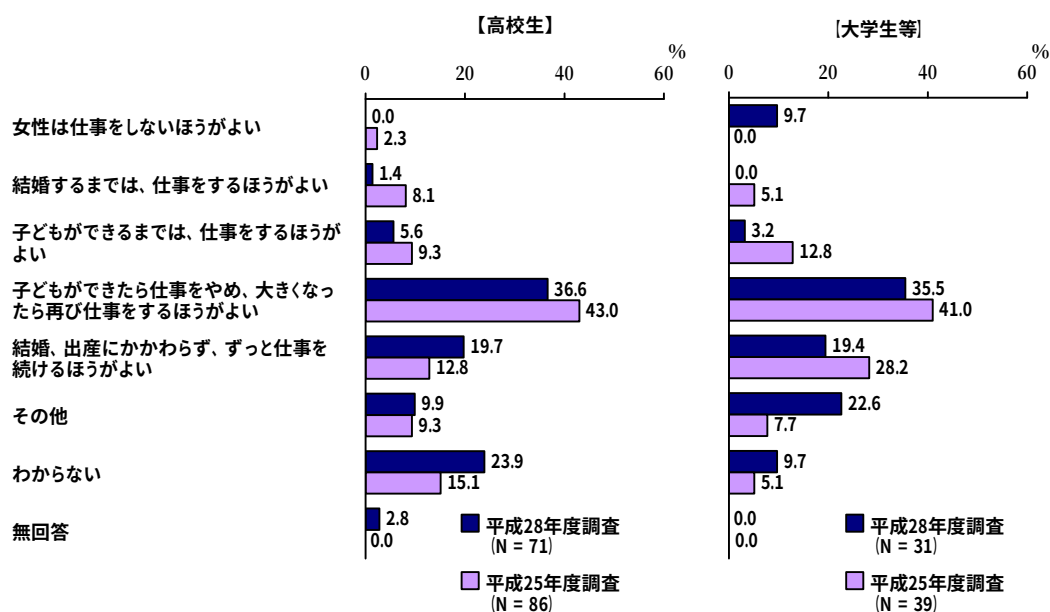
問 29 女性が仕事をするについて、どう思いますか（もっとも近いもの1つに○）。

高校生では、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をするほうがよい」の割合が 36.6%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 23.9%、「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が 19.7%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が増加し、「結婚するまでは、仕事をするほうがよい」「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をするほうがよい」の割合が減少しています。

大学生等では、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をするほうがよい」の割合が 35.5%と最も高く、次いで「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が 19.4%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「女性は仕事をしないほうがよい」の割合が増加し、「結婚するまでは、仕事をするほうがよい」「子どもができるまでは、仕事をするほうがよい」「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をするほうがよい」「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が減少しています。



問 30 家庭での子育てや家事は、どのようにするのがよいと思いますか（1つに○）。

中学生では、「家族全員で分担し協力するのがよい」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「夫婦で分担し協力するのがよい」の割合が 33.3%となっています。

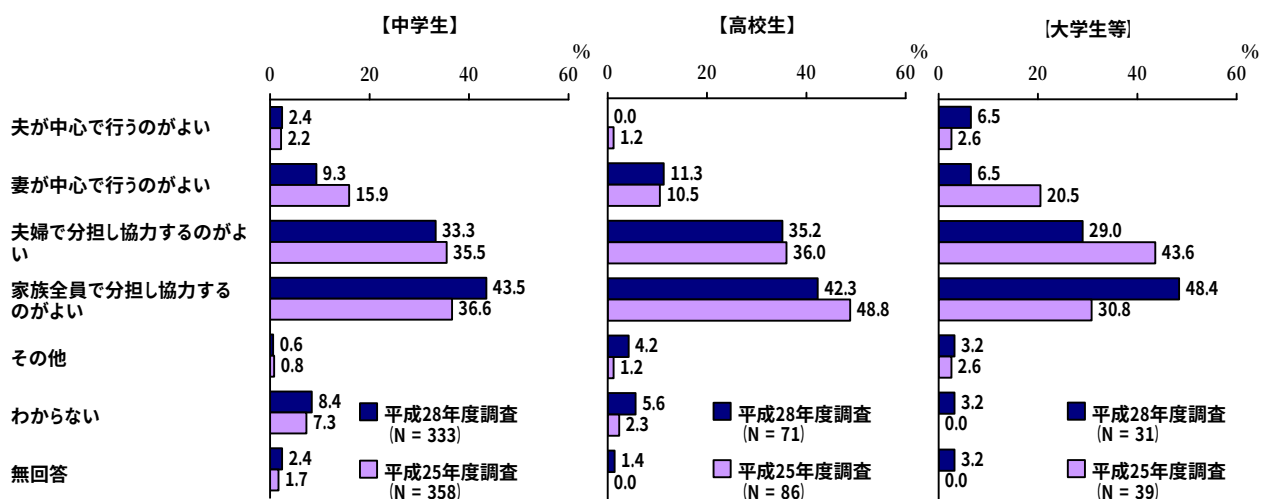
平成 25 年度調査と比較すると、「家族全員で分担し協力するのがよい」の割合が増加し、「妻が中心で行うのがよい」の割合が減少しています。

高校生では、「家族全員で分担し協力するのがよい」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「夫婦で分担し協力するのがよい」の割合が 35.2%、「妻が中心で行うのがよい」の割合が 11.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「家族全員で分担し協力するのがよい」の割合が減少しています。

大学生等では、「家族全員で分担し協力するのがよい」の割合が 48.4%と最も高く、次いで「夫婦で分担し協力するのがよい」の割合が 29.0%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「家族全員で分担し協力するのがよい」の割合が増加し、「妻が中心で行うのがよい」「夫婦で分担し協力するのがよい」の割合が減少しています。



【性別・年代別】

中学生の女性、高校生の女性、大学生の男女で「家族全員で分担し協力するのがよい」の割合が高く、約5割となっています。また、高校生の男性で「夫婦で分担し協力するのがよい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数	夫が中心で行うのがよい	妻が中心で行うのがよい	夫婦で分担し協力するのがよい	家族全員で分担し協力するのがよい	その他	わからない	無回答
全体		435	2.3	9.4	33.3	43.7	1.4	7.6	2.3
中学生	男性	169	4.1	8.3	35.5	35.5	0.6	13.6	2.4
	女性	157	0.6	9.6	31.2	52.9	0.6	2.5	2.5
高校生	男性	33	—	9.1	39.4	36.4	6.1	9.1	—
	女性	38	—	13.2	31.6	47.4	2.6	2.6	2.6
大学生等	男性	12	8.3	—	25.0	50.0	—	8.3	8.3
	女性	19	5.3	10.5	31.6	47.4	5.3	—	—

※性別・年代別無回答者数：7人

問 31 学校や先生に対して、どのような要望がありますか（あてはまるものすべてに○）。

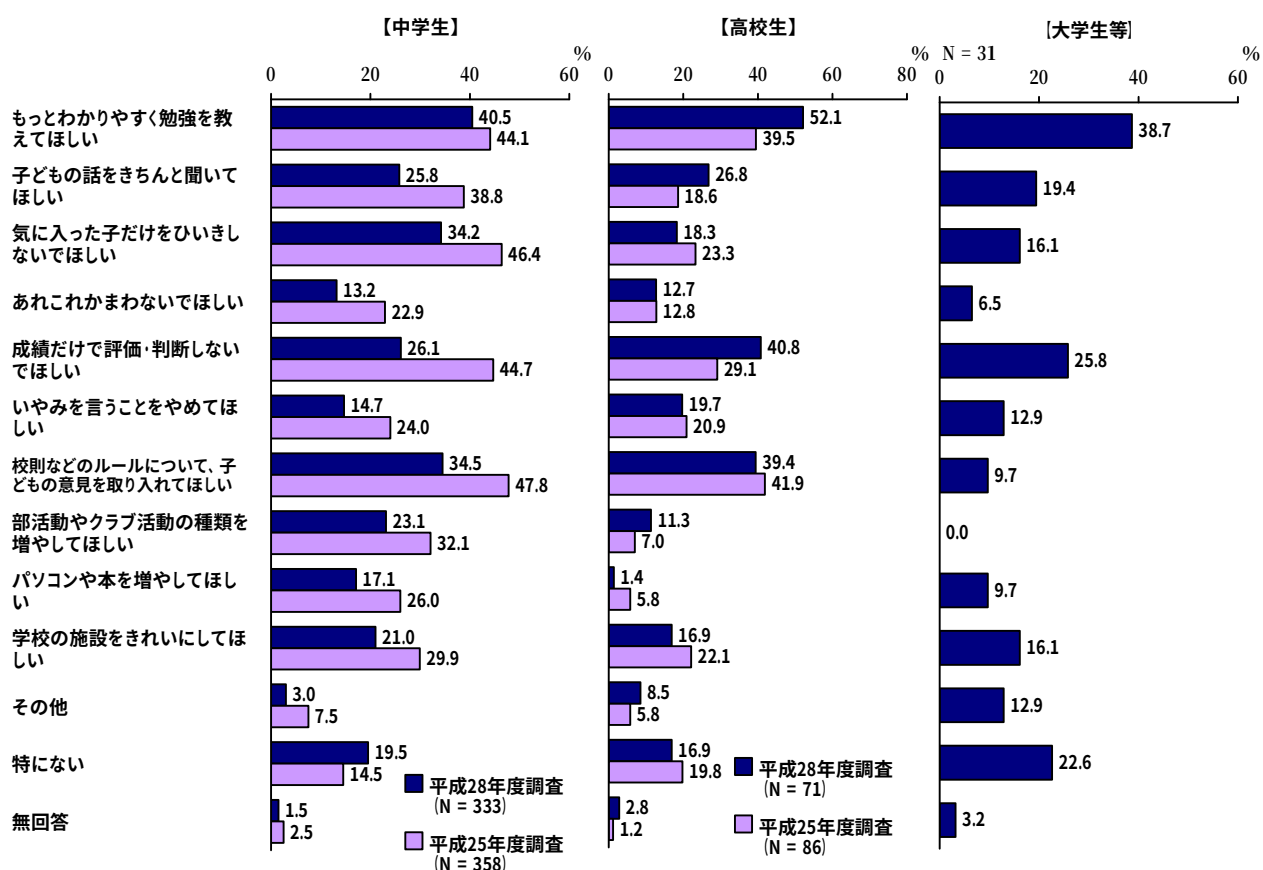
中学生では、「もっとわかりやすく勉強を教えてほしい」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「校則などのルールについて、子どもの意見を取り入れてほしい」の割合が 34.5%、「気に入った子だけをひいきしないでほしい」の割合が 34.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「特にない」の割合が増加し、「もっとわかりやすく勉強を教えてほしい」「その他」を除くすべての項目の割合が減少しています。

高校生では、「もっとわかりやすく勉強を教えてほしい」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「成績だけで評価・判断しないでほしい」の割合が 40.8%、「校則などのルールについて、子どもの意見を取り入れてほしい」の割合が 39.4%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「もっとわかりやすく勉強を教えてほしい」「子どもの話をきちんと聞いてほしい」「成績だけで評価・判断しないでほしい」の割合が増加し、「気に入った子だけをひいきしないでほしい」「学校の施設をきれいにしてほしい」の割合が減少しています。

大学生等では、「もっとわかりやすく勉強を教えてほしい」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「成績だけで評価・判断しないでほしい」の割合が 25.8%、「特にない」の割合が 22.6%となっています。



※平成 25 年度調査では大学生等については実施していません。

問 32 大人になっても墨田区に住みたいと思いますか（1つに○）。

中学生では、「住みたいと思う」と「どちらかというに住みたいと思う」をあわせた“住みたいと思う”の割合が45.6%、「どちらかというに住みたいと思わない」と「住みたいと思わない」をあわせた“住みたいと思わない”の割合が26.4%となっています。

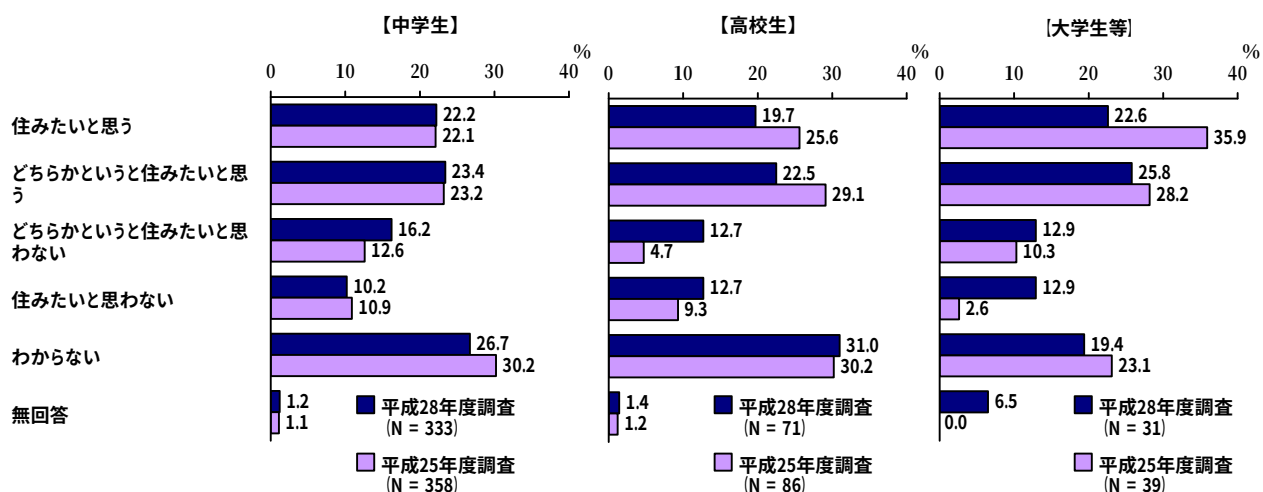
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

高校生では、“住みたいと思う”の割合が42.2%、“住みたいと思わない”の割合が25.4%となっています。

平成25年度調査と比較すると、“住みたいと思わない”の割合が増加しています。

大学生等では、“住みたいと思う”の割合が48.4%、“住みたいと思わない”の割合が25.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、“住みたいと思わない”の割合が増加しています。



【性別・年代別】

性別・年代別でみると、大学生等の男性で“住みたいと思う”の割合が高く、6割台半ばとなっています。また、大学生等の女性で“住みたいと思わない”の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数(件)	住みたいと思う	どちらかというに住みたいと思う	どちらかというに住みたいと思わない	住みたいと思わない	わからない	無回答
全体		435	21.8	23.4	15.4	10.8	26.9	1.6
中学生	男性	169	26.6	19.5	10.7	13.0	29.0	1.2
	女性	157	18.5	28.0	21.7	7.0	23.6	1.3
高校生	男性	33	27.3	21.2	15.2	6.1	30.3	—
	女性	38	13.2	23.7	10.5	18.4	31.6	2.6
大学生等	男性	12	25.0	41.7	—	—	25.0	8.3
	女性	19	21.1	15.8	21.1	21.1	15.8	5.3

※性別・年代別無回答者数：7人

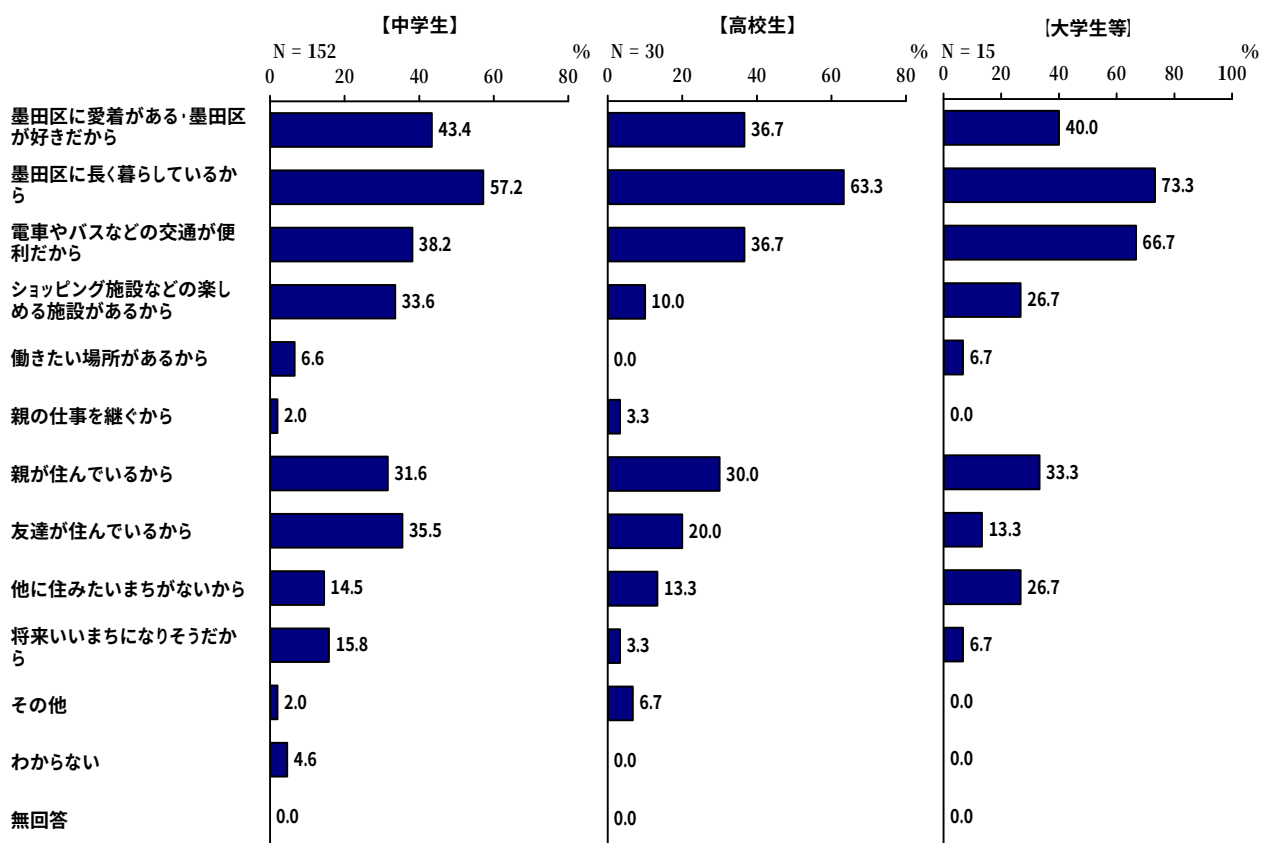
問 32 で「1. 住みたいと思う」「2. どちらかというに住みたいと思う」に○をつけた方にうかがいます。

問 33 大人になっても墨田区に住みたいと思う理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「墨田区に長く暮らしているから」の割合が 57.2%と最も高く、次いで「墨田区に愛着がある・墨田区が好きだから」の割合が 43.4%、「電車やバスなどの交通が便利だから」の割合が 38.2%となっています。

高校生では、「墨田区に長く暮らしているから」の割合が 63.3%と最も高く、次いで「墨田区に愛着がある・墨田区が好きだから」、「電車やバスなどの交通が便利だから」の割合が 36.7%となっています。

大学生等では、「墨田区に長く暮らしているから」の割合が 73.3%と最も高く、次いで「電車やバスなどの交通が便利だから」の割合が 66.7%、「墨田区に愛着がある・墨田区が好きだから」の割合が 40.0%となっています。



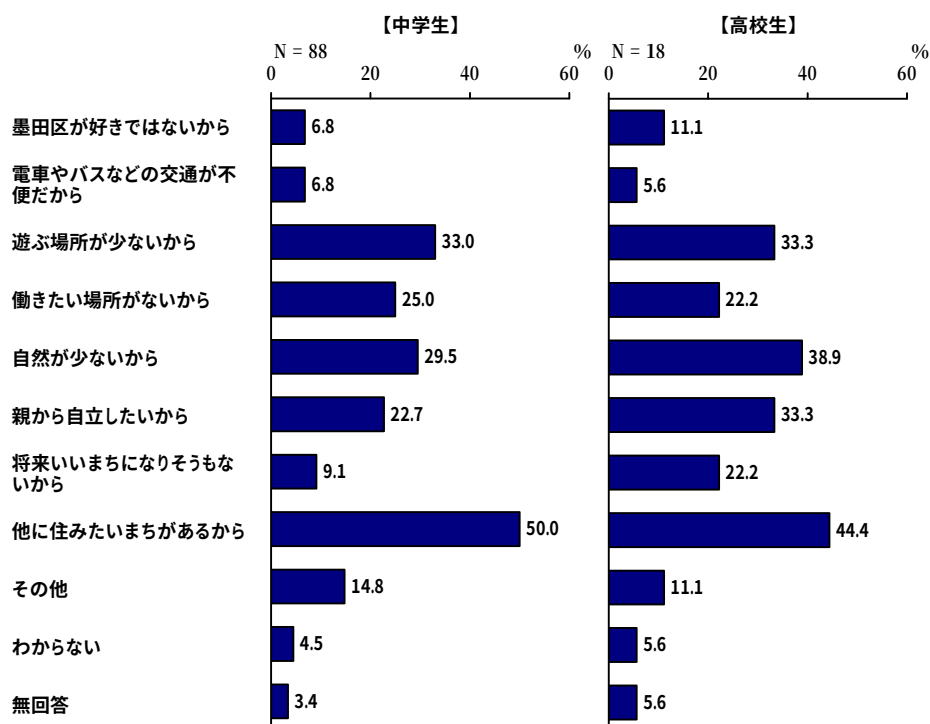
問 32 で「3. どちらかというに住みたいと思わない」「4. どちらかというに住みたいと思わない」に○をつけた方にうかがいます。

問 34 大人になったら墨田区に住みたいと思わない理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「他に住みたいまちがあるから」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「遊ぶ場所が少ないから」の割合が 33.0%、「自然が少ないから」の割合が 29.5%となっています。

高校生では、「他に住みたいまちがあるから」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「自然が少ないから」の割合が 38.9%、「遊ぶ場所が少ないから」、「親から自立したいから」の割合が 33.3%となっています。

大学生等では、「自然が少ないから」、「他に住みたいまちがあるから」が4件、「電車やバスなどの交通が不便だから」、「親から自立したいから」、「将来いいまちになりそうもないから」が1件となっています。



※大学生等 (N = 8)

中学生・高校生の方に学校生活についてうかがいます。

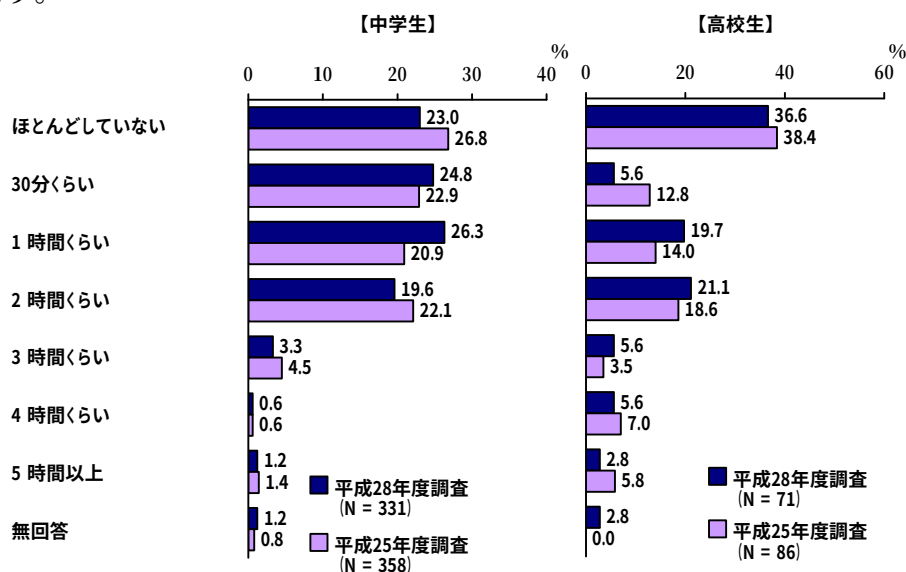
問 35 ふだん、学校以外で1日何時間くらい勉強をしていますか（1つに○）。

中学生では、「1 時間くらい」の割合が 26.3%と最も高く、次いで「30 分くらい」の割合が 24.8%、「ほとんどしていない」の割合が 23.0%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「1 時間くらい」の割合が増加しています。

高校生では、「ほとんどしていない」の割合が 36.6%と最も高く、次いで「2 時間くらい」の割合が 21.1%、「1 時間くらい」の割合が 19.7%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「1 時間くらい」の割合が増加し、「30 分くらい」の割合が減少しています。



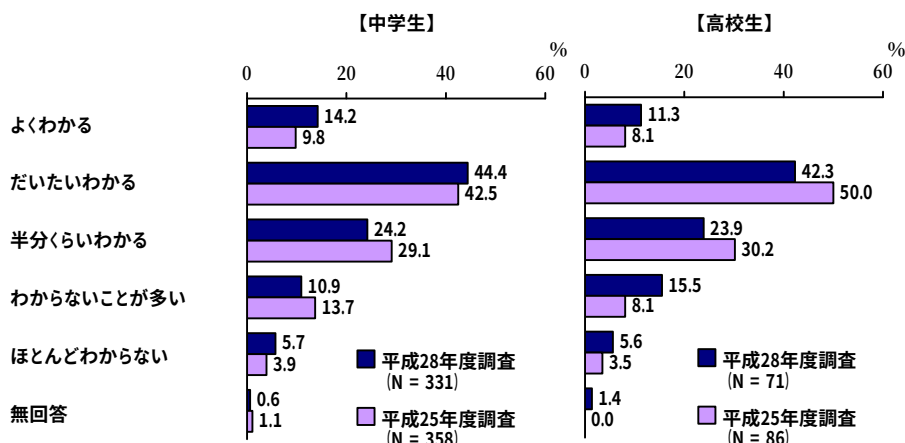
問 36 学校の授業はよくわかりますか（1つに○）。

中学生では、「だいたいわかる」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「半分くらいわかる」の割合が 24.2%、「よくわかる」の割合が 14.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

高校生では、「だいたいわかる」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「半分くらいわかる」の割合が 23.9%、「わからないことが多い」の割合が 15.5%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「わからないことが多い」の割合が増加し、「だいたいわかる」「半分くらいわかる」の割合が減少しています。



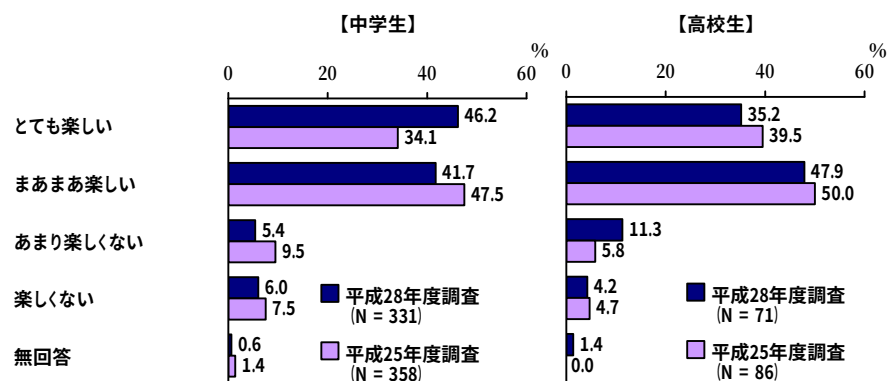
問 37 学校は楽しいですか（1つに○）。

中学生では、「とても楽しい」と「まあまあ楽しい」をあわせた“楽しい”の割合が 87.9%、「あまり楽しくない」と「楽しくない」をあわせた“楽しくない”の割合が 11.4%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「とても楽しい」の割合が増加し、「まあまあ楽しい」の割合が減少しています。

高校生では、“楽しい”の割合が 83.1%、“楽しくない”の割合が 15.5%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、“楽しくない”の割合が増加しています。



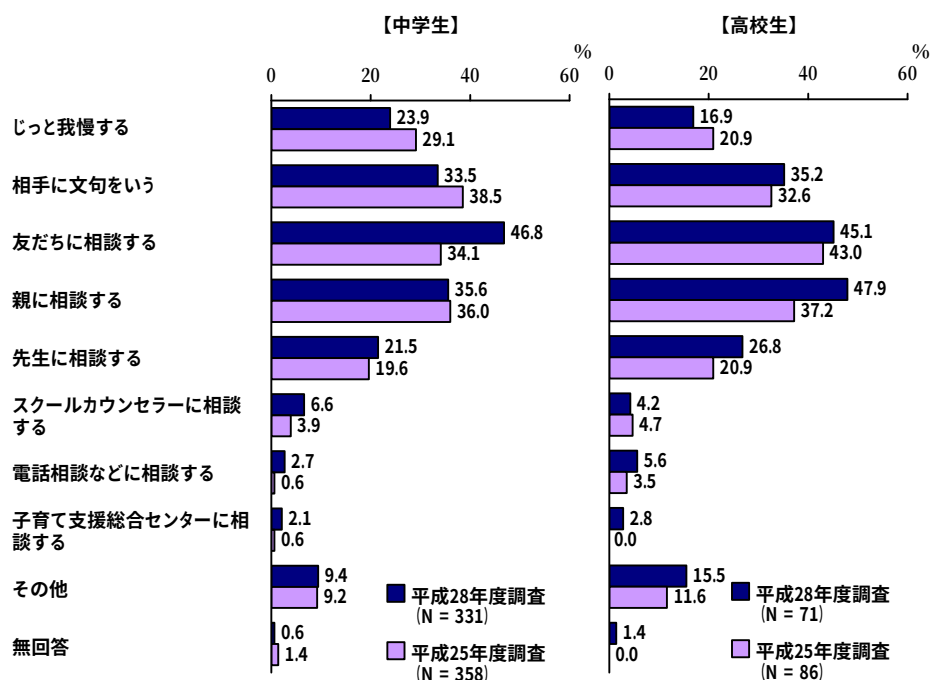
問 38 もし、あなたがいじめを受けたらどうしますか（あてはまるものすべてに○）。

中学生では、「友だちに相談する」の割合が 46.8%と最も高く、次いで「親に相談する」の割合が 35.6%、「相手に文句をいう」の割合が 33.5%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「友だちに相談する」の割合が増加し、「じっと我慢する」「相手に文句をいう」の割合が減少しています。

高校生では、「親に相談する」の割合が 47.9%と最も高く、次いで「友だちに相談する」の割合が 45.1%、「相手に文句をいう」の割合が 35.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「親に相談する」「先生に相談する」の割合が増加しています。



III 自由意見

自由意見を現行計画の計画の柱（基本目標、施策の方向性）に基づき整理し、件数表示しました。また、その中から、課題につながると考えられる意見を抜粋しました。

1 就学前の子どもの保護者

基本目標① 子どもの最善の利益を優先します（22 件）

項目	件数
（1）子どもの豊かな育ちを育む場・機会の充実	8 件
・義務教育の間は子どもが安全に過ごせる時間が欲しい。親が安心してフルタイムで働けるようにしてほしい。 ・子ども向けのイベントと言っても対象が幼児から小学校高学年など幅広いので合わせたものをしてほしい。 ・隣の台東区に比べてあまり表立って墨田区は子どものためにやっている行事などが少ない気がします。	
（2）子どもの生きるための基礎的な力を育成する環境の整備	6 件
・保育園にも教育を取り入れてほしい。保育園等の評価をもっとわかりやすくしてほしい。収入によって保育負担額が変わるなら多めに納めている人から希望順に入れて欲しい。ひとり親などは優先のままでよい。 ・学力向上のための取り組みをもっとしてほしい。学校の先生の授業の質を上げるため、先生一人ひとりの業務内容（雑用など）を軽減し、先生のサポートの人数を増やすなどしてあげてほしい。1 クラス小人数制度をもっと広く取り入れて欲しい。 ・母親が働いていなくとも子どもが2人、3人となれば助けが必要となる。安全に健やかに成長できるように学校と協力して運動能力・学力共に伸ばせるような基礎づくりをお願いしたい。	
（3）子どもの心とからだの健康づくりの促進	8 件
・墨田区は公園が充実しているし、地域の方の目も温かいので子育ては基本的にしやすいです。ただ、病児保育の支援など仕事と両立するにはまだ負担が親に重たいと感じるところもあるのは確かです。 ・一時保育の充実。利用したくても2週間で受付終了になることも。人数を増やすか、場所の増加。	

基本目標② 保育の量的整備のみならず、保育の質を重視します（224 件）

項目	件数
（1）親と子の健康づくりの促進	3 件
・不妊への理解や支援があると心強いです。 ・このアンケートに取り掛かって書き終わるまで10日かかりました。それぐらい育児には時間も余裕ありません。時間の無駄にならないよう、よりよい育児環境が整えられることを期待します。	
（2）子育て支援サービスの充実	67 件
・もっと自由に安心してママが子どもを預けられる場が欲しい。先日、一時保育に地元の先生が大声で大人同士で揉めながら子どもたちを散歩させている風景を見ました。ありえないと思います。 ・学童が小学3年生で終わってしまうので小4～6年生向けのプログラムがあるとよいと思います。学童を延長するのではなく、別のプログラムを希望。学童の延長は小4だと飽きてしまうため。もし学童を延長するとしてもプログラムが必要だと思います。 ・子育てサービスは多いけど認知が低い。サービスがかぶっている、妊婦健診の費用が高い。保育園に空きがない。働けない。子育てサービスの一本化をした方が良い。	

(3) 認定こども園・保育所・幼稚園等の教育・保育サービスの拡充と質の向上	154 件
・マンション等が多く建設されている割に保育園が少ない。なかなか認可に入れない状況をどうにかしてほしい。 ・公立保育園の先生の質を上げてほしい。マニュアル通りの対応ばかりされるとがっかりします。それぞれにきめ細やかな対応を希望します。子育てしやすい墨田区にしていってください。 ・保育の環境を整えてほしい。待機児童を解消してほしい。	

基本目標③ 困難を抱えた子どもと家庭への支援体制を手厚くします (67 件)

項目	件数
(1) ひとり親家庭等への支援	2 件
・ひとり親が過ごしやすい町を作ってください。 ・ひとり親のことを、もっと理解してほしい。学童クラブを高学年まで利用できるようにしてほしい。	
(2) 障害のある子どもの発達と成長支援	3 件
・小学校や中学校を統合して空いた校舎に大きな幼保一体の園を拠点ごとに作った方が良いと思う。障害がある子に加配の教員がつけやすくなると思います。小学校不登校の子も通いやすいフリースクール等も区にできたらよいと思います。 ・障害児のいる家庭は、家庭の負担も大きく就労を続けていくためにも児童デイサービスが必要ですが、空きがほとんどなく取り合いの状態になっているため、児童デイサービスを増やしてほしいです。 ・今回、対象の子について記入していますが、健常児と障害児、医療ケア児の支援の差がありすぎます。同じくらいに手を差し伸べてほしい。そして、子育て支援課の方々も障害福祉課の方々と情報交換しながら同じ子ども、人間としてちょっと違うところはあると思いますが、どんな子どもでも安心して健やかに育てられる、墨田区になってほしい。	
(3) 保護が必要な子どもとその家庭への支援	2 件
・障害を持っている子どもでも安心して預けられる場所（一時保育などで）がほしいです。 ・私には2人の子どもがおり、シングルマザーです。下の子どもには軽い障害があります。はっきりいって生活がとても苦しいです。今は家の家賃を払うので精いっぱいな状況です。保育園は公立認可保育所を利用していますが、あまり融通もきかず、障害がある子にも全く手厚くなく、残念です。本当に困っている人達のことをもう少し（家賃控除など）考えていただきたいです。	
(4) 子育て家庭への経済的な支援と生活が困窮している子どもとその家庭への支援	60 件
・児童手当がもう少し増えたり幼稚園への入園時の助成金が充実してくれるとありがたい。公園で、大人へ地域の方の目が届くような何かがあるとよいな、と思います。 ・保育料の減額、子どもが多い家庭への支援を増やしてほしい。育児・出産にかかる費用の負担の支援。税の免除もしくは負担軽減、高収入者からの税負担の協力、議員の収入を他へ回す、中小企業の給料アップ、雇用形態の多様化。子どもを育てながら仕事をする大変さを行政側がもっと理解するべきだと思います。 ・親族と同居しているが、ひとり親世帯。最初の保育料通知は0円だったのに同居人の収入があるから約3万に。同居人の収入があるため扶養手当はもらえない。手当はあげないけど保育料払って、では、貯まるものも貯まりません。貯まらないから自立が出来ない。	

基本目標④ 地域の子育て力及び連携を強化します（63 件）

項目	件数
（１）親同士のつながりと子育て力の育成	5 件
・もっと親子共々気軽に参加できる行事があれば参加したいです。親同士の交流がないため。 ・就労している親向けに土・日祝にもサービスを増やしてほしいです。4 か月から預けている為、離乳食の話があった5 か月学級に参加できず、平日行われているベビーマッサージなどもやりたかったが、土日祝はやっておらず残念に思っています。 ・母親の繋がりを作ることが難しいのでセミナーやイベント（バザーなど）が、もっとあると（あるのなら、もっと広めて教えて頂きたいです）良いと思う。子ども同士のつながりをもっと多くしていただきたいのですが、父母が働いているので難しいです。	
（２）地域の子育て力の育成と協働	23 件
・各サービスも自宅の近くでなければ利用したいと思えず難しいです。自転車・車の利用が出来ればよいのですが、それもできず、なかなか活用は出来ていません。 ・子どもたちが安心して過ごせる場所が自宅以外にも色々あるような地域であってほしいと思います。 ・地区というのが壊れているせいで隣の家の同じ地区の付き合いが全くないのが問題だとずっと思っています。保育園・幼稚園の友達結局よその地区・小学校も選択制、うちの子、隣の子が別々の小学校。挨拶も遊びもしないのはこの制度・地域愛のなさのせい。地区それぞれが固まればおのずと子育てを共有できて助け合えるのではないのでしょうか。核家族が多く、地方出身者同士が親になる。誰も頼れないのは地域間の交流が無さすぎだから。地域一丸となって子どもを育てる。ここがテーマだと思います。「みんなの学校」をぜひ見てください。	
（３）企業等の子育て力との協働	11 件
・育休をフルで取っても戻れる仕事（職場）であってほしい。事業所内保育所があるとよいと思う。 ・子育てへの理解が伴わない企業への繰り返し長期的な行政の指導が必要だと思います。現実には難しいかもしれませんが、墨田区には頑張ってほしいです。 ・長時間労働の改善、親の就業形態に関わらず利用できる保育サービス（幼稚園を選択するとその後フルタイムの職業に就くことが難しいです）プレーパークのような自然と触れ合える公園、受動喫煙を無くしてほしい。（外出すると必ず誰かの煙を吸うので困っています。歩きタバコが多いです）	
（４）個々のニーズに即した子育て支援ネットワークの構築	3 件
・区役所の違う課（子育て支援課と子ども課等）同士での情報共有をしてほしい。情報発信を積極的に行ってほしい。 ・交流会。 ・仕事や結婚等の都合により、移住してきた者にとっては、地縁のないところでの子育ては大変厳しいものです。親が病気になっても頼れる人もいない為、とても心細く、難しいと感じています。幸い就職により保育園に入園できたことで大いに救われたと思っています。このように頼れる者がいない世帯への配慮等が充実することを望みます。	
（５）子どもの安全・安心を守るための環境の整備	21 件
・公園にホームレスがいて安心して遊べない。遊ばせられない。公園トイレのオストメイト用設備をシャワー代わりに使う人がある。 ・道路が狭いのに交通量が多く、外でのびのび遊ばせられない。企業などで子どもに何か体験できるイベントなどがあると地域密着感がでる。子育てのイベントをもっと分かりやすく知らせてほしい。 ・強風や砂ぼこり、遊具の安全性への不安からゆっくり遊ばせられる公園がありません。見直しをしていただければ幸いです。	

基本目標⑤ ワーク・ライフ・バランスを踏まえた支援を実施します（118 件）

項目	件数
（１）ワーク・ライフ・バランスの実現にむけた環境づくりの推進	17 件
・ワーク・ライフ・バランスを変えずに子育てできる環境になってほしい。保育園から学童まで、安心して子供を預けられるようになってほしい。 ・育児中でも働きやすい環境を作ってほしいのと、保育園にも入りやすく。近所に頼れる親族がない場合のサポートも充実していただけると安心してもっと長時間働けます（働きたいです）。 ・子どもが小さいうちは、パートで働きたいが、会社では認められなかった。希望者には週３日勤務を認めてほしい。	
（２）子育てにやさしいまちづくりの推進	82 件
・公園の充実（安心して遊ばせられる遊具・場所・ボールの使用できる環境づくり）によって子どもだけでも行かせやすい。 ・他の区と比較してより子育てがしやすい環境となるようにしてほしい。現在保育園を探しているが、子育て世帯が墨田区で増えている現状に、区が全く対応しておらず、非常に不満に感じている状況が変わらないようであれば、他の地区へ引っ越しも検討しています。ホームページの情報の共有など、より明確な情報の提供を希望します。 ・道路状況（自転車専用レーンがガタガタでひかれそうになる）。歩きタバコや自転車に乗っての喫煙が多すぎるので条例でどうにかしてほしい。	
（３）子育て家庭の視点に立った情報の発信	19 件
・せっかく子育て世代へのサービスなどがあっても、その情報が行き届いていないと思います。特に、地方出身者だったりすると本当によく分からない。母子手帳をもらう時、３か月検診など皆が行くところで情報が分かるように、また相談できるようにしてほしいです。 ・子育てに関しての情報を得るのに自分から動かないと得られない。他の区では子育て施設やサービスを受けられる場所のマップがあったり無料で一時保育のサービスがあったりしてうらやましい。幼稚園も少ないので引っ越しも考えたりする。 ・色々なサービスがあるのは知っているが、色々なパンフレットに記載されていて分かりにくい。もっとコンパクトにまとめてほしい。情報発信をいろいろバラバラにしているので無駄を除いて統一した方がよい。	

・アンケートについて（14 件）

・アンケートが長くて疲れました。母親を対象に子育てに関する意見交換会をやったらどうですか。もっと生の声を聴けると思いますよ。 ・行政に多くを求めている自分がいることに気付いた。結局子育ては自分で行動しない限り子どもが新しい世界に飛び込んではいけないのでは。アンケートの設問が漠然としすぎていて答え方が難しかった。児童館などで定期的にアンケートを配布したり、意見を届けられる手段があるとよい。 ・保育園によっては閉園時間が早かったり、学童クラブも勤務時間に則した時間帯ではないため、お母さんたちは非常に苦慮していると思います。もっと具体的に、アンケートを取るべきだと思います。

・その他

・ドッグランを作ってください。犬を飼って教育したいので。交通のお巡りさんと仲良くなるイベント（交流等）。 ・北斎美術館が赤字の垂れ流しにならないように。特別なことをしなくても基礎的な部分をしっかりしてください。 ・20 代、30 代前半の方の若い意見も聞いていただきたいです。
--

2 小学生の保護者

基本目標① 子どもの最善の利益を優先します（28 件）

項目	件数
(1) 子どもの豊かな育ちを育む場・機会の充実	9 件
・子どもたちが遊べる場を充実させてほしいです。 ・図書館の本をもう少し充実させてほしい。 ・都会の中で自然に触れ合う機会が少ないので自然体験などのイベントに期待します。	
(2) 子どもの生きるための基礎的な力を育成する環境の整備	15 件
・学習のしかた、運動嫌いな子への克服の手助けなどを、もっと積極的に行ってほしい。 ・子どもにとってプラスになることを考え、色々な事を学ばせてあげる環境をつくってほしい。 ・少なくとも小学校の教育は、ただの横並びで、個性を伸ばせるような工夫が全くない。自由に得意分野を活かせる工夫がほしいと思います。先生の質が悪い。	
(3) 子どもの心とからだの健康づくりの促進	4 件
・子どもの視点に立つなら、親が仕事を休みやすくすることが最も大切だと思います。共働き家庭が増えるなかで、家庭で良い子を演じ、学校で荒れる子をたくさん見えています。そういう子が小学校の学級崩壊のきっかけを作っているように感じます。そのような時、学校での対応には限界があり、家庭でのケアが必要だと感じる事が多くあります。保育園を増やすことは、結局は親を働きやすくするためであり、子どもの豊かな育ちのためではないという認識を持ったうえで、保育園の数を増やすだけでなく、保育園スタッフの就労環境の向上、人数の増員をはかり、保育園の先生の笑顔を増やす施策を行っていただきたい。それはきっと子どもたちにとって良い効果があると思います。子どもは、小さい時ほど、親を求めているので、子どもが親と一緒にいられる時間を確保し、その親を支援するサービスを充実させていきたいと思っています。 ・墨田区の休日応急診療所の数を増やしてほしいです。向島北部、南部、本所北部、南部にそれぞれ設けた方が交通の便がよいと思います。救急病院はありますが、「救急」でないと診てもらえないので。あと、日曜・祝日だけではなく土曜の午後もやってもらいたいです。ほとんどの病院は土曜の午前中で終わります。 ・食の安全面でいうと、日本は世界で（先進国）最下位だそうです。危険な食品添加物の使用が多すぎて子どもに食べさせたくないものが多すぎます。安心して買えるものがスーパーでもなかなかありません。農薬使用基準も世界でワーストだそうです（グリーンピースの調べ）遺伝子組み換え作物の使用量は年間で 1,800 万トン。一番守ってほしい食の安全がとてもおそろそかで企業の利益重視なのではないかと考えています。企業の方にはぜひとも安全な食品を提供していただきたいです。	

基本目標② 保育の量的整備のみならず、保育の質を重視します（99 件）

項目	件数
(1) 親と子の健康づくりの促進	1 件
・子どもを出産するときに、リスクを抱えていたために区内の病院で出産できず、他の区の病院へ通院し、出産しました。もっと大きな病院を増やしてほしい。今ある病院でもいいので、よりよい医療が受けられるようになってほしい。せっかくスカイツリーというシンボルがあるので、小さな子どもたちが楽しめるような公園を周辺に作ったり、緑の多い（木が沢山あって、森のような）場所が増えると外に出て遊んだり、地域の交流も生まれると思います。	
(2) 子育て支援サービスの充実	58 件
・学童の定員を増やしてほしい。月～金毎日夜まで、家庭で子どもだけで過ごすことのないように。継続して働いている親に有利なのは当然としても、ブランクを経て復帰する親にとっても、もう少し、仕事や就労時間等の選択の幅が広がるようなサービスがあるとありがたいと思います。 ・児童館等の充実が必要だと思います。冬や真夏に外で遊べない時、室内で遊び、過ごせる場所がもっと増えればよいと思います。 ・夏休みなど長期休みの間、親がパートなどの短時間労働で昼間、家に誰もいなくなってしまう家庭の子ども達が集まって宿題などを安全に出来る場所が増えたらよいです。フルタイムでお仕事をしている家庭は学童に入っていると思うので学童に入っていない子どもたちの居場所が欲しいです。	

(3) 認定こども園・保育所・幼稚園等の教育・保育サービスの拡充と質の向上	41 件
・ 保育園を増やしてほしい。近くの保育園には全く入れず、遠いところばかりで住んでいるところを考慮して選考してほしいです。 ・ 希望する保育施設や学校に入ることができず、保育士や教師の質や人間性に疑問を持つことが多い。墨田区内だけでも地域により、経済的格差に起因する教育環境の差を感じることがあり、整備、開発に対する行政の消極性には問題がある。 ・ 待機児童がなかなか減少せず、大変だと思いますが、少しの空間に保育施設を作ることや時間差をつけ利用する保育時間を決め、登園をバラバラにして、なるべく待機児童を解消させる考えなど違うと思います。もう少し現場に行き、目で見て体で感じてそこで働いている人達の話も聞いてもらいたいです。江東区には学童が無く、放課後校庭で夕方まで遊べるようなシステムがあったりします。もう少し、子どもが産みやすい、職場復帰しやすい環境をしていくよう見直すべきです。	

基本目標③ 困難を抱えた子どもと家庭への支援体制を手厚くします (29 件)

項目	件数
(1) ひとり親家庭等への支援	2 件
・ ひとり親の現状を理解してほしい。子どもに習い事をさせたいが、高すぎる。2人・3人いるとつらい。才能を伸ばしてあげられない。車道を自転車が行き通らないといけない場所があり、子どもを乗せている時や、子どもが1人で乗っている時は車道は通りたくない。危なすぎる。 ・ 葛飾北斎の施設なんて作っている場合じゃありません。オリンピックに向けての経済効果だけを見て子育て家庭、ひとり親家庭をないがしろにされている気がします。ひとり親家庭の母としてはネットスーパー等の配達を無料にしていきたい。あと、堤通の防災団地に住んでいるのですが、交通の便が悪すぎます。バス等増やしていきたい。	
(2) 障害のある子どもの発達と成長支援	11 件
・ 子どもは足が不自由で普段杖を使い、生活しています。特別支援学校に通っていますが、知的に問題が無かったので入学は区立の学校に行くか悩みました。小学校のバリアフリー化が進めば進路の選択肢が広がると思いました。階段やトイレに手すりがあるだけでも生活しやすくなります。宜しくお願いします。 ・ 発達障害の子どもたちの支援を充実させてほしい。各機関との連携を密にし、切れ目ない支援が必要。私の子どもは3年生まで、集中して学校で授業を受けることができませんでした。学校に相談しても、何の情報もなく、ただただ時間が過ぎて行きました。現在6年生になりますが、勉強面ではかなり差がついていて大変です。通級の必要性など、先生方も情報提供できるようになればと思う。ボーダーの発達障害への理解を社会全体で深めてもらいたい。 ・ 障害児が利用できる施設や、障害児を育てる親を援助する環境が少ない。	
(3) 保護が必要な子どもとその家庭への支援	6 件
・ 学級崩壊が起こらないように子どもたちの心と精神を安定させられるような指導をしてほしい。 ・ 区立幼稚園の障害児入園枠を増やしてほしい。 ・ もっとASD（自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群）の子ども達、ADHD（注意欠如・多動性障害）やLD（学習障害）の子への対応をきちんと整えた方が良いと思う。学校内の支援には人員が必要だと思うし、そこに予算をきちんとつけることが全体の教育にも生かされてくると思う。また、理解しあえる機会を設けるとよいと思う（子どもも大人も）。向島保健センターの施設の古さにそろそろ対応した方がよいのでは。もう新しくなっているか分からないが、小さい頃そこでインフルエンザがうつったので。	

(4) 子育て家庭への経済的な支援と生活が困窮している子どもとその家庭への支援	10 件
・子どもを育てるために経済支援をもっと充実させてほしいです。もう1人子どもが欲しいと思っているが、経済的に難しいと思っているので、諦めようと思っています。もっといろんなことに対して環境が整っていれば少子化もなくなると思います。 ・子どもを育てるのにかかるお金は、みんな一緒だと思います。それなのに、収入が多いから少ないからと、手当がもらえなかったり多くもらえたりするのは不公平だと思います。一律同額で支援していただけるよう、強く希望します。 ・保育園や学童クラブを安価に。22～24 時まで利用できるようにしてほしい。夫婦共に激務と言われる仕事をするのは不可能な現状への対策を希望します。	

基本目標④ 地域の子育て力及び連携を強化します (49 件)

項目	件数
(1) 親同士のつながりと子育て力の育成	1 件
・周りの区では学校のバレーチーム（PTAバレー）があって低学年のお母さんお父さんの交流、他の学校との交流があるそうです。小学生の運動のチームも墨田区にはあまりありません。公園も小さいのばかり。運動が出来る子には墨田区では育たないと思います。	
(2) 地域の子育て力の育成と協働	18 件
・子どもだけでなく地域の人が顔見知りであるような、声を掛けあえるような世の中がよいのかなと思います。 ・小学校に入学後、地域の子ども会などで地域の人たちとのつながりが広がったが、保育園時代は、職場と保育園の往復で孤立している感じがあった。乳幼児期のうちに地域とのつながり（子育て世代どうしに限らず）が持てる機会が、行政も絡み増えて行くと良いのではないかな。保育園や児童館の時間が延長することは、サービス向上になる一方で長時間の就労を可能にしまい、子どもにも負担となる。企業への働きかけ（定時退社等、ワーク・ライフ・バランス）を、積極的に行ってほしい。 ・地元の方の目が温かくない。小学生の男子は、いたずらもよくする。頭ごなしに注意するだけでなく普段から見守ってくれたらありがたい。昔のように「おかえりー」と声を掛けてくれる人がいない。いたずらをしてる子どもには分かりやすく説明、温かく見守るなど。ラジオ体操、まつりなどで交流の場がある割には高齢化し、面倒なのか、冷たい。	
(3) 企業等の子育て力との協働	1 件
・企業に対しては、育休を1年間ではなくもう少し延ばしてほしい。それと保育園の時はまだ支援があるが、小学校にあがってからも企業支援がほしい。せめて低学年までは、時短にする等してくれる企業であってほしい。	
(4) 個々のニーズに即した子育て支援ネットワークの構築	2 件
・行政と先生が密に連携して各家庭の状況を把握することが大事。また、地域との連携で不審な人物情報も伝わるようにしてほしい。 ・育児や教育に対しての意見・要望について。もう少し風通しの良いネットワークをつくっていただきたいです。小学校に入学すると基本的にPTAから学校を通したり、学校にまず意見を伝えることになります。学校としての意見はとても保守的で本当に安心安全な環境を目指しているとは思えません。学校以外にダイレクトに要望を伝えられることが容易になればとても助かります。宜しくお願いします。	
(5) 子どもの安全・安心を守るための環境の整備	27 件
・警察によるパトロールなど、防犯を強化して、子どもたちが安全に遊べるまちづくりをしてほしいと思います。 ・登下校に子どもたちが使う道路の整備。歩道が無い。狭い。路駐が多い。町内会や地域で未来の宝を守るという意識が足りない。 ・すみだ安全・安心メールを利用しているが、例えば不審者情報が来ても、その後どうなったのか（捕まったのか）が来ない。ちゃんと知らせてほしい。	

基本目標⑤ ワーク・ライフ・バランスを踏まえた支援を実施します（107 件）

項目	件数
（１）ワーク・ライフ・バランスの実現にむけた環境づくりの推進	3 件
・ 近くの江戸川区が子育てに優しいまちだとよく耳にします。墨田区はマンションばかり建ちますが保育園がその分少なく、共働きとなるとかなり厳しいのが現状です。予防接種についてもだいぶ無料化にはなりましたが、取り組みが遅いと思います。道路も狭く、子どもたちには危険な所がかなりあります。税金を正しいことに使ってください。 ・ 働きながら子どもを育てていると時間がとにたくない。収入があってもほとんど子どもにかかるお金で消え、貧困を感じる。保育料は年々上がるし。一人の子どもに対しての視点はあがるが、兄弟関係への配慮が少ない。少子化対策と言いながら、多子世帯への支援は薄い。15 歳の早生まれに対しての国の子ども支援費の欠陥については無視され続け、行政は本当に子育て世帯の支援を考えているのか。この程度与えておけばよいのでは的な考えでは、現実的ではない。何を指すのか。子どもを増やすことが目的。クレームを減らすのが目的。 ・ 現在は共働きの世帯が多く、区立の保育園に入るためには長時間勤務がやめられず、3 人子どもがいるにもかかわらず、ほぼフルタイムで非常勤で働いています。小学校では保育園ほど、子どもの様子を知ることはできません。学童クラブも小学校 4 年生になれば、そのほとんどが利用できなくなります。働かざるを得ない状況、子どもを家庭で見てあげられない状況。充実しているようで、実はそういった「すき間」で苦しんでいる、悩んでいる親がいることをどうか知り、手を差し伸べていただけると助かります。	
（２）子育てにやさしいまちづくりの推進	96 件
・ ボール遊び禁止の公園ばかりで、小学生はゲームばかりになってしまう。今の子どもたちには、遊具よりもボール遊びができる広場が必要だと思う。校庭の開放も、先生の負担にならないようにして、進めてほしいです。 ・ 放課後に安心して子供が遊べる場所があるとよい。学校の中でそのまま友達と 5 時くらいまで校庭で遊べれば一番安心です。児童館も、隣の区の方が内容が充実していると幼児の頃に感じました。 ・ もっと緑、大きな公園がほしいです。緑が全然ない。季節を感じ、季節の中で子どもの感性を育てたい。	
（３）子育て家庭の視点に立った情報の発信	8 件
・ 子育て支援が様々に充実していると感じています。他区で子育て支援の仕事をしていますが、住んでいるのはここでもよかったと思うほどです。ただ、そんな仕事をしているからこそですが、充実していることがあまり知られていないように感じています。「子育てするなら墨田区で」とアピールしてもよいのかもと思います（待機児童対策等、大変になるかもしれませんが…）。 ・ 問 28 について。実感、情報を得ていないので何とも評価できません。しかし、広報などを目に見ますと、子育ての公園、支援の取り組みは努力されているのではないかと思います。 ・ 墨田区がこの質問で色々やっついそうなのは分かりましたが、地元でない私は全く知りません。子育てに色々役立つことをしてるのであれば子育てしている親に知ってもらわなければ役立たないと思います。子育てしやすい環境にさせていただくためにもっとアピールして欲しいです。墨田区は地元の人が多いので、地方の人にも分かりやすくしてほしいです。	

・ アンケートについて（2 件）

・ 不満や要望が特にある訳ではないのですが設問において意図が不明で理解しかねたのでそれを述べさせていただきます。（以後余談です）問 28 の②において「子どもの生きるための基礎的な力」とは何を指しているのでしょうか。私にとってそれは「食べられる雑草」や「怪我をした時の応急手当」またそのような術について思い考えているのですが、設問上では何を問われているかが理解に至らず、適当に選択してしまいました。 ・ 問 28 の⑦～⑩は我が家に当てはまらないので深く考えたことがない。

・その他

- ・今まで以上に良くなるように、頑張りましょう。
- ・行政や教育現場が本当は私利私欲にまみれていることを知っている。末端から離れて偉くなればなるほどその傾向にあるようで、正しいことも通らないのを知っている。残念でならないが、それが世の中なら、そこまで多くを期待しても仕方ない。

3 成人前

基本目標① 子どもの最善の利益を優先します（43 件）

項目	件数
(1) 子どもの豊かな育ちを育む場・機会の充実	14 件
・子どもの遊び場所を増やしてほしい。 ・伊豆高原荘が無くなってしまって残念です。すみだトリフォニーホールなどの施設は無くさないでほしいと思います。 ・ボランティア活動などの案内がたくさんほしい。高校生がお金を使わず遊べる場所が欲しい。	
(2) 子どもの生きるための基礎的な力を育成する環境の整備	20 件
・学生専用の自習室を設けてほしいです。家の近くにある図書館などは小学生の遊び場となっていたり、お年寄りの集まりの場となっていたりと自習するのに適していないからです。体力作りのために「マラソン」を授業に取り入れているらしいのですが、体力アップが出来ているのはごく数人しかいないので違う方法を考えた方がよいと思います。もしマラソンをするなら一定期間ではなく毎朝などの日々の生活に取り入れるべきです。 ・生徒のことをちゃんと見てほしい。先生が見ていないところで喧嘩しています。 ・スマートフォンの影響もあるが、小学生から高校生にかけて教育を見直した方がよいと思う。	
(3) 子どもの心とからだの健康づくりの促進	9 件
・タバコをやめてほしい。様々な人がいるところ（公共の施設）では吸ってほしくないです。苦しくなります。 ・誰もが笑顔になれるような、いじめのないまちにしてください。 ・子どもが言っていることが正しいことだとちゃんと分かってほしい。	

基本目標② 保育の量的整備のみならず、保育の質を重視します（2 件）

項目	件数
(1) 親と子の健康づくりの促進	0 件
(2) 子育て支援サービスの充実	0 件
(3) 認定こども園・保育所・幼稚園等の教育・保育サービスの拡充と質の向上	2 件
・税金を無駄に使ってほしくはない。保育士の給料を上げてください。 ・老人ホームだけでなく保育園、幼稚園などをもっと増やした方がよいと思う。タバコを公共の場で吸わないでほしい。	

基本目標③ 困難を抱えた子どもと家庭への支援体制を手厚くします（5 件）

項目	件数
(1) ひとり親家庭等への支援	0 件
(2) 障害のある子どもの発達と成長支援	0 件
(3) 保護が必要な子どもとその家庭への支援	0 件
(4) 子育て家庭への経済的な支援と生活が困窮している子どもとその家庭への支援	5 件
・大学にもっと行きやすいように、補助を出してほしい。 ・子どもや学生の特別割引をもっと増やしてください。 ・定期的にお小遣いが欲しい（高校3年生くらいまで）。1人親は特に。	

基本目標④ 地域の子育て力及び連携を強化します（18件）

項目	件数
（１）親同士のつながりと子育て力の育成	0件
（２）地域の子育て力の育成と協働	3件
・チャリティーリレーマラソンをもっと大々的に宣伝してほしい。パソコンで相手の顔を見ながら電話ができるやつを東北や熊本、東京の中学で導入して皆でつながりを持てるようにしたい。これからこの社会を支えていくのは私達だから皆でつながりを持っていた方が良いと思う。薬物乱用をもっと厳しく取り締まってください。色々なところにお金をかけるのもいいですけど、まず国の借金を返してください。 ・もっと自治体を有効活用してほしいです。 ・あいさつ。	
（３）企業等の子育て力との協働	1件
・給料を増やしてほしい	
（４）個々のニーズに即した子育て支援ネットワークの構築	0件
（５）子どもの安全・安心を守るための環境の整備	14件
・街灯やカーブミラーをもっと増やしてほしい。 ・もっとよい住む場所にするためにゴミの分別（ポイ捨てしない）など、きれいにしていってほしいと思います。私達もボランティアで協力したいと思います。 ・高齢者の方や体の不自由な方のためにもっと何かできると思います。災害対策を強化してほしい。	

基本目標⑤ ワーク・ライフ・バランスを踏まえた支援を実施します（3件）

項目	件数
（１）ワーク・ライフ・バランスの実現にむけた環境づくりの推進	1件
・会社で働くのは辛いのか、楽しいのか。結果的に就きたい仕事に就けたのか。	
（２）子育てにやさしいまちづくりの推進	2件
・若いうちに結婚・出産しても経済的な面や環境的なことで苦勞しすぎず、安心して生活できるような社会になればよいと思っています。 ・もっと子どものことを思い家族を大切にしてほしい。社会はもっと厳しく、優しくなってほしい。	
（３）子育て家庭の視点に立った情報の発信	0件

・アンケートについて（1件）

・このアンケートをして自分を見直すことが出来ました。ありがとうございます。

・その他

・税金をもっと有効活用してほしい。何に税金を使っているのかを分かりやすく提示をしてほしい。 ・人の上に立つ人たちはもっとちゃんと考えて行動してほしい。 ・ホームレスなどの路上生活者に少しでもお金を分けてほしい。

IV インタビュー調査

1 インタビュー調査の実施概要

学 童 ク ラ ブ 指 導 員 ・ P T A	目的	乳幼児保護者、小学生保護者、成人前本人のニーズ調査では拾えない子どもの育ちを支える立場の意見を聞き、計画に反映させることを目的とする。		
	声かけ方法	事前調査項目	聞き取り手法	主な聞き取り項目
	P T Aの会で依頼し（学校にも要報告）、P T A役員を対象に実施 学童クラブ指導員を対象に実施	(1)子どもに関する課題は何だと思えますか。 (2)どのような子どもになってほしいですか。 (3)家庭教育や地域の教育力は機能していると思えますか。 (4)家庭教育では、どのような取組が必要だと思えますか。 (5)地域の教育力を高めるためには、どのような取組が必要だと思えますか。 (6)墨田区の子育て環境をどのように感じていますか。	○座談会方式 ○コンサル・評価委員による聞き取り ○音声による録音の上、議事内容をまとめる	(1)墨田の子どもたちや、その家庭について感じること (2)地域で特に重点をおくべきこと (3)学校、家庭、地域の連携による子どもの育成活動で必要なこと (4)墨田区の子育て環境に望むこと
高 校 生	目的	基本的には、成人前本人のニーズ調査と重複するが、基本理念「子どもと親と地域が共に育ち、子どもの利益を優先するまち すみだ」の実現のために、子どもの夢や悩んでいることを直接聞き、計画に反映させることを目的とする。		
	声かけ方法	事前調査項目	聞き取り手法	主な聞き取り項目
	区内高校に依頼し、その高校生を対象に実施	(1)学年と性別をお答えください。 (2)兄弟姉妹がいるかお答えください。 (3)平日の放課後は、何をしている（どこにいる）ことが多いですか。 (4)友だちと遊んだり、出かけたりするところはどこが多いですか。 (5)学校での生活は楽しいですか。 (6)家庭での生活は楽しいですか。 (7)どのようなことに興味・関心がありますか。 (8)どのような悩みや心配事がありますか。 (9)悩みや心配事はだれに相談しますか。 (10)大人になっても墨田区に住みたいと思えますか。 (11)大人になっても墨田区に住みたいと思う理由は何ですか。 (12)大人になったら墨田区に住みたいと思わない理由は何ですか。	○座談会方式 ○コンサル・評価委員による聞き取り ○音声による録音の上、議事内容をまとめる	(1)墨田区の強み (2)墨田区がもっとこうしたら良いと思うこと (3)今、あなたが楽しいと感じること (4)最近の悩みや心配ごと、その相談先 (5)ご近所の方との付き合い方、地域活動への参加状況 (6)今の日本社会について、問題だと感じる事

障害のある子どもをもつ保護者	目的	乳幼児保護者、小学生保護者、成人前本人のニーズ調査では障害のある子どもをもつ保護者の意見が少数となりニーズが見えなくなるため、直接対象者の意見を聞き、計画に反映させることを目的とする。		
	声かけ方法	事前調査項目	聞き取り手法	主な聞き取り項目
	小学校に依頼し、小学校の特別支援学級にお子さんを通級させている保護者を対象に実施	(1)対象のお子さんの年齢（学年）、きょうだいについてご記入ください。 (2)子育てを主にしているのは、お子さんからみてどなたですか。 (3)主な保護者についてお答えください。 (4)お子さんの育ちに関して心配なことについてご記入ください。 (5)ふだんの暮らしで困ることがあればご記入ください。 (6)(5)で「困っていることがある」という意見を書かれた方は、誰に（どこに）相談しましたか。また、子育てをする上で、気軽に相談できる人や相談できる場所等がありますか。 (7)保育や教育に望むことはどのようなことですか。 (8)お子さんは放課後や夏休みなどの長期休業中に、幼稚園、保育園、学校以外ではどのように過ごしていますか。 (9)隣近所とどの程度つきあいをしていますか。 (10)ふだん、差別や偏見、疎外感などを感じることはありませんか。 (11)どのような場面で差別や偏見、疎外感などを感じましたか。 (12)療育を始める際に迷ったことや困ったことがあれば具体的にお聞かせください。 (13)将来に対して不安・心配なことがあればお聞かせください。 (14)お子さんを育てていく上で、墨田区的环境をどのように感じていますか。	○座談会方式 ○コンサル・評価委員による聞き取り ○音声による録音の上、議事内容をまとめる	(1)ふだんの暮らしで困っている(困った)こと (2)ふだんの暮らしで困っている(困った)ときの相談先 (3)保育や教育に望むこと (4)放課後や夏休みなどの長期休業中の過ごし方 (5)墨田区の子育て環境に望むこと (6)将来に対する不安(困っていること)

2 学童クラブ支援員に対するインタビュー結果

① 学校、家庭、地域の連携や幼、小、中間の連携について

- ・実際に働いてみると家庭の中だけではなく、学校でも問題行動がでたり、児童館に来てもそのような問題行動など気になる部分が出てくるので、家庭の中だけでおさめてはいけないととても感じた。子どもたちは地域の中でずっと育っていくので、何か変わったことがあったら学校と地域が連携して支援をしていくのが一番よいと感じている。
- ・今課題のあるお子さんの情報が、学校までは来るけれども、児童館や学童まで届かないことがある。学校では保育園で聞いているということもあるが、学校の先生もそこは個人情報だからあまりここで話せないということもあり、学童はおまけのような感じがすると感じた。
- ・学童に入る前に面談をするが、保育園の時の家庭の問題や行動的に気になる部分などがあったら教えていただけるとよいと思う。

② 子どもたちを見ていて気になること

- ・全体としてではないが、朝ごはんを食べてこない家があったり、夏休みに入るとそのような生活がでてくる子どもがいる。
- ・不登校やいじめに関することで、なかなかいじめなどは見えづらく、把握しづらい部分がある。そのようなことがあった場合は、学校の先生と連絡をする。
- ・低学年なので、そこまで続いていじめみたいなことはなかなかないが、少しこの子は強く出てしまうとか、最近みんなのあたりが少し強くなってきているなどということからはじまると思うので、そのようなところで気づくことはできる。
- ・学校とは相談できる体制ができており、学校での様子など、情報交換などをする。どちらかという、幼稚園や保育園から来る時にもう少し情報があつたらよりいいと思う。
- ・児童館に来る子どもたちは、こちらで用意した遊びはできるが、自分たちで工夫することができない子どもも多いと思う。特に学童は囲われているので、非常に世界が狭いと思う。
- ・ここしか居場所がないのではないかと心配になる子どももいる。
- ・中学生の利用が多く、ここに来てずっとスマホをいじっている子どももいる。学年が上がるごとにスマホでの遊びが少なくなってしまい、それなら児童館でなくてもよいのではないかと寂しく感じる。ずっと画面を見て、目も合わさずに不健康な気がする。
- ・子どもたちから「面倒くさい」「無理」という言葉がよく出る。失敗に慣れていなかったり、打たれ弱い子どもが結構いる。

③ どのような子どもたちになってほしいか

- ・子どもにはたくさん遊んでほしい。自分自身の子ども時代と今の子どもたちを比べて見てしまうことが多いが、結構塾や学校も長く、土曜日授業があったり、放課後に残ったりなどして、なかなか学童に帰ってきて遊ぶ時間がない。勉強もとても大切だが、子ども時代に遊ぶべきだと私は思っているので、友達とたくさん遊んでほしい。
- ・子どもは忙しいとは感じる。塾とか宿題とか、好きでやっているものだったらよいが、あまり好きでなくてもやっている子どもも中にはいる。
- ・DSなどをして1人で遊んでいる子もいるが、DSは通信してみんなのでできるので、かえって普段遊ばない子がそのゲームで関わっていたりもする。

④ 家庭教育・地域教育とは

- ・家庭は本当にその子の土台になる場所だと思う。家庭が安定しないとその子の気持ちも安定しない。家庭教育は、ごはんを食べる時には「いただきます」など、人として当たり前のことを当たり前のようにできることや思いやりなどのようなものだと思う。
- ・言葉づかいなどで、友達のことを「お前」というところは、お母さんも使ったりすることも見たりする。
- ・ネグレクト気味のお子さんなども以前にいたが、親も服装の乱れがあった。
- ・家庭教育、地域教育とはなんだろうと思うが、ただ学習という面だけではないと思う。この地域は町会とか学校の親父の会などとても熱心で、地域活動が活発だと思う。

⑤ 家庭教育を高めるための取り組みとは

- ・体験できる機会が必要で、親子で普段できないことを一緒にやることで思い出にも残る。
- ・乳幼児の間は保護者同士の交流などももてると思うが、仕事を始めると学童とか保育園とか家庭、小学校などでお母さん同士の交流の場は減ってくる。交流する場所があるといろいろな悩みなど相談できる機会になると思う。

⑥ 地域の教育力を高める取り組みとは

- ・児童館に来る子で、お母さんが今日家にいると邪魔だから来たと聞くことがあるが、やはりその一人ひとりの子どもたちに周りの大人が関心をもって話しかけたりすることが大切かと思う。

⑦ 行政に対する要望について

- ・職員だけだとどうしてもできない部分があって、突発的にすごく見守りたい家庭とか、学童職員や児童館の職員だけだとそこまで介入できない。だけど子ども課や子育て支援課だけではなくて何か相談したい、お母さんとその家族には聞こえなくて、そのような支援など受けていない家庭など、子どもは健常で何ともないが、危機感を感じているというケースがある。
- ・子育て支援総合センターなどに連絡などはしているのが、区の対応など大きな政策ではなくて、きめ細かな対応ができないことを日々の中で感じる時がある。
- ・サービスがあっても知らなかったり、受けるのは、と思っている家庭もあると思うので受けやすい環境を整えたり、こちらからも発信していく必要があると思う。子育て支援総合センターや児童相談所の方が介入しやすいように、少し上の部分が機能しやすいようにしていく必要があるのかと思う。

⑧ 地域の中での子どもの居場所

- ・地域の中で子どもたちの居場所というのは実はそんなにないのではないかと思います。「地域で子育てをしましょう」というのはどこの区でもあるとは思いますが、実はそれは児童館に押し込めているのではないかと感じる。地域に公園が多いが、遊んでいる子どもは多くはないと思う。
- ・地域との共生を謳っている地域もたくさんあるが、それを感じたことはない。この地域は昔からの地元の人が多くて、自分たちの年齢を積み重ねたものを大事にしているが、その中に子どもが入っているかといえばそうでもなかったりする。子どもたちの居場所としては少し足りないところがあるのではないかと思います。

⑨ 親や大人と子どもの関係

- ・親や大人がいないと遊べないことが多い。自分たちで何かをする、ルールを考えるとというのはあまり上手にはできないと思う。

- ・各家庭でいろいろな状況があると思うが、親と子どもの関係をどうにかケアできないかと思うことがある。
- ・家庭教育などに関しては、児童館として踏み込むのは難しいと思う。個人面談で言うこともあるが、受けとめてくれる人もいれば、そうでない人もいて、言い方が難しい。ここは学校ではなく生活の場なので、家の生活とこちらの生活を照らし合わせなければいけないところも出てくるので、そうすると家庭に踏み込まなければいけなくなり、難しい。

⑩ 児童館としての今後のあり方

- ・地域と親子をつなげるものが必要かと思う。そのためにも、親を中心に地域で育てるという体制づくりができればよいと思う。その中に児童館を入れてほしいと思うし、地域の中の児童館になりたいと考えている。子どものあそび場として、まず児童館となると、子どもしか集まってくるません。地域で親子を育てるという地域づくりの方が、地域の共生という部分では筋が通っているような気がする。
- ・児童館の行事で親子参加というのは、小学生対象になるとない。学童の行事では、親子交流運動会があり、そういったものがあると家に帰ってから親子で話ができる。特に学童の子どもたちは親子で共有できるものが少ないので、なるべく親も巻き込めるものが地域の中に当たり前にあるとよいと思う。
- ・学校との連携ということで、担任の先生と話もするが連携がとれているとは言い切れない。
- ・行事等で学校の施設を借りられるので、この地域の学校は協力的ではある。
- ・問題が起きたときに、学校の問題なのか児童館の問題なのかわからないときがあるので、そこは連携不足だと思う。
- ・1年2年3年生の先生とはつながるが、それ以上になるとつながりは薄くなる。1年ごとに担任が変わってしまうので、その都度一から構築していかなければならないということもある。
- ・小1から高3までが同じ空間で生活するのは不可能だという気はする。上の子どもがどうしても気をつかうので、そこでストレスがたまる。
- ・個人面談をしていて、一番安心するのが「家ではわがままです」という言葉。家でわがままを言える子どもは外でしっかりするので、ちゃんと甘えているのだと思う。
- ・どうしても自分の意にそぐわない児童館行事があると、すっといなくなる子どもがいる。ここは児童館ではなく、ただの都合のよい場所になっていないかと思うこともある。そこは児童館としての機能として、子どもをひきつけていないということだと思っている。ここしか来るところがなくて来ている子どもも大事だし、児童館としては普段来ない子どもをどう呼ぶか、そうしないと発展していかないと思う。

3 PTA役員に対するインタビュー結果

① 最近の子どもたちや地域を見て思うこと

- ・特に道徳心の低下ということで、日頃からいろいろなことを教えているがなかなか親の気持ちが伝わらない。
- ・町会に入っていない子どもだと、地域の人とふれ合う機会がないと思う。自分から町会に申し込みに行くという形で、どこに申し込みに行けばよいのかもわからない状態で最初は困った。町会で夏にちょっとした出し物なども行っているが、うちの子どもは町会費を払っていないので行ってよいのかもわからなかった。知り合いを通じてやっと入れた。
- ・子ども会も子どもが少なくなって機能していないところも多い。機能しているところは半分くらいだと思う。
- ・子どもたちが習い事などで、イベントに参加ができない。町会でも年に1回ディズニーランドに行ったり、盆踊りでお菓子を配るくらいだが、忙しくて参加できていない。

② PTAをしている中での困り事など

- ・イベントをやっても集まらない。どうしてもイベントが土日に集中してしまうが、子どもたちは土曜、日曜はクラブチームに入っていたりして習い事が多いので、そういったところに参加できないということが多い。
- ・放課後の居場所づくり（校庭開放）として、立花吾嬬小学校では居場所づくりを率先してつくっており、週3回、月曜、水曜、木曜、3年生以上を対象に行っていて、1日100人くらいの児童が利用している。多い日だと130人くらいの利用数がある。雨が降った日は体育館を利用したり、子どもたちの宿題など勉強をみたりなど、居場所づくりや学力向上にもPTAとしても貢献している。
- ・見守り隊も年1回から2回交代制で、保護者の方の協力を得て見守りを行っている。
- ・放課後子ども塾のスタッフをしているが、常時スタッフになってくれる方がいない。立花吾嬬小学校は主に体育館と校庭、ミーティングルームで勉強を教えているので、3か所にわかれてしまう。その3か所に人を配置するとなるとそれなりの人数が必要になる。
- ・保護者の方のボランティアで成り立っているが、ケガなどの心配があるのでもう少しスタッフが必要だと日々感じている。
- ・働いている方が多いので基本的に会議などは、平日の夜7時から9時までの2時間。
- ・見守りに、下の子どもを連れてきてはダメという地区もあり、それがいつもつらい。（未就学児の子どもを連れての見守りは危険という理由はわかるが）
- ・今の子どもは塾やクラブチームで夜練があったりするため帰りが遅いが、街灯が少なく暗く怖いので、もう少し整備してほしい。
- ・江戸川区のほうは学校のプールを期間的に開放しているため、そういったことを墨田区の学校でもできないかと思う。（プールの事故は非常に怖いので講習会も受けないと見守りはできないなど課題がある。）

③ 子育てに関する情報について

- ・8月に区の水泳大会があるが、以前は先生たちが水泳大会の近くになると指導してくれたのが、今はそれができず、勝手に区役所に行って自分でエントリーしてくださいという感じとなっている。区報を見て初めて知ることもある。体力の低下ということがあるが、子どもにそもそものアナウンスがなければ向上させようがない。（区役所のほうでは情報を出しているつもりでも、情報が届いていなかったということもある。）

- ・区役所や、子育て広場や児童館などでも毎週のように夏休みはイベントを行っているので、そういった情報というのは自分から区報などを見たり、図書館などに行って情報を集めている方には届くが、そうでないと届きづらい。
- ・区報とはそもそもどこで配られているのかわからない。こちらがアクションを起こしてもらいにいかないと手元には来ない。（スーパーなどでも店長さんが熱心だと置いてあるところもある。）
- ・区報が大幅にリニューアルして一行になってしまい前よりもわかりにくくなっている。前よりいろいろなことが紙面に載らないので、詳しくはホームページになっている。個々はダウンロードできるようになっているが、スマホを持っていない方への配慮ができていない。
- ・区報を家庭数配布で学校から毎月できないか。
- ・「夏休みわくわく〇〇に参加しませんか」など、一般団体のチラシを子どもが持ってくることもあるが、墨田区が主催しているものはお知らせとしてくることは少ない。学校から配られたものは影響力があるのでそういったものが配布物としてあると情報としては行き届きやすいのかと思う。
- ・区報に載っている墨田区のイベントごとというものを、学校でプリントなどに起こしてくれるのであれば手元には来ると思う。
- ・安全・安心メールについて、不審者が出たとは来るが、その不審者がどうなったのか、その後の連絡についてもしてほしい。
- ・あちこちからいろいろ来るので、情報源は1か所に統一してほしい。
- ・地震が起こった場合や、川が氾濫したときにはここは水没されているが、どこに逃げればよいのかなど情報がほしい。（ハザードマップは、全家庭に配られているし、ホームページにも載っている。）

④ 子どもの居場所について

- ・子どもと親が地域の中で関わりをもっと持っていきたいが、児童館があまり快適でないのもっとお金をかけてほしい。
- ・鳩のフン害が多い公園もある。ジメツとした違う空気になっているし、夜通りたくないような感じになっている。
- ・街灯がついていない公園もあり、そういった公園は、子どもたちも怖いと言っている。
- ・墨田区で充実している公園はない。もう少し他区の公園のように充実させてもらえると子どもたちも喜ぶと思う。
- ・公園に行ってもボール投げができません。キャッチボールやサッカーはできなくなっているのも、そういったことができるスペースをつくってほしい。
- ・江戸川区の水辺スポーツガーデンは、フットサル場を1時間数百円で貸してくれる。
- ・墨田区は学童も1年生から3年生までだけれども、江戸川区は6年生までとなっている。江東区に関しては、長期の休みのときに朝普通に学校に行ってよいということで、お弁当をもって行く。先生も朝から何人が来ていて、マグネットで〇〇さんは今体育館にいますと居場所を明確にしている。仕事をしている上でそういったものがあるとありがたい。そういった江東区のような制度があるのであれば、夕方4時5時までは誰かがいて開放してくれるのはありがたい。
- ・墨田区は土曜育成もあるので午前中は学校に行き、帰ってきてもどこにいるんだろうというようになる。
- ・学校は授業時間のとき以外はノータッチということだと、子どもたちの居場所がどんどん減っていくと思う。

⑤ 地域活動について

- ・地域での活動として防災拠点会議というものはやっている。
- ・この学校の中でどのように避難するかということを自治会などでも話し合っている。地域とのつながりをつくっておかないと、何かあったときに誰だかわからなくなる。若い人がなかなか防災訓練に参加していない。
- ・3年くらい前に、防災拠点会議の主催で防災に関する講演会があり、東日本大震災を体験した人の生の声を聞くということを行った。結局集まったのは町会のおじいちゃんとおばあちゃんだった。私たちの年代の人が聞かないといけない。自助・共助・公助でいくとおじいちゃんおばあちゃんは助ける側になるので、とにかく若い人に参加してもらいたい。

4 高校生に対するインタビュー結果

① 学校が楽しい（楽しくない）と感じる時は

- ・普通に楽しいという感じ。
- ・去年が楽しすぎて。
- ・部活が楽しかった。
- ・勉強が大嫌いなので。
- ・友達と話をしているとき。
- ・学校の生活は全部が「とても楽しい」と感じる など。

② 家庭での生活は楽しいか

- ・親と仲が悪い、親によく怒られる。
- ・最近家族で全員が揃うことがないので、全員が揃うと嬉しい。

③ 自分のまちにそのまま住み続けたいと思うか

- ・墨田区の人はいい意味で変な人ばかり。一緒にいると波長があう。
- ・地元の人たちなど見慣れているから安心する。
- ・銭湯が近くにあるから。週末によく行く。
- ・よく知っているところなので。

④ 墨田区がもっとこうしたらよくなると思うこと

- ・最近、墨田区は公園が減っている。小さい頃に公園でよく遊んでいたのに、思い出の場所が無くなるのは悲しいと思う。

⑤ 地域活動について

- ・学校のボランティアで。
- ・警察の交通少年団というものがある、小学生の面倒をみている。
- ・自分が小学生のときにやっていて、中学生のときは部活が忙しくて離れていたのだけれど、妹がいて、妹がずっと続けていたのでやらないかと言われてやっている。
- ・盆踊りで太鼓をたたくなど、中学生まではやっていた。
- ・参加したことがある地域の活動は、お祭りや防災訓練。
- ・地域の活動には、中学校の部活動やボランティアで参加したり、学校で団体として参加したり、ボーイスカウトから参加している。
- ・小学校の運動会とは別に地区の運動会があり、その手伝いをした。
- ・ケーキ屋、病院、甘味処、図書館、ペットショップ、ドーナツショップ、保育園、郵便局、幼稚園、障がい者施設などで職業体験をした。

⑥ 興味・関心があること

- ・スマートフォン、進路、遊び・ゲーム、成績、手芸、テレビ など。
- ・特にない（恋愛には興味がない）。

⑦ 学校以外にでかける場所

- ・図書館、散歩、公園、コンビニエンスストア、ショッピングモール（葛飾区）、ラーメン屋、土手、谷根千（文京区、台東区）の店 など。（※谷根千…谷中、根津、千駄木）

⑧ 墨田区が好きな理由

- ・ずっと住んでいるから、スカイツリーがあるから、道の端に自転車専用レーンがあるから、図書館がきれいで充実しているから、カフェや喫茶店があるから など。

⑨ 墨田区の良いところ

- ・地域の人のがんばっている、コンビニエンスストア等にイートンスペースが多い など。
- ・墨田区の図書館は、自動加湿器があり、学生が集中できる環境が整っている。
- ・スカイツリーが近くにあって、最先端かと思いつつ、下町のところもあり、融合されている。
- ・墨田区はものづくりのまち。小さい工場などがたくさんあるところがよいと思う。
- ・土手が学校の近くにあってきれい。私の住んでいる家の近くの土手は汚い。
- ・私の住んでいるところは何もなく遊ぶところがないけど、墨田区は自転車で錦糸町やスカイツリー、ソラマチなどで遊べるところがある。
- ・墨田区はコンビニが多いから便利。

⑩ 墨田区の良くないところ

- ・大型トラックの排気ガスが多い、電車の便があまりよくない、夏休みが長い など。
- ・墨田区は道が真っすぐでないで、道がわかりにくい。
- ・自転車通学していて危ないと感じるのは、道に横から人が出てきたとき。
- ・自転車通学で水戸街道を利用しているが、歩道はガタガタで、青い自転車専用帯に車が止まっているとひかれそうになって危険。
- ・自分が住んでいる江東区に比べると道が狭いと思う。車の通りも広いほうが安全に通れるし、交通の便が少し悪いと思う。

⑪ 今の日本でおかしいなと思うこと

- ・ニュースなどで報じられている社会的問題（虐待など）について、環境などで影響を受けると思う。
- ・今の日本社会での問題は、保育園など必要なものが不足していることだと思う。
- ・2020年のオリンピックに向けていろいろな問題が挙がっているが、東北や熊本での震災の復興が進んでいないことを考えると、東京だけで盛り上がるのではなく、もう少し日本全体で被災地を支え合ってからオリンピックを誘致してもよかったと思う。
- ・議員の人の資金問題は、よくない。
- ・道に自動販売機が多すぎると感じる。
- ・街灯が少ない道があり、夜間怖いと感じる。
- ・原子力発電に関して、都会では電気が必要かもしれないが、発電所を置く場所の人は不安と戦っているのを、しっかりと話し合う場所を設けて最良の解決策を得るためにもっと時間を割くべきだと思う。
- ・飲食店のメニュー等が日本語に限られているので、外国語表示を増やしたほうがよいと思う。
- ・中学3年間と高校でも英語を習っているが、使える英語はまったく身につけておらず、外国人に何か聞かれてもスムーズに答えることができない。1年間だけ留学していた子のほうが、4年間習った私よりも上手く話することができる。
- ・小学生の英語教育については、ちゃんとした日本語が定着していないのに英語も学ぶことになるので、どちらかがおろそかになる気がする。
- ・学校で学ぶ英語は文法など受験用だけど、実際に話すときには文法は関係なく話すものだと思う。

⑫ その他区役所への要望

- ・公衆トイレの設備が古くて悪いので治安がわるいので、きれいにすることで治安よくしてほしい。
- ・自転車専用道路をつくってほしい。
- ・細い道が多くて危険なので、改善してほしい。

⑬ 待機児童について

- ・保育士の給料をあげないといけない。保育士免許を持っても保育士にならない人がいるので、給料が少しでもあがれば保育士になる人が増えるのではないかと。
- ・都や区で認可などしていない保育園などをどうにかして認可して、ショッピングモールの中や自分たちの家の近くなど、行きやすい場所などに保育園など子どもを預ける施設をつくる。
- ・日本は少子高齢化だけど、いろいろなところで子どもの話をしているのに、個人的には老人ホームのほうが多いような気がする。命を大切にすることとはとても大事なことだと思うが、保育園や幼稚園が少なくて、子どもが預けられないなど、それは何かおかしいのではないと思う。少子高齢化をなくしたいのであれば、保育園などもしっかりつくって増やしていかないと、親御さんなども子どもを安心して育てられないのではないと思う。
- ・私は小学生のときに保育士になりたくて目指しており、中学のときに職場体験で保育園に応募して保育園に行った。本当に大変で、朝早いし、子どもと遊んだり、世話をしたり、自分も動かなければいけない。でもちゃんとみていなくてはいけなし、夕方までずっと動きっぱなしで大変だったので、もう無理だと思ってそこで諦めた。本当に保育士というものが大変で国家試験を受けなくてはいけなし、目指す過程も大変なので、保育士さんがもっと働きやすい環境を保育士目線で考えないといけない。
- ・自分には合っているけれど、みんなに保育士になりたいと言うと「将来が大変だよ」とか言われて、最近保育士になりたいという人が減ったと思う。

⑭ 今の親たちに言いたいこと

- ・親のマナーが悪い。ベビーカーを置いたまま買い物や話をしている。
- ・車の中に子どもを置き去りにしてそのまま亡くなってしまったとか、子どものことよりも自分のことを優先する親が増えてきたと思う。もう少し親という自覚を持っている人が増えるとよいと思う。
- ・子どもが騒いでいたり、走り回ったりしていても注意しない親が多くて、お客さんにぶつかったりする。親が注意しないから悪いことだと思わないでそのままずっと続けてしまったりするので、そのようなところは親がしっかりと注意して子育てしてしてもらいたいと思う。
- ・自分がもし子どもを産んで育てるのだったら、働きながら子どもを育てたいけど、自分が働いていると子どもの面倒をみられなくなったりすると思う。それでもしっかりと子どもにいろいろな常識などを言っていかないと、非常識な子に育ってしまうと思う。今そのようなことが多くて、自分勝手な人などが出てきたり、常識のマナーがなくなっている人などが出てしまうと思うので、働きながらもいろいろ教えたり、そのようなことができる環境がほしい。

⑮ もし区長になったら

- ・墨田区は自転車を通る幅が狭くて、小学生などが倒れると危ないので改善したい。
- ・墨田区は自転車であっすぐ走っていると、地図でみたら曲がっている。道が整備されていないので整備したい。
- ・バスの本数を増やす。1時間に1本くらいしかないし、通学時間帯にバスがない。
- ・民主主義と言いつつ国民の意見が全然反映されていないので、もし区長になったら、国民に近い存在である区長から区民の意見を反映させることができたらいと思う。

- ・治安をよくしたいと思う。小岩は駅が2つあるが、JRの駅はよくないお店が多く治安が悪いように思う。また、夜の道が暗いし、パチンコ店が多いけれど、パチンコ店を利用しない住民も住みやすく対応できるまちにしたいと思う。
- ・葛飾区は理科大ができてから若い人が増えて道路などにゴミが増えたので、もし区長になったら、ボランティアを増やすなどしてきれいにしたいと思う。
- ・区内循環バスの反対周りををつくる。とても近いところにいきたくても一周しなければいけないから。
- ・小さい子どもが多いので歩きたばこを規制する。道路に禁止だと貼ってあるが、吸い殻を道路に捨てる人が多いので、呼びかけ等をして止めてもらいたい。
- ・地元のヨーカドーがどんどん高齢者向けになっている。若い人が使わなくなり、若い人用のお店が減り、ベンチが増えている。もし区長になったら、若い人も地元の魅力を感じられるように活性化したい。
- ・公立学校は施設が古いので、もし区長になったら、特にトイレ等をきれいにしたいと思う。
- ・防災を強化したい。先日のニュースで、30年の間に7割の確率で東京に地震が起きるといっていた。都知事選の際の政策は費用がかかるものばかりで、いつになるのだろうかと思った。例えば、身近にできることで、ヘルメットを各家庭に配置するとか、学校で行う避難訓練をまちでも実施できるとよい。
- ・喫煙スペースに扉をつけたい。学校にくる途中にあるファミリーマートの喫煙スペースは屋外なので扉などがなく、とても煙がいやな思いをする。駅前の喫煙スペースも線で括られているが、煙が流れてくる。
- ・商店街を活性化したいと思う。通学路にある商店街がどんどん店じまいしてしまい、お客さんは価格が安い大型スーパーに流れてしまったのだと思う。国や区が補助金などをだして、商店街を活性化できたらよいと思う。
- ・未来の子どもたちの環境づくりを強化したい。例えば、足立区は給食がおいしかったので、給食のために学校へ行っていた。子どもの目線になって考えていきたい。
- ・喫煙スペースに大勢の喫煙者が集まると煙の害がひどいので、スペースを区切っている意味がないように思う。もし区長になったら、喫煙スペースを少し遠くにつくるなどの配慮をしたい。

5 特別支援学級に通級する生徒の保護者に対するインタビュー結果

○ お子さんの育ちについての不安、困り事

- ・スマートキッズプラス（民間の施設で、障害のある子どもの療育をおこなう場。スマートキッズプラスは小学6年生までが対象で、スマートキッズジュニアは中高生が対象。）に通っているが、スマートキッズジュニアが墨田区内にない。来年、再来年くらいからジュニアが墨田区にできるのであれば、中学以降預けたい。母子家庭であり、祖父母も高齢なので、子どもの面倒をみるのが不可能になっている。ジュニアは江東区にしかなく、しかも定員が少ない。困っている母親の子どもを受け入れる枠を増やしてほしい。
- ・普通の学童保育だと、発達障がいの子どもの変な目で見られる。子どももいじめにあったことがある。スマートキッズプラスだといじめがない。中学校、高校まで行かせたいが、墨田区にないのであれば家にいるしかない。
- ・学童保育を増やすのではなく、発達に気になる子どもたちが行ける枠を増やしてほしい。
- ・支援学級の子どもたちは、先生が専任のほうがその科目が好きな子が多く、目を輝かせている子どもが多い。昨年度はリトミックができたということを子どもが話してくれた。年度当初は人数が多少欠けているかもしれないが、できる限り専任講師を配属してもらったほうが、子どもたちは伸び伸びと好きなことを活かせるので、改善してほしい。
- ・すべての小学校に支援学級を設置するべき。我が家は学区外に通っており、入学当初は片道30分以上かけて通っていた。10分以内で通える小学校もあるのに、支援学級がないからと断られた。墨田区はスペースの問題が大変大きい。すべての小学校に支援学級があれば、他の通常級の子どもにとっても大変よい。
- ・近くにたくさん小学校があるが、それほど交流がない。しかし、子ども同士は塾や習い事で付き合いがある。子ども同士で付き合いがあり、個人的には付き合いがある。しかし、学校では交流がない。墨田区の小学校同士で交流をして、いろいろな子どもがいるということがわかる。スポーツ競技であればやりやすい。
- ・中学校も高校も支援学級が大変少ない。支援学級を増やしてもらえるとよい。普通級の子どもたちと関わって、遊びながら勉強していくのもよい。
- ・まだ小学3年生なので、まだ直接のアプローチはしていないが、今後の進路が一番心配である。こういった将来になるのか、自分でイメージできていない。区役所のどこへ行けばそういった情報がもらえるのか。また、学校でもどのように情報を集めればよいのか。インターネットで探しても見つからず、こういった事例があるのか、墨田区ではどのような事例があるのか等、積極的な発信があれば嬉しい。
- ・うちの子は軽い発達障がいと中度の難聴がある。情報について、区の広報をみても、療育に関する講座は就学児のものが多く、中学校、高校の子どもの保護者向けには少ない。親が参加できる時間帯に講座などがなかったので、増やしてほしい。親同士も情報交換もできる面があるので、考えていただきたい。
- ・子どもは先天性の疾患があり、ケトン食のような食事をしている。アレルギーの子どもはある程度対応してもらえるが、対応してもらえない。
- ・小学校進学時と中学校進学時に就学相談に行ったが、就学相談ですでに受けた質問をもう一度聞かれる。どこかに情報をまとめて、情報の共有ができないだろうか。
- ・個人情報紙を紙でずっととっておく必要はない。あるいは、情報を書いた紙を保護者に返して、それを持って中学に行ってもらう方法もある。いろいろなことをするたびに同じことを毎回聞

かれる。

- ・学校ではなく、わからないときがあるので、できれば就学証明、援助を受けている人に配達してほしい。学校を通すことになると、書き忘れなどのミスがあり時間がかかることがある。できれば学校を通すのではなく、直接家に送ってほしい。
- ・中学校で一番心配なのは食べ物である。小学校4年生でアスペルガー症候群と言われたが、食べ物に関して同じものしか食べない。麺類しか食べないので、給食も食べられない。食べない、食べられないではなく、食べたくない、これしか食べないというアスペルガー症候群独特のこだわりがある。家でも麺類、気に入ったお菓子しか食べない。それを3食与えると、嫌いになって食べなくなる。味を変えるなど工夫しているが、この先成長していくと追いつかない。食べなくても普通に生活できるが、それで大丈夫なのか心配である。病院に行って相談しても、まだ4年生だから問題ないと言われる。専門の先生に相談したいが、どこに相談すればよいのか。
- ・発達障がい、親からしたら、学校生活や普段の生活よりも、子どもがどうなっているのか定期的に診てほしい。検査やテストなどをやってもらったほうがよいのかという不安がある。そう思ったとき、どこにどのようにかかったらよいのか、どこに聞けばよいのかまったくわからない。その情報をどこにどう聞けばよいかわからない。
- ・正しい発音ができず、にじの子に年に4回ST（言語聴覚士）で行っている。年に4回だとすぐ終わってしまうので、できれば毎月2回、少なくとも1回STを受けられるようにしてほしい。通級だと授業を抜けることになり、ついていけなくなるため通級にも行けなかった。もう少し多く通わせて正しい発音ができるように学ばせたい。親だとどのように教えればよいかわからない。

墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査報告書

発 行 年 月 平成 29 年 2 月

発 行 墨田区 福祉保健部 子ども・子育て支援担当 子育て支援課
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目 23 番 20 号
T E L : (03) -5608-6084